

香淳皇后実録 卷四

昭和十五年（西暦一九四〇年）

三十七歳

一月

一日 月曜日 新年につき、午前、天皇と共に御学問所において、成子内親王・和子内親王・厚子内親王の御使のほか、内大臣・宮内大臣始め側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。十時、拝賀の儀に臨まれる。天皇と共に鳳凰ノ間において、雍仁親王・同妃勢津子始め皇族・王公族の拝賀をお受けになる。以下、新年式に従い、正殿及び西溜ノ間において恒例のとおり拝賀をお受けになる。拝賀の儀の後、お一方にて桐ノ間において、御裳捧持者に謁を賜う。なお、毎月一日の興亜奉公日に当たることから、天皇と共に御朝食・御昼餐・御夕餐のいずれも野戦兵食料理をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、儀式録、供御日録

二日 火曜日 午前、皇太子参内につき、天皇と共に御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになる。その後、天皇及び皇太子と御昼餐を御会食になる。以後、この年も皇太子始め皇子女と随時、御対面・

昭和十五年一月

御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、宮内省省報

奥内謁見所において、幸田延音楽の進
講担当者・安藤幸同・神戸絢同より新年の祝詞言上をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌

三日 水曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、彰常王稔彦王第
三王子 始め未成年の皇族・王族の拝賀

をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、天皇と共に奥御対面所において、旧女官の園祥子・生源寺伊佐雄、続いて元皇后宮女官の山岡

淑子・青山元子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

新年につき、天皇と共に奥御対面所において、故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・稔彦

王妃聡子内親王の拝賀をお受けになる。ついで天皇と共に奥内謁見所において、故依仁親王妃周子・

故邦彦王妃倪子御母と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

四日 木曜日 夜、天皇及び参内の崇仁親王と共にニュース映画を御覧になる。以後、この年も皇族・

王公族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍

従武官日誌

五日 金曜日 午前、天皇と共に奥御対面所において皇太后と御対面になり、新年の祝詞をお受けに

なる。ついで、奥御食堂においてお祝御膳を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

六日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般満洲へ御差遣の侍従武官沢本理吉郎に謁を賜い、関

東軍に対する次の令旨を下される。

軍司令官以下一同カ幾多ノ困難ヲ忍ヒテ克ク重大ナル任務ヲ遂行シ辺境鎮護ノ重責ヲ全ウシツ、アルハ洵ニ苦勞ニ思フ殊ニ君国ノ為職務ニ殫レタル者ニ對シテハ氣ノ毒ニ堪ヘス

駐軍既ニ久シク寒氣殊ニ酷烈ノ地方ナレハ全軍ノ將兵一層自愛シテ奉公ヲ励ム様申伝ヘヨ尚傷病者ハ厚ク勞ハリ遣ハセ

沢本は翌七日に出発、関東軍の状況を実視し、聖旨・令旨及び下賜品を伝達の後、二月八日帰京、三月九日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、重要雜錄、進退錄、侍従武官府歴史、歩兵第三聯隊歴史

奥内謁見所において元久邇宮侍女滝野繁尾に謁を賜い、新年の祝詞言上をお受けになる。午後、参内の御学友一名に謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

七日 日曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、昨六日事変地より凱旋した朝融王^{第一聯合航空隊參謀、御兄と}御対面になる。王より、新年の祝詞言上、並びに凱旋の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、皇族身分録、拜謁參拜録

天皇と共に、皇太子及び昨六日葉山御用邸より帰京した成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になり、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、宮内省省報

八日 月曜日 午後、奥内謁見所において御同級生總代二名に謁を賜い、新年の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

昭和十五年一月

九日 火曜日 午後一時十五分御出門、大宮御所に行啓される。御着後、皇太后と御対面になり、新年の祝詞をお申し入れになる。四時一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、

宮内省省報、官報

十日 水曜日 午前、奥内謁見所において、新年につき参内の伯爵東伏見邦英^{御弟}と御対面になる。○女

官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、寒中御機嫌奉伺のため、皇太后御使として参内の権典侍清水谷英子に謁を賜う。この年も、折に触れ、参内した皇太后御使に謁を賜い、また、天皇・皇后あるいは皇后から大宮御所に御使を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

阿部光子 内閣総理大臣
阿部信行夫人・木戸ツル 侯爵木戸
幸一夫人 参内につき、謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

夕刻、天皇と共に奥御座所において、元侍女の鈴木タカ 元侍従長鈴木
貫太郎夫人・曾根ナツに謁を賜い、新年の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

時局の影響による農山漁村の労力不足の調整を図る目的をもって、全国各地に季節保育所が設置されつつあるため、この日、特に御奨励の思召しをもって金一封を厚生大臣に下賜される。○侍従職日誌、省

中日誌、恩賜録、視察録

十一日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般戦地より凱旋の第十四師団長井関隆昌、第二十師団長七田一郎、第一聯合航空隊司令官桑原虎雄に謁を賜い、慰労のお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌

十三日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般ポーランド国より帰国した特命全權大使酒匂秀一及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、祭祀録、拜謁参拜録、宮内省省報、官報

午後、呉竹寮にお出ましになり、成子内親王・和子内親王・厚子内親王の勉強の様子を御覧になり、また運動のお相手をされる。以後、この年もしばしば呉竹寮にお出ましになり、成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面、また内親王の各種稽古や勉強の様子などを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌

十五日 月曜日 午前、天皇と共に宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、親王より昨年十一月十日以来の病氣全快につき挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、高松宮宣仁親王

十六日 火曜日 午前、奥内謁見所において、出産後初めて参内の永久王妃祥子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌

天皇と共に奥御食堂御入側において、新年につき参内の元皇后宮女官津軽理喜子に謁を賜う。以後、この年も随時、元奉仕者の拜謁等がある。○女官長日記、女官日誌
静岡市において昨十五日より火災被害発生につき、天皇・皇后より静岡県に御救恤金を下賜される。御救恤金は翌十七日、被害状況視察のため天皇より御差遣の侍従徳大寺実厚より同県知事に伝達される。○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報、静岡県議会所蔵資料

十九日 金曜日 御風気につき、この日より二十九日朝まで御仮床に就かれる。二十三日の講書始は

昭和十五年一月

御欠席になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、儀式録

二十二日 月曜日 皇后からの縹帯下賜に対し、この日、陸軍省医務局長三木良英よりお札言上があり、皇后宮女官を介してお受けになる。○女官長日記、女官日誌、軍人援護事業概要

二十三日 火曜日 厳冬下における木炭の不足に際し、この日、皇后・皇太后より思召しをもって、司法大臣所管の財団法人安立園ほか東京府下の養老・少年保護の私設社会事業十四団体、厚生大臣所管の財団法人浴風会浴風園ほか養老・育児の私設社会事業十九団体に対し、木炭を下賜される。三月一日、さらに厚生大臣所管の二葉保育園母の家ほか十六団体、司法大臣所管の和敬会母子寮、文部大臣所管の仏眼協会盲学校に木炭を下賜される。○省中日誌、恩賜録、贈賜録

二十四日 水曜日 公爵西園寺公望病気につき、この日から当分の間、天皇・皇后より同人に毎日牛乳を下賜される。さらに天皇・皇后よりお尋ねとして、翌二十五日にはラン新宿御苑産を、二十九日からは

スープ二月二十八日まで毎日及び料理随時を、二月十八日には葡萄酒を下賜される。○侍従職日誌、重要雑録、贈賜録

二十七日 土曜日 この日、駐日満洲国大使官邸全焼につき、天皇・皇后よりお見舞いとして同国特命全権大使阮振鐸に料理を下賜される。これに対し、翌二十八日、満洲国皇帝溥儀より天皇・皇后に礼電が寄せられる。○省中日誌、外交贈答録、贈賜録、宮内省省報、官報

二十九日 月曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「迎年祈世」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

この秋のみのりよかれといのるかなためしなき世のとしをむかへて

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、御歌録、儀式録、あけぼの集、宮内省省報、官報

二月

三日 土曜日 午前、奥内謁見所において、故多嘉王妃静子と御対面になる。同妃の息女二条恭仁子第一男子出産につき、同妃を通じ、恭仁子に万那料・白羽二重を賜う。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

六日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般支那方面艦隊へ差遣される侍従武官鮫島具重に謁を賜い、令旨を下される。鮫島は十一日出発、同艦隊の状況を実視し、三月十日帰京、二十五日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史

奥内謁見所において、今般侍従を拜命の内藤政恒に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、宮内省省報、官報

九日 金曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・林丘寺・靈鑑寺・光照院・三時知恩寺・円照寺・水薬師寺・長福寺・中宮寺・瑞竜寺・善光寺・法華寺・禅智院に乾海苔を賜う。○贈賜録

十一日 日曜日 午前、紀元節祭につき、皇后宮女官万里小路ソデに御代拝を仰せ付けられる。祭典後、天皇と共に御学問所において、皇族・王公族、内大臣始め側近奉仕高等官の拝賀を順次お受けになる。また、天皇と共に、成子内親王・和子内親王・厚子内親王より祝詞の言上をお受けになり、御一緒にお祝御膳を御会食になる。夕刻、皇霊殿御神樂の儀につき、万里小路女官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、呉竹寮日誌、儀式録、祭祀録、

昭和十五年三月

宮内省省報、官報

御不例のため、御仮床に就かれる。十五日に予定されていたエジプト国特命全権公使への御引見はお取りやめとなる。二十七日御床払いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、謁見録

財団法人東洋婦人教育会に対し、この日、金一封を下賜される。○女官長日記、女官日誌、梨本伊都子日記、財団法人東洋婦人教育会々報

十三日 火曜日 去る一月二十九日大阪市における鉄道事故により多数の死傷者発生につき、この日、天皇・皇后より鉄道大臣に御救恤金を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

十九日 月曜日 この日、多恵子女王^{成久王第三王女}と従七位徳川圀禎^{公爵徳川圀順の第二男子}の結婚の儀が勅許され、納采の儀が行われるに当たり、天皇・皇后より北白川宮に三種交魚を、故成久王妃房子内親王・多恵子女王にそれぞれお品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、重要雑録、宮内省省報、官報

二十九日 木曜日 天皇と共に豊明殿において、今般離任帰国のイタリヤ国特命全権大使ジャチント・アウリチのため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

三月

一日 金曜日 午前、天皇と共に奥御対面所において、今般静岡県伊東の静養先より帰京の宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎

人日誌、侍従武官日誌、高松宮宣仁親王

この日、今般完成の『大正天皇御集』和歌五冊・漢詩四冊が、図書頭金田才平より天皇・皇后に献上される。○女官長日記、進献録

二日 土曜日 貴子内親王初誕辰につき、午前、天皇及び貴子内親王と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣始め側近奉仕高等官一同の拝賀をお受けになる。ついで貴子内親王と共に、皇太后御使の権典侍清水谷英子に謁を賜い、さらに雍仁親王妃勢津子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

三日 日曜日 貴子内親王初節句につき、午前、天皇と共に貴子内親王の御座所において、成子内親王・和子内親王と御対面になり、雛人形を御覧になる。午後、天皇及び成子内親王・和子内親王・貴子内親王と共に申ノ口にお出ましになり、側近奉仕高等官一同より祝詞言上をお受けになり、一同に茶菓を賜う。なお、厚子内親王は風気のため参内を取りやめる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌

四日 月曜日 侯爵久邇邦久五年式年祭につき、皇后宮女官東貞子をその邸及び墓所護国寺に差し遣わされる。なお、霊殿に盛菓子・果物を、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、侍従職日誌

軍事保護院所管の傷痍軍人療養所・傷痍軍人職業補導所・失明傷痍軍人寮・教員養成所その他施設に入所中の傷痍軍人・戦没者寡婦のため、この日、同院にカエデの苗を下賜される。○侍従職日誌、軍人援護

事業概要

五日 火曜日 午前、桐ノ間において、新任のスイス国特命全権公使カミーユ・ゴルジェ及び同夫人

昭和十五年三月

に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

六日 水曜日 満二十七歳のお誕生日を迎えられる。

午前、奥内謁見所において、雍仁親王・同妃勢津子始め皇族・王公族より祝詞言上をお受けになる。

ついで内大臣・宮内大臣始め総代、及び側近奉仕高等官一同の拝賀をお受けになる。また、元皇后宮女官等に謁を賜う。ついで天皇と共に成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌

七日 木曜日 厚子内親王の誕生日につき、午後、天皇と共に奥御対面所において、同内親王と御対面になる。ついで天皇及び同内親王と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣始め総代等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌

八日 金曜日 故恒久王妃昌子内親王去る三日より体調不良のため竹田宮邸において加療中のところ、この日未明危篤につき、皇后より皇后宮女官長保科武子を、天皇・皇后・皇太后より侍医高橋信を同邸に差し遣わされる。また、天皇・皇后・皇太后よりお尋ねとして果物を、天皇・皇后より野菜を賜う。午前七時、宮内省より同内親王が薨去した旨が発表され、直ちに宮中喪^{九十}となり、皇后も服喪される。その後、天皇と共に、御機嫌奉伺に参内した成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になる。十時三十分御出門、天皇と共に竹田宮邸に行啓され、御弔問・御永訣になり、十一時二十五分還啓される。

午後、奥内謁見所において皇太后御使の権典侍清水谷英子に謁を賜い、昌子内親王薨去についての御口上をお受けになる。また、御使として皇后宮女官長保科武子を大宮御所に差し遣わされる。なお、

皇后より昌子内親王の霊前に盛花を、枕元に野菜^{吹上御苑産}・切り花をお供えになる。

翌九日、皇后より同内親王の枕元に果物を賜う。また御槽入に際し、天皇・皇后より榊・盛菓子を霊前にお供えになる。なお、満洲国皇帝溥儀より天皇・皇后に弔電が寄せられ、これに対し天皇・皇后より答電をお送りになる。十一日、皇后より霊前に切り花^{新宿御苑産}を賜う。また正寝移柩の儀が行われ、

天皇・皇后より霊前に盛菓子・榊をお供えになる。十二日、天皇・皇后より霊前に盛花をお供えになる。十三日、皇后より霊前に果物をお供えになり、さらに、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。十四日、皇后宮使として皇后宮事務官岡部長章を竹田宮邸に差し遣わされ、幣帛・榊を賜う。また、霊前に野菜をお供えになる。十五日、霊代安置の儀が行われ、皇后宮使として皇后宮女官万里小路ソデを竹田宮邸に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より霊前に菓子・切り花をお供えになる。十六日には斂葬当日柩前祭が行われ、皇后宮使として万里小路女官を竹田宮邸に差し遣わされ、玉串をお供えになり、霊車発引に際しては、皇后宮職御用掛竹屋志計子を同邸に差し遣わされる。また同日豊島岡墓地において行われる斂葬の儀には、皇后宮使として皇后宮事務官入江相政を差し遣わされ、玉串をお供えになる。

昌子内親王は明治二十一年、明治天皇の第六皇女として誕生する。生母は権典侍園祥子で、大正天皇の妹、天皇の御叔母に当たる。妹には故成久王妃房子内親王・鳩彦王妃故允子内親王^{昭和八年薨去}・稔彦王妃

聡子内親王がいる。享年五十三。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、侍従武官日記、省中日誌、呉竹寮日誌、幸啓録、皇親録、皇族身分録、重要雑録、故恒久王妃昌子内親王殿下薨去の件、故恒久王妃昌子内親王喪儀録、墓

昭和十五年三月

誌銘録、外交慶弔録、宮内省省報、官報

十一日 月曜日 午前、奥内謁見所において、近く馬公要港部・第二遣支艦隊・第三遣支艦隊・旅順要港部へ御差遣の侍従武官醍醐忠重に謁を賜い、各司令長官又は各司令官に対する令旨を下される。

醍醐は三月十三日出発、台湾・支那及び同沿海、関東州に赴き、四月十三日帰京、五月二十八日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史

十五日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般京都より上京の故多嘉王妃静子と御対面になり、故恒久王妃昌子内親王薨去につき、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌

十七日 日曜日 故恒久王妃故昌子内親王斂葬後一日祭につき、天皇・皇后より御使として皇后宮女官長保科武子を権舎並びに墓所に差し遣わされる。なお、天皇・皇后より菓子を権舎にお供えになる。

また、十日祭につき、天皇・皇后より盛菓子・榊を権舎にお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、重要雑録

この日、従六位勲六等山室軍平死去につき、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。山室は、一身を救世軍に捧げ、婦人救済・免囚保護のために尽瘁し、あるいは隣保作業を行い、救世軍病院及び結核療養所を開設して一般衆庶の救済に当たるなど、四十余年にわたり社会事業に貢献した。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報

十八日 月曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、今般出征の陸軍砲兵大尉永久王駐蒙軍司令部付と御対

面になり、暇乞いの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

誌、省中日誌、重要雑録、皇族身分録

十九日 火曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において皇太后と御対面になり、御服喪中の御機嫌伺いをお受けになる。その後、天皇・皇太后と共に、呉竹寮より参内した成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、呉竹寮日誌、幸啓録、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

来る二十六日より三十一日まで大阪市難波高島屋百貨店において財団法人結核予防会主催の令旨奉体結核予防展覧会開催につき、この日、皇后及び皇太子・正仁親王・成子内親王・和子内親王・厚子内親王の運動用具昨年十一月に東京府立商工奨励館にて開催の同展覧会へのお貸下品と同じものをお貸し下げになる。○重要雑録

二十二日 金曜日 午前、天皇と共に奥御進講所において、皇子御養育掛長藤井種太郎に謁を賜い、成子内親王・和子内親王・厚子内親王の今学期の成績についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌、藤井種太郎日誌

二十六日 火曜日 午前、奥内謁見所において、この日凱旋の第十一軍司令官陸軍中将岡村寧次に謁を賜い、慰労のお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録、岡村寧次大将資料

元侍従子爵海江田幸吉去る二十四日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。また、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。○女官長日記、省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報

恩賜財団軍人援護会の幹旋による戦没者遺児三千百九十一名の靖国神社参拝に際し、同遺児に菓子を賜う。○軍人援護事業概要

二十八日 木曜日 故恒久王妃昌子内親王薨去後の第一期御喪明けにつき、午後、御使として皇后宮

昭和十五年三月

女官長保科武子を大宮御所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

午後、奥御対面所において、宣仁親王・同妃喜久子より御喪明けの御機嫌奉伺をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十九日 金曜日 午前、桐ノ間において、新任のポルトガル国特命全権公使ルイス・エステヴェス・

フェルナンデス及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、

謁見録、宮内省省報、官報

天皇と共に奥御対面所において、第一期御喪明けにつき御機嫌奉伺のため参内の雍仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、秩父宮御日誌、秩父宮附日記

女子学習院において第五十三回卒業式が挙行され、故邦彦王妃侘子を差し遣わされる。終わって、奥内謁見所において同妃と御対面になり、復命をお受けになる。午後、天皇と共に、成子内親王^{本科中期を修了}・

和子内親王^{本科前期を修了}・厚子内親王^{本科前期三年を修了}と御対面になり、進級につきお礼言上をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、吳竹寮日誌、皇親録、宮内省省報、官報

天皇と共に奥御対面所において、故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、御喪明けにつき御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

三十一日 日曜日 午前、天皇と共に奥宮殿において、昨三十日葉山御用邸より還啓の皇太子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、宮内省省報

天皇と共に奥御対面所において、崇仁親王と御対面になり、第一期喪明けにつき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

四月

二日 火曜日 午前、奥内謁見所において、新任の李王職長官篠田治策に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、宮内省省報、官報

五日 金曜日 午前、奥内謁見所において、皇太子の学習院初等科入学につき参内の学習院長山梨勝之進に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、山梨勝之進先生遺芳録

奥宮殿において、今般戦地より凱旋又は満洲より帰還の元第十二師団長上村清太郎・元第十五師団長岩松義雄・元第五師団長今村均に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

七日 日曜日 夕刻より御不例につき、御仮床に就かれる。十二日御予定の大宮御所行啓をお取りやめになり、また同日御予定のメキシコ国経済使節団への御引見をお見合わせになる。二十五日朝、御

床払いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌

八日 月曜日 この日皇太子の学習院初等科入学式につき、午前、御静養室において皇后宮女官長保科武子ほかより祝詞言上をお受けになる。午後、制服姿にて参内した皇太子と、御不例御静養のため

ガラス戸越しに御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、

呉竹寮日誌、宮内省省報、官報

十日 水曜日 皇太子の学習院初等科入学につき、午前、皇后宮女官万里小路ソデを大宮御所に差し遣わされる。午後、皇后が御不例のため、天皇が奥内謁見所において、皇太后御使として参内した権

典侍清水谷英子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十九日 金曜日 軍事保護院の各施設に入所中の傷痍軍人・戦没者寡婦のため、吹上御苑にて御栽培

昭和十五年四月

の花弁の種子・球根を同院に下賜される。○軍人援護事業概要

二十日 土曜日 枢密顧問官子爵渡辺千冬去る十八日死去につき、この日、天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、同人の病気に際して、天皇・皇后よりお尋ねとして果物を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報

二十五日 木曜日 別格官幣社靖国神社において臨時大祭挙行につき、同社に行幸された天皇の御拝礼時刻である午前十時十五分に、サイレンに合わせて黙禱される。なお、臨時大祭挙行につき、天皇・皇后より同社に祭資を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録

二十六日 金曜日 故恒久王妃故昌子内親王五十日祭につき、皇后宮使として、皇后宮事務官三井安弥を竹田宮邸の権舎に、皇后宮事務官小出英経を豊島岡墓地の墓所に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より盛菓子を霊前に、榊を墓所にお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、宮内省省報、官報

二十八日 日曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において恒徳王恒久王の王子と御対面になり、故恒久王妃昌

子内親王在世中のお礼言上、薨去に際しての行幸啓に対するお礼言上、並びに第一期喪明けの挨拶をお受けになる。また後刻、お一方にて奥内謁見所において伯爵佐野常光夫人礼子恒久王の王女に謁を賜い、お

礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

二十九日 月曜日 御服喪中につき、天長節の拝賀・参賀等の諸儀はお取りやめとなる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、重要雑録

五月

一日 水曜日 午前、奥内謁見所において、京都在住華族総代の伯爵冷泉為系に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

三日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般出征の支那方面艦隊司令長官嶋田繁太郎に謁を賜い、次のお言葉を賜う。

此度支那方面艦隊司令長^(マヤ)ノ重任ヲ帯ヒテ出発スル趣洵ニ御苦勞ニ思フ就テハ一層身体ヲ大切ニシテ御奉公スルヤウニ

また同人に対し、お手編みの毛糸襟巻を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官府歴史、海軍大将嶋田繁太郎備忘録・日記

桐ノ間において、今般来日のフィリピン連邦駐在米国高級委員フランシス・B・セイヤー及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

六日 月曜日 午前、奥内謁見所において関屋衣子^{元宮内次官関屋貞三郎夫人}に謁を賜い、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

八日 水曜日 午前、御養蚕始の儀が行われる。皇后は御服喪中につき、お出ましにならないこととされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌

十日 金曜日 午後一時十分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。ついで御一緒にお庭にお出ましになり、茶菓を共にされる。四時七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

昭和十五年五月

十一日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元支那方面艦隊司令長官及川古志郎に謁を賜い、次のお言葉を賜う。

出征以来二年有余克ク重大ナ任務ヲ全ウシテ我カ海軍ノ光輝ヲ發揚シタコトハ洵ニ御苦勞デアリ
マシタ

今日ハ目出度ク凱旋デ喜バシク思ヒマス今後モ自愛シテ御奉公ヲスルヤウニ

○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、侍從武官府歴史

この日、久邇宮邸において朝融王妃知子女王第二王子出産につき、朝融王・同妃、及び故邦彦王妃親子に三種交魚を御贈進になる。誕生した王子は、十七日、朝建あさたけと命名される。なお、命名当日は宮中喪のため、お祝いとして天皇・皇后より朝融王に下賜される白羽二重・酒・鮮鯛は、御喪明け後の六月十一日に下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、省中日誌、朝融王妃知子殿下御分娩の件、皇親録、皇族身分録、贈賜録、宮内省省報、官報

十二日 日曜日 母の日につき、日本全国母の会よりカーネーションの献上をお受けになる。○女官長日記、進献録

母の日に際して発売する造花カーネーションの純益を母子ホームその他公共事業に寄付する花の日会に対し、金一封を下賜される。○贈賜録

十四日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般侍医を退職し侍医寮御用掛を拝命した八代豊雄、並びに退職の元侍医寛繁に謁を賜う。ついで新任の皇宮警察部長池田長吉に謁を賜う。○女官長日記、女

官日誌、侍從職日誌、省中日誌、贈賜録、進退録、宮内省省報、官報

二十日 月曜日 去る十一日北海道枝幸郡枝幸村において火災被害発生につき、この日、天皇・皇后より北海道庁に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十八日 火曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、今般大阪へ留守第四師団長として赴任の李王垠、及び同妃方子女王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、王公族録

二十九日 水曜日 午前、奥内謁見所において前任の女子学習院長長屋順耳、及び新任の女子学習院長芝田徹心に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、宮内省省報、官報

三十日 木曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において、来る六月一日より二十四日まで満洲国を視察する宣仁親王と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、宣仁親王殿下満洲国御旅行書類、贈賜録、高松宮日記、高松宮宣仁親王

三十一日 金曜日 かねて日本画家跡見玉枝に御下命の桜の絵の完成・持参につき、午後、奥内謁見所において同人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

六月

一日 土曜日 午後、奥内謁見所において、この日内大臣を拝命の侯爵木戸幸一に謁を賜い、お言葉^彫を賜う。なお、前任の内大臣湯浅倉平には天皇・皇后・皇太后それぞれより賜品があり、皇后からは御紋付銀花瓶^彫を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、重要雑録、儀式録、進退録、恩賜録、宮内省省報、

官報

六日 木曜日 御喪明けにつき、午前、総代の皇后宮女官長保科武子より、御機嫌奉伺をお受けになる。午後、御機嫌奉伺のため参内の皇太后御使の典侍竹屋津根子に謁を賜う。これに対し、御使として皇后宮女官長を大宮御所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、呉竹寮日誌、重要雑録

午後、天皇及び正仁親王と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになり、この年初めて養蚕の模様を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

麿香間祇候公爵徳川家達日本赤十字社社長 昨五日死去につき、この日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務

官小倉庫次を同人邸に差し遣わされる。九日には、皇后宮使として皇后宮事務官入江相政を同邸に差し遣わされ、花を賜い、焼香させられる。また、天皇・皇后・皇太后より祭資を賜う。十一日葬送につき、皇后宮使として皇后宮事務官岡部長章を葬斎場東叡山寛永寺に差し遣わされ、焼香させられる。なお、

これより先、同人の病気に際して天皇・皇后・皇太后よりお尋ねとして果物を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報、日本赤十字社社史稿

七日 金曜日 午前、桐ノ間において、今般来日のスペイン国経済使節団团长アルベルト・カストロ・ヒローナ及び同夫人、副团长ホセ・ロハス・イ・モレーノに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に奥御対面所において、雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、御喪明けの御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、秩父宮御日誌、秩父宮附日記

九日 日曜日 午前、正仁親王・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に紅葉山御養蚕所にお出

ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌

十日 月曜日 神武天皇御即位紀元二千六百年につき、神宮及び山陵等に御参拝のため、昨日より天皇は京都・奈良・三重各府県下に行幸され、この日午前に豊受大神宮に、午後に皇大神宮に御参拝になる。天皇の両宮への御参拝時刻に合わせ、皇后もそれぞれ黙禱される。○女官長日記、女官日誌

十四日 金曜日 午後、天皇と共に御学問所において、翌十五日に行われる淳和天皇千百年式年祭に先立ち、図書寮編修課長芝葛盛より淳和天皇の御事蹟に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、進講録

紀元二千六百年記念賜盃完成につき、この日、天皇より皇族・王公族に御贈進があり、皇后も御贈進をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

十五日 土曜日 故恒久王妃昌子内親王百日祭につき、皇后宮事務官岡部長章を権舎に、皇后宮事務官入江相政を墓所にそれぞれ差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より霊前に盛菓子・榊を、墓所に榊をそれぞれお供えになる。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、重要雑録、宮内省省報、官報

十七日 月曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、孚彦王鳩彦王の王子と御対面になり、この日陸軍大学校を卒業につきお礼言上をお受けになる。天皇・皇后よりお悦びとして、孚彦王に三種交魚等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇族身分録、贈賜録

十九日 水曜日 多摩陵大正天皇陵御参拝のため、午前八時四十五分御出門、同陵に行啓される。御拝礼の後、午後零時十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

昭和十五年六月

二十日 木曜日 御朝食前、内庭にお出ましになり、お田植えをされる。○女官日誌

二十一日 金曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において鳩彦王と御対面になり、昨二十日夜の御近火につき御機嫌奉伺をお受けになり、また孚彦王の陸軍大学卒業と満洲への赴任に際しての賜物についてのお礼言上をお受けになる。昨夜、帝都は激しい雷雨に見舞われ、落雷により麴町区大手町の逋信省航空局から出火、東京営林局・東京税務監督局・企画院・神田橋税務署・大蔵省・対満事務局・中央気象台本館・厚生省の一部が焼失する。吹上御苑内庭付近にも落雷があり、御近火につき、皇太后始め皇族・王公族より御使及び電話により御機嫌奉伺がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、読売新聞

二十二日 土曜日 別格官幣社靖国神社に御参拝のため、午前十時十五分御出門、同社に行啓される。

同五十分還啓される。御参拝に際し、幣帛料・神饌料をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、軍人援護事業概要

桐ノ間において、今般着任のエジプト国特命全権公使ニコラス・カ ril ル・ベイに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

二十四日 月曜日 午前十時四十五分御出門、東宮仮御所に行啓される。後刻、貴子内親王もお成りになる。制服姿で学習院より還御の皇太子と御座所において御対面になり、ついで皇太子の案内にて仮御所内を御覧になる。御昼餐御会食の後、お庭を御散策になる。また、侍医緒方安雄の手品を御覧になる。ついで皇太子と共に赤坂離宮にお出ましになり、近く満洲国皇帝の御仮泊所として使用予定の居室を御覧になる。午後三時五十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官

日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

二十五日 火曜日 皇太后のお誕生日につき、御昼餐の際、天皇と共に皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

午後、天皇と共に奥御対面所において、満洲旅行より帰還の宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、宣仁親王殿下満洲国御旅行書類

二十六日 水曜日 午後、天皇と共に鳳凰ノ間において、紀元二千六百年慶祝のため御訪日の満洲国皇帝溥儀と御会見になる。その際、皇后は満洲国大勲位蘭花大綬章並びに満洲帝国皇帝訪日紀念章・宝冠章を御佩用になる。

夕刻、天皇と共に豊明殿において、満洲国皇帝のために宮中晚餐を催される。なお、満洲国皇帝の御参内に際し、天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には熱河絨毯・満洲小鳥が贈られる。宮中晚餐の際にも天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には御真筆焼物・古陶器・玉器が贈られる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、外賓参内録、外賓接待録、進献録、宮内省省報、官報

正三位勲一等鈴木喜三郎去る二十四日死去につき、この日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官岡部長章を同人邸に差し遣わされる。翌二十七日には、皇后宮使として皇后宮事務官三井安弥を同人邸に差し遣わされ、花を賜い、焼香させられる。二十八日葬送につき、皇后宮使として皇后宮事務官入江相政を葬斎場<sup>東叡山
寛永寺</sup>に差し遣わされ、焼香させられる。○侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、恩

賜録、宮内省省報、官報

二十七日 木曜日 夜、天皇と共に、満洲国皇帝が天皇に御贈進になった「満洲国皇帝東部地方御巡

昭和十五年七月

狩」等の映画フィルムを御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、進献録
この日、皇后より御使の皇后宮事務官小出英経を通じて、生物学御研究所産の野菜を満洲国皇帝に御贈進になる。○女官長日誌、女官日誌、外賓接待録

二十九日 土曜日 午前、近く満洲国へ出発の孚彦王妃千賀子参内につき、御対面になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌

三十日 日曜日 赤坂離宮に皇后宮女孺を差し遣わされ、満洲国皇帝に生花をお贈りになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、外賓接待録

七月

一日 月曜日 満洲国皇帝溥儀との御告別のため、天皇と共に豊明殿において午餐を催される。その際、満洲国大勲位蘭花大綬章並びに宝冠章を御佩用になる。午餐に先立ち、皇后より皇帝に御贈進の万古焼孔雀置物が披露される。またこの日、御使の皇后宮事務官入江相政を通じて光華織等を御贈進になる。なお六日、皇帝より大阪御出港に際して、天皇・皇后・皇太后それぞれに札電が寄せられ、即日答電をお送りになる。さらに十日、新京御帰着の皇帝より天皇・皇后に札電が寄せられ、翌十一日答電をお送りになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、外賓参内録、外賓接待録、

外交贈答録、宮内省省報、官報

二日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、糸取りの様子を御覧になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌

三日 水曜日 午前十一時三十分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、近く葉山への転地をお申し入れになり、御昼餐を御会食になる。午後四時七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、侍従武官府歴史、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

五日 金曜日 午前、天皇と共に、この日日光田母沢御用邸に転地する正仁親王と御対面になり、挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

奥内謁見所において、退官以来病氣静養中であつた元内大臣湯浅倉平に謁を賜い、在職中及び退官に当たつてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録、湯浅倉平

地方長官等より、昭和十二年十一月三十日以降、皇后宮御歌及び菓子を下賜された支那事変等における戦死者・殉職者が、この年六月三十日までに九万七千六百五十五名に達する旨の報告が寄せられる。○省中日誌、皇后陛下御歌下賜録、官報

六日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

皇太后御参内につき、天皇と共に御対面になり、御昼餐を御会食になる。午後、奥御対面所において、呉竹寮より参内の成子内親王・和子内親王・厚子内親王、及び貴子内親王も交え、お過ごしになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、照宮孝宮順宮御日誌、省中日誌、呉竹寮日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

八日 月曜日 葉山御用邸に天皇及び貴子内親王と共に行啓される。午前十時天皇と共に御出門、東

昭和十五年七月

京駅より貴子内親王を伴われ、十一時二十八分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

九日 火曜日 午前、天皇及び貴子内親王と海岸にお出ましになり、御散策になる。以後、葉山御用邸御滞在中、しばしば天皇及び貴子内親王と海岸等を御散策になる。また、天皇の海洋生物御採集に御同行になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、幸啓録、行幸録

午後、天皇と共に朝融王と御対面になり、今般軍艦八雲艦長に転補され、広島県具に赴任の暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、幸啓録、贈賜録

十一日 木曜日 六月下旬に沖繩県宮古郡伊良部村伊良部港において発動機船沈没事故により多数の死者発生につき、この日、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

官報

十七日 水曜日 昨十六日の米内内閣総辞職の願い出に伴い、急遽天皇と共に還啓のため、午後三時四十五分御用邸を御出門、五時十二分宮城に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、重要雜録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

二十日 土曜日 午前、奥内謁見所において、朝融王妃知子女王と御対面になり、暑中お見舞い並びに出産後全快のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、侯爵浅野長武夫人安子の^{菊麿王の王女}に謁を賜い、病氣全快のお礼言上をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌

二十三日 火曜日 午後、奥内謁見所において、皇太后御使の典侍竹屋津根子に謁を賜い、暑中の御

機嫌奉伺、並びに新内閣<sup>第二次近衛
文麿内閣</sup>の成立につきお悦びの言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十九日 月曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、この日陸軍砲工学校を卒業した盛厚王<sup>稔彦
王の</sup>子と御対面になり、お礼言上をお受けになる。天皇・皇后より盛厚王に三種交魚を御贈進になる。な

お、盛厚王は八月四日、満洲国へ赴任する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇親録、皇族身分録

天皇と共に奥御対面所において、雍仁親王・同妃勢津子と御対面になり、病氣お尋ねのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、秩父宮御日誌、秩父宮附日記、雍仁親王実紀

三十日 火曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

三十一日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時御出門、十一時二十六分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

八月

三日 土曜日 男爵九条良致<sup>皇太后
の御弟</sup> 昨二日死去につき、この日、天皇・皇后より皇后宮職御用掛竹屋志計子を大宮御所に、また弔問のため、皇后宮女官万里小路ソデを九条家に差し遣わされる。翌日、天

昭和十五年八月

皇・皇后より盛菓子を靈前に賜う。なお、同人の危篤に際して、天皇・皇后よりお尋ねとして果物を下賜される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、皇親録、重要雑録、官報

六日 火曜日 この日、故男爵九条良致の葬儀につき、お出ましをお控えになり、御用邸内にてお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、幸啓録

七日 水曜日 午前、天皇・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に葉山丸曳船にて名島に向かわれ、海洋生物を御採集になり、御一緒にお弁当をお召し上がりになる。午後も引き続き御採集になる。以後、葉山御用邸御滞在中、しばしば天皇の海洋生物御採集に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、侍従武官日誌、幸啓録

十二日 月曜日 皇太后御服喪中の御機嫌伺いのため、御使として皇后宮女官長保科武子を大宮御所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌

十八日 日曜日 博恭王妃故経子一周年祭につき、午前、お出ましをお控えになる。また、皇后宮使として皇后宮事務官小出英経を伏見宮邸の権舎に、皇后宮事務官三井安弥を豊島岡墓地の墓所に差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、天皇・皇后より靈前に盛菓子を、墓所に榊をそれぞれお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、幸啓録、皇親録、宮内省省報、官報

二十三日 金曜日 正午過ぎ、皇太后御使として権典侍清水谷英子参邸につき、天皇と共に謁を賜い、男爵九条良致死去に伴う皇太后の第一期御喪明けにつき挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、侍従武官日誌、幸啓録

九月

三日 火曜日 午後一時五十分天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時二十分宮城に還啓される。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

五日 木曜日 駐蒙軍参謀として出征中の永久王陸軍砲兵大尉が防空演習視察の際の負傷により張家口陸軍病

院において昨日薨去戦死し、この日より宮中喪五日となる。午前、お見舞いのため皇后宮職御用掛竹屋志

計子を北白川宮邸に差し遣わされ、午後、弔問のため皇后宮使として皇后宮事務官小出英経を同邸に差し遣わされる。なおこの日、皇太后御使として権典侍清水谷英子、及び雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王参内につき、お一方又は天皇と共に御服喪中の御機嫌伺いをお受けになる。翌日以降も参内の皇族等より御機嫌伺いをお受けになる。

永久王は明治四十三年、成久王の第一王子として生まれる。母は明治天皇第七皇女の房子内親王である。昭和六年陸軍士官学校を卒業、同十年徳川祥子と結婚し、道久王・肇子女王の二児を儲ける。享年三十一。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、墓誌

銘録、永久王殿下喪儀録、陸軍砲兵少佐大勲位永久王殿下薨去の件、宮内省省報、官報

六日 金曜日 夕刻、故永久王の遺骸が立川陸軍飛行場に到着するに当たり、天皇・皇后より侍従小倉庫次を差し遣わされる。ついで王の遺骸が北白川宮邸に帰還するに当たり、皇后より御使として皇后宮大夫広幡忠隆を同邸に差し遣わされ、拝礼させられる。また、靈前に盛花をお供えになる。なお、この日、満洲国皇帝溥儀より天皇・皇后に弔電が寄せられ、翌七日天皇・皇后より答電を寄せられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、永久王殿下喪儀録、外交慶弔録、

昭和十五年九月

宮内省省報、官報

九日 月曜日 午前、今般支那派遣軍へ御差遣の侍従武官清水規矩に謁を賜い、同軍総司令官に対する令旨を下される。清水は翌十日出發、支那派遣軍の状況を実視し、十月十四日帰京、十一月六日に復命する。○女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史

十一日 水曜日 午後、奥内謁見所において、皇太后御使の典侍竹屋津根子と御対面になり、御喪明けの御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十二日 木曜日 この日、故永久王正寝移柩の儀につき、天皇・皇后より盛菓子並びに榊をお供えになる。○女官長日記、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、永久王殿下喪儀録

この日、財団法人結核予防会に対し、事業御奨励金を下賜される。なお、同会に対しては今後十箇年間、金一封を下賜されることとなる。○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録

十三日 金曜日 午前、奥内謁見所において、この日執行の故永久王正寝十日祭に参列のため箱根より帰京の雍仁親王妃勢津子と御対面になる。なお、同妃より御喪明けの御機嫌伺いをお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十六日 月曜日 午前、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。ついで奥御食堂において御昼餐を御会食になる。御食後、成子内親王・和子内親王・厚子内親王も交えて御団欒になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、幸啓録、貞明皇后実

録正本、宮内省省報、官報

永久王薨去につき、皇后宮使として皇后宮事務官三井安弥を北白川宮邸に差し遣わされ、幣帛・榊を

下賜される。また、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。○侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、永久王殿下喪儀録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十七日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般カナダへ赴任の特命全権公使吉沢清次郎及び同夫人、ソビエト連邦へ出張の特命全権公使西春彦及び同夫人、中華民国へ出張の特命全権公使堀内干城に謁を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

故永久王靈代安置の儀につき、皇后宮使として皇后宮事務官岡部長章を北白川宮邸に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、皇后より靈前に梨をお供えになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、永久王殿下喪儀録、宮内省省報、官報

十八日 水曜日 故永久王斂葬当日につき、天皇と共に終日御座所にてお過ごしになる。午前、故永久王斂葬当日枢前祭には皇后宮使として皇后宮事務官小倉庫次を北白川宮邸に、同葬場の儀には皇后宮使として皇后宮事務官入江相政を葬斎場豊島岡墓地にそれぞれ差し遣わされ、玉串をお供えになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、永久王殿下喪儀録、宮内省省報、官報

二十三日 月曜日 午前、秋季皇靈祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報、官報

二十四日 火曜日 午前十一時御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、御昼餐を御会食になる。御食後、皇太后と共に庭を御散策になり、午後三時四十五分還啓される。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

昭和十五年九月

二十五日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般ソビエト連邦へ赴任の特命全権大使建川美次及び同夫人、スイス国へ赴任の特命全権公使三谷隆信、エジプト国へ赴任の特命全権公使鈴木九万、フィランド国へ赴任の特命全権公使昌谷忠に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

宣仁親王妃喜久子参内につき御対面になり、社団法人東京慈恵会総裁に就任の挨拶をお受けになる。同妃は、東京慈恵会総裁であった故恒久王妃昌子内親王の薨去に伴い、同会副会長侯爵大久保利武の願い出により、皇后の御沙汰を受けて昨二十四日総裁に就任した。○女官長日記、女官日誌、重要雑録

二十六日 木曜日 午前、この日葉山御用邸附属邸より帰京の正仁親王・貴子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

豊受大神宮仮宮より本殿へ還御につき、午後八時、御休所西口御階段下に設置された御座において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十七日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般ブラジル国へ赴任の特命全権大使石射猪太郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

二十八日 土曜日 恒徳王妃光子着帯につき、天皇・皇后より三種交魚を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、皇族身分録

この月中旬に発生の鹿児島・宮崎両県下における暴風雨被害に対し、天皇・皇后より鹿児島県・宮崎県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報

三十日 月曜日 和子内親王の誕生日につき、午後、天皇及び和子内親王と共に奥内謁見所において、

内大臣・宮内大臣・侍従長始め総代、及び皇后宮女官等の拝賀を、ついで元皇后宮女官の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌、照宮孝宮順宮御日誌

十月

二日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般仏領インドシナその他へ出発の特命全權大使松宮順に謁を賜う。ついで、今般第三遣支艦隊司令長官として出征の海軍中将清水光美に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、拝謁參拝録、宮内省省報、官報

夕刻、青山東御殿^{三笠宮邸}において出火があり、大事に至らず鎮火する。この出火に際して、天皇・皇后よりお尋ねとして三笠宮に握り飯・鶏卵等を御贈進になる。また、天皇・皇后・皇太后よりお見舞いとして清酒・鯛を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、皇親録、贈賜録

三日 木曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において載仁親王と御対面になり、この日參謀総長退任につきお礼言上をお受けになる。天皇・皇后より内賜金及び銀製放馬置物^{天岡均の猛虎之図}、掛物^{大橋翠石筆}、五種交

魚の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雜録、皇親録、贈賜録、侍従武官府

資料

四日 金曜日 午後、この度朝鮮へ帰還する李鍵公妃誠子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌

この日、故永久王三十日祭につき、皇后宮女官東貞子を権舎に差し遣わされ、天皇・皇后より柿・盛菓子^{大橋翠石筆}を、皇后より果物をお供えになる。○女官長日記、女官日誌

昭和十五年十月

五日 土曜日 午前、桐ノ間において、ドイツ国特命全権公使ハインリッヒ・ゲオルグ・スターマー及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。同公使は、この度日独伊三国同盟条約締結に尽力した。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において、今般南支那方面軍司令官として出征の陸軍中將後宮淳に謁を賜い、次のお言葉を賜う。

今回南支那方面軍司令官ノ重任ヲ帯ビテ出発スル趣洵ニ御苦勞ニ思フ就テハ身体ヲ大切ニシテ御奉公ヲスルヤウニ

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、侍従武官府歴史

七日 月曜日 この日より、久しく御休講中の定例進講を再開し、午前、東京帝国大学助教授板沢武雄より南洋についての進講をお聴きになる。以後、この年は月曜日を中心に、同人より、後陽成天皇・後水尾天皇の御好學、江戸時代の皇族の入寺、学習院の創建、公家・武家などに関する進講を八回にわたりお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、新任の東宮傳育官村井長正、新任の侍医寮御用掛向後勉に謁を賜う。なおこの日、皇室令をもって皇后宮職に皇子傳育官を置くの件等が公布・施行され、正仁親王の傳育のため、東宮傳育官永積寅彦が皇子傳育官に任じられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇室令録、進退録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、今般上京の曇華院門跡の飛鳥井慈孝、及び今般住職拜命の円照寺門跡の山本静山に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

今般、赤坂離宮青山御所内の御殿を正仁親王の居所と御治定につき、同御所が青山御殿と改称される。

○省中日誌、例規録、皇子保育録、宮内省省報、官報

九日 水曜日 日本赤十字社第四十八回通常総会に御臨席のため、午前十時御出門、憲法記念館に行啓される。御着後、社長徳川圀順の先導により便殿に入御され、総裁載仁親王、宣仁親王妃喜久子ほかと御対面になり、引き続き海軍大臣・陸軍大臣代理・拓務大臣・社長・副社長・篤志看護婦人会会長・副会長三名ほかに謁を賜う。終わって式場に臨御され、次の令旨を賜う。

茲に日本赤十字社第四十八回通常総会に臨み各員に告ぐ

総裁以下不断の努力により本社の施設は益々整備し基礎は愈々鞏固を加ふるに至れり

今次事変に際しては戦地内地に亘り各般の戦時救護に尽瘁し恤兵報国の実を挙げつゝあるは満足に思ふ所なり現下時局の重大なるに鑑み本社員一同協心戮力益々国家社会に貢献せむことを望む
ついで総裁載仁親王の奉答をお受けになり、十一時二十八分還啓される。還啓後、奥内謁見所において載仁親王と御対面になり、行啓のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿
愛国婦人会第三十九回通常総会に御臨席のため、午後一時五十分御出門、明治神宮外苑競技場に行啓される。御着後、会長水野満寿子の先導にて便殿に入御される。途中、理事以下には階下廊下において謁を賜い、便殿において総裁故依仁親王妃周子ほかと御対面の後、会長・副会長・陸軍大臣・厚生大臣に謁を賜う。終わって式場に臨御され、次の令旨を賜う。

茲に愛国婦人会第三十九回総会に臨み諸員に告ぐ

昭和十五年十月

今や内外の情勢益々多事にして婦人の協力に待つもの益々多きを加ふるの秋本会員結束して銃後に備へ其の事蹟見るべきものは深く満足する所なり

諸員宜しく時局に思を致し婦人報国の誠を尽さんことを望む

総裁故依仁親王妃の奉答をお受けになった後、三時九分還啓される。還啓後、奥内謁見所において同妃と御対面になり、行啓のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、内舎人日記、省中日誌、

幸啓録、宮内省省報、官報、愛国婦人

十日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元第三遣支艦隊司令長官野村直邦に謁を賜い、同人より戦況をお聞きになる。続いて同じく凱旋の元支那方面艦隊参謀長井上成美に謁を賜い、戦況をお聞きになる。それぞれにお言葉を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、侍従武官日記

午前、天皇と共に鳳凰の間において、この日賢所大前において成年式を済ませた彰常王の参内朝見の儀に臨まれる。御前に参進の王より謝恩の言上をお受けになり、天皇の勅語に続き懿旨を賜う。終わって、天皇と共に奥内謁見所において勲章佩用の彰常王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。彰常王より天皇・皇后に鮮鯛の献上があり、天皇・皇后よりお祝いとして彰常王に賜金並びに鮮鯛・清酒等の御贈進がある。午後、天皇と共に奥内謁見所において、稔彦王・同妃聡子内親王と御対面になり、彰常王の成年式終了につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、内舎人日記、侍従武官日記、儀式録、皇親録、皇族身分録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、今般台湾軍・南支那方面軍へ御差遣の侍従武官徳永鹿之助に謁を賜い、各軍司令官への令旨を下される。徳永は十月十四日出発、各軍の状況を実視し、十一月七日帰京、二

十六日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史

夕刻、天皇と共に奥御進講所において、内親王傅育掛長藤井種太郎に謁を賜い、成子内親王・和子内親王・厚子内親王の成績につき言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、藤井種太郎日誌

十一日 金曜日 天皇と共に御学問所において、今般參謀総長を離職の載仁親王と御夕餐を御会食に
なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、重要雜録、皇親録

十二日 土曜日 午後、天皇と共に成子内親王と御対面になり、この日より秋季休暇を利用して九州
各県へ旅行する旨の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌

十四日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般滿洲より帰還の第七師団長国崎登に謁を賜う。○
女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌

奥内謁見所において、今般メキシコ国へ赴任の特命全權公使三浦義秋及び同夫人に謁を賜う。○女官長
日記、女官日誌、内舍人日誌、省中日誌、拜謁參拜録、宮内省省報、官報

恒徳王妃光子去る十一日第一王子出産につき、この日、天皇・皇后より三種交魚を恒徳王・同妃に御
贈進になる。誕生した王子は、七夜に当たる十七日、恒正と命名される。命名当日に、天皇・皇后よ
り白羽二重・清酒・鮮鯛を恒徳王に賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、贈
賜録、恒徳王妃光子殿下御分娩の件、宮内省省報、官報

十六日 水曜日 午前、奥御進講所において、東京帝国大学教授穂積重遠より、去る八日天皇が東京
帝国大学に行幸された折の天覽事項についての進講をお聴きになる。以後、この年は、概ね水曜日に、
同人より七回にわたり進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

昭和十五年十月

奥内謁見所において、今般出征の第二遣支艦隊司令長官沢本頼雄に謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十八日 金曜日 別格官幣社靖国神社において臨時大祭挙行につき、午前十時三十五分御出門、同社に行啓され、御拝礼になる。十一時九分還啓される。なお、臨時大祭挙行に際し、天皇・皇后より祭資を同社に下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、儀式祭典録、宮内省省報、

官報、靖国神社社務日誌、靖国神社祭儀所日誌

十九日 土曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、この日賢所大前において成年式を済ませた家

彦王^{多嘉王第二王子}の参内朝見の儀に臨まれる。御前に参進の王より謝恩の言上をお受けになり、天皇の

勅語に続き懿旨を賜う。午後、天皇と共に奥内謁見所において、故多嘉王妃静子及び家彦王と御対面になり、成年式終了についてのお礼言上をお受けになる。なお、家彦王より天皇・皇后に鮮鯛の献上があり、天皇・皇后より家彦王に賜金並びに鮮鯛・清酒等の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、皇親録、皇族身分録、侍従武官府歴史、宮内省省報、

官報

二十三日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「新体制について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

午後、故永久王五十日祭につき、皇后宮使として、皇后宮事務官岡部長章を北白川宮邸の権舎に、皇后宮事務官入江相政を豊島岡墓地の墓所に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より、霊前に盛菓子を、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、宮内省

二十四日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元南支那方面軍司令官安藤利吉、元駐蒙軍司令官岡部直三郎ほか陸軍将官六名に謁を賜う。各人より軍状をお聞きになり、次のお言葉を賜う。

出征以来重大な任務ヲ全ウシテ皇軍ノ武威ヲ発揚シタコトハ洵ニ御苦勞デアリマシタ

本日ハ目出度ク凱旋デ喜バシク思ヒマス今後モ自愛シテ御奉公ヲスルヤウニ

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官府歴史

彰常王臣籍降下につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、参内朝見の儀に臨まれる。御前に参進の王より謝恩の辞の言上をお受けになり、天皇の勅語に続き懿旨を賜う。翌二十五日、天皇より勲一等彰常王に、栗田の家名を下賜され、侯爵を授けられ、従四位に叙される。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、皇親録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、京都在住華族総代の子爵水無瀬忠政に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

夕刻、九州旅行より帰京した成子内親王参内につき、天皇と共に御対面になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌

二十五日 金曜日 午前、皇后宮職御用掛加藤虎之亮より『大学』についての進講をお聴きになる。

以後、この年は金曜日を中心に、同人より七回にわたり『大学』『日本外史』についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、加藤虎之亮関係資料

奥内謁見所において、今般イタリア国へ赴任の特命全權大使堀切善兵衛に謁を賜う。○女官長日記、女官

昭和十五年十月

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、祭祀録、宮内省省報、官報

午後、東溜・南溜において、曝涼中の御物を御覧になる。その際、永井如雲宮内大臣官房用度課美術工芸に関する技術囑託の説明を

お聞きになる。翌日午前にも永井の説明にて御物を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十九日 火曜日 午前十時三十二分御出門、東京慈恵会において挙行の同会総会に行啓される。便殿にて総裁宣仁親王妃喜久子、及び故邦彦王妃倪子・恒憲王妃敏子・守正王妃伊都子・李鍵公妃誠子と御対面になり、引き続き拝謁者に謁を賜い、式場に臨御される。式終了後、医院内の参考室において、院長高木喜寛の説明にて、陳列された胃癌や胆石症などの医療標本を御覧になり、十一時五十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において故成久王妃房子内親王・多恵子女王と御対面になり、永久王薨去後の忌明けにつきお礼言上をお受けになる。ついで立花美年子・東園佐和子に謁を賜い、同じく忌明けのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

紀元二千六百年祝典記念章完成につき、この日、天皇・皇太后と共に、内閣総理大臣より奉呈をお受けになる。○重要雑録、進献録、叙勲裁可書、紀元二千六百年祝典記録

三十日 水曜日 午後、奥内謁見所において故永久王妃祥子と御対面になり、忌明けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

三十一日 木曜日 正午、皇太后宮御休所において、稔彦王・同妃聡子内親王、及び新たに侯爵を授けられた栗田彰常と御対面になる。ついで奥内謁見所において、午餐を御会食になる。午餐の御会食は、去る二十五日彰常の臣籍降下当日に予定されていたもので、天皇の御不例のためこの日に延期さ

れたが、引き続き天皇が御静養中のため、皇后のみ御臨席になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、宣召録、重要雜録

九月下旬の台湾総督府管下の暴風雨被害に対し、この日、天皇・皇后より同総督府に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十一月

一日 金曜日 明治神宮において鎮座二十年祭執行につき、天皇・皇后より祭資を賜う。なお、この日の行幸啓は、天皇の御不例のためお取りやめになる。○省中日誌、恩賜録、幸啓録、宮内省省報、官報

三日 日曜日 明治節のところ、天皇御不例のため拝賀等がお取りやめとなる。午前、天皇と共に御休所において、皇后宮女官等より挨拶をお受けになる。ついで奥内謁見所において、皇后お一方にて皇族・公族と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

四日 月曜日 天皇・皇后より祭糝料を下賜、及び皇后より御歌複本・菓子を下賜される支那事変・張鼓峰事件・ノモンハン事件の戦死者の範囲について、従来、戦死者のほか、戦傷者戦地又は事変地における戦傷以外による傷痍者・

疾病者を含むで陸海軍部内の診療施設に収容中死没した者、死亡認定を受けた行方不明者に限られていたが、

今般陸海軍部外の施設においても傷痍軍人の療養を実施するに至ったため、今後、その範囲を拡大し、戦地又は事変地において公務による傷痍・疾病のため一種以上の兵役を免除された者、及び、退職後、軍事保護院療養所・国立結核療養所において、あるいは地方長官の行う傷痍軍人の委託療養又は居宅療養中に、該傷病のため死亡した者にも下賜されることとなる。○例規録

昭和十五年十一月

五日 火曜日 大宮御所へ行啓の御予定をお取りやめになり、午前、皇太后の御機嫌伺いのため、御使として皇后宮女官東貞子を大宮御所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌

六日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より日独伊三国同盟についての進講をお聴きになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

八日 金曜日 午後、奥内謁見所において、昨七日結婚の侯爵音羽正彦及び同夫人益子に謁を賜う。

ついで鳩彦王正彦の父と御対面になり、お礼言上をお受けになる。正彦の結婚につき、天皇・皇后より朝香

宮に五種交魚を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

十日 日曜日 天皇と共に紀元二千六百年式典に御臨席のため、午前十時四十八分御出門、宮城二重橋前広場に行啓される。便殿において雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、載仁親王始め皇族・王公族二十五方と御対面になり、内閣総理大臣近衛文麿以下国務大臣十五名に謁を賜う。ついで式殿にお出ましになり、天皇と共に総理大臣より式典開始の奏上をお受けになる。参列者五万余名より最敬礼をお受けになり、「君が代」の奉唱、総理大臣の寿詞の奏上をお聞きになる。天皇の勅語に続き、

東京音楽学校男女生徒四百名による「紀元二千六百年頌歌」東京音楽学校校作詞作曲の斉唱をお聴きになり、総理大

臣の「天皇陛下万歳」の発声にて諸員より万歳三唱をお受けになる。終わって、天皇・皇后の順に便殿に入御される。十一時三十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、侍従武官日誌、幸啓録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報、紀元二千六百年祝典記録

成子内親王・和子内親王・厚子内親王参内につき、天皇と共に御対面になり、祝詞言上をお受けになる。正仁親王・貴子内親王も加わり、天皇及び正仁親王・四内親王と共に写真撮影をお受けになり、

お祝御膳の御昼餐を御会食になる。午後、皇太子参内につき、皇太子も含め御家族お揃いにて写真撮影をお受けになる。終わって、皇后は皇太子・正仁親王・四内親王と共に二重橋までお出ましになり、式場を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、

照宮孝宮順宮御日誌、宮内省省報

十一日 月曜日 宮城二重橋前広場において紀元二千六百年奉祝会挙行につき、午後一時四十八分御出門、天皇と共に同所に行啓される。御着後、便殿において、紀元二千六百年奉祝会総裁代理の宣仁親王及び同妃喜久子、雍仁親王妃勢津子、載仁親王始め皇族・王公族二十七方と御対面になる。引き続き、紀元二千六百年奉祝会長近衛文麿、同副会長阪谷芳郎、同佐佐木行忠、同田子一民、内閣祝典委員長富田健治、紀元二千六百年奉祝会幹事長歌田千勝に謁を賜う。終わって式殿にお出ましになり、近衛奉祝会長より奉祝会開始の旨をお聞きになり、続いて「君が代」の奉唱をお聴きになる。ついで、奉祝会総裁代理宣仁親王並びに外交団首席の米國特命全權大使ジョセフ・クラーク・グループより奉祝の詞、続いて天皇の勅語をお聞きになる。終わって饗宴が催される。主饌として軍用携帯食を、副饌として申し烏賊・乾鰯等の詰合せ主饌・副饌共に角型木製折箱入り等が供される。この間、宮内省式部職楽部員による奉祝舞楽「悠久」図書寮編修課長芝葛盛歌詞選を御覧になり、また、陸海軍軍楽隊による陸軍戸山学校軍楽隊作曲「大歡喜」、海軍軍楽隊編曲「紀元二千六百年頌歌行進曲」、紀元二千六百年奉祝会制定「奉祝讃歌」山田耕筰・信時潔作曲、海軍軍楽隊東京分遣隊長内藤清五編曲の演奏、及び全国各学校より選出の男女学生・生徒三千余名による奉祝国民歌「紀元二千六百年」増田好生作詞、森義八郎作曲の斉唱をお聴きになる。終わって、奉祝会総裁代理宣仁親王の「天皇陛下

昭和十五年十一月

万歳」の発声にて参列の諸員による万歳三唱をお受けになる。奉祝会終了の後、午後三時六分天皇と共に還啓される。その後、天皇と共に奥内謁見所において、雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、奉祝会行幸啓のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、侍従武官日誌、幸啓録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報、紀元二千六百年祝典記録

御夕餐後、正仁親王・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に二重橋上にお出ましになり、御自ら提灯を手に提灯行列を御覧になり、万歳の声にお応えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌

十二日 火曜日 午前、皇太后御参内につき、天皇と共に御対面になり、紀元二千六百年式典終了の祝賀をお受けになる。ついで、正仁親王・貴子内親王を交えて御昼餐を御会食になる。御食後、天皇・皇太后・正仁親王と共に奥内謁見所において、紀元二千六百年式典の実況映画を御覧になる。終わって、成子内親王・和子内親王・厚子内親王参内につき、御一緒に茶菓をお召し上がりになる。なおこの日、皇太后は御参内に先立ち、宮城二重橋前広場の紀元二千六百年式典場に立ち寄られ、式殿・便殿・玉座等を御巡覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、照宮孝宮順宮御日誌、幸啓録、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、紀元二千六百年祝典記録

十三日 水曜日 午前、奥御進講所において、東京帝国大学教授穂積重遠より、全国社会事業大会の決議についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

奥内謁見所において、今般満洲より凱旋の第二師団長吉本貞一に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌

十四日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元第二遣支艦隊司令長官高須四郎、元第一聯合航空隊司令官山口多聞、元第二聯合航空隊司令官大西滝治郎に謁を賜い、慰労のお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、今般北支那方面軍へ御差遣の侍従武官横山明に謁を賜い、令旨を下される。横山は翌十五日出発、北支那・蒙疆の状況を実視し、十二月十九日帰京、翌年一月七日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従武官日誌、進退録、侍従武官府歴史、第三十五師団歴史

午後、奥内謁見所において宣仁親王妃喜久子と御対面になり、ついで翌十五日子爵榊原正春と結婚の徳川喜佐子宣仁親王妃の妹に謁を賜う。喜佐子の参内に当たり、皇后より紅白紋縮緬及び万那料を下賜される。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

十五日 金曜日 午前十時御出門、天皇と共に明治神宮に行啓され、天皇に続き、御拝礼になる。十一時十七分還啓される。御参拝に際し、天皇・皇后より幣帛料・神饌料をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、侍従武官日誌、幸啓録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、今般転出の元侍従武官山澄貞次郎、及び新任の侍従武官城英一郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従武官府資料、侍従武官城英一郎日記

御夕餐後、正仁親王と共に桜田濠沿いの土手に登られ、三宅坂より半蔵門に向かう花電車を御覧になる。先着の成子内親王・和子内親王・厚子内親王も共に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従武官日誌
去る九日、李錫公家東京別邸において李錫公妃賛珠が第二男子を出産する。誕生した男子は、七夜に当たるこの日、淙きと命名される。命名当日に際し、天皇・皇后より白羽二重・酒・鮮鯛を李錫公に賜

昭和十五年十一月

う。○省中日誌、王公族録、皇親録、贈賜録、宮内省省報

十六日 土曜日 天皇及び正仁親王・貴子内親王と共に葉山御用邸に行啓される。午前十時五分御出門、東京駅より親王・内親王と御同車になり、十一時三十二分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

午後、宣仁親王参邸につき、天皇と共に御対面になり、昨十五日付をもって海軍中佐に進級のお礼言上、並びに翌十七日より紀元二千六百年奉祝会総裁代理として奈良・京都・宮崎各府県下へ旅行する旨の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従武官日誌、幸啓録、皇族身分録、官報

二十一日 木曜日 午後一時五十分天皇と共に葉山御用邸御出門、逗子駅より正仁親王・貴子内親王を御同伴になり、三時十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉

日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

二十四日 日曜日 公爵西園寺公望病気につき、去る十四日以来毎日天皇・皇后よりスープ・牛乳を下賜されていたところ、この日同人重病につき、午前、皇后宮使として皇后宮大夫広幡忠隆を、天皇・皇后・皇太后より侍医高橋信を静岡興津の同人別邸に差し遣わされる。また、病氣お尋ねとして天皇・皇后・皇太后より果物を、皇后より花卉・野菜をそれぞれ賜う。この夜、西園寺は死去する。享年九十二。二十八日、同人の靈柩が外務大臣官邸西園寺仮邸とされるに遷され、正寝移柩の儀執行につき、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官入江相政を差し遣わされる。また、天皇・皇后より靈前に盛菓子をお供えになる。十二月三日、同人の遺族に対し、天皇・皇后・皇太后のお手許より特に金員を下賜

される。四日、賜誄の儀執行につき、皇后宮使として皇后宮事務官小出英経を柩前に差し遣わされ、幣帛・櫛を賜い、玉串をお供えになる。五日、日比谷公園内葬斎場において国葬執行につき、皇后宮使として小出事務官を差し遣わされ、玉串をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

侍従武官日誌、省中日誌、恩賜録、重要雜録、公爵西園寺公望国葬録、御下賜金関係書類、宮内省省報、官報、西園寺公望伝

二十五日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般トルコ国より帰国の特命全権大使武富敏彦、米
国より帰国の特命全権大使堀内謙介及び同夫人、ブラジル国より帰国の特命全権大使桑島主計、イラ
ン国より帰国の特命全権公使中山詳一、ペルー国より帰国の特命全権公使北田正元、アルゼンチン国
より帰国の特命全権公使内山岩太郎、フィンランド国より帰国の特命全権公使杉下裕次郎、コロンビ
ア国より帰国の特命全権公使坂根準三及び同夫人、エジプト国より帰国の特命全権公使宇佐美珍彦、
パナマ国より帰国の特命全権公使水沢孝策及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中

日誌、拜謁参拝録、宮内省省報、官報

二十六日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元厦門方面特別根拠地隊司令官牧田寛三
郎、第三水雷戦隊司令官藤田類太郎に謁を賜う。兩名にお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌
正仁親王と共に生物学御研究所の畑にお出ましになり、御栽培中の綿の様子を御覧になり、お手ずか
ら御採集になる。○女官日誌、侍従職日誌

二十七日 水曜日 午前十時二十五分御出門、東京帝室博物館に行啓される。帝室博物館総長渡部信
の先導にて便殿に進まれ、その後御到着の皇太后に御挨拶をされた後、渡部総長より正倉院御物展観
について説明をお聞きになる。それより鑑査官石田茂作の説明にて第一室より御巡覧になる。一旦便

殿に戻られ、御昼餐を御会食の後、午後も再び続きを御覧になる。三時五十七分還啓される。なお、紀元二千六百年記念のため、この月五日より二十四日までの間、正倉院御物百四十六点、同模造品並びに法隆寺献納御物九十七点が東京帝室博物館に陳列され、一般の拝観が許された。正倉院御物の一般公開は今回をもって嚆矢とし、武器・文房具・文書・調度・楽器・絵画・衣服・染織・仏具類が出陳された。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、重要雜録、宮内省省報、官報、東京国立博物館百年史

二十八日 木曜日 この日誕生日を迎えた正仁親王の着袴の儀が行われる。午前、義宮御座所において着袴及び深曾木の儀が行われた後、正仁親王が賢所・皇靈殿・神殿において拝礼する。その後、天皇・皇后が奥御座所において、童形服にて参進の正仁親王と御対面になる。引き続き、お揃いにて奥内謁見所において、内大臣木戸幸一・宮内大臣松平恒雄始め側近奉仕高等官総代その他の拝賀をお受けになる。ついで、守正王・同妃伊都子始め皇族・公族の拝賀をお受けになる。夕刻、天皇及び正仁親王と共に、お祝いのため参内した成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。その後、貴子内親王も加わり、お祝御膳の御夕餐をお召し上がりになる。なお、天皇・皇后より皇后宮事務官岡部長章^侍を多摩陵^{大正天}に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌、照宮孝宮順宮御日誌、皇子保育録

二十九日 金曜日 午後一時十五分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御歓談になり、四時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十二月

二日 月曜日 午前、桐ノ間において、今般帰国のエジプト国特命全権公使ニコラス・カリル・ベイに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において、今般ソビエト連邦より帰国の特命全権大使東郷茂徳及び同夫人、フランス国より帰国の特命全権大使沢田廉三、スペイン国より帰国の特命全権公使横山正幸及び同夫人、アフガニスタン国より帰国の特命全権公使守屋和郎、ハンガリー国より帰国の特命全権公使井上庚二郎及び同夫人、ルーマニア国より帰国の特命全権公使宮崎勝太郎、チリ国より帰国の特命全権公使塩崎観三、ハンガリー国へ赴任の特命全権公使大久保利隆に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に奥内謁見所において、この日誕生日を迎えた崇仁親王と御対面になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

三日 火曜日 午前九時四十五分御出門、東京女子高等師範学校並びに同校内の東京特設中等教員養成所中等学校教員を志す戦没者寡婦のために昭和十四年七月に設置された教育機関に行啓される。便殿において、文部大臣橋田邦彦・東京女子高等師範

学校長下村寿一ほかに謁を賜う。続いて下村校長より校務に関する書類の奉呈をお受けになった後、講堂にお出ましになる。「君が代」奉唱に続き、下村校長より学校の現状について言上をお受けになり、校歌奉唱をお聴きになる。終わって同校教授倉橋惣三主事の先導により附属幼稚園に移られ、東京特設中等教員養成所生徒戦没者寡婦、幼稚園児戦没者遺児等を御覧になる。さらに小学校、女学校を御巡覧になる。

昭和十五年十二月

便殿において御昼餐後、東京女子高等師範学校及び東京特設中等教員養成所において授業・実験・実習を御巡覧になる。さらに寄宿舎において体操及び行進・遊戯・薙刀等を御覧になる。約五時間にわたる御巡覧を終えられ、午後三時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、軍人援護事業概要

四日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、去る十一月十三日に引き続き、全国社会事業大会の決議についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

六日 金曜日 成子内親王の誕生日につき、午前、奥内謁見所において元皇后宮女官山岡淑子・青山元子に謁を賜い、午後、同所において元侍女の鈴木タカ元侍従長鈴木貫太郎夫人に謁を賜う。夕刻、天皇と共に成子

内親王と御対面になった後、お三方にて奥内謁見所において、宮内大臣、侍従長始め側近奉仕者総代、皇后宮女官長始め皇后宮女官一同、元皇后宮女官津軽理喜子にそれぞれ謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌、照宮孝宮順宮御日誌

午後、奥内謁見所において、今般凱旋の元第二十二軍司令官久納誠一に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

松平充子御母侷子の姉に謁を賜い、伯爵松平直亮充子の夫君死去後の忌明けにつき、お礼言上をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

歳末に際し、東京府下の官公私診療団体が協力して貧窮者の施療救済を実施するに当たり、この日、思召しをもって東京府に金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報

日本赤十字社病院御補助の思召しをもって、天皇・皇后より同社に金一封を賜う。また同社病院救助

患者治療費御補助のため、皇后より同社に金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、事業年報（日本赤十字社）

十日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元第一遣支艦隊司令長官谷本馬太郎に謁を賜う。引き続き、元同艦隊參謀長堀内茂礼に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

奥内謁見所において、前任の帝室林野局長官三矢宮松、新任の帝室林野局長官三浦篤・内蔵頭岩波武信・内匠頭土岐政夫に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、進退録、宮内省省報、

官報

歳末に際し、東京府下の官公私設社会事業団体が連合して貧困者救済のために無料診療を実施するに当たり、現下の木炭不足により患者が暖を取れない状況に鑑み、この日、皇后・皇太后より木炭千百俵を東京府知事に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報

十一日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「日華基本関係条約について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

奥内謁見所において、今般凱旋の元上海方面根拠地隊司令官樋口修一郎、元第十三戦隊司令官山田満、元海南島根拠地隊司令官福田良三、元第三聯合航空隊司令官寺岡謹平に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌

十二日 木曜日 午後、天皇と共に御学問所において、この日光格天皇百年式年祭につき、維新史料編纂官藤井甚太郎より光格天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、進講録

故永久王百日祭につき、皇后宮使として、皇后宮事務官三井安弥を権舎に、皇后宮事務官小倉庫次を墓所に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より霊前に盛菓子を、墓前に櫛をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報

十三日 金曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、今般満洲より帰還の盛厚王と御対面になる。

なお、盛厚王は、阿城重砲兵聯隊中隊長から陸軍野戦砲兵学校付に転補する。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇族身分録、進献録

午前十一時十五分御出門、東宮仮御所に行啓される。御昼餐後、お一方にて青山御殿を御巡覧になる。

東宮仮御所にお戻りの後、学習院より帰還の皇太子と御対面になり、御一緒に過ごされる。午後四時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十四日 土曜日 午後、奥宮殿において、今般凱旋の元第十三軍司令官藤田進に謁を賜う。○女官長日

記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十五日 日曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、今般満洲より帰還、南支那方面軍参謀として出征の孚彦王、及び同妃千賀子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録

十七日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋又は満洲より帰還の元第五軍司令官土肥原賢二、元第二十七師団長本間雅晴、元第八師団長塚田攻、元第五師団長中村明人、元独立混成第十旅団長水野信、元独立混成第六旅団長土屋兵馬、元第三飛行団長桑名卓男に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌

奥内謁見所において、今般正仁親王付の皇子傳育官を拝命した海軍中将桑折英三郎、並びに侍医寮嘱

託瀨川功に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録、宮内省省報、官報

向寒に際し、日本赤十字社病院救助收容患者・恩賜財団済生会病院救助收容患者・東京慈恵会医院救助收容患者・財団法人福田会育児院收容者に対し、この日、皇后よりお品物代として金員を下賜される。○贈賜録、宮内省省報、官報、事業年報（日本赤十字社）

十八日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「大晦日古川柳百句」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

正午過ぎ、奥内謁見所において、今般中華民国より帰国の特命全権大使阿部信行に謁を賜う。阿部は去る十一月三十日、南京において日本国中華民国間基本関係に関する条約及び附属文書、並びに日滿華共同宣言に署名・調印を終えて帰国し、この日天皇にその経緯につき復命した。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報、外務省記録

天皇と共に豊明殿において、今般離任帰国の満洲国特命全権大使阮振鐸のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、謁見録、拝謁参拝録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

翌十九日青山御殿へ正仁親王転居につき、午後、天皇及び正仁親王・成子内親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に申ノ口広間にお出ましになり、侍従長始め側近奉仕者一同に茶菓を賜う。さらに奥内謁見所において、達磨落とし等の余興を御覧になり、くじ引きにより諸種の品を一同に賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌、照宮孝宮順宮御日誌、皇子保育録

夜、天皇と共に、フランス国のジャック・イベール作曲「祝典序曲」、及びハンガリー国のヴェレシユ・

シャーンドル作曲「交響曲」の演奏のラジオ放送をお聴きになる。翌十九日にも、イタリア国のイルデブラント・ピツエッテイ作曲「交響曲イ長調」、及びドイツ国のリヒャルト・シュトラウス作曲「祝典音楽」をお聴きになる。四楽曲は、ドイツ・イタリア・フランス・ハンガリーの各国より紀元二千六百年の祝賀のため紀元二千六百年奉祝会に寄贈された慶祝音楽であり、二十三日には、同奉祝会長近衛文麿より天皇・皇后・皇太后に各曲の楽譜が献上される。また翌年一月二十九日には、四楽曲を収録した蓄音機録音盤が奉祝会長より天皇・皇后・皇太后に献上される。○女官日誌、侍従日誌、進献録、小倉庫次侍従日記、紀元二千六百年祝典記録、読売新聞

十九日 木曜日 この日、青山御殿に正仁親王移居につき、午前、奥御進講所において、皇子傅育官桑折英三郎・同内藤政恒にそれぞれ謁を賜う。その後、皇子御座所において、皇子御用掛の外山豊子・原田リツに謁を賜う。ついで天皇と共に、青山御殿へ出発の正仁親王と御対面になる。正仁親王移居につき、天皇・皇后よりお品及び万那料の、皇后よりお品の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、吳竹寮日誌、皇子保育録、宮内省省報、官報

桐ノ間において、今般着任のイタリア国特命全権大使マリオ・インデツリ及び同夫人、並びに随行の館員等十七名、今般離任帰国のルーマニア国特命全権公使ジョルジュ・パラスキヴェスクに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において、今般中華民国に赴任の特命全権大使本多熊太郎、スペイン国に赴任の特命全権公使須磨弥吉郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

二十一日 土曜日 午前、奥内謁見所において、百武まち子^{侍従長百武三郎夫人}に謁を賜い、御機嫌伺いをお受け

になる。○女官長日記、女官日誌、百武三郎日記

奥内謁見所において、恒徳王妃光子と御対面になり、出産後初参内につきお礼言上をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十三日 月曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に奥内謁見所において、皇族・王公族、

宮内大臣始め総代、皇后宮女官長等の拝賀をそれぞれお受けになる。なお、皇太子は、葉山滞在中につき不参となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

紀元二千六百年関係の諸儀式終了につき、天皇と共に豊明殿において午餐を催され、御招待の皇太后、並びに雍仁親王妃勢津子・崇仁親王始め皇族・公族と御会食になる。終わって、天皇・皇太后と共に奥御対面所において、和子内親王・厚子内親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌、照宮孝宮順宮御日誌、幸啓録、重要雑録、秩父宮御日誌、秩父宮附日記、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二十四日 火曜日 午前、奥内謁見所において故永久王妃祥子と御対面になり、故永久王百日祭に際してのお仕向け並びに本年中のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

桐ノ間において、今般着任の満洲国特命全権大使李紹庚、並びに随員九名に謁見を仰せ付けられる。続いて、同じく着任の豪州連邦特命全権公使ジョン・レーサムに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において、今般メキシコ国より帰国の特命全権公使越田佐一郎、コロンビア国へ赴任の特命全権公使柳井恒夫及び同夫人、ベネズエラ国より帰国の特命全権公使山形清に謁を賜う。○女官長日記

昭和十五年十二月

記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

この日、前内大臣湯浅倉平死去につき、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官三井安弥を同人邸に差し遣わされる。これに先立ち、同人の危篤に際して天皇・皇后・皇太后より侍医村山浩一を差し遣わされ、別に果物を下賜される。二十六日賜物の儀につき、皇后宮使として皇后宮事務官岡部長章を同邸に差し遣わされ、花を賜い、焼香させられる。さらに、天皇・皇后より祭資を下賜される。二十七日葬送につき、皇后宮使として皇后宮事務官小倉庫次を築地本願寺に差し遣わされ、焼香させられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、重要雑録、恩賜録、贈賜録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、湯浅倉平

二十五日 水曜日 午前、大正天皇祭皇靈殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、同御神楽の儀につき、

皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

二十六日 木曜日 大日本傷痍軍人会に対し、天皇・皇后より事業御奨励金を下賜される。○省中日誌、

恩賜録、軍人援護事業概要

二十八日 土曜日 午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。四時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、貞明皇后実録正本

二十九日 日曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、宮内大臣、内大臣、侍従長始め総代、皇后宮女官等より歳末の祝詞言上をお受けになる。ついで元皇后宮女官津軽理喜子・山岡淑子に謁を賜う。その後、載仁親王始め皇族・公族より歳末の祝詞言上をお受けになる。午後、天皇と共に奥御対面所において、雍仁親王妃勢津子・崇仁親王より歳末の祝詞言上をお受けになる。また故成久王妃房

子内親王と御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内
舍人日誌、侍従武官日誌

三十日 月曜日 午前、天皇と共に奥宮殿において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、歳末の祝詞
言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌

三十一日 火曜日 午前、奥内謁見所において、朝融王・同妃知子女王と御対面になり、歳末の挨拶
をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

歳末につき、皇太后の御機嫌伺いのため、皇后宮職御用掛竹屋志計子を大宮御所に差し遣わされる。
午後、皇太后の御使として参内した皇太后宮職御用掛正親町鍾子に謁を賜い、歳末の御機嫌伺いをお
受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

昭和十六年（西曆一九四一年） 三十八歳

一月

一日 水曜日 午前、天皇と共に奥御食堂において、御朝餐に野戦兵食料理をお召し上がりになる。御食後、天皇と共に御学問所において、皇太子・正仁親王・成子内親王の各御使のほか、内大臣・宮内大臣始め側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、崇仁親王始め皇族・公族の拝賀をお受けになる。以下、新年式に従い、正殿及び西溜ノ間において恒例のとおり拝賀をお受けになる。拝賀の儀の後、皇后お一方にて桐ノ間において、御裳捧持者に謁を賜う。御夕餐は、お祝御膳をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、宮内省省報、官報

二日 木曜日 午後、奥内謁見所において、幸田延^{音楽の御進講者}・安藤幸^同に謁を賜い、年始の挨拶をお受けになる。その際、安藤にお手許のヴァイオリンを試奏させられ、その演奏をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

三日 金曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、邦寿王始め未成年皇族の拝賀をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、奥内謁見所において、雍仁親王妃勢津子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

天皇と共に奥御対面所において、旧女官の園祥子・生源寺伊佐雄、元皇后宮女官の津軽理喜子・山岡淑子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、故依仁親王妃周子・故邦彦王妃侘子^{御母}・故博義王妃朝子と御対面になる。ついで、宣仁親王妃喜久子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

五日 日曜日 午前、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、お祝御膳を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

六日 月曜日 午前十一時御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、お祝御膳を御会食になる。午後三時十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、内大臣府日記、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に、葉山より帰京の成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になり、御夕餐を御会食になる。以後、この年も、皇太子始め皇子女と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌

七日 火曜日 午前、お一方にて侍医寮屋上にお出ましになり、海軍飛行始として行われた木更津航空隊の帝都訪問飛行を御覧になる。朝融王^{御兄}が搭乗する一番機を始め全三十六機の飛行を御覧になり、お手ずから国旗をお振りになる。○女官日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌

昭和十六年一月

奥内謁見所において、木戸ツル内大臣木戸幸一夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

元久邇宮侍女の滝野繁尾に謁を賜う。以後、この年も、しばしば元奉仕者等に謁を賜う。○女官日誌

午後、天皇と共に、この日葉山御用邸から還啓した皇太子と御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

八日 水曜日 午後、奥内謁見所において、皇太后御使として参内の掌侍高松千歳子に謁を賜い、翌九日よりの葉山行幸啓についての挨拶、及び寒中の御機嫌奉伺をお受けになる。以後、この年も、折に触れ、参内した皇太后御使に謁を賜い、また、天皇・皇后あるいは皇后から大宮御所に御使を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

九日 木曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時五分御出門、十一時三十五分同邸に御到着になる。午後、天皇と共に海岸を御散策になる。以後、御用邸御滞在中、しばしば海岸等を御散策になり、また天皇の生物御採集に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、内大臣府日記、呉竹寮日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

二十日 月曜日 天皇と共に還啓のため、午前十時十五分葉山御用邸御出門、十一時四十三分宮城に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

午後、呉竹寮にお出ましになり、成子内親王・厚子内親王と御対面になる。ついで松浦治子伯爵松浦陸夫人に謁を賜い、同人の指導による成子内親王のお茶の稽古の様子を御覧になる。終わって、風気のため静養中の和子内親王をお見舞いになる。以後、この年も、しばしば呉竹寮にお出ましになり、内親王方のお茶の稽古や、神戸絢の指導によるピアノの練習等の様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

誌、呉竹寮日誌

二十一日 火曜日 午前、桐ノ間において、今般帰国のペルー国特命全権公使リカルド・リヴェラ・シユレイベル及び同夫人、メキシコ国特命全権公使プリモ・ヴィリア・ミツチエル及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において、今般米国へ赴任の特命全権大使野村吉三郎、独国へ赴任の特命全権大使大島浩及び同夫人、イラン国へ赴任の特命全権公使市河彦太郎及び同夫人、南アフリカ連邦より帰国の特命全権公使岡田兼一及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁参拝録、祭祀録、宮内省省報、官報

二十三日 木曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、講書始の儀に臨まれる。国書は東北帝国大学教授村岡典嗣より「神皇正統記の三徳説について」、漢書は東北帝国大学教授武内義雄より「日本ニ於ケル論語ノ学」、洋書は帝国学士院会員西田幾多郎より「歴史哲学ニツイテ」と題する進講をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、儀式祭典録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において、御同級生二名に謁を賜い、新年の拝賀をお受けになる。○女官日誌
二十五日 土曜日 午前、奥内謁見所において、朝融王・同妃知子女王と御対面になり、寒中の挨拶をお受けになる。以後、この年も、皇族・王公族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十八日 火曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「漁村曙」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

昭和十六年二月

皇后宮御歌

いさり舟いまかへるらししらみゆく沖をなかめて海人の立つ見ゆ

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、御歌録、儀式録、あけぼの集、宮内省省報、官報
今般七十歳^{数え}の賀を迎えた侍従長百武三郎に、お祝いの品を下賜される。○贈賜録

三十一日 金曜日 午後、翌月四日より南洋方面へ出発する大谷智子^御と御対面になり、挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

二月

三日 月曜日 午前、東京帝国大学助教授板沢武雄より、江戸時代の外交についての進講をお聴きになる。以後、この年は、概ね月曜日に、同人より本居宣長著『うひ山ぶみ』や維新史に関する進講を、二十三次にわたりお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、今般支那方面艦隊・第二遣支艦隊及び旅順要港部へ差遣される侍従武官醍醐忠重に謁を賜い、令旨を下される。醍醐は五日出発、三月十一日帰還し、四月七日復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録、侍従武官府歴史、海軍大将嶋田繁太郎備忘録・日記

奥内謁見所において、新任の主馬頭本多猶一郎・式部次長武井守成、及び前任の主馬頭杉村愛仁・式部次長山県武夫に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、宮内省省報、官報

四日 火曜日 午前、桐ノ間において、今般離任帰国のハンガリー国特命全権公使ジョルジュ・ギカ及び同息女に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省

報、官報

奥内謁見所において、今般赴任のペルー国特命全権公使坂本竜起及び同夫人、ポルトガル国特命全権公使千葉泰一及び同夫人、イラク国特命全権公使宮崎申郎及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

五日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「昭和十五年の国際情勢（上）」と題する進講をお聴きになる。以後、この年は、概ね水曜日に、同人より二十二回にわたり進講をお聴きになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

六日 木曜日 午後、木戸ツルに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

この日、大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・円照寺・林丘寺・靈鑑寺・中宮寺・瑞竜寺・法華寺・三時知恩寺・水薬師寺・長福寺・善光寺に乾海苔を賜う。○贈賜録

七日 金曜日 午前、皇后宮職御用掛加藤虎之亮より『日本外史』についての進講をお聴きになる。

以後、この年も、概ね金曜日に、同人より漢文の進講を十六回にわたりお聴きになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従職日誌、加藤虎之亮関係資料

八日 土曜日 午前、桐ノ間において、今般着任の中華民國特命全権大使褚民誼並びに随員に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

十一日 火曜日 午前、紀元節につき、天皇と共に、参内の成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になる。ついで天皇と共に御学問所において、崇仁親王始め皇族・公族十三方、続いて宮内大臣・侍従長始め側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。また、皇太子参内につき御対面になり、天皇

昭和十六年二月

及び皇太子・成子内親王・和子内親王・厚子内親王とお祝御膳の御昼餐を御会食になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌、幸啓録、宮内省省報

十二日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般豪州へ赴任の特命全権公使河相達夫及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拜謁参拜録、宮内省省報、官報

奥御進講所において、東京帝国大学教授穂積重遠より「昭和十五年の国際情勢（下）」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

午後一時十五分御出門、大宮御所に行啓される。四時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従

武官日誌、内大臣府日記、幸啓録、宮内省省報、官報

十三日 木曜日 午後、奥御対面所において天皇と共に、雍仁親王妃勢津子と御対面になり、松平次

郎^{同妃の弟}及び鍋島栄子^{同妃の祖母}の死去後の忌明けにつき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御日誌、秩父宮附日記、贈賜録、宮内省省報

十八日 火曜日 去る五日広東省西江右岸の黄揚山において飛行機事故により死去した海軍大将大角岑生の遺骸が昨十七日羽田飛行場に到着につき、この日弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官岡部長章を故人邸に差し遣わされる。翌十九日には皇后宮使として皇后宮事務官三井安弥を故人邸に差し遣わされ、花を賜い、焼香させられる。また、天皇・皇后より祭資を下賜される。さらに二十日の葬儀には、皇后宮使として皇后宮事務官入江相政を葬斎場^{築地本願寺}に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌、省中日誌、重要雑録、恩賜録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

十九日 水曜日 午前、奥御進講所において、東京帝国大学教授穂積重遠より「昭和十六年度の予算

について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

昨十八日麿香間祇候伯爵徳川達孝元侍従長死去につき、この日、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。ついで二十一日、天皇・皇后・皇太后より祭資を、皇后より花を下賜される。なお、これより先、同人の

病気に際しては、お尋ねとして天皇・皇后・皇太后より果物を、天皇・皇后より野菜を下賜される。徳川は、大正三年侍従職幹事に就任し、以後侍従次長・侍従長を歴任する。昭和二年三月に侍従長を

退任、その後麿香間祇候を仰せ付けられる。○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、重要雑録、進退録、貞明皇后実録正本、

宮内省省報、官報

二十日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のアルゼンチン国特命全権大使ロドルフォ・モレーノ特命全権公使より昇任及び同夫人、並びに随員に謁見を仰せ付けられる。続いて今般着京の満洲国特命全権大使李

紹庚の夫人同大使同伴に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

二十一日 金曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報、官報

故陸軍大將田中国重葬送につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。田中は大正天皇の侍従武官、ついで近衛師団長・台湾軍司令官・軍事参議官等を歴任する。○侍従職日誌、省中日誌、恩

賜録、宮内省省報

二十四日 月曜日 午後、奥内謁見所において、松平信子宮内大臣松平恒雄夫人に謁を賜う。ついで、今般召集解除

となった侍従戸田康英に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

昭和十六年三月

二十六日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「国民学校について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十七日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般イタリア国より帰国の特命全権大使天羽英二及び同夫人に謁を賜う。続いて、アルゼンチン国へ赴任の特命全権大使富井周及び同夫人に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

三月

一日 土曜日 午前、奥内謁見所において、新任の侍従武官山県有光、前任の侍従武官清水規矩に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌

二日 日曜日 貴子内親王の誕生日につき、午前、天皇と共に奥内謁見所において、宮内大臣・内大臣・侍従長始め総代等、ついで皇后宮女官等、元側近の拝賀を順次お受けになる。なお、貴子内親王は、鎌倉滞在中につき不参となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般出征の支那派遣軍総司令官畑俊六に謁を賜い、次の令旨を賜う。

今回支那派遣軍総司令官ノ重任ヲ帯ビテ出発スル趣再度ノ出征洵ニ御苦勞ニ思フ風土異ナル地方ナレハ一層身体ヲ大切ニシテ御奉公ヲスルヤウニ

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官府歴史、宮内省省報

五日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「産業の發達について」と題する進講をお聴き

になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

六日 木曜日 満三十八歳のお誕生日を迎えられる。

午前、奥内謁見所において、載仁親王始め皇族・公族の拝賀を、続いて宮内大臣・内大臣始め総代、及び側近奉仕高等官一同の拝賀を、さらに元侍従長鈴木貫太郎及び同夫人タカ始め元側近奉仕高等官・元皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。その後、祝詞言上のため成子内親王・和子内親王・厚子内親王参内につき、天皇と共にお祝御膳を御会食になる。

午後、奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、祝詞言上及び今般帰嫁する多恵子女王^{房子内親王の王女}への下賜金についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

七日 金曜日 厚子内親王の誕生日につき、午後、天皇及び厚子内親王と共に奥内謁見所において、宮内大臣始め総代、及び皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌

八日 土曜日 故恒久王妃昌子内親王一周年祭につき、皇后宮使として、権舎に皇后宮事務官岡部長章を、墓所に同小倉庫次を差し遣わされ、玉串をお供えになる。天皇・皇后より、権舎に榊・盛菓子^を、墓所に榊をお供えになる。さらに、写真に花・果物をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、呉竹寮日誌、皇親録、重要雑録、贈賜録、宮内省省報、官報

九日 日曜日 午後、天皇と共に、忌明けにつき参内した恒徳王・同妃光子と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昭和十六年三月

十日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般渡欧の外務大臣松岡洋右に謁を賜う。○女官長日記、女

官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、拝謁参拝録

十二日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「自然科学について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

十三日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のパナマ国特命全権公使アン・ヘロ・フェラーリ臨時代理

公使よ
り昇任
及び同夫人、イラン国特命全権公使アボルガセム・ナジムに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

奥御進講所において、御歌所寄人千葉胤明より、明治天皇の御製・昭憲皇太后の御歌についての進講をお聴きになる。同人の進講は、この日より七月まで四回にわたり行われる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌

十四日 金曜日 午後、御書齋において、今般南洋委任統治領の慰問を終えて帰京した大谷智子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

十七日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元支那派遣軍総司令官西尾寿造、満洲より帰還の元第三軍司令官尾高亀蔵に謁を賜う。西尾司令官に次のお言葉を賜う。

再度ノ出征ニ終始克ク重大ナ任務ヲ全ウシテ大イニ皇威ヲ発揚シタコトハ洵ニ御苦勞デアリマシ
タ

本日ハ重任ヲ終ヘテ目出度ク凱旋デ喜バシク思ヒマス時局益々多端ノ際此上更ニ自愛シテ御奉公
ヲスルヤウニ

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、侍従武官府歴史

十九日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「明治天皇日露開戦聖断について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十一日 金曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報、官報

二十四日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般満洲より帰還又は事変地より凱旋の陸軍中将佐々

木到一元第十、師団長、同井上政吉元第二十、三師団長、同吉沢忠男元独立混成第三旅団長、同酒井康元第一独立砲兵団長、元侍従武官に謁を賜う。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、拝謁参拝録

二十五日 火曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、今般公務のため帰京した孚彦王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

宣仁親王妃喜久子と御対面になり、静岡県川奈への転地より帰京の挨拶をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内省省報

二十六日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「タイ仏間国境紛争調停について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

天皇と共に、この日学習院初等科一年を修了した皇太子より、進級のお礼言上をお受けになる。その後、天皇及び皇太子と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、

宮内省省報、官報

去る十八日、北海道空知郡美唄町三菱美唄炭坑においてガス爆発により多数の死者・行方不明者発生

につき、この日、天皇・皇后より北海道庁に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省報、官報

二十七日 木曜日 女子学習院卒業式に御臨席のため、午前九時十五分御出門、同院に行啓される。

御到着後、便殿において宣仁親王妃喜久子・故依仁親王妃周子・恒憲王妃敏子・孚彦王妃千賀子・稔彦王妃聡子内親王・李鍵公妃誠子・李鍋公妃贅珠と御対面になり、また在学中の成子内親王・和子内親王・厚子内親王等と御対面になる。さらに宮内大臣松平恒雄・女子学習院長芝田徹心に謁を賜う。

その後、式場にお出ましになり、卒業式に臨まれる。一旦便殿に入御の後、成績品を御巡覧になる。

今回は芝田院長就任後初の卒業式につき、特に院長を便殿に召され、お言葉を賜う。午後零時五分還啓される。後刻、天皇と共に御座所において、成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になり、進級等のお礼言上をお受けになる。また成子内親王より、この日中国・四国地方への旅行に出発につき暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内大臣府日記、呉竹寮日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

啓録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、今般凱旋の陸軍中将飯田貞固元第十二軍司令官、同山脇正隆元駐蒙軍司令官に謁を賜う。○女

官長日記、女官日誌、侍従職日誌

恩賜財団軍人援護会の幹旋により、翌二十八日靖国神社参拝のため上京した戦没者遺児三千七百四十九名に対し、この日菓子を下賜される。○侍従職日誌、軍人援護事業概要

二十八日 金曜日 午前、御歌所寄人金子元臣より、上中古和歌史についての進講をお聴きになる。

以後、同人より、六月まで八回にわたり進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十九日 土曜日 この日、崇仁親王と子爵高木正得第二女子百合子との結婚勅許につき、夕刻、天皇と共に奥御対面所において、崇仁親王並びに宣仁親王妃喜久子と御対面になり、崇仁親王よりお札言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、崇仁親王殿下御結婚の件、

重要雑録、皇族身分録、宮内省省報、官報

三十一日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の陸軍中将儀峨徹元第二飛行集團長に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

四月

一日 火曜日 午前九時二十分御出門、多摩陵大正天皇陵に行啓され、御拝礼になる。御休所において御昼餐後、神奈川県下の臨時東京第三陸軍病院に行啓される。便殿において陸軍大臣東条英機以下に謁を賜い、病院長原田豊より施設状況等につき奏上をお受けになる。その後、病院長の説明にて院内を御巡覧になり、傷痍軍人の職業準備教育、特に、石版・ミシン・タイプライター・養蚕・珠算・簿記・時計修繕・農事等の作業に勤しむ状況、医療体操・分列行進・自転車操縦・銃剣術・軍刀術など義手・義足による訓練を御覧になる。行啓に際し、次のお言葉を賜う。

本日 在院ノ傷痍軍人ノ元氣潑刺ナ様子ヲ視テ誠ニ頼モシク思フ又病院ノ施設モヨク行届キ殊ニ職業準備教育ハ在院者ノ将来ノ為大切ナコトテ、之ニ力ヲ注イテ居ル様テアルカ結構ニ思フ
在院者ハ皇国ノ為トハ言ヒナカラ皆氣ノ毒ナ者ニツキコノ上トモ十分勞ハリ遣ハス様ニ

午後四時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、内大臣府日記、省中日

昭和十六年四月

誌、幸啓録、宮内省省報、官報、軍人援護事業概要

二日 水曜日 午前、奥内謁見所において、新任の宮内省総務局長大金益次郎・宮内省参事官岡本愛祐・京都地方事務所長折田有彦、並びに元京都地方事務所長白井演に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌、宮内省省報

十一時三十五分御出門、横須賀海軍病院に行啓される。御到着後、便殿において海軍大臣及川古志郎以下に謁を賜い、終わって海軍省医務局長中野太郎・病院長保利信明より傷病兵の收容治療状況等について言上をお受けになる。また、列立拝謁場において海軍司法事務官以下に謁を賜う。ついで保利院長の先導にて第一、第二、第六の各病舎を御巡覧になる。また傷兵のミシン・毛糸編物の製品、写真・書道の作品、同病院施設のレントゲン集団撮影、治療用品の再製品等を御覧になる。終わって便殿に及川海軍大臣をお召しになり、次のお言葉を賜う。

本日病院ノ戦傷病者ニ対スル行届イタ手当ノ様子及び在院者ノ再起奉公ニイソシム有様ヲ視テ満足ニ思フ

在院者ハ皇国ノ為トハ言ヒナガラ皆氣ノ毒ナ者ニツキコノ上トモ十分勞ハリ遣ハス様ニ

午後四時十分還啓される。なお、入院患者等に菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内大臣府日記、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、軍人援護事業概要

四日 金曜日 午前、奥宮殿において、今般フランス国へ赴任の特命全權大使加藤外松に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、拝謁参拝録、祭祀録、宮内省省報、官報

五日 土曜日 午後、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に、式部職業部にお出まし

になる。御休所において楽部長坊城俊良及び音楽教師ガエタノ・コメリに謁を賜う。続いて演奏室において、「迦陵頻」、及び紀元二千六百年に際して楽部にて制作された奉祝記念舞楽「昭和楽」を御鑑賞になる。御休憩の際、楽部庁舎内の各室を巡覧され、笙・箏を始め楽器の製作過程を御覧になる。その後、再び演奏室にお出ましになり、ベートーヴェン作曲「凱旋行進曲」等のオーケストラ演奏をお聴きになる。舞楽の御鑑賞は、昨年十一月に予定されていたが、天皇の御風気のため延期となり、この日に実施された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、重要雑録

七日 月曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、今般正七位徳川圀禎公藤徳川圀禎の第二男子に帰嫁する多恵子女王勲章を佩用と御対面になり、この日勲二等宝冠章の親授式を終えたことについてのお礼言上をお受けになる。続いて、お礼言上のため参内の故成久王妃房子内親王多恵子女王の母及び多恵子女王と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録

九日 水曜日 午後、奥内謁見所において、今般凱旋の元第四百師団長浜本喜三郎、元独立混成第五旅団長秋山義兌、元第二十四師団長黒岩義勝、元独立混成第十八旅団長萱嶋高に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十日 木曜日 午前、御歌所寄人金子元臣より、中古和歌史についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に鳳凰ノ間において、今般正七位徳川圀禎に帰嫁する多恵子女王の参内朝見の儀に臨まれる。御前に参進の女王より謝恩の言上をお受けになり、天皇の勅語に続き懿旨を賜う。夕刻、

天皇及び故成久王妃房子内親王・多恵子女王と御晚餐を御会食になる。御食後、天皇・皇后より多恵子女王に御首飾料及びお品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、

皇親録、重要雜録、宮内省省報、官報

十一日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般出征あるいは凱旋の第十一軍司令官阿南惟幾、海南警備府司令長官谷本馬太郎等に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌
十二日 土曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時十五分御出門、十時四十六分同邸に御到着になる。先着の正仁親王・貴子内親王のお出迎えをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

十四日 月曜日 午後、奥内謁見所において、今般海南警備府・第二遣支艦隊・馬公要港部へ御差遣の侍従武官城英一郎に謁を賜い、令旨を下される。城は、この月二十日出発、台湾・支那及びその沿海、仏領インドシナに赴き、五月二十六日帰京、六月二日復命する。○女官長日記、女官日誌、進退録、侍従

武官府歴史、侍従武官城英一郎日記

十六日 水曜日 午前、天皇と共に葉山丸にて初声御料地海岸にお出ましになる。海岸を御散策になり、御料地内にて摘み草等をされ、さらに黒崎海岸に御移動になる。同地において御昼餐後、海草の御採取等をされ、夕刻御用邸に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録
十七日 木曜日 午後、天皇と共に舟にて鮫島にお出ましになる。正仁親王も海岸伝いに同所にお出ましになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録

この日、故陸軍大将西義一葬送につき、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、同人の病

気に際しては、お尋ねとして天皇・皇后より果物を下賜される。西は東宮武官・侍従武官を長く務め、また東京警備司令官・教育総監等の要職を歴任する。○侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報

二十一日 月曜日 午前九時五十分、天皇と共に葉山御用邸を御出門、逗子駅より正仁親王・貴子内親王と御同車になり、十一時十八分宮城に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、侍従武官日誌、省中日誌、吳竹寮日誌、内大臣府日記、行幸録、幸啓録、宮内省省報、官報

二十二日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元第二遣支艦隊司令長官沢本頼雄に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十三日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「皇国人口の現状について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

午後、奥内謁見所において、新たに皇太后宮職御用掛を拝命の岩倉桜子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

二十四日 木曜日 午前、御歌所寄人金子元臣より、上古後期の和歌史についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

別格官幣社靖国神社において臨時大祭挙行につき、この日、天皇・皇后より同社に祭資を下賜される。

○幸啓録、儀式祭典録

二十五日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元第十一軍司令官園部和一郎に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昭和十六年四月

二十六日 土曜日 午前、奥内謁見所において、御機嫌伺いのため参内の京都在住華族総代の子爵持明院基揚に謁を賜う。○侍従職日誌

この日賢所・皇靈殿・神殿に初参拝を終えた恒正王が、恒徳王妃光子に伴われて初参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、

祭祀録、宮内省省報、官報

午後、呉竹寮にお出ましになり、成子内親王に盛厚王^{稔彦王第一王子}との結婚内約の旨をお伝えになる。結婚

内約の件は翌日、天皇より正式に成子内親王に申し渡される。○女官長日記、女官日誌、呉竹寮日誌、藤井種太郎日誌、小倉庫次侍従日記

二十八日 月曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のルーマニア国特命全権公使ジョルジュ・バグレスコに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、

官報

二十九日 火曜日 天長節につき、午前、天皇と共に、祝詞言上のため参内の成子内親王・和子内親王、ついで正仁親王、皇太子と、順次御対面になる。正午過ぎ、奥内謁見所において、皇族・公族の拝賀をお受けになり、ついで宮内大臣始め総代、皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。午後、奥御対面所において、川村安^{伯爵川村鉄太郎夫人}・柳原花子^{伯爵柳原義光夫人}・旧女官の園祥子・生源寺伊佐雄、元皇后宮女官の山岡淑子・青山元子等の拝賀をお受けになる。なお、事変中につき、内宴はお取りやめになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、呉竹寮日誌、儀式録、幸啓録、宮内省省報、官報

三十日 水曜日 午前十時御出門、別格官幣社靖国神社に行啓され、御拝礼になる。十時三十分還啓

される。なお、行啓に際し、同社に幣帛料・神饌料をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌、幸啓録、祭祀録、宮内省省報、官報

五月

一日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般ポルトガル国より帰国の特命全権公使米沢菊二に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

御歌所寄人金子元臣より、上古中古和歌史についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二日 金曜日 午後一時十五分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、近く京都・

奈良・三重各府県下へ行啓につき、暇乞いの御挨拶をされる。四時四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、内大臣府日記、幸啓録、宮内省省報、官報

五日 月曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、博恭王と御対面になり、去る四月九日付をもつて軍令部総長を離任した挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、重要雑録、博恭王殿下を偲び奉りて

天皇と共に奥内謁見所において、この日賢所・皇靈殿・神殿に初参拝の李淙^{李鐫公第、二公子}及び李鐫公妃贊珠と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、王公族録、祭祀録、官報

午後、吳竹寮にお出ましになる。その後、吳竹寮より旧本丸跡馬場にお出ましになり、天皇と共に陸

昭和十六年五月

軍将校天覧馬術に臨まれる。終わって、お一方にて呉竹寮にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、内大臣府日記、呉竹寮日誌、幸啓録、重要雑録

六日 火曜日 この日、成子内親王と盛厚王の結婚内約公表につき、午前、天皇と共に奥宮殿において皇后宮女官等より、ついで宮内大臣等より祝詞の言上をお受けになる。さらにお一方にて、皇子御用掛の伊地知ミキ・道木菊重・外山豊子・原田リツより祝詞言上をお受けになる。

この日、天皇・皇后の御使として皇后宮事務官小出英経を東久邇宮邸に差し遣わされ、東久邇宮に五種交魚を、盛厚王に三種交魚を御贈進になる。また、皇后宮職御用掛竹屋志計子を大宮御所に差し遣わされ、皇太后に五種交魚を御贈進になる。さらに、天皇・皇后より成子内親王に三種交魚を御贈進になる。

午後、奥内謁見所において稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。ついで皇太后御使として参内の典侍竹屋津根子に謁を賜う。皇太后より天皇・皇后に五種交魚の御贈進がある。夕刻、成子内親王と御対面になり、結婚内約につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、呉竹寮日誌、照宮御婚儀録、貞明皇后実録正本

二条恭仁子参内につき、謁を賜う。先般女子出産につき、万那等を賜う。○女官長日記、女官日誌

七日 水曜日 日本赤十字社第四十九回総会に御臨席のため、午前十時御出門、明治神宮外苑憲法記念館に行啓される。便殿において総裁載仁親王ほかの皇族・公族と御対面になり、ついで陸軍大臣東条英機以下に謁を賜う。それより式場にお出ましになり、次の令旨を賜う。

茲に日本赤十字社第四十九回総会に臨み各員に告ぐ総裁以下不断の努力により本社の施設は益々

整備し基礎は愈々鞏固を加ふるに至れり

尚今次事変に際しては各般の戦時救護に尽し本社 of 使命達成に努めつゝあるは満足に思ふ所なり
諸員宜しく時局に思を致し益々国家社会に貢献せむことを望む

ついで総裁の奉答をお受けになり、御退場になる。それより大宮御所に行啓され、皇太后と御昼餐を御会食になる。午後二時五分大宮御所を御出門、愛国婦人会第四十回総会に御臨席のため、明治神宮外苑競技場に行啓される。便殿において、総裁故依仁親王妃周子始め宣仁親王妃喜久子ほか八方と御対面になり、続いて會長水野満寿子同会顧問水野 鍊太郎夫人以下に謁を賜う。ついで、式場に臨御され、次の令旨を賜う。

茲に愛国婦人会第四十回総会に臨み諸員に告く

今や内外の情勢益々多事にして婦人の協力に俟つべきもの愈々多きを加ふ

諸員宜しく時局に思を致し婦人報国の誠を尽さむことを望む

ついで総裁の奉答をお受けになり、御退場になる。三時十一分還啓される。その後、参内の両総裁と御対面になり、行啓のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史稿、愛国婦人

八日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、故邦彦王妃侘子と御対面になり、成子内親王結婚内約につきお祝いの言上をお受けになる。続いて恒憲王妃敏子・守正王妃伊都子と御対面になり、成子内親王結婚内約につきお祝

昭和十六年五月

いの言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、御歌所寄人金子元臣より進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

九日 金曜日 午前、奥宮殿において、今般凱旋の元第十八師団長百武晴吉、元第六師団長町尻量基、

近衛混成旅団長桜田武に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

奥内謁見所において、雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と御対面になり、成子内親王の結婚内約
についてのお祝い言上、及び来る十五日からの関西行啓についての御機嫌奉伺をお受けになる。○女官
長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮附日記

夕刻、天皇と共に御学問所において、成子内親王、稔彦王・同妃聡子内親王、盛厚王と御晚餐を御会
食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌、照宮御婚儀録、東久邇宮

日誌

十日 土曜日 午前十時三十分御出門、東宮仮御所に行啓される。皇太子並びに青山御殿より参殿の
正仁親王と御対面になり、御昼餐を御会食になる。午後三時四十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌、内大臣府日記、幸啓録、宮内省省報、官報

十一日 日曜日 母の日につき、午前、参内の皇太子・正仁親王・成子内親王・和子内親王・厚子内
親王と、天皇と共に御対面になり、御一緒に御昼餐を御会食になる。なお、日本全国母の会より皇后
にカーネーションの献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日

誌、幸啓録、宮内省省報

十二日 月曜日 午後、東京慈恵会総会挙行につき、御名代として恒憲王妃敏子を差し遣わされる。

終わって、奥内謁見所において参内の同妃より復命をお受けになる。ついで参内の東京慈恵会総裁宣仁親王妃喜久子と御対面になり、御名代御差遣につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報

十三日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元上海方面根拠地隊司令官小林仁・元青島

方面特別根拠地隊司令官大島四郎に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌
紅葉山御養蚕所にお出ましになり、掃立て後の成績を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十四日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「日ソ関係について」と題する進講をお聴き

になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書
十五日 木曜日 神宮及び各山陵に御参拝のため、京都府・三重県・奈良県に行啓される。午前九時

十分御出門、東京駅より京都駅を経て、午後五時五十分京都皇宮に御到着になる。なお、この日は賀

茂祭^葵につき、祭儀を終えて京都皇宮に帰着した行列を、旧御車寄御廊下より御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、内大臣府日記、呉竹寮日誌、省中日誌、幸啓録、重要雑録、宮内省省報、官報

去る十二日青森県上北郡三本木町において火災被害発生につき、この日、天皇・皇后より同県に御救

恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報
十六日 金曜日 神宮に御参拝のため、午前七時五分京都皇宮を御出門、京都駅より山田駅を経て外

宮行在所に御到着になる。御潔斎の後、豊受大神宮に御参拝になる。終わって、内宮行在所に向かわ

れる。同所にて御昼餐・御潔斎の後、皇大神宮に御参拝になる。終わって同所を御出発になり、山田

駅・京都駅を経て、午後六時三十五分京都皇宮に還啓される。なお、皇大神宮・豊受大神宮御参拝に

昭和十六年五月

当たり、幣帛料・神饌料をお供えになる。また、別宮十四箇所に幣帛料・神饌料をお供えになる。○
女官長日記、女官日誌、幸啓録、重要雑録、宮内省省報、官報

十七日 土曜日 午前九時三十五分京都皇宮を御出門になる。京都駅より、大阪師団長留守第四師団長の李王垠

が、京都駅還御までの間を供奉する。畝傍駅にて御降車、神武天皇陵の御休所にお入りになる。お手
水の後、陵前に進まれ、御参拝になる。御休所にて御昼餐の後、橿原神宮に行啓され、御参拝になる。

終わって、畝傍駅より京都駅に戻られた後、泉山に向かわれ、仁孝天皇陵に御拝礼になる。さらに孝
明天皇陵・英照皇太后陵に御拝礼になる。その後、朝彦親王御祖父の墓所に向かわれ、御拝礼になり、午

後五時十分京都皇宮に還啓される。なお、橿原神宮御参拝に当たっては幣帛料・神饌料を、神武天皇
陵・仁孝天皇陵・孝明天皇陵・英照皇太后陵御参拝に当たっては榊をそれぞれお供えになる。還御後、

皇后宮女官東貞子を梨本宮・賀陽宮及び多嘉王御父邦彦王の弟の各墓所に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けら
れる。夕刻、参殿の家彦王故多嘉王の子・故多嘉王妃静子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、重要雑

録、宮内省省報、官報

十八日 日曜日 午前九時三十五分京都皇宮を御出門、京都駅・桃山駅を経て明治天皇陵に御到着に
なり、御参拝になる。ついで、昭憲皇太后陵に御参拝になる。両陵御参拝に当たり、それぞれ榊をお
供えになる。十一時三十二分京都皇宮に還御される。御昼餐の後、午後一時御出門、京都陸軍病院に

行啓される。御着後、京都師団長森岡阜第十六師団長・陸軍省医務局長三木良英・京都師団参謀長渡辺三郎第十師団

参謀長・同軍医部長兼子周吉・京都陸軍病院長三浦大三郎等に謁を賜う。ついで、三浦病院長より言上を

お聞きになり、病室・愛国寮を巡られる。各病室において傷歴簿や、陳列された戦傷病者の摘出銃弾、職業準備教育実施状況の写真、教育製作品書道・活花・木
工品・工芸品等を御覧になる。なお、同病院行啓に当たり、支那事变等による戦傷病者を始めとする入院患者に御紋菓を賜う。二時四十五分京都皇宮に還御される。還御後、李王垠・同妃方子女王と御対面になり、続いて子爵日野西資博始め京都在住の旧堂上華族三十九名に謁を賜う。さらに、伯爵東伏見邦英御弟及び同夫人保子、伯爵大谷光暢及び同夫人智子と御対面になる。

夕刻、建礼門前にお出ましになり、京都市内女子中等学校生徒三万人による奉迎式及び旗行列を御覧になる。還御後、男爵渋谷隆教・同夫人篷子に謁を賜い、続いて京都在住旧女官の高倉嘉根子・樹下定江・梨木房栄、さらに大聖寺門跡の石野慈栄始め尼門跡・御由緒寺院住職十四名に謁を賜う。その後、仙洞御所及び京都大宮御所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、重要雑録、宮内省省報、官報、

軍人援護事業概要

十九日 月曜日 午前十時三十分京都皇宮を御出門、修学院離宮に行啓される。なお、京都皇宮御出門に際し、建春門と清和院御門との間の道筋において、京都在住の久邇宮元奉仕者の奉拝をお受けになる。修学院離宮に御着後、下離宮・中離宮を御巡覧になり、上離宮において御昼餐をお召し上がりになる。午後一時三十五分京都皇宮に還御される。還御後、瑞竜寺門跡村雲
御所の九条日浄、寺尾宇多子に謁を賜い、さらに今般の行啓に尽力の大阪師団長李王垠・中部軍司令官岩松義雄・京都師団長森岡阜・憲兵司令官田中静彦・内務次官萱場軍蔵・諸陵頭金田才平・神祇院副総裁飯沼一省・京都府知事

昭和十六年五月

安藤狂四郎・鉄道次官鈴木清秀・神宮大宮司高倉篤麿・三重県知事野与吉郎ほかに謁を賜う。ついで京都府知事・奈良県知事・三重県知事より、地方事情についての言上をお聞きになる。その後、各知事の説明により、地域の物産を御覧になる。夕刻、伯爵東伏見邦英・大谷智子と御夕餐を御会食になる。なお、同時刻、今般の行啓に尽力の内務次官以下に賜餐がある。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、重要雑録、宮内省省報、官報

二十日 火曜日 午前八時十五分京都皇宮を御出門、京都駅・東京駅を経て、午後四時五十分宮城に還啓される。呉竹寮よりお出迎えのため参内の成子内親王・和子内親王・厚子内親王、及び貴子内親王と御対面になり、さらに御座所において天皇と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、内大臣府日記、省中日誌、呉竹寮日誌、幸啓録、重要雑録、宮内省省報、官報

二十一日 水曜日 午後、今般新任の宮内省警衛局長中村四郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十二日 木曜日 午前、御歌所寄人鳥野幸次より、進講をお聴きになる。以後、この年は、同人より六回にわたり進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十三日 金曜日 午前、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、幸啓録、重要雑録、宮内省省報、官報

天皇と共に御学問所において、先般軍令部総長を退任の博恭王と御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、重要雑録

二十四日 土曜日 午後、呉竹寮にお出ましになり、この日習志野方面への旅行から帰還の成子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌

夕刻、雍仁親王妃勢津子、今般マーシャル諸島へ出発の宣仁親王並びに同妃喜久子をお召しになり、天皇と共に御晩餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇族旅行録

二十六日 月曜日 午前、奥内謁見所において、参内の守正王^{臨時神宮祭主}と御対面になり、皇后の神宮御参拝終了及び関西より還啓後の御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十七日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、養蚕の状況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十八日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「戦歿勇士の妻の歌」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十九日 木曜日 午前、御歌所寄人鳥野幸次より、漂泊の歌人西行についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後一時十五分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、関西よりお持帰りの品を御贈進になる。四時十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内大臣府日誌、呉竹寮日誌、幸啓録、宮内省省報、官報
三十日 金曜日 恩賜財団済生会三十周年記念式挙行につき、午前十時御出門、明治神宮外苑憲法記念館に行啓される。便殿において済生会総裁載仁親王と御対面になり、会長松平頼寿等に謁を賜う。その後、会長より会況の言上をお受けになる。それより式場に臨御され、次の令旨を賜う。

昭和十六年六月

恩賜
財団 濟生会ハ明治天皇ノ聖旨ヲ奉体シテ創立セラレテヨリ茲ニ三十年会務年ト共ニ進展ヲ見ルニ至
リタルハ深く満足ニ思フ所ナリ

方今時局重大国力ノ増強ヲ要スルコト愈々切ナル秋医療保護事業ノ拡充強化ヲ図ルハ極メテ緊要
ニシテ本会ノ使命益々重キヲ加フ諸員宜シク心ヲ一ニシ力ヲ勦セ救療濟生ノ完璧ヲ期シ以テ国運
ノ隆昌ニ寄与センコトヲ望ム

総裁の奉答の後、憲法記念館をお発ちになり、青山御殿にお立ち寄りになる。正仁親王及び先着の貴
子内親王と御対面になり、御昼餐を御会食になる。御団欒の後、午後四時還啓される。還啓後、奥内
謁見所において、濟生会総裁載仁親王と御対面になり、行啓についてのお礼言上をお受けになる。な
お、行啓に当たり、濟生会病院入院患者一同に菓子料を賜う。また翌三十一日には、濟生会に対し、
事業御奨励の思召しをもって、天皇・皇后より金一封を下賜される。さらに同日、御使として皇后宮
女官万里小路ソデを差し遣わされ、濟生会芝病院並びに隣接の乳児院・産院・看護婦養成所を巡視さ
せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、恩賜録、宮内省省報、官報、恩賜
財団濟生会七十年誌

六月

一日 日曜日 午前、皇太后御使として参内の典侍竹屋津根子に謁を賜い、来る三日より葉山御用邸
附属邸に皇太后行啓につき、御機嫌奉伺をお受けになる。皇后より、御使として皇后宮女官長保科武
子を大宮御所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雜録

午後、天皇及び正仁親王・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌

四日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「契約自由と統制経済」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

五日 木曜日 午前、貴子内親王と共に、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、進退録

奥内謁見所において、今般皇后宮職御用掛を拝命の曾禰治子・東郷典子に謁を賜う。十六日には、天皇と共に兩名に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録

七日 土曜日 午前、御歌所寄人金子元臣より進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

九日 月曜日 午後、天皇と共に、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

十日 火曜日 天皇と共に多摩陵に御参拝のため、午前八時四十五分御出門、原宿駅・東浅川駅を経由して、陵所御休所に御到着になる。天皇の御拝礼後、陵前に参進され、御拝礼になる。午後零時二十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、内大臣府日記、幸啓録、重要雑録、宮内省省報、官報

十一日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「養護教育について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

桐ノ間において、今般着任のハンガリー国特命全権公使ニコラ・ド・ヴェーグに謁見を仰せ付けられ

昭和十六年六月

る。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

十二日 木曜日 午前、御歌所寄人金子元臣より、中古時代和歌史についての進講をお聴きになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十四日 土曜日 午前、葉山より皇太后還啓につき、皇后宮女官万里小路ソデを東京駅に差し遣わされる。午後、皇太后御使の皇太后宮大夫大谷正男参内につき、奥内謁見所において謁を賜う。○女官長

日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録、宮内省省報、官報

今般北海道紋別郡雄武村において豪雨被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として北海道庁に金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報

十八日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、この日行われる中華民国国民政府主席汪精衛との御会見に先立ち、「支那事変の回顧と欧州戦争の展望」と題する進講をお聴きになる。○女官長日

記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

天皇と共に鳳凰ノ間において、皇室の賓客として参内の中華民国国民政府主席汪精衛と御会見になる。ついで豊明殿において、午餐を御会食になる。この度の訪日に際し、汪主席より天皇・皇后に御贈進

の品があり、皇后には翠玉花瓶が贈られる。また、皇后より同主席に天平様式手筥

昭和大礼の際の千葉
県知事からの献上品

を御

贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、内大臣府日記、外賓接

待録、外賓参内録、外交贈答録、進献録、宮内省省報、官報

十九日 木曜日 午前、御歌所寄人金子元臣より、平安後期の和歌についての進講をお聴きになる。

同人の進講は、この日終了となる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十三日 月曜日 午後、奥内謁見所において、今般結婚の徳川圀禎及び同夫人多恵子^{成久王第三王女}に謁を賜い、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、重要雜録

二十四日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般バナマ国へ赴任の特命全權公使秋山理敏及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拜謁參拜録、宮内省省報、官報

二十五日 水曜日 皇太后のお誕生日につき、午前、元皇后宮女官津軽理喜子に謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。また御昼餐前、皇后宮女官長始め皇后宮女官等より祝詞の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、省中日誌、内大臣府日記、吳竹寮日誌、貞明皇后実録正本

二十七日 金曜日 午前十時四十五分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、午餐を御会食になる。午後二時十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍從日誌、侍從職日誌、内舍人日誌、侍從武官日誌、省中日誌、吳竹寮日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

二十九日 日曜日 午後、天皇及び参内の皇太子・成子内親王・和子内親王・宣仁親王・同妃喜久子と御一緒に豊明殿・千種ノ間において、陸軍省所蔵の戦争画を御覧になる。蒙古出征中の故永久王の様子を描いた深沢省三画「蒙古軍民協和之図」を始め、藤田嗣治画「古北口総攻撃」、宮本三郎画「南苑攻撃図」など、従軍画家による戦争画十五点が展示される。なお、天覧・台覧の絵画は七月一日より日本美術協会において開催の第二回聖戦美術展覧会に特別陳列される。○女官日誌、侍從日誌、侍從職日誌、内舍人日誌、侍從武官日誌、省中日誌、吳竹寮日誌、幸啓録、宮内省省報、朝日新聞、第二回聖戦美術展覧会目録

三十日 月曜日 午後、奥内謁見所において、今般出征の第二十三軍司令官今村均に謁を賜う。その際、次のお言葉を賜う。

昭和十六年七月

此度第二十三軍司令官ノ重任ヲ帯ビテ出發スル趣洵ニ御苦勞ニ思フ
就テハ身体ヲ大切ニシテ御奉公ヲスルヤウニ

○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、省中日誌、侍從武官府歴史

七月

二日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、糸繰りの作業を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

三日 木曜日 今般福岡・山口・広島・佐賀各県下において豪雨被害発生につき、天皇・皇后より各県に対し、御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

四日 金曜日 午後、今般凱旋の元第一軍司令官篠塚義男に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌

五日 土曜日 この日、紅葉山御養蚕所において、御養蚕納の儀が行われる。皇后はお出ましをお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌

七日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般アフガニスタン国へ赴任の特命全権公使小林龜久雄及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拜謁参拝録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において、今般事変地へ出征の第三遣支艦隊司令長官杉山六蔵に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌

奥内謁見所において、今般出征の北支那方面軍司令官岡村寧次に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記

記、女官日誌、侍従職日誌

八日 火曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時御出門、十一時三十四分御到着になる。

○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、内大臣府日記、幸啓録、宮内省省報、官報

十五日 火曜日 午後、天皇と共に、李王垠・同妃方子女王と御対面になる。李王は、七月一日付で留守第四師団長より第五十一師団長に転補となり、前任地の大阪より宇都宮へ赴任の途次、参邸した。

○女官長日誌、女官日誌、侍従武官日誌、幸啓録、王公族録

今般朝鮮総督府管下において豪雨被害発生につき、天皇・皇后より同総督府に御救恤金を下賜される。

○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十六日 水曜日 午前、今般凱旋の元第三遣支艦隊司令長官清水光美・元第三遣支艦隊参謀長兼青島方面特別根拠地隊司令官金子繁治、及び今般出征の第一遣支艦隊司令長官小松輝久に謁を賜う。○女官

長日誌、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録

十七日 木曜日 前日の近衛文麿内閣総辞職を受け、急遽還幸啓のこととなり、午後一時五十分葉山御用邸を御出門、三時二十分天皇と共に宮城に還啓される。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、省中日誌、内大臣府日記、吳竹齋日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十九日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元支那派遣軍総参謀長板垣征四郎に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌

二十一日 月曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、今般陸軍士官学校を卒業の邦寿王^{恒憲王}の王子と

昭和十六年七月

御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇族身分録

皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、御昼餐を御会食になる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、重要雜録、宮内省省報、官報

二十四日 木曜日 午後、奥内謁見所において、今般凱旋の元北支那方面軍司令官多田駿・元第一遣

支艦隊司令長官細萱戊子郎に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

この月の豪雨及び暴風雨により、静岡県・神奈川県・茨城県・福島県・宮城県・千葉県・栃木県において被害発生につき、天皇・皇后よりこの日静岡県・神奈川県に、二十六日茨城県・福島県・宮城県・

千葉県に、二十八日栃木県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十七日 日曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、今般陸軍砲工学校高等科を卒業の盛厚王

と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

二十八日 月曜日 午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、御団欒

になる。四時十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

三十日 水曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇后宮女官万里小路ソデに御代拝を仰せ付けられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、宮内省省報

午後、天皇と共に、この日北海道旅行より帰京した成子内親王と御対面になり、挨拶をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌

三十一日 木曜日 午後、奥内謁見所において、今般出征の南遣艦隊司令長官平田昇に謁を賜い、お

言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

八月

一日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般英国より帰国した特命全權大使重光葵の進講をお聴きになる。同人は、特にロンドンの爆撃状況、英国女性の戦時活動等について言上する。○女官長日記、

女官日記、侍従職日記、続重光葵手記

五日 火曜日 午後、松平信子宮内大臣松平恒雄夫人に謁を賜い、暑中の御機嫌奉伺、及び鍋島栄子信子の母・松平次郎

信子の第二男子 死去の際の下賜についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日記

九日 土曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、今般満洲へ移駐する李王垠と御対面になる。

○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、侍従武官日記

十四日 木曜日 昨十三日より御風気のため、この日御休所において御仮床に就かれる。翌十五日御

静養室に移られる。以後、九月五日の御床払いまで、ほぼ御静養室においてお過ごしになる。○女官日

誌、侍従日記、侍従職日記、侍従武官日記

この日、國務大臣平沼騏一郎は私邸において、まことむすび会会員西山直と対談中に同人より狙撃され、頸部その他を負傷につき、天皇・皇后よりお尋ねとして侍医松永琢磨を差し遣わされ、また果物を下賜される。○侍従日記、侍従武官日記、省中日誌、恩賜録、宮内省省報、特高月報

九月

四日 木曜日 故永久王一周年祭につき、皇后宮使として皇后宮事務官小倉庫次を権舎に、同入江相政を墓所に差し遣わされ、それぞれ玉串をお供えになる。さらに、天皇・皇后より靈前に盛菓子を、

昭和十六年九月

墓前に櫛をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報

七日 日曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王・故永久王妃祥子と御対面になり、故永久王一周年祭終了についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

八日 月曜日 午前、奥内謁見所において、この日凱旋の第十一航空艦隊司令長官片桐英吉・同参謀長大西滝治郎に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

この日、今般皇后宮職において作成の『皇后宮御歌にこたへ奉る歌』二千五百部が、皇后より軍事保護院に下賜され、同院を通じて傷痍軍人療養所等の各施設、陸海軍病院、道府県庁等に配付される。また、皇后宮職より各宮・宮内省各部署等にも寄贈される。支那事変の勃発以来、皇后より戦没者遺族、傷痍軍人及び出征軍人家族のため御歌を三回にわたり下賜されたところ、政府が昭和十四年十月に実施した銃後援強化週間の際に、御歌拝領者の奉答詠進歌が軍事保護院を通じて奉呈され、皇后の台覧に供された。その後、皇后により皇后宮職の願い出が許され、奉答詠進歌のお下げ渡しがあり、同職においてこれが収録・印刷された。『皇后宮御歌にこたへ奉る歌』は二百一頁にわたる和綴じの歌集であり、巻頭に御歌が掲載され、戦没者遺族の部、傷痍軍人の部、出征軍人家族の部の三部に分けて奉答詠進歌二千五百八十三首が収められる。巻頭には、次の御歌が掲載される。

なくさめむことの葉もかなたゝかひの
にはをしのひてすくすやからを

昭和十二年九月二十三日出征軍人家族に賜ふ

やすらかにねむれとそおもふ君のため
いのちさゝけしますらをのとも

昭和十二年十一月三十日戦歿者に賜ふ

あめつちの神ももりませいたつきに
いたてになやむますらをの身を

昭和十三年十月三日傷痍軍人に賜ふ

○贈賜録、皇后宮御歌にこたへ奉る歌、軍人援護事業概要、朝日新聞

九日 火曜日 今般、満洲国皇帝溥儀より天皇・皇后・皇太后に御贈進の品があり、皇后には狐皮圍頸・艾虎皮が贈られる。これに対し、この日、札電をお送りになる。○女官長日記、省中日誌、外交贈答録、

進献録、宮内省省報、官報

十日 水曜日 午後、奥内謁見所において、宣仁親王妃喜久子、及び近く結婚の徳川久美子の妹と御

対面になる。お祝いとして、同妃に反物等を、久美子に紅白紋縮緬・万那料・反物等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、高松宮日記

時局の緊迫に鑑み、防空壕構築のため、去る八月一日より宮内省職員の勤労働員が実施される。作業は三期に分けて行われる。この日、宮城及び赤坂離宮内各所の簡易防空壕竣工につき、皇后・皇太后より防空壕構築作業勤勞奉仕職員一同に菓子を賜う。○省中日誌、内大臣府日記、防空関係工事録、贈賜録

十二日 金曜日 事業御奨励のため、財団法人結核予防会に金一封を下賜される。○恩賜録

十五日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元支那方面艦隊司令長官嶋田繁太郎ほか十

昭和十六年九月

名に謁を賜い、次のお言葉を賜う。

出征以来克ク重大ナ任務ヲ全ウシテ帝国海軍ノ武威ヲ宣揚シタコトハ洵ニ御苦勞デアリマシタ本
日ハ目出度ク凱旋デ喜バシク思ヒマス今後モ一層自愛シテ御奉公ヲスルヤウニ

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官府歴史

十八日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のメキシコ国特命全權公使ホセ・ルイス・アメスクア及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において、新任の侍従武官坪島文雄に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、進退録、侍従武官府資料

久邇宮邸において朝融王妃知子女王第五王女出産につき、この日、皇后より朝融王・同妃・故邦彦王妃倪子にお悦びとして三種交魚料を御贈進になる。誕生した王女は、七夜に当たる二十四日、典子のりこと命名される。命名当日に、天皇・皇后より朝融王にお祝いとして白羽二重・酒・鮮鯛を御贈進になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、朝融王妃知子殿下御分嬖の件、典子女王殿下御誕生録、皇族身分録、贈賜録、宮内省省報、官報

去る十六日兵庫県下の網干駅構内において列車追突事故により多数の死傷者発生につき、この日、天皇・皇后より鉄道大臣に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十九日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元第三十八師団長藤井洋治・元第十五師団長熊谷敬一・元第二十六師団長黒田重徳・元第四十師団長天谷直次郎・元独立混成第十五旅団長長谷

川美代次に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内省省報

二十一日 日曜日 午後、天皇及び皇太子・正仁親王・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に吹上御苑にお出ましになり、天体望遠鏡等にて日蝕を観測される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、呉竹寮日誌、宮内省省報

二十三日 火曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報、官報

二十四日 水曜日 午前、奥御進講所において、東京帝国大学教授穂積重遠より「英米会談と近衛メツセージ」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十六日 金曜日 昨二十五日来の御風気のため、この日の大宮御所行啓をお取りやめになる。午後、奥内謁見所において、高木邦子子爵高木正得夫人・同息女百合子に謁を賜う。ついで、皇太后御使として参内の

典侍竹屋津根子に謁を賜い、この日の大宮御所行啓お取りやめにつき御機嫌伺いをお受けになる。これに対し、御使として皇后宮女官長保科武子を大宮御所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、幸啓録、重要雑録、宮内省省報、官報

二十七日 土曜日 農山漁村の労力不足の調整を図り、心身の健全な育成を期する上で最も緊要な季節保育所に対し、昨年一月の御奨励金下賜春期開設の分に続き、この日、この年秋期開設の分として、厚生大臣に御奨励金を下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十九日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元第三飛行集団長木下敏・元第三十九師団長村上啓作に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昭和十六年十月

三十日 火曜日 和子内親王の誕生日につき、午後、天皇と共に、同内親王と御対面になる。ついで、お三方お揃いにて奥内謁見所において、宮内大臣・内大臣・侍従長始め総代、皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。終わって、元皇后宮女官津軽理喜子より祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、内大臣府日記、呉竹寮日誌

十月

一日 水曜日 午前、奥御進講所において、東京帝国大学教授穂積重遠より「海の見える丘」について」と題し、饗啜教育についての進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

天皇と共に奥内謁見所において、邦寿王と御対面になり、この日の陸軍少尉への任官、及び勲一等旭日桐花大綬章の親授についてのお礼言上をお受けになる。王の任官に当たり、天皇・皇后より鮮鯛代料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇親録、皇族身分録
午後、奥内謁見所において、子爵高木正得夫人邦子・同息女百合子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇親録、皇族身分録、重要雑録

二日 木曜日 午前、御歌所寄人鳥野幸次より、『新古今和歌集』についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

桐ノ間において、今般着任のタイ国特命全権大使ブラヤー・スイー・セナー並びに随員三名に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に奥内謁見所において、この日退官の皇后宮女官北村民枝に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、進退録

奥内謁見所において、先般第二十三軍及び第二十五軍へ御差遣の侍従武官山県有光より復命をお聞きになる。山県は、天皇の勅語及び皇后の令旨を奉戴して去る八月二十三日出発、支那及び仏領インドシナの状況を実視し、九月二十四日帰還した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史

三日 金曜日 この日、崇仁親王と子爵高木正得第二女子百合子の納采の儀が執り行われる。夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、崇仁親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。納采の儀挙行に際して、天皇・皇后より御使として侍従小出英経を三笠宮邸に差し遣わされ、鮮鯛を御贈進になる。これに対して、親王より鮮鯛の献上がある。また、天皇・皇后より皇太后に五種交魚代料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、呉竹寮日誌、重要雑録、進献録

六日 月曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、今般勲一等宝冠章を授与された李鍵公妃誠子と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、王公族録
皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、ついで午餐を御会食になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、幸啓録、重要雑録、宮内省省報、官報

去る一日大分県下の豊肥線中判田駅付近において列車事故発生につき、この日、天皇・皇后より鉄道大臣に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

七日 火曜日 午前、奥内謁見所において、鳩彦王<sup>御父邦彦
王の弟</sup>と御対面になり、王より今般湛子女王と伯

昭和十六年十月

爵大給義竜との結婚が御内許となったことにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、重要雑録

午前十一時十五分御出門、東宮仮御所に行啓される。学習院より帰還の皇太子と御対面になり、御昼餐を御会食になる。午後三時五十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

八日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「現代日本外交史（一）」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

九日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元上海海軍特別陸戦隊司令官武田盛治・元上海方面根拠地隊司令官平岡条一に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌
御歌所寄人鳥野幸次より進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

参内の鳩彦王並びにこの日結婚の勅許を拝した湛子女王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、重要雑録、宮内省省報、官報

十日 金曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、御殿場より上京・参内の雍仁親王妃勢津子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、秩父宮御日誌、秩父宮附日記
午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、四時三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十一日 土曜日 去る一日・二日九州地方において暴風雨による被害発生につき、天皇・皇后より大分県・福岡県・宮崎県・佐賀県・鹿児島県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十二日 日曜日 天皇と共に花蔭亭にお出ましになり、参内の成子内親王・和子内親王・厚子内親王及び貴子内親王と御昼餐を御会食になる。御食後、御一緒に吹上御苑内に建設された防空施設大本営会議用の地下室として建設されるを御覧になり、さらに観瀑亭付近を御散策になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌

十四日 火曜日 来る十一月七日湛子女王結婚につき、午前、天皇と共に鳳凰ノ間において、参内朝見の儀に臨まれる。式中、御前に参進の女王より謝恩の言上をお受けになり、天皇の勅語に続き、懿旨を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、重要雑録、宮内省省報、官報

十五日 水曜日 午前、奥御進講所において、東京帝国大学教授穂積重遠より「現代日本外交史(二)」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

別当山階宮付工藤壮平より、書道についての進講をお聴きになる。以後、この年は、同人の進講を六回にわたりお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、入江相政日記

夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、内親王傅育掛長藤井種太郎に謁を賜い、成子内親王・和子内親王・厚子内親王の成績に関する奏上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、藤井種太郎日誌

十六日 木曜日 午前、御歌所寄人鳥野幸次より、准勅撰『新葉和歌集』についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に豊明殿において、近く離任帰国する中華民國特命全權大使褚民誼並びに同夫人をお

昭和十六年十月

招きになり、午餐を催される。なお、大使夫人は来日以来皇后に謁見の機会がないままこの日に及んだため、御陪食の際、千種ノ間において謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、内大臣府日記、謁見録、宮内省省報、官報

別格官幣社靖国神社において臨時大祭挙行につき、この日、天皇・皇后より同社に祭資を賜う。○幸啓録、靖国神社社務日誌、靖国神社百年史

十七日 金曜日 午前、天皇と共に宮内省第二期庁舎にお出ましになり、三階各室並びに地下金庫室等を御覧になる。地上三階及び地下一階から成る同庁舎は、非常時の第一御動座先として位置づけられ、平時の侍従職皇后宮職食堂が皇后宮御座所に、宮内大臣控室が両陛下御寢室に当てられる。○侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、重要雑録、侍従武官府資料

二十日 月曜日 午前、奥内謁見所において、この日侍従武官を拝命の海軍大佐佐藤治三郎、及び前任の海軍少将侯爵醍醐忠重本日付にて第五潜水戦隊司令官に転出に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官府資料

天皇と共に奥内謁見所において、南支那より帰還の孚彦王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

二十一日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般出征の南遣艦隊司令長官小沢治三郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、奥内謁見所において、今般仏領インドシナへ派遣の特命全權大使芳沢謙吉に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、拝謁参拝録

二十二日 水曜日 この日、崇仁親王と子爵高木正得第二女子百合子結婚につき、午前九時三十分、

天皇と共に奥内謁見所において、雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、載仁親王始め皇族・公族と御対面になり、祝詞の言上をお受けになる。終わって、お一方にて奥内謁見所において、元皇后宮女官の山岡淑子・植村蒙子旧姓油小路に謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。

午後三時十分、天皇と共に鳳凰ノ間において、崇仁親王・同妃百合子の参内朝見の儀に臨まれる。親王・同妃より謝恩の辞の言上をお受けになり、天皇の勅語に続き懿旨を賜う。儀終了後、天皇と共に奥内謁見所において、故依仁親王妃周子・恒憲王妃敏子・故邦彦王妃倪子・李王垠妃方子女王と御対面になり、祝詞の言上をお受けになる。

この日、皇后宮使として皇后宮職御用掛竹屋志計子を三笠宮邸に差し遣わされ、親王・同妃にお祝品を賜う。また、天皇・皇后と皇太后との間、天皇・皇后と各宮との間にも相互にお祝品の御贈進が取り交わされる。なお、これより先、天皇・皇后より子爵高木正得、その他関係者にも賜品がある。

またこの日、満洲国皇帝より天皇・皇后に祝電が寄せられ、答電を御發送になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、皇親録、重要雜録、外交慶弔録、貞明皇后実録正本、宮内省省報

午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「現代日本外交史(三)」と題する進講をお聴きになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十三日 木曜日 午前十時御出門、別格官幣社靖国神社に行啓され、御拝礼になる。同三十二分還啓される。なお、行啓に際し、同社に幣帛料・神饌料をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、内大臣府日記、幸啓録、重要雜録、宮内省省報、官報、軍人援護事業概要

天皇と共に奥内謁見所において、帰嫁のため勲二等宝冠章を親授された湛子女王と御対面になり、お

礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、重要雑録

午後、奥内謁見所において天皇と共に、崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、昨日の結婚の儀につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、重要雑録

二十四日 金曜日 朝彦親王五十年式年祭につき、午前、御使として皇后宮女官長保科武子を久邇宮邸にて行われる霊前祭に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。また、天皇・皇后より霊前に盛菓子、皇后より果物をお供えになる。二十九日には、京都において墓所祭執行につき、天皇・皇后より榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内大臣府日記、皇族雑録、陵墓祭録

二十六日 日曜日 午前、皇太后御使の権典侍清水谷英子参内につき謁を賜い、崇仁親王結婚についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十七日 月曜日 午前、今般北支那方面軍へ御差遣の侍従武官徳永鹿之助に謁を賜い、令旨を下される。徳永は、この月三十一日出発、北支那及び蒙疆において同軍の状況を実視し、十二月二十七日復命する。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史、第三十五師団歴史

去る九月三十日長崎県北松浦郡野崎島沖合にて風浪のため沈没した九州商船株式会社所有機船長山丸において多数の死者発生につき、天皇・皇后より逡信大臣に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、

宮内省省報、官報

二十八日 火曜日 午前九時四十五分御出門、青山御殿に行啓される。正仁親王及び先着の貴子内親王、並びに正仁親王の同級園児二十二名女子学習院附属幼稚園の藤組のお出迎えをお受けになり、御休所において正仁親王と御対面になる。ついで貴子内親王と共に御遊戯室において、親王及び園児等の学習・唱歌など

の課程を御覧になる。午後、再び貴子内親王と御遊戯室において、正仁親王及び園児等の遊戯を御覧になる。四時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内大臣府日記、幸啓録、宮内省省報、官報

二十九日 水曜日 午前、奥御進講所において、東京帝国大学教授穂積重遠より「現代日本外交史(四)」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

三十日 木曜日 午前、奥御進講所において、御歌所寄人武島又次郎より、江戸時代の和歌についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

陸海軍病院に入院中の傷病将兵、及び軍事保護院所管四十六施設に入所中の傷病軍人に対し、この日、

菊花^{目録}を賜う。○侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、軍人援護事業概要

三十一日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元南遣艦隊司令長官平田昇に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十一月

一日 土曜日 去る十月二十二日崇仁親王結婚につき、この日、天皇と共に御学問所において、同親王・同妃百合子、及び雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、故成久王妃房子内親王、稔彦王妃聡子内親王をお招きになり、御晩餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍

従武官日誌、秩父宮御日誌、重要雑録

三日 月曜日 明治節につき、午前、天皇と共に御学問所において、雍仁親王妃勢津子始め皇族・王公族の拝賀をお受けになる。ついで、宮内大臣始め側近高等官の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女

昭和十六年十一月

官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

四日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元第一百六師団長篠原誠一郎ほか四名に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

五日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「現代日本外交史(五)」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

午後、奥内謁見所において、三井銀子男爵三井八郎
右衛門夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

湛子女王帰嫁につき、天皇と共に御学問所においてお別れの御晚餐を催され、湛子女王及び鳩彦王・孚彦王と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、重要雑録

六日 木曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、鳩彦王・湛子女王と御対面になり、昨夜のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録

奥御進講所において、御歌所寄人武島又次郎より進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

七日 金曜日 天皇及び貴子内親王と共に葉山御用邸に行啓される。午前十時御出門、東京駅より貴子内親王と御同車になり、十一時三十三分御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、侍従武官日誌、省中日誌、内大臣府日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

この日、湛子女王と伯爵大給義竜の結婚の儀が行われ、天皇・皇后・皇太后よりお祝いとして女王に紅白縮緬を、鳩彦王に酒・鮮鯛を御贈進になる。○女官長日記、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、皇族身

分録、宮内省省報、官報

十日 月曜日 今般喜寿を迎えた載仁親王に対し、お祝いとして、天皇・皇后より五種交魚等を、皇

后より万那料を御贈進になる。また、皇太子御懷妊時を始めとする着帯の帯親を同親王が務めたことから、皇后より、お手製の紹刺入りの卓覆及び菓子を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

贈賜録

十一日 火曜日 午前、天皇と共に葉山丸に御乗船になり、初声御料地のクボ浜に御到着になる。御上陸後、畑の中の道を展望台付近まで散策され、各所において天皇と共に植物等を採集される。ついでクボ浜に戻られ、御昼餐をお召し上がりになる。午後も貝や海草の御採集を手伝われる。以後、御用邸御滞在中は、しばしば天皇の御採集に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、幸啓録、行幸録

十二日 水曜日 日本赤十字社に対し、同社病院御補助の思召しをもって、この日、天皇・皇后より金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史稿

去る五日朝鮮清津沖の日本海を航行中に触雷沈没した日本海汽船株式会社所有汽船気比丸において多数の死傷者・行方不明者発生につき、この日、天皇・皇后より逡信大臣に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十五日 土曜日 天皇と共に還啓のため、午前九時五十分葉山御用邸を御出門、十一時十九分宮城に到着される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、省中日誌、内大臣府日記、吳竹寮日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

十七日 月曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において載仁親王と御対面になり、喜寿に際しての御贈進につき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

昭和十六年十一月

奥内謁見所において、朝融王妃知子女王と御対面になる。同妃は出産後初参内につき、皇后より賜物・賜金がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十八日 火曜日 午前、奥内謁見所において、先般支那派遣軍へ差遣された侍従武官横山明の復命をお聞きになる。横山は九月二十七日出發、中支那の状況を実視し、十月二十八日帰京する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、進退録、侍従武官府歴史、畑俊六日誌

天皇と共に奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王・故永久王妃祥子、及び初参内の肇子女王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、宮内省省報、官報

十九日 水曜日 午前、貴子内親王と共に皇子御座所において、同内親王の招きにより参内した肇子女王と御対面になる。その際、肇子女王より、昨十八日の初参内についてのお札言上をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午前十一時三十分、天皇と共に御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御昼餐を御会食になり、午後三時十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、内大臣府日記、幸啓録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において、結婚後初参内の伯爵大給義竜及び同夫人湛子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、重要雑録

二十日 木曜日 午前、満洲より帰還の元第二十五師団長桑原四郎に謁を賜う。○侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録

午後、天皇と共に御学問所において、この日舒明天皇千三百年式年祭につき、東京帝国大学助教坂

本太郎より舒明天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、内大臣府日記、進講録

今般、永井如雲宮内大臣官房用度課美術工芸に関する技術嘱託に先年来お命じになっていた京都御所小御所の襖絵岡田為恭・狩野永岳筆の模写が

完成する。この日の午後、及び二十一日・二十二日の三回にわたり、千種ノ間において、同人の説明にて模写とその原図を御覧になる。なお、去る二月から三月にかけて三回にわたり、同人による模写制作の様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

二十一日 金曜日 午前、今般凱旋の元第五十一師団長李王垠に謁を賜う。続いて同じく凱旋の元第四十一師団長田辺盛武ほか三名に謁を賜う。○侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録

午後、皇太后御使として参内の典侍竹屋津根子に謁を賜い、崇仁親王の御慶事が滞りなく終わったことについてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十二日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般任地へ出発の南方軍総司令官寺内寿一・海南警備府司令長官砂川兼雄に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

この日、孚彦王妃千賀子着帯につき、天皇・皇后より三種交魚を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

二十五日 火曜日 正午過ぎ、奥内謁見所において、御機嫌伺いのため上京の京都在任華族総代の子爵唐橋在知に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、新任の皇子傳育官吉田良兼に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十六日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「現代日本外交史(六)」と題する進講を

昭和十六年十一月

お聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、徳積家文書

午後、奥内謁見所において、元女子学習院教授中島さと・元学習院女学部教授木内成に謁を賜う。○

女官長日記、女官日誌

午前六時三十分、故邦憲王妃好子が麴町区紀尾井町の賀陽宮御仮寓所において薨去する。九時四十五分、同妃の遺骸が賀陽宮邸に移される。これより先、同妃の危篤に際して、天皇・皇后より侍従小出英経・侍医稲田淳を同宮邸に差し遣わされる。また、天皇・皇后より野菜^{吹上御苑産}を、天皇・皇后・皇太后より葡萄酒を下賜される。正午、同妃の薨去が発表される。午後、弔問のため皇后宮使として、皇后宮事務官入江相政を同宮邸に差し遣わされる。これとは別に皇后宮職御用掛竹屋志計子を差し遣わされ、霊前に果物・菓子をお供えになる。二十九日には正寝移柩の儀が行われ、天皇・皇后より盛菓子^{盛菓}を、皇后より盛花をお供えになる。十二月一日には賜物の儀が行われ、皇后より櫛を賜う。また、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。二日には霊代安置の儀が行われ、皇后宮使として皇后宮事務官三井安弥を差し遣わされ、玉串をお供えになる。三日に行われる斂葬当日柩前祭の儀には皇后宮事務官小倉庫次を同宮邸に、また葬場の儀には同入江相政を豊島岡墓地に、それぞれ皇后宮使として差し遣わされる。

故邦憲王妃好子は、慶応元年十月二十日に醍醐忠順の第一女子として誕生する。明治二十五年邦憲王と結婚し、恒憲王・由紀子女王・佐紀子女王の一王子・二王女を儲ける。享年七十七。○女官長日記、女

官日誌、侍従職日誌、省中日誌、故邦憲王妃好子喪儀録、皇親録、重要雑録、墓誌銘録、宮内省省報、官報

二十七日 木曜日 午前、御歌所寄人鳥野幸次より、鎌倉・室町両時代の家集についての進講をお聴

きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

桐ノ間において、今般新任の中華民國特命全權大使徐良並びに随員に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

二十八日 金曜日 正仁親王の誕生日につき、午後、天皇及び同親王と共に奥内謁見所において、宮内大臣始め総代、皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。続いて、元皇后宮女官津軽理喜子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

十二月

一日 月曜日 午前、千種ノ間において、横山大観制作の富士の絵の衝立を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

二日 火曜日 午前、天皇と共に奥御対面所において、この日誕生日を迎えた崇仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

三日 水曜日 午前、今般出征の聯合艦隊司令長官山本五十六に謁を賜い、次のお言葉を賜う。

此度ハ聯合艦隊司令長官トシテ重大ナル任務ヲ帯ビテ出征スル趣洵ニ御苦勞ニ思フ
就テハ身体ヲ大切ニシテ御奉公ヲスルヤウニ

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、侍従武官府歴史

午後、奥内謁見所において、元女子学習院教授野口幽香に謁を賜い、バザーへの下賜についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

四日 木曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、今般功四級金鷄勲章を拝受した朝融王と御対面になる。皇后よりお祝いとして三種交魚を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、贈賜録

御歌所寄人武島又次郎より進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

五日 金曜日 午前、皇后宮職御用掛加藤虎之亮より、『御注孝経』についての進講をお聴きになる。

なお同人は、この年末、皇后宮職御用掛を免じられ、宮内省御用掛を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録、加藤虎之亮関係資料

午後、奥内謁見所において、今般凱旋の元海南警備府司令長官谷本馬太郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

六日 土曜日 成子内親王の誕生日につき、午後、天皇及び成子内親王と共に奥内謁見所において、宮内大臣始め各総代、皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。また、元皇后宮女官の津軽理喜子・川上民枝の拝賀をお受けになる。その後、再び奥内謁見所において、病氣全快後初参内の東園栄子御父邦彦
王の姉に謁を賜う。後刻、同所において、元皇后宮事務官岡本愛祐・元侍医田中幸一の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌

歳末に際し、東京府下における官公私診療団体が協力して貧窮病者の施療救済を実施するに当たり、この日、東京府に金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報

七日 日曜日 故邦憲王妃好子十日祭につき、午後、賀陽宮邸に皇后宮女官東貞子を差し遣わされ、権舎に果物ほかをお供えになる。○女官長日記、女官日誌、重要雑録

八日 月曜日 早朝より、御座所において、国際情勢に関するラジオ放送をお聴きになる。午前十一時四十分、ラジオにて米英に対する宣戦の詔勅をお聴きになる。

正午、奥宮殿に還御された天皇と共に、皇后宮女官長始め皇后宮女官一同より御機嫌奉伺をお受けになる。さらに、皇后お一方にて奥内謁見所において、御機嫌奉伺のため参内した皇太后御使の皇太后宮大夫大谷正男に謁を賜う。午後、故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、時局についての御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

九日 火曜日 午前、宣戦につき賢所皇靈殿神殿に報告の儀が行われ、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

十日 水曜日 午後、御書齋において、故邦彦王妃倪子と御対面になり、時局についての御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十一日 木曜日 午前、奥内謁見所において、故依仁親王妃周子と御対面になり、時局についての御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

この日、孚彦王妃千賀子第一王女出産につき、お悦びとして天皇・皇后より鳩彦王及び孚彦王・同妃にそれぞれ三種交魚を御贈進になる。誕生した王女は、七夜に当たる十七日、富久子と命名される。命名当日に際し、天皇・皇后より孚彦王に白羽二重・酒・鮮鯛を賜い、富久子女王に産衣を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、孚彦王妃千賀子殿下御分娩の件、贈賜録、皇親録、皇族身分録、宮内省

省報、官報

十二日 金曜日 午後、奥内謁見所において、朝融王妃知子女王と御対面になり、時局についての御

昭和十六年十二月

機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十六日 火曜日 午後、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。今般の開戦につき、天機及び御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

省中日誌、幸啓録、重要雑録、宮内省省報、官報

十八日 木曜日 今般絵巻物『耀く大八洲』を天皇に献上した制作者の帝室技芸員横山大観に対し、この日、清酒・菓子を下賜される。○贈賜録、進献録

二十日 土曜日 宮内省御用掛吉田増蔵昨十九日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を賜う。吉田は大正九年十月、図書寮編修官に任じられ、昭和二年六月には宮内省御用掛を仰せ付けられる。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、読売新聞

二十三日 火曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇及び皇太子と共に奥内謁見所において、宣仁親王始め皇族・王公族の拝賀を、続いて内大臣・宮内大臣始め側近奉仕高等官総代及び皇后宮女官等、元皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、

幸啓録、宮内省省報

二十四日 水曜日 この日、日本赤十字社中央病院救助患者施療費として金一封を同社に下賜される。

また、向寒に際し、日本赤十字社病院救助収容患者・恩賜財団済生会病院救助収容患者・東京慈恵会医院救助収容患者・財団法人福田会育児院収容者に、お品物代として金一封を下賜される。○恩賜録、

贈賜録、宮内省省報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

去る十七日台湾総督府管下において地震中埔地震により多数の被害発生につき、この日、天皇・皇后より同

総督府に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十五日 木曜日 午前、大正天皇祭皇靈殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、同御神楽の儀につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、祭祀録、宮内省省報

二十六日 金曜日 午後、奥宮殿において、今般中華民国へ赴任の特命全權大使重光葵に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

二十八日 日曜日 午前、皇太子参内につき、天皇と共に御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。ついで成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になり、お揃いにて御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、幸啓録、宮内省省報

二十九日 月曜日 歳末につき、午前、天皇と共に奥内謁見所において、宮内大臣始め総代、皇后宮女官等より祝詞の言上をお受けになる。ついで載仁親王始め皇族・公族より祝詞の言上をお受けになる。午後、皇太后御使として参内の皇太后宮大夫大谷正男に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

三十日 火曜日 午後、奥内謁見所において、朝融王と御対面になり、歳末の挨拶をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、今般凱旋の元第三遣支艦隊司令長官杉山六蔵に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録

夕刻、天皇と共に奥御対面所において、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、歳末の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

昭和十六年十二月

三十一日 水曜日 歳末につき、午後、奥内謁見所において、皇太后御使の皇太后宮職御用掛正親町
鍾子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

天皇と共に奥御対面所において、故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、歳末
の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

一月

一日 木曜日 新年につき、午前、参内の成子内親王・和子内親王・厚子内親王と天皇と共に御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになる。続いて、奥御食堂において御朝食に野戦兵食料理をお召し上がりになる。御食後、天皇と共に御学問所において、皇太子御使・正仁親王御使のほか、宮内大臣始め側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。ついで十時、拝賀の儀に臨まれる。天皇と共に鳳凰ノ間において、宣仁親王・同妃喜久子始め皇族・王公族の拝賀をお受けになる。以下、新年式に従い、正殿及び西溜ノ間において恒例のとおり拝賀をお受けになる。拝賀の儀の後、お一方にて桐ノ間において、御裳捧持者に謁を賜う。御夕餐はお祝御膳をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、呉竹寮日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、宮内省省報、官報

新年における敵機による空襲を警戒するため、この日午前零時より四日までの夜間のみ、警戒管制が実施される。これに伴い、この日より三日まで、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に、宮内省第二期庁舎において御就寝になる。なお、貴子内親王は御常御殿において起居する。四日、天皇と共に第二期庁舎より御常御殿にお戻りになり、三内親王は呉竹寮に戻る。なお四日以降は、第二期庁舎への天皇・皇后の御動座は警戒管制実施の場合に行うことが決定される。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、百武三郎日記

二日 金曜日 午前、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に奥宮殿において、皇太子・正仁親王と御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになる。その後、お祝御膳の御昼餐を御会食になり、お揃いにて海軍より献上の映画「日本ニュース特報 ハワイ大空襲」を御覧になる。ついで三内親王と共に奥内謁見所において、松浦治子伯爵松浦 陸夫人より新年の挨拶をお受けになる。

この日、天皇・皇后の御使として侍従次長甘露寺受長を沼津御用邸に差し遣わされ、昨年末以来転地療養中の皇太后に、新年の祝詞をお伝えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、宮内省省報

三日 土曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。終わって、天皇と共に奥内謁見所において、未成年の皇族俊彦王稔彦王第 四王子、王族李玖李王垣第 二王子の拝賀をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

午後、天皇と共に奥内謁見所において、故邦彦王妃倪子御母・故博義王妃朝子・故永久王妃祥子と御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになる。引き続き天皇と共に奥御対面所において、元皇后宮女官の津軽理喜子・山岡淑子・青山元子・川上民枝・植村蒙子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

四日 日曜日 天皇及び貴子内親王、並びに日曜日につき参内の皇太子・正仁親王・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に、御昼餐を御会食になる。以後、この年は概ね毎週日曜日に行われた参内を始め、随時、皇太子始め皇子女と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

誌、宮内省省報

夕刻、奥御対面所において、元奉仕者の鈴木タカ元侍従長鈴木
實太郎夫人・上山千代に謁を賜い、新年の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

五日 月曜日 午前、奥内謁見所において御学友一名に謁を賜い、新年につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に奥御対面所において、新年につき参内の雍仁親王妃勢津子と御対面になる。同妃の退出後、新年につき参内の故成久王妃房子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

日誌、内舍人日誌、秩父宮御日誌

六日 火曜日 午前、成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に宮内省第二期庁舎侍医
寮屋上にお出ま

しになり、侍従武官の説明にて、海軍飛行機五百機の帝都訪問飛行を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、吳竹寮日誌、内舍人日誌

奥内謁見所において、新年につき参内の守正王妃伊都子と御対面になる。その後、元久邇宮侍女の滝野繁尾に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

午後、奥内謁見所において、稔彦王妃聡子内親王と御対面になる。以後、この年も、皇族・王公族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、侍従職日誌

御夕餐後、天皇及び崇仁親王・同妃百合子と共に奥御対面所において、香港攻略等のニュース映画その他のを御覧になる。以後、この年は、概ね火曜日の御夕餐後、雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子をお招きになり、御一緒に「日本ニュース」を始め時局関係などの映画

昭和十七年一月

を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

七日 水曜日 午後、新年につき参内の御同級生総代二名に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

八日 木曜日 午前、陸軍始観兵式のラジオ実況放送をお聴きになる。○女官日誌

十日 土曜日 午後、呉竹寮にお出ましになり、厚子内親王・和子内親王の順に勉強の様子を御覧になり、その後、成子内親王の茶道の稽古を御覧になる。以後、この年は、概ね土曜日に呉竹寮にお出ましになり、三内親王の楽器演奏・茶道・華道の稽古、及び勉強の様子を御覧になった上、御団欒になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌

十二日 月曜日 午後、天皇と共に豊明殿において、今般離任帰国のタイ国特命全權大使プラー・スイー・セナー及び同夫人のため、午餐を催される。なお、午餐へのお出ましの前に、御廊下において今般上京の元侍従職御用掛阪口鎮雄の挨拶をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者等の拝謁がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

十三日 火曜日 大東亜戦争に関して戦死の陸海軍将校以下につき、天皇・皇后からの祭菜料の下賜佐官以下、
の戦死者、皇后からの御歌本並びに菓子の下賜等については、支那事変の場合と同様に行われることとし、

この日、天皇・皇后より御沙汰がある。翌十四日、宮内大臣より陸軍大臣・海軍大臣、並びに拓務大臣・厚生大臣・対滿事務局監理課長に通牒される。○皇后陛下御歌下賜録

十四日 水曜日 故邦憲王妃好子五十日祭につき、皇后宮使として、皇后宮事務官三井安弥を賀陽宮邸の権舎に、同入江相政を泉涌寺の墓所に差し遣わされ、それぞれ玉串をお供えになる。なお、天皇・皇后より権舎に盛菓子、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、故

邦憲王妃好子喪儀録、重要雜録、宮内省省報、官報

十五日 木曜日 午前、縹帶卷きをされる。以後、御日常の余暇に縹帶卷き等の作業を日課とされる。

○女官日誌

午後、天皇と共に奥内謁見所において、恒憲王邦憲王の王子・同妃敏子と御対面になり、故邦憲王妃好子薨去

後の第一期喪明けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

侍従武官日誌、重要雜録

奥内謁見所において故依仁親王妃周子と御対面になり、新年の祝詞言上及び子爵岩倉具明故依仁親王妃の父岩倉具定の従弟

死去後の喪明けにつき挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十六日 金曜日 午前、奥内謁見所において、木戸ツル内大臣木戸幸一夫人及び子息孝澄の夫人舒子侯爵小松輝久の息女に謁を

賜い、新年の祝詞言上、及び孝澄と舒子の結婚に際しての賜物拝領のお礼言上をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従職日誌

十七日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般関東軍の状況実視のため満洲へ御差遣の侍従武官

横山明に謁を賜い、次の令旨を下される。

関東軍司令官以下一同力幾多ノ困難ヲ排シテ常ニ精励克ク其ノ重責ヲ全ウシツツアルハ洵ニ苦勞

ニ思フ殊ニ君国ノ為職務ニ殫レタル者ニ対シテハ気毒ニ堪ヘス帝國未曾有ノ難局ニ際シ時下寒氣

酷烈ノ候ナレハ全軍ノ將兵一層自愛シテ奉公ヲ励ムヤウ尚傷病者ハ厚ク勞ハリ遣ハセ

横山は、二十九日に現地において令旨を伝達した後に帰還、二月二十八日に復命する。○女官長日記、女

昭和十七年一月

官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府資料、歩兵第三聯隊歴史

十九日 月曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のタイ国特命全權大使、ディレーク・チャイヤナーム並びに随伴の大使館参事官、タウイー・タウエーテイ、クンほか六名に謁見を仰せ付けられる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

二十三日 金曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、講書始の儀に臨まれる。国書は東北帝国大学教授藤原松三郎より「和算ノ発達」、漢書は東京帝国大学教授和田清より「支那民族ノ発展ニ就キテ」、洋書は帝国学士院会員佐々木隆興より「運動ニ於ケル静ノ生物学的觀察ト考察」と題する進講をお聴きになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、儀式祭典録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、毛利誠子公爵毛利元道夫人に謁を賜い、天皇・皇后・皇太后への山口県産美濃紙の献上に対し、昨日公爵毛利元道への賜品を拝領したことにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、進献録、贈賜録

別当山階宮付工藤壮平をお召しになり、女官詠進の色紙・懐紙について、書き方の説明をお聞きになる。以後、この年も、同人より十九回にわたり書道の指導をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌
二十六日 月曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「連峯雲」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

しら波はたちさわわけども伊豆さかみつらなるみねの雲のしつけさ

○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、内舎人日誌、省中日誌、御歌録、儀式録、儀式祭典録、あけぼの集、宮内省省報、官報

二十八日 水曜日 午後、天皇と共に御学問所において、臨時陵墓調査委員会委員辻善之助より「長慶天皇ノ御陵ノ調査ニ付テ」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍從日誌、侍從職日誌、内

舎人日誌、進講録、辻善之助日記

二十九日 木曜日 午後、奥内謁見所において、命婦ニ準シ取扱生源寺伊佐雄に謁を賜い、八十歳の年賀に際しての金品拝領のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、進退録、恩賜録

三十日 金曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍

從職日誌、内舎人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報、官報

三十一日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般香港占領地総督として赴任の陸軍中将磯谷廉介に謁を賜う。その際、次のお言葉を賜う。

此度香港占領地総督ノ重任ヲ帯ビテ出発スル趣洵ニ御苦勞ニ思フ就テハ身体ヲ大切ニシテ御奉公
ヲスルヤウニ

○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、内舎人日誌、侍從武官府資料

枢密顧問官荒木寅三郎去る二十八日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。

なお、去る二十八日、天皇・皇后・皇太后より病氣お尋ねとして葡萄酒を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報

昭和十七年二月

二月

二日 月曜日 この日より、この年の定例進講が開始される。午前、東京帝国大学文学部助教板沢武雄より『概観維新史』についての進講をお聴きになる。以後、この年は、同人より十七回にわたって『概観維新史』についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

四日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「大東亜戦争の遂行方針について（一）」と題する進講をお聴きになる。同人は、去る一月二十一日の第七十九回帝国議会における内閣総理大臣東条英機・外務大臣東郷茂徳の各演説について言上する。宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子が陪聴する。終わって御書齋において両親王妃と御対面になり、この度初めて陪聴した崇仁親王妃よりお礼言上をお受けになる。なお、この年は、同人より二十回にわたって進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

五日 木曜日 午後、奥御進講所において、御歌所寄人武島又次郎より「第三期 賀茂真淵の門弟の江戸派・京都派・伊勢派」 「第四期 文政天保時代に就きて」の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

六日 金曜日 午前、宮内省御用掛加藤虎之亮より、漢文の進講をお聴きになり、『御注孝経』諸侯章第三を学ばれる。以後、この年は、金曜日を定例として同人より合計二十一回にわたり漢文の進講をお聴きになり、主に『御注孝経』と『中庸』について学ばれる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録、加藤虎之亮関係資料

奥内謁見所において、今般南方軍及び第二十三軍へ御差遣の侍従武官山県有光に謁を賜い、南方軍総

司令官・第二十三軍司令官に賜う次の令旨を下される。

南方軍総司令官以下一同カ熱帯圏ノ広大ナル地域ニ於テアラユル困難ヲ克服シ一意出師ノ目的達成ニ努メ大ニ皇軍ノ威武ヲ中外ニ宣揚シツツアルハ洵ニ苦勞ニ思フ

殊ニ君国ノタメ職務ニ殫レタル者ニ対シテハ氣ノ毒ニ堪ヘス

戦局ノ前途ハ尚遠遠ナルヘク又戦地ハ氣候風土著シク異ナリ全軍將兵ノ辛苦ハ思フニ余リアリ各自一層自愛シテ奉公ヲ励ムヤウ尚傷病者ハ厚ク勞ハリ遣ハセ

山県は香港付近・南部仏領インドシナ・マレー半島・フィリピンに赴き、三月四日帰京、十二日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録、侍従武官日誌、侍従武官府資料、南方軍作戦関係資料、南方軍各方面作戦計画等綴

この日、天皇・皇后より御使として侍従入江相政を沼津御用邸に差し遣わされ、昨年十二月十七日以来同御用邸に御滞在中の皇太后の御機嫌をお伺いになる。同日、入江は帰京する。十二日、皇太后御使の権典侍清水谷英子を通じてお礼をお受けになる。以後、この年も、折に触れて天皇・皇后と皇太后との間に御使の御差遣が取り交わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、行啓録、入江相政日記

九日 月曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、恒憲王と御対面になり、美智子女王恒憲王の王女の徳大寺齊定への帰嫁御治定につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎

人日誌、侍従武官日誌、百武三郎日記

十日 火曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・林丘寺・靈鑑寺・光照院・三時知恩寺・円照寺・水薬師寺・長福寺・中宮寺・瑞竜寺・法華寺・善光寺に乾海苔を賜う。○贈賜録

昭和十七年二月

今般山口県吉敷郡西岐波村長生炭坑において浸水のため多数の死者発生につき、天皇・皇后より同県に御救恤として金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十一日 水曜日 午前、天皇と共に御化粧室において、成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になり、紀元節の祝詞言上をお受けになる。その後、奥御進講所において、側近奉仕者一同の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十二日 木曜日 午前、奥御進講所において、御歌所寄人武島又次郎より「江戸時代和歌史 第四期より明治時代迄」と題する進講をお聴きになる。同人の進講はこの日をもって終了となる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、今般聯合艦隊及び支那方面艦隊へ御差遣の侍従武官鮫島具重をお召しになり、両司令長官に対する令旨を下される。同人出発前日の十四日、聯合艦隊司令長官海軍大将山本五十六に賜うお手製の紹刺し額「海軍機大洋飛行の図」を託される。三月十四日、鮫島より復命をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府資料、侍従武官城英一郎日記

奥内謁見所において、社団法人愛国婦人会会長水野満寿子貴族院議員水野鎌太郎夫人・同副会長金子太津子に謁を賜い、今般同会が解散するに当たり、年々の行啓と思召しについてのお礼言上をお受けになる。政府の要請に基づき高度国防国家建設に即応するため、婦人団体を統合する方針の下に、新たに大日本婦人会が設立されたことに伴い、愛国婦人会はこの日午後、軍人会館において臨時会員総会を開催し、満場一致にて解散を可決、直ちに主務官庁に許可を申請した。これにより、大正二年以来毎年皇后より

同会に下賜されてきた事業補助金は、爾後廃止されることとなり、二十日、これに関係の向きに通知する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、恩賜録、重要雑録

十四日 土曜日 午前、奥内謁見所において、故依仁親王妃周子と御対面になり、愛国婦人会解散につき、総裁在任中のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

十五日 日曜日 夜、臨時ニュースにてシンガポール陥落が発表され、当直側近奉仕者より祝詞の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十六日 月曜日 午後、奥御進講所において、皇太后御使の皇太后宮大夫大谷正男に謁を賜い、シンガポール陥落につき御機嫌伺いをお受けになる。引き続き奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王・故永久王妃祥子と御対面になり、シンガポール陥落につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十七日 火曜日 午後、天皇と共に御学問所において、この日四条天皇七百年式年祭につき、東京帝国大学文学部史料編纂所長龍肅より四条天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、進講録

十八日 水曜日 大東亜戦争開戦以来の総合戦果を慶祝する戦捷第一次祝賀日につき、東京帝国大学教授穂積重遠の進講はお取りやめとなる。午前、奥内謁見所において、祝賀のため参内の鈴木タカに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

午後、皇太子・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に宮城正門鉄橋上にお出ましになり、宮城前外苑における戦捷祝賀の旗行列を御覧になる。お手持ちの日章旗を振られつつ、国民の奉祝にお応

昭和十七年二月

えになる。その後、御車寄より入御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、吳竹寮日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、宮内省省報

十九日 木曜日 午前、奥御進講所において、御歌所寄人外山且正より、和歌の修辞についての進講をお聴きになる。以後、同人より、五月十四日まで五回にわたって進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後一時十五分御出門、この年初めて東宮仮御所に行啓される。皇太子と御対面の後、成績品等を御覧になる。三時五十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、官報

二十日 金曜日 午後、奥内謁見所において、今般凱旋の元第一遣支艦隊司令長官海軍中将侯爵小松輝久に謁を賜う。その際、次のお言葉を賜う。

再度ノ出征ニ克ク重大ナ任務ヲ完ウシテ大ニ帝国海軍ノ武威ヲ宣揚シタコトハ洵ニ御苦勞デアリ
マシタ今回ハ目出度ク凱旋デ喜バシク思ヒマス今後モ自愛シテ御奉公ヲスルヤウニ

○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官府資料

二十一日 土曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

二十五日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「大東亜戦争の遂行方針について（二）」と題する進講をお聴きになる。崇仁親王妃百合子が陪聴する。内容は、四日の進講に引き続き、第七十九回帝国議会における大蔵大臣賀屋興宣の財政方針演説、貴族院議員児玉秀雄並びに衆議院議員岡田忠彦の代表質問演説に及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積家文書

二十七日 金曜日 午前、奥内謁見所において、出産後初めて参内の孚彦王妃千賀子と御対面になり、お札言上をお受けになる。同妃に袋帯を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三月

一日 日曜日 元宮内省御用掛海軍少将山本信次郎去る二月二十八日死去につき、この日、天皇・皇后より盛菓子・切り花新宿御苑産を下賜される。三日には、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、去る二月二十三日、同人の病気に際して、天皇・皇后よりお尋ねとして牛乳・スープを下賜される。山本は、皇后の皇太子妃時代よりフランス語の進講を務めた。○女官長日記、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報

二日 月曜日 貴子内親王の誕生日につき、午前、天皇及び同内親王と共に奥内謁見所において、宮内大臣始め総代、及び皇后宮女官長始め側近奉仕者の拝賀をお受けになる。夕刻、天皇及び貴子内親王、並びに祝詞言上のため参内の成子内親王・厚子内親王と共に、奥御食堂においてお祝御膳をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、清宮御日誌
午後、奥内謁見所において、本日付にて侍従武官を拝命の陸軍中佐尾形健一陸軍大佐に謁を賜う。ついで北支那方面軍参謀へ転補する前任の侍従武官徳永鹿之助陸軍大佐に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍

従武官日誌、侍従武官府資料

北海道並びに青森・岩手・宮城・福島各県下における昨年の冷害凶作地に対し、この日、厚生大臣を通じて、天皇・皇后より御救恤として金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録

四日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「横田亀代子について」と題する進講をお聴きになる。横田亀代子は元大審院長横田秀雄の母に当たり、進講は横田正俊^{判事}著『父を語る』^{昭和十七年発行}、和田英子著『我が母の躰』^{明治四十四年発行}に基づき行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

この日、皇后宮大夫を通じて海軍省医務局長に対し、繙帯千二百本を下賜される。十一月にも、今次の戦争の海軍関係傷痍者に対し、繙帯を下賜される。○侍従職日誌、重要雑録

五日 木曜日 午前八時五分、開戦以来初めて帝都に空襲警報が発令され、天皇と共に直ちに宮内省第二期庁舎金庫室に御動座になる。また、成子内親王・和子内親王・厚子内親王及び貴子内親王も金庫室に移る。その後、誤報と判明し、九時十七分空襲警報が解除されたため、天皇及び貴子内親王と共に御常御殿にお戻りになる。ついで三内親王は呉竹寮に戻る。警戒警報は引き続き発令中のため、午後九時三十分、天皇と共に再び宮内省第二期庁舎にお移りになる。翌六日午前九時四十分、天皇と共に御常御殿にお戻りになる。十時十五分警戒警報が解除される。これ以後、警戒警報発令の際には宮内省第二期庁舎に、空襲警報発令の際には金庫室に御動座になることとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、東京大空襲・戦災誌

午前、奥内謁見所において、今般ソビエト連邦へ出発の特命全権大使佐藤尚武、特命全権公使守島伍郎に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、拜謁参拝録、宮内省省報、官報

故邦憲王妃好子百日祭につき、皇后宮使として、皇后宮事務官岡部長章を賀陽宮邸の権舎に、同小出英経を泉涌寺の墓所に差し遣わされ、それぞれ玉串をお供えになる。なお、天皇・皇后より権舎に盛

菓子を、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、故邦憲王妃好子喪儀録、重要雜録、宮内省省報、官報

六日 金曜日 満三十九歳のお誕生日を迎えられる。

午前、奥内謁見所において、宣仁親王・同妃喜久子始め皇族・王公族の、続いて皇太子御使・正仁親王御使の拝賀をお受けになる。ついで内大臣・宮内大臣・宮内次官及び側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。さらに元侍従長鈴木貫太郎・同夫人タカ、百武まち子侍従長百武三郎夫人、伯爵三条西実義、松浦治子に謁を賜う。また元皇后宮大夫河井弥八始め元側近奉仕高等官、元皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。ついで成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになった後、三内親王並びに天皇及び貴子内親王と共に、お祝御膳をお召し上がりになる。

午後、奥内謁見所において、大日本婦人会総代の山内禎子侯爵山内豊景夫人、貞愛親王第二王女に謁を賜い、拝賀をお受けになる。ついで、特に思召しをもって、御関係の元女子学習院教授、及び御学問所関係者をお召しになり、奥内謁見所において四回に分けて謁を賜い、椅子の使用を差し許される。続いて御学友一名・御同級生総代二名に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

七日 土曜日 厚子内親王の誕生日につき、午後、天皇と共に同内親王と御対面になり、挨拶をお受けになる。続いて、天皇及び同内親王と共に奥内謁見所において、宮内大臣始め総代の拝賀をお受けになる。夕刻、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に、奥宮殿においてお祝御膳をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌、内舎人日誌、侍従武官

日誌、順宮御日誌

九日 月曜日 夜、天皇と共に蘭印軍・在ジャバ連合軍の無条件降伏に関するラジオニュースをお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

十日 火曜日 昨九日大本営よりラングーン陥落及び蘭印軍全面的降伏が発表されたため、この日、皇后と皇太后との間で電話にて祝詞が交換される。○女官長日記、女官日誌

十一日 水曜日 午前、奥御進講所において、東京帝国大学教授穂積重遠より「司法保護の先駆者故原胤昭について」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子が陪聴する。なお、原は、嘉永六年に生まれ、江戸町奉行与力を務め、明治に入り絵草紙屋を営んだが、河野広中等の福島事件に連座して明治十六年軽禁固三年に処された。明治三十年英照皇太后の崩御による大赦を機に、神田において出獄人保護所を開き、その後、児童虐待防止事業にも携わった。去る二月二十三日、九十歳にて死去した。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積家文書

午後、奥内謁見所において、珍田岩子故元侍従長珍田捨巳夫人・同息女山中貞子皇太后宮職御用掛に謁を賜い、先般珍田捨巳の

祥月命日に当たり霊前に下賜された野菜についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

今次の大東亜戦争による失眼又は四肢切断等の軍人・軍属に対し、従来の事変関係による傷痍者と同様、思召しをもって義眼・義肢を下賜されることとなる。なお、傷痍者に対するこの年の義眼・義肢の下賜は十回に及ぶ。○恩賜録

十二日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋又は帰還の元第三師団長陸軍中将豊島房太郎、元第六軍司令官陸軍中将安井藤治、元第四軍司令官陸軍中将鷺津鈔平、元第五軍司令官陸軍中将波田重一、元第五十七師団長陸軍中将伊藤知剛に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従

御歌所寄人遠山英一より、上代様の書についての進講をお聴きになる。十九日には、第二回の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、盛厚王と御対面になり、この日戦捷第二次祝賀日につき祝詞の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、読売新聞

十三日 金曜日 正午過ぎ、天皇と共に奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、昨十二日の戦捷第二次祝賀日につき祝詞の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十六日 月曜日 午後、奥内謁見所において、皇太后御使の典侍竹屋津根子に謁を賜い、蘭印軍降伏のお祝いとして三種交魚等の御贈進をお受けになる。これに対し、お礼を述べられ、同人を通じて南方軍総司令官寺内寿一より献上のココア等を天皇・皇后より皇太后に御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十七日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元第六艦隊司令長官海軍中将清水光美に謁を賜う。その際、次のお言葉を賜う。

再度ノ出征ニ克ク重大ナ任務ヲ完ウシテ大イニ帝国海軍ノ武威ヲ宣揚シタコトハ洵ニ御苦労デアリマシタ

本日ハ目出度ク凱旋デ喜バシク思ヒマス今後モ自愛シテ御奉公ヲスルヤウニ

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官府資料、百武三郎日記

正午過ぎ、桐ノ間において、今般満洲建国十周年謝恩のため来日した同国特派大使張景恵國務總理大臣に謁見を仰せ付けられる。その際、特派大使を通じて、満洲国皇帝より皇后に、虎皮敷物・建国十周年記念写真帖・豆稗・パルプ製紋縮緬・緑玉戒指・緑玉真珠双囀耳輪・金鑲真珠手鐲の御贈進がある。ついで、首席随員の交通部大臣阮振鐸ほか十五名に謁見を仰せ付けられる。一旦入御された後、天皇と共に豊明殿において、特派大使のため午餐を催される。

この日、満洲国皇帝よりの特派大使の派遣、並びに親書及び物品の御贈進に対し、天皇・皇后・皇太后より札電をお送りになる。これに対し、答電をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、外賓参内録、進献録、宮内省省報、官報

思召しをもって陸軍病院收容戦傷病者に鶏卵二万五千個を、海軍病院收容戦傷病者に鶏卵五千個をそれぞれ下賜される。○侍従職日誌、贈賜録

十八日 水曜日 午前、奥御進講所において、東京帝国大学教授穂積重遠より「大東亜建設と熱帯医学」と題する進講をお聴きになる。崇仁親王妃百合子が陪聴する。同人より、戦役の歴史はすなわち戦疫の歴史である旨をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

午後、奥内謁見所において、今般南方軍及び台湾部隊へ御差遣の侍従武官坪島文雄に謁を賜う。翌十九日、坪島の出発に当たり、南方軍総司令官寺内寿一に賜うお手製の絹刺し額「陸兵上陸の図」を託される。坪島は出発後、南支那・仏領インドシナ・タイ・ビルマ・マレー半島・ジャワ・スマトラ・ボルネオ方面に赴き、四月十五日に帰京する。なお、坪島は御差遣の途次、昨年十二月十七日発生の台湾地震の被災地に立ち寄り、非公式に実況を視察する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、

省中日誌、恩賜録、進退録、侍從武官府資料

十九日 木曜日 夕刻、天皇と共に奥御進講所において、内親王傳育掛長藤井種太郎に謁を賜い、成子内親王・和子内親王・厚子内親王の成績につき言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍從日誌、藤井種太郎日誌

藤井種太郎日誌

二十日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般離現役の海軍中将住山徳太郎元侍從武官に謁を賜い、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、百武三郎日記

午後、天皇と共に奥内謁見所において、この日高雄海軍航空隊司令に転補の朝融王御兄と御対面になり、出征の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍從日誌、侍從職日誌、内舍人日誌、侍從武官日誌、皇族身分録

夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、盛厚王と御対面になり、功四級金鵄勲章の拝受につきお礼言上をお受けになる。成子内親王・和子内親王・厚子内親王も呉竹寮より参内し、同席する。なお、金鵄勲章を拝受の雍仁親王・恒憲王・盛厚王・恒徳王それぞれに対して、二十五日、皇后よりお悦びとして三種交魚代料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍從日誌、侍從職日誌、呉竹寮日誌、内舍人日誌、侍從武官日誌、皇族身分録、贈賜録、東久邇宮日誌

二十一日 土曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

二十三日 月曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、朝融王と御対面になり、高雄海軍航空隊司令として出征の挨拶をお受けになる。その際、皇后より思召しをもって香取神宮・鹿島神宮のお守り等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍從日誌、侍從職日誌、内舍人日誌、皇親録

昭和十七年三月

奥内謁見所において、今般凱旋の元駐蒙軍司令官陸軍中将甘粕重太郎に謁を賜う。その際、次のお言葉を賜う。

出征以来重大な任務ヲ全ウシテ皇軍ノ武威ヲ發揚シタコトハ洵ニ御苦勞デアリマシタ今回ハ目出度ク凱旋デ喜バシク思ヒマス

今後モ自愛シテ御奉公ヲスルヤウニ

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、侍従武官府資料

二十四日 火曜日 正午過ぎ、皇太子参内につき、天皇と共に御対面になり、学習院初等科第三学年へ進級のお礼言上をお受けになる。ついで御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、宮内省省報

この日、元皇后宮大夫河井弥八、元皇子御養育掛山岡淑子、元侍医頭佐藤恒丸、元侍医田中幸一、侍医小山武夫・佐藤久等に故祐子内親王旧蔵の人形を記念品として下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌

二十五日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「先人凶南の志」についての進講をお聴きになる。進講は、『婦人公論』四月号の「シンガポール陥落の快報に接して」に即して行われる。○女

官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

夕刻、奥内謁見所において、朝融王妃知子女王と御対面になり、この日朝融王の出征に際し、御使として皇后宮事務官小出英経を羽田飛行場に差し遣わされたこと等についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

靖国神社参拝の戦没軍人軍属遺児に、この日、思召しをもって菓子を賜い、皇后宮大夫より軍事保護院副総裁に伝達される。○侍従職日誌

二十六日 木曜日 午前九時十五分御出門、女子学習院に行啓され、第五十五回卒業式に臨御される。各種証書・恩賜品の授与等が行われる。成子内親王は中等科第四学年を修了、和子内親王は初等科を卒業、厚子内親王は初等科第五学年を修了する。式終了後、陳列室の成績品を御巡覧になり、午後零時二分還啓される。その後、参内の三内親王よりお礼言上をお受けになる。三内親王及び学習院幼稚園修了の正仁親王に、それぞれお祝品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、贈賜録、宮内省省報、官報

二十七日 金曜日 午前、奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、彼岸に際してのお供えについてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

三十日 月曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、孚彦王妃千賀子に伴われて初参内の富久子女王孚彦王の王女と御対面になる。天皇・皇后より孚彦王鳩彦王の王子・同妃に三種交魚代料等を、富久子女王に鮮鯛等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、宮内省省報、官報

四月

一日 水曜日 午後、天皇と共に奥宮殿において、正仁親王と御対面になり、この日学習院初等科に入学した報告をお受けになる。入学に当たり、天皇・皇后より親王にお祝品を御贈進になる。なお、これより先、奥内謁見所において、皇太后御使の典侍竹屋津根子に謁を賜い、皇太后よりお祝いとし

昭和十七年四月

て五種交魚の御贈進をお受けになる。また、天皇・皇后より御使として侍従永積寅彦を皇太后の許に差し遣わされ、五種交魚を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、贈賜録

奥内謁見所において、今般女子学習院教授を退官の宇佐美ケイに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、恩賜録

今般なでしこ会において事業補助のため演劇会開催につき、思召しをもって金一封を下賜される。○贈賜録

二日 木曜日 午前、奥内謁見所において、京都在住華族総代として上京の子爵梅園篤彦に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

三日 金曜日 午前、神武天皇祭につき、皇后宮女官万里小路ソデに御代拝を仰せ付けられる。○女官

長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

恒徳王妃光子着帯につき、天皇・皇后より三種交魚を竹田宮に御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、贈賜録

七日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般満洲より帰還の元航空兵団司令官陸軍中将安藤三郎に謁を賜う。その際、次のお言葉を賜う。

満洲デハ一方ナラヌ骨折リデ御苦勞デアリマシタ

今回ハ無事帰還デ御目出度ウ此上更ニ自愛シテ御奉公ヲスルヤウニ

ついで事変地より凱旋の元第二十二師団長陸軍中将太田勝海、元第二十七師団長陸軍中将富永信政に

謁を賜う。その際、次のお言葉を賜う。

出征以来克ク任務ヲ全ウシテ皇軍ノ武威ヲ輝カシタコトハ洵ニ御苦勞デアリマシタ

此度ハ凱旋デ御目出度ウ今後モ自愛シテ御奉公ヲスルヤウニ

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、侍従武官府資料

八日 水曜日 特別攻撃隊員海軍合同葬儀に参列のため上京の故海軍中佐岩佐直治の遺族等に対し、

この日、思召しをもつて菓子を賜い、皇后宮大夫より海軍省人事局長に伝達される。○侍従職日誌

九日 木曜日 皇太子乗馬始につき、天皇・皇后より銅製仔馬置物を御贈進になる。また、富久子女王箬初につき、朝香宮より天皇・皇后に鮮鯛が献上される。これに対し、翌十日、鮮鯛を御贈進になる。○女官長日記、贈賜録

十七日 金曜日 午前、野口幽香元女子学
習院教授より第一回進講をお聴きになる。以後、この年は、同人より

三回にわたり進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、野口幽香関係文書

午後、奥内謁見所において、今般ソビエト連邦より帰国の特命全権大使建川美次に謁を賜う。引き続き、今般戦地より凱旋の元第三遣支艦隊司令長官海軍中将河瀬四郎に謁を賜う。その際、次のお言葉を賜う。

再度ノ出征ニ克ク任務ヲ全ウシテ帝国海軍ノ武威ヲ宣揚シタコトハ洵ニ御苦勞デアリマシタ

此度ハ目出度ク凱旋デ喜バシク思ヒマス今後モ自愛シテ御奉公ヲスルヤウニ

終わつて、今般新任の別当北白川
宮付橋本群、前任の石川漣平に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、侍従武官日誌、進退録、恩賜録、拝謁参拝録、侍従武官府資料、宮内省省報、官報

昭和十七年四月

第二艦隊その他へ御差遣の侍従武官佐藤治三郎に謁を賜い、令旨を下される。佐藤は、四月二十四日神奈川県横須賀市に在泊中の第二艦隊を実視し、ついで第一南遣艦隊・第二遣支艦隊・海南警備府及び馬公警備府の状況を実視のため、同月二十九日より台湾・中華民国・香港・仏領インドシナ・タイ国・マレー半島・ビルマ・アンダマン諸島・スマトラ・ボルネオ・フィリピンへ赴き、五月三十一日帰京、六月五日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府資料

十八日 土曜日 午前八時三十分警戒警報が発令された後、米軍機の帝都各所に対する奇襲爆撃により、午後零時二十八分空襲警報が発令されたため、同五十六分、天皇及び貴子内親王と共に御常御殿より宮内省第二期庁舎金庫室に御動座になる。成子内親王・和子内親王・厚子内親王は呉竹寮より、正仁親王は青山御殿より、それぞれ宮内省第二期庁舎金庫室に移る。不例の皇太子は赤坂離宮御文庫に入り、沼津御用邸御滞在中の皇太后は御用邸内の特別防空壕に御動座になる。また、賢所・皇靈殿・神殿は吹上御苑内の齋庫御文庫
附属室に御動座になる。三時五十一分空襲警報解除につき、四時十八分天皇及び正仁親王・貴子内親王と共に御常御殿に還御され、正仁親王は奥宮殿の洋館に、三内親王は呉竹寮に戻る。夜、第二期庁舎にお出ましになり、御寝所において御就寝になる。

敵機の空襲に際し、翌十九日、満洲国皇帝溥儀より天皇・皇后・皇太后にお見舞電報が寄せられる。これに対し、同日、答電をお送りになる。なお、この空襲により東京府及び神奈川県において死者発生につき、後日、天皇・皇后より両府県にそれぞれ御救恤金を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、恩賜録、外交慶弔録、儀式録、祭祀録、貞明皇后実録正本、

宮内省省報、官報

二十日 月曜日 午後、奥内謁見所において、沼津御用邸より皇太后御使として参内の皇太后宮大夫大谷正男に謁を賜い、帝都初空襲につき天機並びに御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

侍従職日誌

二十一日 火曜日 夜、天皇及び宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子と共に映画を御覧になる。その際、翌二十二日南方戦地へ出張する宣仁親王より、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌

官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

二十五日 土曜日 別格官幣社靖国神社において臨時大祭挙行につき、午前十時三十分御出門、同社に行啓される。本殿において御拝礼になり、十一時七分還啓される。なお、臨時大祭第一日の昨二十四日、天皇・皇后より同社に祭資を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式祭典録、幸啓録、宮内省省報、官報、靖国神社社務日誌

二十七日 月曜日 午後、賢所皇靈殿神殿本殿に奉遷の儀去る十八日の空襲に際して三殿を吹上御苑内の齋庫に御動座が行われ、天皇と共に

御学問所庭上において御遙拝になる。夕刻、御神楽の儀が行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、儀式録、祭祀録

二十八日 火曜日 今般山形県最上郡東小国村において火災被害発生につき、天皇・皇后より御救恤

として金一封を同県に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十九日 水曜日 午前、参内の成子内親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面になり、天長節につき拝賀をお受けになる。ついで皇太后宮御休所において雍仁親王妃勢津子始め皇族・王公族の拝賀を、さらに内大臣・皇后宮女官長始め側近奉仕高等官総代、及び皇太后宮大夫の拝賀をお受

昭和十七年五月

けになる。終わって、天皇及び四内親王と共に奥御食堂においてお祝御膳をお召し上がりになる。

午後、天皇と共に奥内謁見所において、園祥子始め旧女官・元皇后宮女官に謁を賜う。続いて、お一方にて百武まち子に謁を賜う。さらに天皇及び四内親王と共に奥御対面所において、鈴木タカ・坂野鈴・上山千代など元奉仕の侍女及び出仕子に謁を賜う。夕刻、お揃いにて申ノ口にお出ましになり、側近奉仕高等官にお茶を賜う。その際、側近奉仕者が戦捷後における天長節奉祝のために製作した大東亜戦争に因む飾り物を御覧になる。また、三内親王の御祝歌、成子内親王の手芸品が供覧される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌、内舎人日誌、省中日誌、秩父宮御日誌、儀式録

夜、侍従武官城英一郎の説明により、同武官が御差遣先より持ち帰った貝類その他を天皇と共に御覧になる。○女官日誌、侍従武官城英一郎日記

五月

二日 土曜日 夜、皇大神宮仮殿遷御の儀につき、小桂・長袴をお召しになって御座所西側の庭上にお出ましになり、御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

五日 火曜日 元式部官亀井茲常死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、亀井は東宮侍従として側近に奉仕したため、天皇・皇后より盛菓子等を下賜される。○省中日誌、

恩賜録、贈賜録、宮内省省報

六日 水曜日 午前十時御出門、明治神宮外苑憲法記念館構内において挙行の日本赤十字社第五十回通常総会に行啓される。社長徳川圀順の先導にて便殿に入御され、宣仁親王妃喜久子始め皇族・王公

族、総裁載仁親王と御対面の後、各大臣に謁を賜い、社長・副社長、篤志看護婦人会会長・同副会長ほかに謁を賜う。社長より報告書その他書類の奉呈及び社業の現況につき言上をお受けになった後、式場に臨御され、次の令旨を賜う。

茲に日本赤十字社第五十回総会に臨み各員に告ぐ

本社が総裁以下不断の努力に依り常に事業の充実発展に努め特に大東亜戦争勃発以来戦線に亦銃後に全力を傾注し克く恤兵報国の実を發揮しつゝあるは深く満足に思ふ所なり

今や国を挙げて大東亜戦争の完遂に邁進すべき重大なる秋なるに鑑み本社員一同協心戮力益々事業の進展を図り以て奉公の誠を致さんことを望む

総裁の奉答後、同所を御発、十一時二十九分還啓される。その後、総裁載仁親王と御対面になり、この日の行啓につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、

宮内省省報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史稿

午後、奥内謁見所において、先般南方軍及び台湾部隊へ御差遣の侍従武官坪島文雄より復命をお聞きになる。続いて、同じく第三艦隊・第四艦隊・第三南遣艦隊ほかへ御差遣の侍従武官城英一郎より復命をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進講録、侍従武官府資料、侍従武官城英一郎日記

昨五日、恒徳王妃光子第一王女出産につき、この日、天皇・皇后より恒徳王・同妃に三種交魚を御贈進になる。誕生した王女は、七夜に当たる十一日に素子と命名される。命名当日に、天皇・皇后より恒徳王に白羽二重・酒・鮮鯛を、素子女王に産衣を御贈進になる。また、竹田宮・素子女王それぞれより天皇・皇后に鮮鯛が献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、重要雑録、

昭和十七年五月

恒徳王妃光子殿下御分嬖の件、宮内省省報、官報

七日 木曜日 午前、御養蚕始の儀が行われる。皇后はお出ましにならないこととされる。○女官長日記、女官日記、侍従職日記、内舍人日誌

八日 金曜日 午前、沼津御滞在中の皇太后より、昨七日コレヒドール要塞陥落につき電話にて祝詞のお申し入れをお受けになる。これに対し、電話にて御挨拶をお返しになる。○女官長日記、女官日記

十日 日曜日 午後、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に、観瀑亭辺りを御散策になった帰途、紅葉山御養蚕所にお立ち寄りになり、臨時皇后宮職御用掛有泉善三の説明にて蚕を御覧になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日誌、侍従武官日記

母の日につき、日本全国母の会より紅白カーネーション一籠の献上をお受けになる。○女官長日記

十二日 火曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、朝融王妃知子女王に伴われて初参内の朝融王朝融王第一王子・典子女王朝融王第五王子と御対面になる。天皇・皇后より朝融王妃に反物を、朝建王に万那料・白羽

二重及びお品を、典子女王に万那料・緋紋縮緬及びお品を御贈進になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日誌、祭祀録、典子女王殿下御誕生録

午後、奥内謁見所において、徳川為子御母故邦彦王妃倪子の妹に謁を賜い、同人よりの献上去る四月二十三日に徳川頼貞・同夫人為子より天皇・皇后に三宝柑を献上

に対する昨十一日の賜物についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従職日記

十三日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「大英帝国の崩壊現象について」と題する進講をお聴きになる。内容は、軍事的要素・経済的要素・精神的要素の分析からなる。○女官長日記、女官

日誌、侍従職日記、穂積家文書

十四日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般出征の第十七軍司令官陸軍中将百武晴吉に謁を賜い、令旨を下される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

御歌所寄人外山且正より「修辞のめてたき歌、修辞に瑕疵ある歌に就て」と題する進講をお聴きになる。この日、同人の進講は終了となる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、奥内謁見所において、故依仁親王妃周子と御対面になり、この日東京慈恵会総会への御名代を拝命したお礼言上と復命をお受けになる。ついで同会総裁の宣仁親王妃喜久子と御対面になり、この日の御名代の御差遣につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報

十八日 月曜日 午前十一時三十分御出門、青山御殿に行啓される。正仁親王と御昼餐を御会食になり、御団欒になる。午後三時十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内省省報、官報
枢密顧問官伯爵金子堅太郎去る十六日死去につき、この日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官小倉庫次を同人邸に差し遣わされる。翌十九日には、皇后宮使として皇后宮事務官三井安弥を差し遣わされ、花を賜い、焼香させられる。さらに、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。二十日に青山斎場において行われる葬送には、皇后宮使として皇后宮事務官岡部長章を差し遣わされ、焼香させられる。なお、去る一月三十日、天皇・皇后より病氣お尋ねとして野菜^{新宿御苑産}を下賜され、この月五日には、天皇・皇后より侍医村山浩一を同人の別邸に差し遣わされる。また、葡萄酒を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、贈賜録、重要雑録、進退録、宮内省省報、官報

十九日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

昭和十七年五月

午後、天皇と共に奥内謁見所において、今般フィリピン方面の戦地への出張より帰還した盛厚王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

夕刻、天皇と共に奥御食堂において、満洲国建国十周年の祝意を表するため天皇の御名代として今般宣仁親王渡満につき、送別の御晚餐を催され、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、重要雑録、宣仁親王殿下満洲国御差遣書類

二十日 水曜日 午前、奥御進講所において、東京帝国大学教授穂積重遠より「神功皇后の新羅御征討について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十一日 木曜日 午前、奥御進講所において、野口幽香より第二回の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、野口幽香関係文書

二十二日 金曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、満洲国建国十周年の祝意を表するため天皇の御名代として渡満する宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、重要雑録、拝謁参拝録、宣仁親王殿下満洲国御差遣書類、宮内省省報、官報

来る六月八日に事業資金補填のため東京大相撲観覧会を開催する東京慈恵会に、この日、思召しをもって金一封を下賜される。○贈賜録

二十三日 土曜日 午後、奥内謁見所において、故依仁親王妃周子と御対面になり、愛国婦人会総裁辞任に当たつての賜物拝領のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

二十六日 火曜日 この日満洲国へ宣仁親王出發につき、天皇・皇后の御使として皇后宮大夫兼侍従

次長広幡忠隆を高松宮邸に差し遣わされる。親王を通じ、天皇・皇后より建国十周年のお祝いとして金地桜花刺繡四枚折屏風^{お手許品}を同国皇帝に、宝玉七宝製花瓶^{お手許品}を同国皇后に御贈進になる。天皇・皇后からの祝詞と御贈品に対し、三十日、満洲国皇帝・皇后より天皇・皇后に札電が寄せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、外交贈答録、重要雜録、宣仁親王殿下満洲国御差遣書類、宮内省省報、官報

二十七日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「国民医療法について」と題する進講をお聴きになる。この年二月二十五日公布の同法制定の背景・目的・概要についてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

三十日 土曜日 午前、奥内謁見所において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、宣仁親王留守のお尋ねについてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雜録

六月

一日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二日 火曜日 大東亜戦争中の空襲により死傷した防空従事者に対し、従来、天皇より下賜されてきた祭染料又は菓子料が、今後、天皇・皇后より下賜されることとなる。また、敵襲により死亡した一般皇国臣民に対する御救恤金は、天皇・皇后より下賜されることとなる。○省中日誌、上奏モノ控簿、例規録

三日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、「帝国議会に於ける三大臣の演説」と題する進講をお聴きになる。崇仁親王妃百合子が陪聴する。去る五月二十七日・二十八日の第八十回帝国議会における首相・外相・蔵相の演説の概要についてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積

昭和十七年六月

家文書

四日 木曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、満洲国より昨日帰還した宣仁親王と御対面になり、同国への御差遣につき復命をお受けになる。午後、奥内謁見所において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、親王の帰着に際しての御使の御差遣についてのお礼言上をお受けになる。昨三日、親王の帰邸に先立ち、天皇・皇后より侍従牧野貞亮を高松宮邸に差し遣わされ、果物・サンドウイツチ及びお品を御贈進になる。また、親王帰邸の際には、天皇・皇后より御使として皇后宮大夫兼侍従次長広幡忠隆を同邸に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、

省中日誌、皇親録、重要雑録、宣仁親王殿下満洲国御差遣書類、宮内省省報、官報

正午頃、奥内謁見所において、この日誕生日を迎えた崇仁親王妃百合子と御対面になり、万那拝領に ついてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

五日 金曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「戦争と電気通信」と題する進講をお聴きになる。進講は、この年電気通信協会より発行の中山竜次著の同名書籍に基づいて行われる。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

十六日 火曜日 夕刻、内庭の畑にお出ましになり、お手植えの野菜を収穫される。この年、余暇には畑において作業をされる。○女官日誌

十七日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、「標準漢字と字音仮名遣について」と題する進講をお聴きになる。崇仁親王妃百合子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積

家文書

午後、奥御進講所において、内親王傳育掛長藤井種太郎に謁を賜い、成子内親王の歌とヴァイオリンの稽古についてお考えを述べられる。同人より三内親王についての言上をお受けになる。○女官日誌、藤

井種太郎日誌

十八日 木曜日 午前、奥御進講所において、野口幽香より第三回進講をお聴きになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、野口幽香関係文書

二十四日 水曜日 午前、奥御進講所において、東京帝国大学教授穂積重遠より「坂西数代子について」と題する進講をお聴きになる。進講の内容は、失明の経済学者坂西由蔵の夫人数代子の内助の功を中心とする。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十五日 木曜日 皇太后のお誕生日につき、天皇・皇后及び皇太子・正仁親王・成子内親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の御使として、皇后宮大夫広幡忠隆を沼津御用邸に差し遣わされる。

ついで、雍仁親王の誕生日につき、祝詞伝達のため、天皇・皇后の御使として広幡皇后宮大夫を沼津御用邸から御殿場秩父宮別邸に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、行啓録、貞明皇后実録正本

二十六日 金曜日 午前九時四十分御出門、明治神宮に行啓される。宮司の先導にて御拝座に参進され、御拝札になる。その後、御苑内のハナシヨウブを御覧になり、十一時二十三分還啓される。御参拝に当たり、幣帛料・神饌料をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省

中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

二十八日 日曜日 午前、奥内謁見所において、故依仁親王妃周子と御対面になり、昨二十七日の依仁親王二十年式年祭に際し、天皇・皇后より靈殿に盛菓子を、墓所に榊をお供えとして拝受したことにつき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

二十九日 月曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、恒徳王妃光子及び初参内の素子女王と御対面になる。貴子内親王も同席する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、宮内省省報、官報

去る二十一日、東伏見保子御弟伯爵東伏見邦英の夫人が第二男子を出産する。誕生した男子は、この日、守もり俣と命名される。命名当日に際し、皇后より万那料・白羽二重を伯爵東伏見邦英に賜う。○侍従職日誌、贈賜録、重要雑録

七月

一日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、糸繰りを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

六日 月曜日 午前、御養蚕納の儀が行われる。皇后はお出ましにならないこととされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

皇后宮女官二名を日本橋三越に非公式に差し遣わされ、軍事保護院主催のバザーにおいて販売の傷痍軍人家族及び遺家族の制作品をお買い上げになる。後刻、お買上品を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

七日 火曜日 午前、天皇と共に、来る九日より塩原御用邸へお成りの正仁親王と御対面になる。つ

いで奥御食堂において、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、侍従武官日記

八日 水曜日 御風気のため、終日、御休所において御静養になる。この日予定されていた新任のソビエト連邦特命全権大使・随員、及びタイ国特命全権大使・同夫人の謁見、並びに翌九日に予定されていた沼津御用邸への行啓をお取りやめになる。九日には、皇后宮女官長を沼津御用邸に差し遣わされ、皇太后の御機嫌をお伺いになる。○女官長日記、女官日記、侍従職日記、省中日誌、幸啓録

十日 金曜日 先般陸軍大臣より献上された南方軍鹵獲の煉乳九万六千缶のうち、陸海軍の病院入所者に五万缶を、軍事保護院所属各療養所入所者に一万四千缶を、乳児院、育児院、虚弱児・母子保護施設、産院、結核療養所入所者に三万一千八百缶を、天皇・皇后より賜う。○省中日誌、恩賜録、贈賜録

十三日 月曜日 去る五月二十六日北海道紋別郡下湧別村において漂流機雷爆発により多数の死者発生につき、天皇・皇后より北海道庁に、御救恤として金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、重要雑録

十五日 水曜日 午前、今般事変地より凱旋の元第四十一師団長陸軍中将清水規矩・元近衛師団長陸軍中将西村琢磨、満洲より帰還の元第十一師団長陸軍中将牛島満・元第八師団長陸軍中将本多政材に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従職日記、拝謁参拝録

十六日 木曜日 天皇及び貴子内親王と共に日光に行啓される。午前九時、天皇と共に御出門になる。先着の貴子内親王と共に原宿駅を御発、日光駅に御着、午後零時四十二分日光田母沢御用邸に御到着になる。御着後、天皇及び貴子内親王と共に、内庭及び御用邸外の大谷川河畔を御散策になる。御用邸御滞在中、天皇の植物御調査に同行されるなどしてお過ごしになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、

昭和十七年七月

侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌、省中日誌、行啓録、行幸録、幸啓録、宮内省省報、官報

十七日 金曜日 午後、天皇と共に東京帝国大学理学部附属植物園日光分園にお出ましになる。以後、御用邸御滞在中、天皇及び参邸の内親王と共に、しばしば同園にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、幸啓録

十八日 土曜日 午前、今般凱旋の元第一艦隊司令長官海軍中将高須四郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、幸啓録

御夕餐後、日光田母沢御用邸附属邸に到着の成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、吳竹寮日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、行幸録、幸啓録

二十一日 火曜日 台湾総督府管下において七月中旬暴風雨被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を同総督府に下賜される。○省中日誌、恩賜録、重要雜録、宮内省省報、官報

二十七日 月曜日 午前、今般凱旋の元第二遣支艦隊司令長官海軍中将新見政一に謁を賜う。続いて、凱旋の元第五潜水戦隊司令官海軍少将醍醐忠重元侍従武官に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、侍

従武官日誌、幸啓録

二十九日 水曜日 午前九時十分天皇と共に日光田母沢御用邸を御出門、午後零時四十七分宮城に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、省中日誌、行幸録、幸啓録、宮内省省報、官報

三十一日 金曜日 午後、奥内謁見所において、今般帰還の元第一南遣艦隊司令長官海軍中将小沢治三郎に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

八月

一日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般出征の第十四軍司令官陸軍中将田中静彦に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

天皇と共に再び日光に行啓される。午前九時御出門、午後零時三十八分日光田母沢御用邸に御到着になる。御昼餐後、天皇と共に小沼にお出ましになり、天皇は植物を御採集、皇后は厚子内親王と共に東京帝国大学理学部附属植物園日光分園に赴かれ、写生や散策をされる。後刻、天皇及び成子内親王・和子内親王も御一緒になり、夕刻に還御される。以後、御用邸御滞在中、天皇の植物御調査に同行されるなどしてお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

五日 水曜日 午前、成子内親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に、日光御用邸にお出ましになる。御用邸内を御巡覧になり、還御される。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録

十一日 火曜日 去る五日、恒憲王妃敏子が賀陽宮邸において第六王子を出産する。誕生した王子は、七夜に当たるこの日、たけのり健憲と命名される。命名当日に、天皇・皇后より白羽二重・清酒・鮮鯛を恒憲王に賜う。○女官長日記、侍従職日誌、省中日誌、幸啓録、皇親録、重要雑録、恒憲王妃敏子殿下御分娩の件、宮内省省報、官報

十二日 水曜日 午前九時十分天皇と共に日光田母沢御用邸を御出門、午後零時四十七分宮城に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、行啓録、幸啓録、宮内省省報

官報

午後、天皇と共に吹上御苑にお出ましになり、今般竣工の貯水池及び御文庫を御覧になる。この日、

御文庫及び同じく今般竣工の齋庫において、それぞれ修祓の儀が行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、侍従武官府資料、工事録

十四日 金曜日 午後、奥内謁見所において、李鍵公妃誠子と御対面になり、還啓後の御機嫌伺い、及びこの日未明に発生した久邇宮邸（東京市渋谷区宮代町）の火災についてのお見舞いをお受けになる。久邇宮邸は車

寄の一部を残して表御殿が焼失した。鎮火後、天皇・皇后・皇太后より清酒・鶏卵・炊出しを、天皇・皇后より握り飯・鶏卵を、それぞれお見舞いとして久邇宮に賜う。また、皇后より昼食（握り飯・缶詰類・焼海苔）・氷

砂糖添えを久邇宮に賜う。十七日には、天皇・皇后よりお見舞金を朝融王に賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、省中日誌、皇親録、贈賜録、重要雑録、御下賜金関係書類

奥内謁見所において、陸軍砲工学校入学のため勤務地満洲より帰国の侯爵粟田彰常（稔彦王の王子）に謁を賜い、

御機嫌伺いをお受けになる。ついで同所において、今般フィリピンより凱旋の元第十四軍司令官陸軍中将本間雅晴に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十七日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般アフガニスタン国へ赴任の特命全権公使七田基玄及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、贈賜録、拝謁参拝録、宮内省省報

官報

午後、奥内謁見所において、朝融王妃知子女王と御対面になり、去る十四日の久邇宮邸の火災につき、報告及びお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般戦地より帰還の元第一軍司令官陸軍中将岩松義雄、

元第十六師団長陸軍中将森岡臯に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

朝鮮総督府管下の豪雨被害に対し、天皇・皇后より御救恤として金一封を同総督府に下賜される。○

省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十一日 金曜日 午前、奥内謁見所において、日米交換船にて昨日帰国の米國駐箚特命全權大使野村吉三郎、米國出張特命全權大使来栖三郎、ブラジル國駐箚特命全權大使石射猪太郎、カナダ駐箚特命全權公使吉沢清次郎及び同夫人、コロンビア國駐箚特命全權公使柳井恒夫及び同夫人、米國出張特命全權公使若杉要、ペルー國駐箚特命全權公使坂本竜起及び同夫人、メキシコ國駐箚特命全權公使三浦義秋、パナマ國駐箚特命全權公使秋山理敏に謁を賜う。なお、対米宣戦布告に伴う野村・来栖の米國抑留に際し、去る二月二十五日、皇后よりお尋ねとして野菜^{新宿御苑産}を兩名の夫人に下賜される。

また、この度の野村・来栖の帰國に際しては、日米交渉の御慰勞の思召しをもって天皇・皇后より清酒・五種交魚を、皇后より菓子を兩名に下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、

恩賜録、贈賜録、拜謁参拜録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、故邦彦王妃侘子と御対面になり、去る十四日の久邇宮邸の火災に際してのお尋ねにつき、お礼言上をお受けになる。夕刻、天皇と共に奥御対面所において、雍仁親王妃勢津子と御対面になり、日光よりの還幸啓及び久邇宮邸の火災につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、秩父宮御日誌

二十四日 月曜日 この年一月以降、敵艦の襲撃により栄山丸・昭南丸・東京丸・喜多丸において死

昭和十七年九月

者発生につき、天皇・皇后より御救恤金を通信大臣に下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十七日 木曜日 午前、天皇と共に、この日沼津より還啓の皇太子と御対面になり、その後、御昼餐を御会食になる。午後、天皇及び皇太子と共に御文庫にお出ましになり、皇太子に御文庫内を御案内になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、宮内省省報

二十八日 金曜日 午前、天皇と共に御学問所において、この日嵯峨天皇千百年式年祭につき、京都帝国大学文学部講師高橋俊乘より嵯峨天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、進講録

二十九日 土曜日 午後、天皇と共に、この日日光より帰京の成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になり、挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌

九月

一日 火曜日 午前、今般戦地より帰還の元南支那方面軍司令官陸軍大将後宮淳、元第四百師団長陸軍中将菰田康一、元第一百師団長陸軍中将飯沼守に謁を賜う。その際、それぞれにお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

七日 月曜日 午前、奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王・故永久王妃祥子と御対面になり、去る四日の永久王二年祭に際し、霊前へのお供えとして菓子を拝領したことについてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

八日 火曜日 中国・九州地方において去る八月下旬暴風雨により甚大な被害発生につき、天皇・皇

后より御救恤として山口県・鹿児島県・熊本県・大分県・福岡県・長崎県・広島県・佐賀県・宮崎県に金一封ずつを下賜される。○省中日誌、恩賜録、重要雑録、宮内省省報、官報

九日 水曜日 夕刻、天皇と共に御文庫において、満洲・九州旅行より帰京した崇仁親王、及び同妃百合子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

十日 木曜日 午前、桐ノ間において、先般着任のソビエト連邦特命全權大使ヤコフ・マリク及び大使館員十三名、並びに先般来日のタイ国特命全權大使デイレック・チャイヤナムの夫人^{大使}に謁見を

仰せ付けられる。続いて、今般公使館開設に伴い着任のブルガリア国特命全權公使ヤンコ・ペエフに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

十一日 金曜日 宮内省において防空演習実施につき、午前、天皇と共に御文庫にお出ましになる。

夕刻、天皇と共に御文庫において、呉竹寮より参殿した成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御晩餐を御会食になる。夜、御常御殿に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

十二日 土曜日 午前、奥内謁見所において、新潟県赤倉より帰京の故邦彦王妃倪子と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十六日 水曜日 午後、奥内謁見所において、今般出征の南西方面艦隊司令長官兼第二南遣艦隊司令長官海軍中将高須四郎に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十七日 木曜日 沼津御用邸に行啓のため、午前九時御出門、東京駅を御発、沼津駅に御着、御用邸に御到着後、皇太后と御対面になり、御昼餐を御会食になる。ついでお庭にお出ましになり、皇太后

昭和十七年九月

の御案内にて海を御覧になる。午後一時四十五分御出門、宮城に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、幸啓録

十八日 金曜日 台湾総督府管下において暴風雨被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を同総督府に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

従来、内地における軍事保護院療養所又は国立結核療養所にて療養中、並びに地方長官の行う委託療養又は居宅医療中に死没した傷痍軍人に対し、天皇・皇后より祭葬料を、皇后より御歌複本・菓子を賜うこととされていたが、今後、外地において新設された傷痍軍人療養所にて療養中、並びに朝鮮各道知事・台湾各州知事、庁長・樺太庁長官等による委託療養又は居宅医療中に死没した傷痍軍人に対しても、内地と同様に天皇・皇后より祭葬料を、皇后より御歌複本・菓子を賜うことが、この日、天皇・皇后により聴許される。本件は二十一日、宮内省総務局長より拓務省管理局長、並びに陸軍省副官・海軍省副官・軍事保護院援護局長に通牒される。○省中日誌、上奏モノ控簿、皇后陛下御歌下賜録

十九日 土曜日 財団法人結核予防会に対し、事業御奨励の思召しをもって金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十一日 月曜日 午前、奥内謁見所において、朝融王妃知子女王と御対面になり、大河内国子子爵大

耕夫人、知子女王の母博恭王妃経子の姉 死去に際してのお尋ねにつき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十二日 火曜日 午後、天皇と共に、この日日光より帰京した貴子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十九日 火曜日 来る十月に歌舞伎座において、救難施設の拡充強化事業を後援するため演劇会を

開催する帝国水難救済会に、この日、事業補助の思召しをもって金一封を下賜される。○贈賜録

三十日 水曜日 午前、奥内謁見所において、皇宮警察部長重村誠夫始めこの年新任の宮内高等官八名に謁を賜う。この月、宮内高等官が新任・退官等の際に天皇・皇后に拝謁する形式が変更され、部長長及び準部局長の更迭については、その都度新旧両者とも拝謁すること、宮内省参事官等の宮内官兼官者及び李王職職員を除く。については、年に二期、在京在官の新任者を取りまとめて列立にて拝謁天皇は表宮殿、皇后は奥内謁見所することとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、例規録、宮内省省報

塩原より昨二十九日帰京の正仁親王参内につき、御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

和子内親王の誕生日につき、午後、天皇と共に御座所において同内親王と御対面になり、挨拶をお受けになる。続いて、天皇及び同内親王と共に奥内謁見所において、宮内大臣始め総代の拝賀を、ついで元皇后宮女官津軽理喜子・川上民枝の拝賀をお受けになる。夕刻、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に、奥御食堂においてお祝御膳をお召し上がりになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、孝宮御日誌

十月

一日 木曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、春仁王・同妃直子と御対面になる。王より、戦車第五聯隊長への補職のお礼言上、並びに翌二日満洲国へ赴任する挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇親録、皇族身分録、私の自叙伝

昭和十七年十月

二日 金曜日 午前、奥内謁見所において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、大河内国子喜久子の父徳川慶久の姉

死去後の第一期喪明けの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

夜、皇大神宮本殿還御の儀につき、お庭において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

三日 土曜日 家彦王御父邦彦王の弟多嘉王の第二王子 臣籍降下につき、午前、天皇と共に鳳凰ノ間において、参内朝見の儀に臨まれる。御前に参進の王より謝恩の言上をお受けになり、天皇の勅語に続き懿旨を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、皇族身分録、宮内省省報、官報
夕刻、御文庫にお出ましになる。この日、天皇と共に、初めて御文庫において御就寝になる。御文庫に二泊され、五日午前、天皇と共に奥宮殿に還御される。以後、この年は天皇と共に、しばしば土曜日・日曜日の両日に御文庫において御就寝になり、月曜日の朝に御常御殿に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

来る十六日、宝鏡寺において華林宮光嚴天皇皇女 五百五十年御忌・本覚院宮後西天皇皇女 二百年御忌・三磨地院宮光格天皇皇女

百年御忌御供養執行につき、この日、御供養料及び盛菓子を下賜される。○贈賜録

五日 月曜日 この日、天皇より家彦王に、臣籍降下の勅書の御親授があり、宇治の家名が下賜され、伯爵を授けられ、従四位に叙される。正午、天皇と共に竹ノ間において、宇治家彦、並びに故邦彦王妃倪子・朝融王妃知子女王・故多嘉王妃静子と午餐を御会食になり、宮内大臣始め側近奉仕者に御陪食を賜う。宇治伯爵家創立につき、故多嘉王妃に万那料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇族身分録、宣召録、宮内省省報、官報

侍従職日誌、侍従武官日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇族身分録、宣召録、宮内省省報、官報

六日 火曜日 夜、天皇及び雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子と共に、御文庫において映画を御覧になった後、この日初めて御文庫に参殿した雍仁親王妃に地下室を御案内になる。また、五方が退出する際に、一同に吹上御苑内のプールを御案内になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、秩父宮御日誌

七日 水曜日 午後、奥内謁見所において、出産後初参内の恒憲王妃敏子と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

八日 木曜日 午後、天皇と共に豊明殿において、今般離任帰国の満洲国特命全權大使李紹庚及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

九日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般戦地より帰還の元南西方面艦隊司令長官海軍中将高橋伊望に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午前十一時御出門、青山御殿に行啓される。正仁親王と御対面になり、去る四月より七月まで体調不良のところ今般快気につき、お祝品等を御贈進になる。御昼餐を御会食の後、親王が書いた帳面等を御覧になり、ついで皇子傳育官桑折英三郎始め供奉員等による模型飛行機落とし競走を御覧になる。その後、親王の案内にて各室を御覧になる。親王より献上の品を御覧になった後、午後三時五十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十一日 日曜日 午前、貴子内親王と共に、朝融王妃知子女王及び邦昭王御兄朝融王の第一王子と御対面になる。去る八日、八月の久邇宮邸火災につき皇后より邦昭王にお品の御贈進があったことについてのお礼言上

昭和十七年十月

をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

十四日 水曜日 午前、順徳天皇七百年式年祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。午後、天皇と共に御学問所において、第三高等学校教授兼京都帝国大学助教授中村直勝より順徳天皇の御事蹟について^の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、進講録、宮内省省報

十五日 木曜日 夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、内親王傳育掛長藤井種太郎に謁を賜い、成子内親王・和子内親王・厚子内親王の成績につき言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、藤井種太郎日誌

十六日 金曜日 別格官幣社靖国神社において臨時大祭挙行につき、午前十時三十五分御出門、同社に行啓され、本殿において御拝礼になる。十一時十分還啓される。これより先、同祭挙行につき、天皇・皇后より祭資を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十七日 土曜日 午前、神嘗祭につき、賢所において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

十八日 日曜日 午前、天皇及び皇太子・正仁親王・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に御文庫において、去る十六日に中支那より帰還の盛厚王と御対面になり、その後、午餐を御会食になる。午後、御文庫前の広芝において、皇太子の体調不良^{去る三月下旬より八月下旬まで}及び正仁親王の体調不良^{四月より七月まで}の全快祝いと^{して}運動会が催され、側近奉仕者を中心とする各種競技を御覧になる。宝探しには、天皇・皇后

も御参加になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、吳竹寮日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、宮内省省報

二十日 火曜日 午後、奥内謁見所において、大日本婦人会総裁の稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、同会発行の雑誌『日本婦人』創刊号の献上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、日本婦人

二十一日 水曜日 午前、奥御進講所において、宮内省御用掛穂積重遠去る七月二十日付にて拝命より「印度独立運動

について」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子が陪聴する。印度独立運動の変遷と前途等についてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積家文書

二十二日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般戦地より帰還の元第十一航空艦隊司令長官海軍中将塚原二四三に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。続いて、オーストラリア連邦より交換船にて帰国の特命全権公使河相達夫、エジプト国より帰国の特命全権公使鈴木九万に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

二十六日 月曜日 午前、奥内謁見所において、この日侍従武官を拝命の海軍少将中村俊久、及び前任の海軍中将鮫島具重に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官府資料、百武三郎日記

二十八日 水曜日 午前、宮内省御用掛穂積重遠より「じやがたら文」についての進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子が陪聴する。進講の内容は、この年六月発行の中田千畝著『南方外交史話』に基づき、キリスト教の禁止に伴う長崎・平戸の英蘭両国人とその妻子のじやがたらジャワ島パタビアへの追放、追放された娘の和歌についての紹介に及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人

昭和十七年十月

日誌、徳積家文書

午後、奥内謁見所において、昨二十七日戦地より凱旋の朝融王と御対面になり、挨拶をお受けになる。凱旋につき、天皇・皇后・皇太后より七種交魚・清酒を、皇后より御重の内を朝融王に御贈進になる。

また、皇后より故邦彦王妃倪子に鮮鯛料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

皇太后より電話にて、昨二十七日の南太平洋海戦大戦果発表につき祝詞をお受けになる。また、万那の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌

二十九日 木曜日 午前九時三十分宮城御出門、学習院初等科に行啓される。初等科門内の車寄において、皇太子始め皇族より奉迎をお受けになる。便殿において院長山梨勝之進に謁を賜い、学内状況についての言上をお聴きになる。ついで学生の成績品を御覧になった後、全学生参加の体操・行進を御覧になる。終わって、院長の先導にて各学年の教場を御巡覧になり、特に三年東組においては読み方を勉学中の皇太子の様子を御覧になる。その後、工作・音楽など各学年の教場を御巡覧になる。さらに運動場にお出ましになり、皇太子始め三年生の体操を御覧になる。終わって、皇族及び院長以下の奉送をお受けになって同院を御発、還啓の途次、東宮仮御所に行啓される。お庭において皇太子の帰還をお迎えになり、御昼餐を御会食になる。御食後、皇太子の乗馬の練習を御覧になる。ついで皇太子と共に馬車にてお庭を御一巡になる。午後三時五十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

三十日 金曜日 午前、天皇と共に内庭にお出ましになり、海軍中将高須四郎南西方面艦隊司令長官より献上の東印

度コモド島産のトカゲグレート・ドラゴン・オブ・コモド二匹を御覧になる。○侍従武官日誌、進献録、侍従武官城英一郎日記

日本赤十字社病院補助のため、この日、天皇・皇后より同社に金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

十一月

一日 日曜日 午前、天皇と共に、この日海軍少将に進級した朝融王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。天皇・皇后よりお悦びとして三種交魚を王に御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、皇親録、皇族身分録、重要雑録、贈賜録

二日 月曜日 午前十時三十分天皇と共に御出門、明治神宮に行啓され、天皇に続き、本殿において御拝礼になる。明治神宮貴賓館にて御昼餐を御会食の後、明治神宮外苑競技場における厚生省主催の第十三回明治神宮国民錬成大会に臨御される。大会名誉総裁崇仁親王の説明により、大会第五日の特別演練十三種目を御覧になる。午後三時五十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、皇族身分録、宮内省省報、官報

陸海軍病院に入院中の傷病将兵、及び軍事保護院施設に収容の傷痕軍人に対し、思召しをもって菊花
新宿御苑
産切り花千六百本を下賜される。○贈賜録

三日 火曜日 午前、明治節につき、天皇と共に御学問所において、雍仁親王妃勢津子始め皇族・王公族の拝賀を、続いて側近奉仕者総代の拝賀をお受けになる。皇太子・成子内親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王も加わって写真撮影に臨まれた後、奥御食堂において御昼餐を御会食になる。午後、天皇と共に奥御対面所において、旧女官園祥子・生源寺伊佐雄に謁を賜う。この年は明治天皇

崩御後三十年に当たるため、天皇と共に御学問所において、明治天皇の側近として奉仕した元侍従の日野西資博・松浦靖、元侍従武官の川島令次郎・有馬良橘・関野謙吉・高橋義章・奥村拓治より、「明治天皇ヲ偲ビ奉リテ」と題する談話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、秩父宮御日誌、宮内省省報、侍従武官城英一郎日記

四日 水曜日 午前、奥御進講所において、宮内省御用掛穂積重遠より『明治孝節録』と『幼学綱要』についての進講をお聴きになる。進講は、明治十年六月宮内省出版の『明治孝節録』と十五年十二月宮内省出版の『幼学綱要』の編纂経緯に及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

五日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元第四艦隊司令長官海軍中将井上成美に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

御風気につき、この日の夜より十八日の午前まで御仮床に就かれる。○女官長日記、女官日誌

六日 金曜日 大日本婦人会会長山内禎子より、この日、同会会歌のレコードの献上をお受けになる。

○女官長日記、日本婦人

伯爵清浦奎吾元内閣総理大臣 昨五日死去につき、この日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官入江相政

を同人邸に差し遣わされる。九日には、皇后宮使として皇后宮事務官小出英経を同人邸に差し遣わされ、花を賜い、焼香させられる。さらに、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。十日に築地本願寺において行われる葬送には、皇后宮使として皇后宮事務官岡部長章を差し遣わされ、焼香させられる。なお、去る四日、同人の病気に際して、天皇・皇后よりお尋ねとして侍医西野重孝を同人の別邸に差し遣わされる。また、葡萄酒を下賜される。○侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、恩賜録、重要雑録、

贈賜録、宮内省省報、官報

九日 月曜日 御風気のため、横須賀海軍病院への行啓をお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、省

中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十一日 水曜日 御風気のため、明治神宮外苑憲法記念館において開催の大日本婦人会第一回総会への行啓をお取りやめになり、御名代として故依仁親王妃周子を差し遣わされ、次の令旨を下される。

大日本婦人会第一回総会に際し諸員に告ぐ

今や征戦六年に及び愈々挙国一致の態勢を堅くすへきの秋全国婦人を結集せる本会の組織成り本日総会を開くに至りたるは深く満足する所なり

惟ふに戦の長期となるに従ひて婦人の任務は益々重きを加ふへし諸員宜しく協心戮力奉公の誠を効し以て婦人報国の使命を達成せんことを望む

○女官長日記、女官日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、日本婦人

十二日 木曜日 女子学習院常磐会において、翌十三日、戦傷病死した会員の夫・兄弟の慰霊祭を執行につき、この日、同会会員遺族に菓子を賜う。○贈賜録

二十日 金曜日 午前、奥内謁見所において、この日戦地より帰還の元支那方面艦隊司令長官海軍大將古賀峯一に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録

二十五日 水曜日 午前、奥御進講所において、宮内省御用掛穂積重遠より「五人組隣組と大東亜共栄圏」と題する進講をお聴きになる。崇仁親王妃百合子が陪聴する。内容は五人組・隣組成立の歴史の経緯と大東亜共栄圏への進出に及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積家文書

昭和十七年十一月

二十六日 木曜日 午前、奥内謁見所において、皇宮警視川越憲雄ほか新任の宮内高等官十三名に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内省省報

故邦憲王妃好子一周年祭につき、皇后宮使として、皇后宮事務官岡部長章を賀陽宮邸の権舎に、同小出英経を泉涌寺の墓所に差し遣わされ、それぞれ玉串をお供えになる。なお、天皇・皇后より靈前に盛菓子を、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、故邦憲王妃好子喪儀録、重要雜録、宮内省省報、官報

二十八日 土曜日 正仁親王の誕生日につき、正午、天皇と共に奥内謁見所において、宮内大臣始め側近奉仕者総代の拝賀を、続いて皇后宮女官長始め側近奉仕者一同の拝賀をお受けになる。親王は、風気のため参内を取りやめる。正午過ぎ、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に、お祝御膳をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、吳竹寮日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

二十九日 日曜日 午後、天皇及び皇太子・和子内親王・厚子内親王と共に表宮殿において、海軍大臣・陸軍大臣からの願い出により、大東亜戦争記録絵画を御覧になる。千種ノ間において海軍関係の絵画十六点を、ついで豊明殿において陸軍関係の絵画二十三点を、それぞれ侍従入江相政の説明により御覧になる。藤田嗣治「十二月八日の真珠湾」、有岡一郎「ジャワ沖海戦」、松坂康「ウエーキ島攻略戦（其ノ一）」「ウエーキ島（其ノ二）」以上、海軍
作戦記録画、宮本三郎「山下・パーシバル両司令官会見図」、山口蓬春「香港島最後の総攻撃図」、中村研一「コタ・バル」、川端龍子「荆棘に挑む」、小磯良平「カリジャヤイ会見図」以上、陸軍
作戦記録画等の作品が出陳される。皇太子・和子内親王・厚子内親王の退出後、天皇

と共にさらに戦争画を御覧になる。夕刻、御文庫に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、宮内省省報、昭和期美術展覧会出品目録戦前篇、入江相政日記、読売報知

十二月

一日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般第十八師団参謀長に転補の前侍従武官横山明^{陸軍大佐}及び新任の侍従武官清家武夫^{陸軍大佐}に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、侍従武官府資料

二日 水曜日 午前、宮内省御用掛穂積重遠より「大東亜戦争開始事情」と題する進講をお聴きになる。進講は、去る十一月二十六日の来栖三郎大使の講演に基づいて行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

夕刻、天皇と共に奥御対面所において、この日誕生日を迎えた崇仁親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

三日 木曜日 横須賀海軍病院に行啓される。午前十一時三十分御出門、東京駅より御乗車、横須賀駅にて御降車、午後一時同病院に御到着になる。便殿において海軍大臣嶋田繁太郎始め三十六名に謁を賜い、ついで海軍省医務局長田中肥後太郎・病院長高城喬よりそれぞれ言上をお聞きになる。また、横須賀鎮守府幕僚等に謁を賜う。その後、病院長の先導にて病院内を巡回され、御慰問になる。さらに患者食、傷兵の製作品、治療品等を御覧になる。二時四十分御発、四時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、官報

四日 金曜日 午後一時御出門、牛込区若松町の臨時東京第一陸軍病院に行啓される。御到着後、便

殿において陸軍大臣東条英機・陸軍省医務局長三木良英及び病院長代理に謁を賜い、三木医務局長・病院長代理より現今の傷兵についての言上をお聞きになり、その後、職員有資格者に謁を賜う。ついで病院長代理の先導にて各病室を巡覧され、御慰問のお言葉を賜う。続いて、陸軍戸山学校雨天体操場において義肢訓練を、同所の廊下において傷病兵製作品を御覧になる。二時四十五分病院を御発、隣接の陸軍軍医学校に行啓される。便殿において校長桃井直幹・陸軍軍医少将石福覚治に謁を賜い、桃井校長の言上をお聞きになる。ついで校長の先導にて病室を巡覧され、御慰問になる。続いて診療部前庭にお出ましになり、医療自動車等を御覧になる。この日、行啓に際し、陸軍大臣に次の令旨を賜い、奉答をお受けになる。

支那事変ニ引続キ大東亜戦争トナリ前古未曾有ノ大戦果ヲ挙ゲタガ其ノ間將兵ノ労苦ハ一ト通り
デハナカツタコトト思フ戦ニ殪レ傷キ又病ニ罹ツタ者ニ対シテハ誠ニ氣ノ毒ニ堪ヘナイ傷病者ハ
十分ニ労ハリ治療ニ手ヲ尽シテ再起御奉公ノ出来ル様努メラレン事ヲ望ミマス

四時二十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、陸
亜普

五日 土曜日 夕刻、沼津より皇太后還啓につき、御使として、皇后宮事務官入江相政を東京駅に、
皇后宮女官長保科武子を大宮御所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、行啓録、貞

明皇后実録正本

六日 日曜日 成子内親王の誕生日につき、午前、天皇及び同内親王と共に奥内謁見所において、宮
内大臣始め総代の拝賀を、ついで側近奉仕者一同の拝賀をお受けになる。続いて、元皇后宮女官津軽

理喜子・山岡淑子・川上民枝・青山元子・植村蒙子に謁を賜う。終わって、天皇及び成子内親王、並びに正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に、お祝御膳を御会食になる。帰嫁前最後の誕生日につき、午後、天皇及び貴子内親王と共に呉竹寮にお出ましになり、成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御団欒になり、成子内親王幼少時の活動写真を御覧になる。夕刻、御文庫に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

七日 月曜日 午前、奥内謁見所において、関東軍総司令官陸軍大将梅津美治郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

天皇と共に鳳凰ノ間において、この日賢所大前において成年式を済ませた邦寿王恒憲王第一王子の参内朝見の儀に臨まれる。御前に参進の王より謝恩の言上をお受けになり、天皇の勅語に続き懿旨を賜う。なお、恒憲王・同妃敏子より天皇・皇后に五種交魚の献上が、邦寿王より天皇・皇后それぞれに生鯛料の献上があり、また、天皇・皇后より邦寿王に、去る五日に金一封を、この日に酒・鮮鯛等の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、皇親録、皇族身分録、宮内省省報、官報

九日 水曜日 午前、宮内省御用掛穂積重遠より「大東亜建設の現況」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子が陪聴する。情報局編輯『週報』大東亜戦争一周年第一特輯十二月二日号に基づき、満洲国・支那・香港・フィリピン・ビルマ・マレー・スマトラ・ジャワ・北ボルネオ・セレベスその他の現状について学ばれる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積家文書

午後一時十五分御出門、大宮御所に行啓される。去る五日に沼津より還啓された皇太后の御機嫌をお伺いになる。また、皇太后に万那料・菓子・果物等を御贈進になる。四時十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十日 木曜日 午前、天皇と共に奥御対面所において、約一年ぶりに御参内の皇太后と御対面になる。

御昼餐を御会食になった後、皇太后とお二方にて吹上御苑にお出ましになり、プール・御文庫を御案内になる。その後、宮殿に還御され、成子内親王・和子内親王と御対面になる。皇太后は、皇后の夏季用の五衣・小袿等を御覧になった後、還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

省中日誌、貞明皇后美録正本、宮内省省報、官報

歳末に際し東京府下の官公私立団体が協力して貧窮病者救済のために診療を実施するに当たって、思召しをもって同府に金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報

十一日 金曜日 午前、成子内親王・和子内親王と共に、神宮御参拝のため京都府及び三重県に行啓される天皇をお見送りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌

富久子女王^{孚彦王第一王女} 初誕辰につき、天皇・皇后より孚彦王・同妃千賀子に万那代料を御贈進になる。○女

官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

十二日 土曜日 午前、内庭南芝生にお出ましになり、天皇の豊受大神宮御親拝の時刻に合わせて黙禱される。午後、再び内庭にお出ましになり、天皇の皇大神宮御親拝の時刻に合わせて黙禱される。

○女官長日記、女官日誌

この日、たびたび侍医頭八田善之進をお召しになり、昨十一日より高熱を発症の貴子内親王の容体を

お尋ねになる。また、内掌典に十七日間の祈願を御依頼になる。○女官長日記、女官日誌

十三日 日曜日 午前、侍医頭八田善之進より貴子内親王の容体をお聴きになる。その後も折々に同内親王の容体をお聴きになる。○女官日誌

夕刻、成子内親王・和子内親王と共に、神宮御親謁より還幸の天皇をお出迎えになり、奥宮殿において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、吳竹寮日誌、内舍人日誌

十四日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般戦地より帰還の元第三南遣艦隊司令長官海軍中将杉山六蔵に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、天皇と共に奥内謁見所において、盛厚王と御対面になり、関西より還幸の祝詞言上、貴子内親王の病氣見舞い、及び去る十二日の自身の陸軍大学校入学についてのお礼言上をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇族身分録

十五日 火曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、今般近衛歩兵第五聯隊付として出征する邦寿王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇族身分録

夕刻、賢所御神楽につき、皇后宮女官内山はるに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

十六日 水曜日 午前、奥御進講所において、宮内省御用掛穂積重遠より「赤穂義士の風流」と題する進講をお聴きになる。去る十四日の赤穂義士祭にちなみ、義士の詠歌・俳句・漢詩についてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十一日 月曜日 日本赤十字社中央病院救助患者治療費補助のため金一封を下賜される。また向寒

昭和十七年十二月

に際し、同社本部及び地方の各病院等における救助收容患者三百七十八名、恩賜財団済生会病院救助收容患者一千五百五名、東京慈恵会医院救助收容患者八十八名、財団法人福田会育児院收容者百六十名に対し、思召しをもつてお品物料として金一封を下賜される。○贈賜録、恩賜録、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

二十二日 火曜日 午後、桐ノ間において、今般着任の満洲国特命全權大使王允卿及び同夫人、随員の大使館参事官山梨武夫・同夫人ほか十名に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

二十三日 水曜日 皇太子の誕生日につき、午前、奥内謁見所において、鳩彦王始め皇族・公族の拝賀を、ついで側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。天皇は御風気のためお出ましにならず、皇后お一方にて拝賀をお受けになる。また、元皇后宮女官津軽理喜子・青山元子・植村蒙子・川上民枝に謁を賜い、祝詞の言上をお受けになる。夕刻、天皇と共に奥御食堂において、成子内親王・和子内親王・厚子内親王とお祝御膳を御会食になる。皇太子は、風気のため参内を取りやめる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌、内舎人日誌

二十四日 木曜日 午前九時十分御出門、多摩陵^{大正天}_{皇陵}に行啓され、御参拝になる。午後零時四十九分還啓される。天皇は、御風気のため行幸をお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、

宮内省省報、官報

二十六日 土曜日 午前、奥内謁見所において、雍仁親王妃勢津子と御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。午後、この日誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になり、鮮鯛拝領について

のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

この年二月一日南洋庁管下のヤルート島において敵飛行機の空襲により死者発生につき、この日、天皇・皇后より同庁に御救恤として金一封を下賜される。また、敵潜水艦の襲撃により帝国船舶株式会社所有船帝安丸^{一月十九日}・大阪商船株式会社所有船がんどす丸^{五月二十七}・伊藤市太郎所有船第三伊藤丸^{六月三日}・明治海運株式会社所有船明和丸^{八月一日}・小畑寿平所有船美洋丸^{八月三十一日}において死者発生につき、天皇・皇后より逋信大臣に御救恤として金一封を下賜される。さらに、九月二十五日敵潜水艦の襲撃により岩手県下閉伊郡重茂村沖合において漁船に死者発生につき、天皇・皇后より岩手県に御救恤として金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十八日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元海南警備府司令長官海軍中将砂川兼雄に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

天皇と共に奥御対面所において、皇太后と御対面になり、歳末の御挨拶を交わされる。ついで御昼餐を御会食になる。御食後、成子内親王・和子内親王・厚子内親王も加わり、御一緒にお過ごしになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報
二十九日 火曜日 歳末につき、午前、天皇と共に奥内謁見所において、宮内大臣・内大臣・侍従長始め総代、及び側近奉仕者一同より祝詞言上をお受けになる。ついで故依仁親王妃周子始め皇族・王公族より祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

午前十一時天皇と共に御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御昼餐を御会食になる。午後二時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后

昭和十七年十二月

実録正本、宮内省省報、官報

三十日 水曜日 歳末につき、午前、奥内謁見所において、朝融王・故邦彦王妃俣子と御対面になる。午後、天皇と共に奥御対面所において、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

三十一日 木曜日 午前、奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、歳末の挨拶をお受けになる。ついで天皇と共に奥御食堂において、歳末につき参内した成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、吳竹寮日誌

午後、奥内謁見所において、皇太后御使の皇太后宮職御用掛正親町鍾子に謁を賜い、歳末の祝詞言上をお受けになる。これに対し、天皇・皇后の御使として皇后宮職御用掛竹屋志計子を大宮御所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

昭和十八年（西曆一九四三年）

四十歳

一月

一日 金曜日 午前、天皇と共に奥御食堂において、御朝餐に野戦兵食料理をお召し上がりになる。御食後、天皇と共に皇族休所において、成子内親王・厚子内親王と順次御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになる。皇后は御不例のため、拝賀にはお出ましにならず、午後より御仮床に就かれる。以後も断続的に御仮床に就かれる。御夕餐は、天皇と共にお祝御膳をお召し上がりになる。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、儀式録、供御日録

三日 日曜日 午前、元始祭につき、皇后宮女官東貞子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

四日 月曜日 正午過ぎ、成子内親王・和子内親王・厚子内親王参内につき、御仮床にて御対面になる。以後、この年も、皇太子始め皇子女と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌

五日 火曜日 午前、皇太子参内につき、天皇と共に新年の祝詞言上をお受けになり、成子内親王・和子内親王・厚子内親王を交えてお祝御膳を御会食になる。皇太子は、翌六日より沼津御用邸東邸に転地する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、宮内省省報

六日 水曜日 午前、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、ついで奥

昭和十八年一月

御食堂においてお祝御膳を御会食になる。午後、天皇・皇太后と共に奥御対面所において、成子内親王・和子内親王・厚子内親王を交えて御団欒になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

侍従武官日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、幸啓録、重要雜録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

天皇と共に奥御食堂において、近く支那派遣軍参謀として出征する崇仁親王のため、内宴を催され、成子内親王・雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子と支那料理の御夕餐を御会食になる。引き続き、「日本ニュース」等の映画を御覧になる。なお、この年もしばしば「日本ニュース」や時局関係の映画等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍

従武官日誌、皇族身分録、秩父宮御日誌

八日 金曜日 この日より当分の間、天皇と共に、吹上御苑内に今般造営工事完了の御文庫において起居されることとなり、皇后は午前、天皇は正午過ぎにそれぞれ御文庫にお成りになる。天皇・皇后共に先日来御不例気味のため、本来ならば葉山などへ転地されるところを時局柄実施し得ず、次善の案として御文庫への御移転が決定する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、百武三郎日記、尾形健一大佐日記、日本防空史

十日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、崇仁親王と御対面になり、出征の挨拶をお受けになる。翌十一日、天皇・皇后より清酒及び御重の内を、皇后より菓子をそれぞれ御贈進になり、十三日の出発に際しては、天皇・皇后より御使として皇后宮大夫広幡忠隆を三笠宮邸に差し遣わされる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、皇族身分録、贈賜録

十五日 金曜日 この日、天皇・皇后より御使始として皇后宮女官万里小路ソデを大宮御所に差し遣

わされる。以後、この年も、皇后と皇太后との間で相互に御使の御差遣がある。○女官長日記、女官日誌

十七日 日曜日 午後、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に御文庫において、病氣回復の貴子内親王と約一箇月半ぶりに御対面になる。翌十八日より静岡興津の伊藤公爵別邸へ転地静養につき、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、呉

竹寮日誌

皇后宮女官万里小路ソデを大宮御所に差し遣わされ、今般御静養のため沼津御用邸を暫時借用の件につき、皇太后に御挨拶をお申し入れになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十一日 木曜日 午後、天皇と共に豊明殿において、今般離任のドイツ国特命全権大使オイゲン・オット及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官

日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

天皇と共に奥宮殿において、宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、寒中御機嫌伺いをお受けになる。以後、この年も皇族・王公族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌

内閣総理大臣東条英機病気につき、天皇・皇后よりお尋ねとして、この日より二十三日までスープを、二十四日より二十九日までアイスクリームを下賜される。○贈賜録

二十二日 金曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、講書始の儀に臨まれる。国書は東京帝國大学教授和辻哲郎より「心敬の連歌論に就て」、漢書は広島文理科大学名誉教授西晋一郎より「論語顔淵篇子貢問レ政の章」、洋書は帝国学士院会員本多光太郎より「特殊鋼に就て」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、儀式祭典録、

昭和十八年一月

宮内省省報、官報

午後、この日沼津より還啓の皇太子参内につき、天皇と共に奥宮殿において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内省省報

二十三日 土曜日 沼津御用邸に行啓される。午前九時二十五分御出門、沼津御用邸に御到着の際、西附属邸よりお出迎えの正仁親王と御対面になる。以後、御滞在中は断続的に御仮床に就かれる。また、西附属邸に滞在中の正仁親王と御一緒に過ごされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、幸啓録

二十八日 木曜日 午前、歌会始の儀が行われる。皇后は、沼津御滞在中のため御欠席になる。この年のお題は「農村新年」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

はけまなむ年をむかへてをみならもつまにかはりて田はたもるへく

○女官長日記、女官日誌、儀式録、宮内省省報、官報

木炭の不足に際し、この日、東京府下における育児・養老・産院・救療等の私設社会事業団体に対する特別の思召しをもって、皇后・皇太后より浴風会始め四十団体^{四貫}に木炭^{入り}千三百俵を下賜される。○恩賜録、貞明皇后実録正本

先般、中华民国江西省九江において敵飛行機の空襲により本邦人中に死者発生につき、天皇・皇后より御救恤金を大東亜大臣に下賜される。○省中日誌、恩賜録

三十日 土曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇后宮女官東貞子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長

日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

元侍従子爵松浦靖昨二十九日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。松浦は、明治四十四年より昭和二年まで侍従の職にあり、その後、宮内省御用掛を仰せ付けられ、昭和五年退職した。息女董子は、皇后の御兄久邇邦久と結婚した。○省中日誌、恩賜録、贈賜録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二月

四日 木曜日 この日、元内閣総理大臣陸軍大将林銑十郎死去につき、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官小倉庫次を同人邸に差し遣わされる。六日、皇后宮使として皇后宮事務官三井安弥を差し遣わされ、榊を賜い、玉串をお供えになる。七日に行われる葬送には、皇后宮使として皇后宮事務官小出英経を葬齋場^{青山齋場}に差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、去る一月二十五日、同人の病氣重体に際して、天皇・皇后よりお尋ねとして、侍医西野重孝を同人邸に差し遣わされ、また、葡萄酒を下賜される。○侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、恩賜録、重要雑録、贈賜録、宮内省省報、官報

五日 金曜日 午前、雍仁親王妃勢津子参邸につき、御座所において御対面になり、お見舞いをお受けになる。御昼餐を御会食の後、御一緒に西附属邸にお成りになり、正仁親王と御対面になる。東附属邸にお立ち寄りになった後、還御される。雍仁親王妃は、夕刻に退出する。○女官長日記、女官日誌

九日 火曜日 午前、今般聯合艦隊へ御差遣の侍従武官中村俊久参邸につき、謁を賜う。同人はこの月十一日出発、内南洋及び外南洋において状況を実視し、二十六日帰京、四月十七日復命する。○女官

昭和十八年二月

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従武官日誌、進退録、侍従武官府資料

十一日 木曜日 紀元節祭につき、皇后宮女官万里小路ソデに、賢所皇靈殿神殿の儀、及び皇靈殿御神楽の儀の御代拝を仰せ付けられる。御自身は御朝餐後、御椽先にお出ましになり、御遙拝になる。

ついで、御座所において側近奉仕者の拝賀をお受けになる。正午前、正仁親王参邸につき、御対面になり、お祝御膳を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

十九日 金曜日 午前九時三十五分沼津御用邸を御出門、午後零時五分頃宮城に還啓される。天皇と御対面の後、御一緒に御文庫に赴かれ、御昼餐を共にされる。夕刻、成子内親王・厚子内親王参殿につき、天皇と共に御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌、幸啓録

二十日 土曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、今般千葉陸軍戦車学校に転任のため北支方面より帰還の元北支那方面軍参謀李鍵公と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録、進献録

この日、大聖寺・宝鏡寺・曇華院・林丘寺・靈鑑寺・光照院・三時知恩寺・円照寺・水薬師寺・長福寺・中宮寺・瑞竜寺・善光寺・法華寺に乾海苔を下賜される。○贈賜録

二十七日 土曜日 午後、吳竹寮にお出ましになる。成子内親王・厚子内親王と御対面になり、厚子内親王の学習、安藤幸の指導による成子内親王のヴァイオリンの稽古、松平敏子の指導による同内親王の活け花の稽古を御覧になる。以後、土曜日を定例として吳竹寮にお出ましになり、内親王方の勉強やピアノを始め各種稽古を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、吳竹寮日誌

二十八日 日曜日 御文庫の工事のため、夜、天皇と共に御常御殿に還御され、暫時の間再び同所に

おいて起居されることとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌
この月 今次戦争関係の傷痍者五名に義眼又は義肢を下賜される。なお、傷痍者に対するこの年の義眼・義肢の下賜は十六回に及ぶ。○恩賜録

三月

一日 月曜日 午前、天皇と共に御座所において、和子内親王と御対面になり、病氣全快につきお礼言上をお受けになる。ついで奥御食堂において、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌

二日 火曜日 貴子内親王静岡県興津に滞在中の誕生日につき、午前、天皇と共に奥内謁見所において、宮内大臣・内大臣・宮内次官・侍従長ほか各総代、及び皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に奥御食堂において、成子内親王・和子内親王・厚子内親王とお祝御膳を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌

午前、天皇と共に奥内謁見所において、恒憲王・同妃敏子と御対面になる。昨日付で陸軍中将に進級し、留守第三師団長として名古屋へ赴任する恒憲王より、お礼言上と暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇親録、皇族身分録

奥内謁見所において、台湾の高砂緋桜を持参の鈴木タカ元侍女に謁を賜い、貴子内親王の誕生日の祝賀をお受けになる。午後、献上の高砂緋桜を御覧になり、日本画家跡見玉枝に写生させられる。○女官長日記、女官日誌

昭和十八年三月

三日 水曜日 御不例のため、御夕食後、御静養室に移られ、御仮床に就かれる。以後、この月二十三日までは御静養室において、二十三日より二十八日までは御休所において、それぞれ御静養になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

五日 金曜日 御不例のため、大宮御所への行啓をお取りやめになり、天皇のみ行幸される。この日、

皇后の御病気がジフテリアと診断される。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、幸啓録、重要雑録、百武三郎日記

六日 土曜日 満四十歳のお誕生日を迎えられる。

御静養中につき、皇后への拝賀その他の行事はお取りやめになる。御昼餐の際、皇后宮女官長始め一同より祝詞言上をお受けになり、お祝御膳をお召し上がりになる。この日、皇太后よりお祝品の御贈進があり、皇后宮大夫広幡忠隆を大宮御所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、重要雑録

全国における結核予防事業功労者のうち、三十年以上予防施設を経営、又は多年にわたり予防事業の思想普及に努めた者二名に御紋付木盃と金一封を、三十年以上結核予防の実務に従事し献身的に努力精励した医師・看護婦等九名に白羽二重と金一封を、それぞれ思召しをもって下賜される。○恩賜録、

贈賜録

七日 日曜日 御静養中につき、この日の厚子内親王の誕生日の拝賀はお受けにならず、御仮床において皇后宮女官長より祝詞言上をお受けになり、お祝御膳の御昼餐をお召し上がりになる。○女官長日

記、女官日誌、侍従職日誌

八日 月曜日 昌子内親王三年式年祭につき、天皇・皇后の御使として皇后宮女官万里小路ソデを靈

殿及び墓所にそれぞれ差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。なお、天皇・皇后より靈殿に盛菓子
を、墓所に榊を、皇后より写真に菓子・切り花をそれぞれお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日
誌、典式録

十八日 木曜日 昨年十二月二日ビルマのラシオにおいて敵飛行機の空襲により本邦人中に死者発生
につき、この日、天皇・皇后より陸軍大臣に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十二日 月曜日 去る六日北海道虻田郡倶知安町において映画館の出火により多数の死傷者発生に
つき、この日、天皇・皇后より北海道庁に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十九日 月曜日 午前、御静養中につき、女子学習院卒業式に雍仁親王妃勢津子を御差遣になる。

この日成子内親王中等科卒業、和子内親王中等科一年修了、厚子内親王初等科卒業につき、皇后宮大
夫始め側近奉仕者より祝詞言上をお受けになる。

午後、故邦彦王妃倪子^母・朝融王妃知子女王、皇太后御使の皇太后宮職御用掛正親町鍾子が参内し、

成子内親王卒業の祝詞を申し入れ、お祝品を御贈進になるとともに、この日御床払いの祝詞を申し入
れる。また、宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子、故成久王妃房子内親王も参内し、御機嫌伺い並
びに成子内親王卒業の祝詞を申し入れる。いずれも御対面はなく、御休所において側近奉仕者を通じ
て祝詞をお聞きになる。また、成子内親王御使も兼ねて皇后宮女官万里小路ソデを大宮御所に差し遣
わされ、成子内親王卒業のお礼をお申し入れになり、五種交魚代料その他を御贈進になる。

この日御床払いにつき、夕刻、約四週間ぶりに御常御殿に戻られ、天皇と御対面になり、御全快のお
礼をお申し入れになる。ついで、天皇と共に御座所において、卒業証書を携えた成子内親王、及び和

昭和十八年四月

子内親王・厚子内親王と御対面になり、卒業のお礼並びに御床払いの祝詞言上をお受けになる。続いて天皇及び三内親王と共に奥内謁見所において、盛厚王と御対面になり、成子内親王卒業の祝詞言上とお祝品をお受けになる。その後、御座所に伺候の側近奉仕者一同より、御床払い及び成子内親王卒業の祝詞言上をお受けになる。終わって、天皇及び三内親王と共に、成子内親王卒業のお祝御膳を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌、照宮御日誌、省中日誌、秩父宮御日誌、皇親録、宮内省省報、官報

三十日 火曜日 午前、御使として皇后宮女官長保科武子を大宮御所に差し遣わされ、御床払いにつきお礼を述べられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

三十一日 水曜日 夕刻、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に、御床払いのお祝御膳を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌

四月

一日 木曜日 午後、今般模様替え工事完了の御文庫にお移りになり、この日より再び天皇と起居を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、百武三郎日記、小倉庫次侍従日記

三日 土曜日 午前、神武天皇祭につき、皇后宮女官東貞子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

午後、奥宮殿において、雛祭りの茶会を催される。この年は、成子内親王・厚子内親王卒業につき、女子学習院卒業式後に雛人形の飾り付けをしたため、この日に催されることとなる。奥内謁見所にお

いて、成子内親王・和子内親王・厚子内親王に続き、故邦彦王妃倪子、三条西淑子・同味子・同洋子・同澄子以上、御妹三条西信子の息女と御対面になり、ついで別室において、御一緒に雛人形を御覧になる。その後、奥内謁見所において、伯爵大谷光暢・同夫人智子御妹に謁を賜い、伯爵より忌明け父大谷光演去る二月六日死去につきお礼言上をお受けになる。伯爵夫妻の退出後、故邦彦王妃を皇族休所次ノ間に御案内になり、同所において三内親王及び三条西の四息女によるピアノの演奏をお聴きになる。ついで大谷智子及びその息女の美都子・須美子参内につき、雛人形を披露され、御会食になり、夕刻まで一同と共に過ごしになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、呉竹寮日誌

六日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般皇太后宮職御用掛を退官の正親町鍾子に謁を賜う。

同人に対し、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録

午後、天皇と共に奥内謁見所において、この日成年式を挙行の徳彦王御父邦彦王の弟多嘉王の第三王子、及び故多嘉王妃静子と御対面になり、お礼言上をお受けになる。午前に行われた参内朝見の儀には、御静養期間中の決定により皇后はお出ましをお取りやめになる。天皇・皇后より徳彦王に、お祝いとして酒・鮮鯛を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、儀式録、皇親録、皇族身分録、宮内省省報、

官報

十日 土曜日 午後、天皇と共に呉竹寮にお出ましになり、成子内親王の女子学習院中等科卒業奉祝の催事に臨まれる。天皇と共に成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面の後、日本画家川合玉堂による席画を御覧になり、三内親王による独唱・独奏・合唱・合奏等をお聴きになる。ついで天皇

昭和十八年四月

及び三内親王と共に運動場入口にお出ましになり、侍従長始め側近奉仕者等より祝詞言上をお受けになつた後、庭の模擬店をお巡りになる。また、一同にくじによる賞品を賜い、夕刻までお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、照宮御日誌、呉竹寮日誌

今般、大日本産業報国会中央本部において、戦時下生産増強に挺身し職域に殉じた全国産業人の慰霊祭を執行するに当たり、天皇・皇后より祭料を下賜される。○省中日誌、恩賜録、贈賜録

十三日 火曜日 午後、呉竹寮にお出ましになり、お招きにより参寮の稔彦王妃聡子内親王より、成子内親王の女子学習院中等科卒業につき祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌

十四日 水曜日 午前、呉竹寮にお出ましになり、成子内親王と共に、別当^{山階}工藤壮平より書道の進講をお聴きになる。以後、この年は土曜日を恒例として、同人より十五回にわたって進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌

十五日 木曜日 午後、宮殿において侍従武官坪島文雄に謁を賜い、先般第八方面軍へ御差遣につき復命をお聞きになる。坪島は、去る三月十六日出発、ソロモン群島・ビスマルク諸島及びニューギニア方面の状況を実視し、この月二日帰京する。引き続き、凱旋の元第八艦隊司令長官海軍中将三川軍一に謁を賜う。その際、御慰労のお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府資料

二十日 火曜日 午後、呉竹寮にお出ましになり、成子内親王と共に、皇室博物館監査官秋山光夫より美術史の進講をお聴きになる。以後、この年は、同人より七回にわたって進講をお聴きになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、吳竹寮日誌

二十一日 水曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のドイツ国特命全權大使ハインリッヒ・スターマー及び同夫人、並びに随員の大使館参事官エーリッヒ・ボルツェ及び同夫人ほか二十名に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

二十二日 木曜日 午前、吳竹寮にお出ましになり、成子内親王と共に、御歌所寄人鳥野幸次より和歌の進講をお聴きになる。以後、この年は、同人より四回にわたって進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、吳竹寮日誌

先般、敵潜水艦の襲撃により南洋海運株式会社所有船日昌丸ほか七隻において死者発生につき、この日、天皇・皇后より逋信大臣に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十三日 金曜日 午後、天皇と共に豊明殿において、今般帰国の中華民國特命全權大使徐良のため、送別の午餐をお催しになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

先般鹿児島県薩摩郡下甕村沖合において敵機雷により漁船が沈没、死者発生につき、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。またこの月上旬、長崎県北松浦郡鷹島村沖合において風浪のため渡海船が沈没、多数の死者・行方不明者発生につき、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十四日 土曜日 別格官幣社靖国神社において臨時大祭挙行につき、午前十時三十五分御出門、同社に行啓され、御参拝になる。十一時五分還啓される。なお、臨時大祭挙行につき、天皇・皇后より

昭和十八年四月

同社に祭資を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

二十六日 月曜日 午前、宮殿において、東京帝国大学教授板沢武雄より、明治史についての進講をお聴きになる。以後、この年は、同人より十五回にわたって進講をお聴きになり、主に明治史について学ばれる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、京都在住華族総代として御機嫌伺いのため参内の子爵慈光寺愛仲に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

去る四月中旬中華民国河北省井陘県微水駅前において敵襲により本邦人中に死者発生につき、この日、天皇・皇后より陸軍大臣に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十八日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より「昭和十八年度予算について」と題する進講をお聴きになる。崇仁親王妃百合子が陪聴する。「決戦生活」によって積まれた「決戦貯蓄」をもつて「決戦財政」を賄うべきである旨をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積家文書

二十九日 木曜日 天長節につき、午前、皇太后宮御休所において、皇族・王公族、宮内大臣以下の代表、側近奉仕者の拝賀を、ついで百武まち子侍従長百武三郎夫人の拝賀をお受けになる。その後、再び皇太后宮御休所において、皇后宮女官長始め皇后宮女官の拝賀をお受けになる。また、天皇と共に、正仁親王の拝賀をお受けになり、御一緒に祝御膳をお召し上がりになる。夕刻、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に申ノ口にお出ましになり、側近奉仕者への賜茶に臨まれる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、儀式録

五月

三日 月曜日 午前、宮殿において、東京帝国大学教授板沢武雄より、明治史のうち「祭政一致・神仏分離」の進講をお聴きになる。十日にも、「祭政一致・神仏分離」の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

四日 火曜日 午前、奥内謁見所において、侍従武官佐藤治三郎に謁を賜い、先般南西方面艦隊へ御差遣につき復命をお聞きになる。佐藤は、三月十六日出発、フィリピン・東インド諸島・仏領インドシナ・ビルマ・アンダマン諸島に赴き状況を実視し、四月二十一日帰京する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、進退録、侍従武官府資料

五日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より、「軍人援護について」と題する進講をお聴きになる。崇仁親王妃百合子が陪聴する。内容は、軍人扶助法の改正、傷痍軍人の保護、軍人家族・遺族の相談指導等にわたる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

午後、呉竹寮にお出ましになり、成子内親王と御対面後、旧本丸跡馬場の御馬見所に先着され、天覧馬術に臨御の天皇をお出迎えになる。陪観の皇族・王公族と御対面後、在京官衙・学校在職者のうち乗馬を有する佐官以上、及び陸軍各学校より選抜された佐尉官による馬術を御覧になる。終わって天皇の入御をお見送りになり、呉竹寮において和子内親王・厚子内親王と御対面の後、御文庫に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、呉竹寮日誌、幸啓録、重要雑録

六日 木曜日 日本赤十字社第五十一回通常総会に臨御のため、午前十時御出門、憲法記念館に行啓される。便殿において故依仁親王妃周子始め皇族・王公族と御対面になり、また内務大臣安藤紀三郎

昭和十八年五月

以下に謁を賜う。ついで、社長徳川圀順より書類の奉呈と社業の現況についての言上をお受けになり、理事以下に謁を賜う。その後、式場に臨御され、次の令旨を賜う。

茲に日本赤十字社第五十一回総会に臨み各員に告ぐ

本社か総裁以下不断の努力に依り年を逐うて其の基礎愈々鞏固を加へ其の事業益々充実發展せるは深く欣ぶ所なり

大東亜戦争の進展に伴ひ戦線に亦銃後に本社の活動に俟つ大なるものあるへし

各員宜しく現下時局の重大なるに鑑み一致協力本社使命の達成に邁進せんことを望む

ついで総裁載仁親王より奉答をお受けになる。終わって、十一時三十分還啓される。その後、お礼言上のため参内の載仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史稿

七日 金曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛加藤虎之亮より漢文の進講をお聴きになる。『中庸』について解説をお聴きになる。以後、この年は金曜日を定例として、同人より十回にわたって漢文の進講をお聴きになり、『中庸』について学ばれる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、加藤虎之亮関係資料
奥内謁見所において、今般中華民國へ赴任の特命全權大使谷正之に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拜録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において宣仁親王妃喜久子と御対面になり、病氣中のお見舞いについてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十日 月曜日 午前、御養蚕始の儀が行われる。皇后はお出ましにならないこととされる。○女官長日記

記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌

午後、静岡県興津より帰京の貴子内親王と御対面になる。○女官長日記、侍従職日誌、内舍人日誌

十一日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌

都市・農山漁村の別なく保育施設の普及拡充を必要とする現状に鑑み、この日、全国各地における常設保育所の新設・拡張、及び季節保育所に対する事業御奨励の思召しをもって、厚生大臣に特に金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録

十二日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より「童心の育成と鍛錬」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。ついで、成子内親王・貴子内親王も交えて御昼餐を御会食になる。御食後、天皇・皇太后と共に、和服姿にて再び参内の成子内親王、及び和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面になる。その後、皇太后は、四内親王の案内にて皇子御座所の雛人形を御覧になり、御退出になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

吳竹寮日誌、省中日誌、幸啓録、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十三日 木曜日 午前、奥御進講所において、野口幽香<sup>元女子学
習院教授</sup>より、昨年に続き第四回の進講をお聴

きになる。この日は「個々の使命」と題して、昨年よりこの年に至る一年間の世相の推移について、また、国民一同一億一心となつて滅私奉公に進むようになるのが望まれることについて、種々の実例を引いた話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、野口幽香関係文書

十四日 金曜日 午後、皇后宮職嘱託松井定克を召され、話をされる。以後、折に触れて、同人その

他をお相手に謡をされる。○女官日誌

十五日 土曜日 午前、天皇と共に宮殿において、成子内親王と御対面になり、盛厚王との結婚の儀の勅許につきお礼言上をお受けになる。その後、天皇及び成子内親王と共に皇太后宮御休所において、宮内大臣・内大臣始め側近奉仕者総代、並びに皇后宮女官等より祝詞言上をお受けになる。引き続き、天皇及び成子内親王と共に同所において、稔彦王・同妃聡子内親王よりお礼言上をお受けになった後、宣仁親王・同妃喜久子始め皇族・王公族より祝詞言上をお受けになる。ついで成子内親王・貴子内親王と共に奥内謁見所において、一同と共に祝酒・茶菓をお召し上がりになり、さらに先般退官の元皇太后宮職御用掛正親町鍾子に謁を賜う。その後、お一方にて伯爵三条西実義に謁を賜い、去る十三日の公正の夫人信子^{御妹}への賜物につき、お礼言上をお受けになる。さらに天皇及び成子内親王と共に奥内謁見所において、元皇后宮大夫河井弥八ほかの元側近奉仕者の拝賀をお受けになる。また、天皇と共に皇太后御使の権典侍清水谷英子の拝賀をお受けになり、天皇・皇后より御使として皇后宮職御用掛竹屋志計子を大宮御所に差し遣わされる。その際、御使を通じて、天皇・皇后と皇太后との間でお祝品が取り交わされる。また、天皇・皇后より御使として皇后宮事務官小出英経を東久邇宮邸に差し遣わされ、東久邇宮及び盛厚王にお祝いの品を御贈進になる。

午後、和子内親王^{厚子内親王は同級生風疹のため遠慮}参内につき、天皇・成子内親王と共に御対面になり、祝詞言上をお受け

になる。夕刻、天皇及び成子内親王と共に奥内謁見所において、^{軍務のため夕刻の参内となる}盛厚王と御対面になり、

結婚の勅許につきお礼言上をお受けになり、ついで侯爵栗田彰常^{稔彦王第三王子}より祝詞言上をお受けになる。

天皇及び成子内親王・貴子内親王と共に奥御食堂において、お祝御膳の御夕餐を御会食になる。

この日、皇后宮事務官入江相政を多摩陵^{大正天皇}に差し遣わされ、天皇・皇后の御代拝を仰せ付けられる。

また、十七日には、満洲国皇帝溥儀より天皇・皇后に祝電が寄せられる。これに対し十八日、天皇・

皇后より答電をお送りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、

照宮御日誌、吳竹寮日誌、重要雜録、照宮御婚儀録、盛厚王殿下成子内親王殿下と御結婚の件、外交慶弔録、貞明皇后実録正本、宮

内省省報、官報

十七日 月曜日 午前、宮殿において、元皇后宮女官の山岡淑子、青山元子、植村蒙子、津軽理喜子

に謁を賜い、成子内親王の結婚勅許につき祝詞言上をお受けになる。ついで侍医を拝命の小原辰三及

び式部職御用掛^{支那語通訳}を拝命の林出賢次郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、宮内省省報、官報

午後一時十五分御出門、この年初めて大宮御所に行啓される。先般皇太后の御依頼により御制作の絵

画その他を御贈進になる。四時十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮

内省省報、官報

十八日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

今般、皇后の内旨を奉じ、皇族妃・王公族妃が決戦体勢下における地方民の活動状況、特に戦力増強

に協力奉公する女性の活動状況並びに施設^{季節託児所、母子保健、乳幼児保護施設、健康相談施設、産院、方面事業・共同炊事・共同栄養施設、遺家族授産施設、統後奉公施設、学生生徒の勞力奉仕等}を視

察するため、この月中旬より十一月中旬に至る間、逐次地方に旅行することとなる。この日参内の故

依仁親王妃周子と御対面になり、来る二十二日富山・石川・福井三県下の視察旅行^{三十一日まで}へ出発につき

暇乞いをお受けになる。また、翌々二十日より二十三日までは雍仁親王妃勢津子が静岡県下の視察旅行を実施する。ついで六月には稔彦王妃聡子内親王が宮城・福島両県下一日出發、九日歸京を、故永久王妃祥子が

埼玉県下三日、七日、八日及び群馬県下二十二日より、二十四日までを、故成久王妃房子内親王が山形・秋田両県下十日出發、十八日歸京を、朝融

王妃知子女王が千葉県下十日より、十一日・茨城県下十五日より、十七日までを、恒憲王妃敏子が愛知県下十四日より、十八日までを、守正王妃

伊都子・李鍵公妃誠子が兵庫・鳥取両県下十三日出發、十九日歸京を、雍仁親王妃が神奈川県下十四日より、十六日までを、李王垠

妃方子女王・李鐫公妃贊珠が北海道十四日出發、二十三日歸京を、故博義王妃朝子が奈良県並びに大阪府下二十日出發、二十八日歸京を、

故邦彦王妃倪子が佐賀・福岡両県下二十二日出發、七月三日歸京を、故多嘉王妃静子が鹿児島・宮崎両県下二十四日歸京、七月二日歸京

を、十一月には守正王妃伊都子が滋賀県並びに京都府下三日出發、十一日歸京を、恒憲王妃敏子が岡山・広島両県下

五日名古屋出發、十二日名古屋歸着を、宣仁親王妃喜久子が香川・愛媛両県下七日出發、十五日歸京をそれぞれ視察する。○女官長日記、女官

日誌、侍従職日誌、省中日誌、御下賜金関係書類、皇親録、宮内省省報

午後一時五十分御出門、東京慈恵会において挙行の同会総会に行啓される。また、東京慈恵会医院においてレントゲン装置、間接撮影装置を御覧になり、教授樋口助弘より「レントゲン写真診断法」と題して、単純撮影・造影剤撮影等についての説明をお聴きになる。三時十分還啓される。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、東京慈恵会医科大学百年史

十九日 水曜日 午前九時二十五分御出門、京橋区の東京市特別衛生地区保健館に行啓される。便殿に入御され、東京府知事松村光磨・東京市長岸本綾夫・館長斎藤潔に謁を賜い、府知事より府内の一

般状況を、市長より保健館の概要をお聞きになる。ついで、館長の先導にて保健婦指導室を始め四室を御巡覧になる。それより豊島区の財団法人東京府授産協会豊島授産場に行啓される。便殿において場長福岡やす・警視総監薄田美朝に謁を賜い、場長より場内の状況をお聞きになり、場長の先導にて動力ミシン裁縫室を始め六室を御巡覧になる。終わって、玄関横において、警視総監の説明にて隣組防空群による防空訓練を御覧になる。正午、王子区の東京第一陸軍造兵廠に行啓される。便殿において陸軍大臣東条英機以下の五名に謁を賜い、陸軍大臣より陸軍作業庁の全般につきお聞きになり、造兵廠長陸軍少将杉浦辰雄より廠内の状況につき言上をお受けになる。御昼餐後、廠長の先導・説明にて電気工場を始め保育所その他三工場を御巡覧になる。その後、板橋区の凸版印刷株式会社板橋工場に向かわれる。便殿において社長井上源之丞に謁を賜い、言上をお受けになる。それより工場内の平版印刷室を始め十二室を巡覧される。また、中学校・女学校・女子青年団の勤労報国隊による作業を御覧になる。午後三時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、宮

内省省報、官報

二十一日 金曜日 午前、桐ノ間において、今般着任の中華民國特命全權大使蔡培、随員の大使館参事官謝祖元ほか十名に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、

宮内省省報、官報

二十二日 土曜日 昨二十一日大本営より聯合艦隊司令長官海軍大将山本五十六の戦死が発表され、この日、弔問のため、皇后宮事務官三井安弥を同人邸に差し遣わされる。二十四日には、天皇・皇后より盛菓子を、皇后より花を靈前にお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、

昭和十八年五月

山本五十六国葬録、宮内省省報、官報

二十三日 日曜日 今般滿洲より上京の春仁王妃直子参内につき、御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十四日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般新任の宮内事務官青島健一郎ほか八名に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十五日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十六日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より、「日華国交の新展開」と題する進講をお聴きになる。同人より、昭和十三年十二月二十二日発表の近衛三原則以来の日華関係の推移につきお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

この日、神宮外苑において女子学習院春季体操会開催につき、皇后宮女官東貞子・同伊達璋子を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、呉竹寮日誌

二十七日 木曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、この日退官の内親王傳育掛名取はなに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、呉竹寮日誌、進退録、贈賜録

二十九日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元第三航空軍司令官陸軍中将菅原道大に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、菅原道大陣中日誌

午後、奥内謁見所において、稔彦王妃聡子内親王と御対面になる。決戦体勢下における地方民の活動状況視察の内旨を奉じて翌月一日宮城・福島両県下の旅行へ出発するに当たり、挨拶をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、御下賜金関係書類、皇親録、宮内省省報

夜、天皇と共に御文庫において、株式会社三越より帝室博物館に寄贈された日本画を御覧になる。これらの日本画は、昨年、三越日本橋本店及び大阪店において、日本画家報国会により軍用機献納のための作品展覧会が開催された際に、三越が横山大観始め画家百九十名の全作品を購入して帝室博物館に寄贈したもので、この年四月、東京帝室博物館表慶館にて開催された展覧会において展示された。

なお、日本画家報国会は、三越の購入による画代全額を陸海軍に献金した。○女官日誌、侍従日誌、東京国立博物館百年史、株式会社三越一〇〇年の記録、三越美術部一〇〇年史

三十日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、南京方面への出張より帰還した崇仁親王と御対面になり、挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、皇族旅行録

午後、天皇及び皇太子・正仁親王・成子内親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、

宮内省省報

三十一日 月曜日 午前、宮殿において、東京帝国大学教授板沢武雄より小笠原島・台湾の歴史についての進講をお聴きになる。○女官日誌、侍従職日誌

この月 来る六月三日、国技館において、東京慈恵会が出征軍人遺家族・患者の救済、保健衛生地区設置資金募集、及び白衣勇士慰安のため慈善大相撲を興行するに当たり、御補助の思召しをもって金一封を同会に下賜される。○贈賜録

六月

二日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より「大田垣蓮月につきて」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子が陪聴する。同人より尼僧・歌人大田垣蓮月の履歴とその和歌についてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

四日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰ノ間において、今般臣籍に降下する徳彦王の参内朝見の儀に臨まれる。式中、御前に参進の王より謝恩の辞の言上をお受けになり、天皇の勅語に続き、懿旨を賜う。終わって、お一方にて奥内謁見所において、王よりお礼言上をお受けになる。なお、今般海軍少尉に任官の徳彦王に対し、去る一日お祝いとして天皇・皇后より鮮鯛を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、皇親録、宮内省省報、官報

御書齋において先般内親王傳育掛を退官の名取はなに謁を賜い、在職中のお礼言上をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録

午後、奥内謁見所において、この日誕生日を迎えた崇仁親王妃百合子と御対面になり、天皇・皇后からの鮮鯛代料拝領についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

この日、皇后宮使として皇后宮事務官岡部長章を故元帥海軍大将山本五十六の柩前水交社に差し遣わされ、祭糝料・榊を賜い、玉串をお供えになる。○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報、故元帥海軍大将

山本五十六葬儀書類

五日 土曜日 故元帥海軍大将山本五十六の国葬につき、終日、御文庫において静かにお過ごしになる。午前、ラジオにより国葬の模様をお聞きになる。皇后宮使として皇后宮事務官小出英経を日比谷

公園内の葬斎場に差し遣わされ、玉串をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、山本五十六国葬録、宮内省省報、官報、故元帥海軍大将山本五十六葬儀書類

六日 日曜日 午後、天皇及び皇太子・成子内親王・貴子内親王と共に、紅葉山方面を御散策になる。

途中より、内苑門内のお庭に先着の盛厚王も加わり、御一緒に紅葉山御養蚕所にお出ましになり、皇后宮事務官三井安弥の説明にて蚕を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌、省中日誌、宮内省省報

七日 月曜日 午前、宮殿において、東京帝国大学教授板沢武雄より、台湾・樺太民族についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、決戦体勢下における地方民の活動状況視察の内旨を奉じ、来る十日山形・秋田両県下の旅行へ出発につき挨拶をお受けになる。午後、奥内謁見所において、雍仁親王妃勢津子と御対面になり、同じく静岡県下の視察旅行五月二十日より二十三日までにつき復命をお受けになる。ついで参内の故依仁親王妃周子より、同じく福井・富山・石川三県下の視察旅行

五月二十二日より三十一日まで、六月三日帰京につき復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、御下賜金関係書類、皇親録、宮内省省報

正午過ぎ、天皇と共に竹ノ間において、この日臣籍に降下の伯爵龍田徳彦のための午餐に臨まれる。

なおこの日、徳彦王は情願により天皇より龍田の姓名を賜わり、華族に列せられた旨が宮内省より告示される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、宣召録、宮内省省報、官報

八日 火曜日 この日、軍務にて在京中の崇仁親王^{支那派遣軍参謀}が近く南京へ帰任のため、御文庫において御夕餐が催され、天皇及び成子内親王・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌

九日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より、「長岡の土風について」と題し、

故元帥海軍大将山本五十六の出身地についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

穂積家文書

十日 木曜日 午後、崇仁親王参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、南京へ帰任の暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇族旅行録
この日、春仁王妃直子が参内し、内旨を奉じて決戦体勢下における満洲地方における民情視察の旅に出発につき暇乞いを皇后宮女官長に申し入れる。○女官長日記、女官日誌

十一日 金曜日 午前、奥内謁見所において、守正王妃伊都子・李鍵公妃誠子と御対面になり、決戦体勢下における地方民の活動状況視察の内旨を奉じ、来る十三日兵庫・鳥取両県下の旅行へ出発の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、御下賜金関係書類、皇親録、宮内省省報

午後、お召しにより保科順子^{皇后宮女官長保科武子嗣子子爵保科光正夫人}及びその子息正興参内につき、吳竹寮より参内の成子内親王と共に奥内謁見所において、謁を賜う。ついで両名を貴子内親王の居所^{皇子御座所}に御案内になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌

十二日 土曜日 午前、李王垠妃方子女王・李錫公妃贇珠参内につき、奥内謁見所において御対面に

なり、決戦体勢下における地方民の活動状況視察の内旨を奉じ、来る十四日北海道方面の視察旅行へ出発につきお礼言上並びに御機嫌伺いをお受けになる。午後、稔彦王妃聡子内親王参内につき、奥内謁見所において御対面になり、同じく福島県・宮城両県下の視察旅行一日より九日までの復命をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、御下賜金関係書類、皇親録、宮内省省報

十四日 月曜日 午前、宮殿において、東京帝国大学教授板沢武雄より、明治史のうち朝鮮の歴史について進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。ついで御一緒に奥御食堂に移られ、成子内親王・貴子内親王、及びお招きの宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と共に御昼餐をお召し上がりになる。午後、天皇・皇太后及び両内親王・両妃と共に揃いにて紅葉山御養蚕所にお成りになり、養蚕の状況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、幸啓録、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十五日 火曜日 午前、奥内謁見所において、戦地より凱旋又は満洲より帰還の元第二飛行師団長陸軍中将寺本熊市、元第二十軍司令官陸軍中将関亀治、元第二十五軍司令官陸軍中将斎藤弥平太、元第三師団長陸軍中将高橋多賀二に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十六日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より「歐洲の形勢について」の進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子が陪聴する。独伊軍の北アフリカ放棄とその軍略的政治的的心理的影響を中心にお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積家文書

昭和十八年六月

十七日 木曜日 午後、宮殿において恒徳王と御対面になり、今般フィリピン・仏領インドシナ・ビルマ・スマトラ・ジャワ・ボルネオへ出張の暇乞い、併せて第二王女誕生に際してのお仕向けに對するお礼言上をお受けになる。一昨十五日竹田宮邸において恒徳王妃光子第二王女出産につき、昨日天皇・皇后より恒徳王・同妃に三種交魚を賜う。誕生した王女は、七夜に当たる二十一日、紀子のりこと命名される。命名当日に、天皇・皇后より恒徳王に白羽二重・酒・鮮鯛を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇族旅行録、皇親録、贈賜録、宮内省省報、官報

月曜会会員を代表して参内の木戸ツル内大臣木戸幸二夫人に謁を賜い、成子内親王の慶事につき恐悦の言上をお受けになる。その際、月曜会会員による制作品が献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十八日 金曜日 午前、奥御進講所において、野口幽香より第五回進講をお聴きになる。同人は、修養講話として、らい病院について言上する。○女官長日記、女官日誌、野口幽香関係文書

故邦彦王妃倪子参内につき、御書齋において御対面になり、今般内旨を奉じて決戦体勢下における福岡・佐賀両県下を視察六月二十一日より七月三日まで予定につき挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、御下賜金関係書類、皇親録、宮内省省報

二十一日 月曜日 多摩陵並びに東京府南多摩郡七生村に行啓される。午前十時御出門、原宿駅より御乗車、東浅川駅において御降車になる。陵所に着御され、御拝礼になる。御休所に戻られ、諸陵頭金田才平並びに扈従の宮内高等官に謁を賜う。御昼餐後、御休所を御発、東浅川駅より御乗車、日野駅において御降車になる。ついで自動車にて七生村信用購買販売利用組合に行啓される。便殿におい

て東京府知事松村光磨、七生村村長浜田恵治七生村信用購買
販売利用組合長に謁を賜い、知事・村長の言上をお聴きにな

る。終わって、村長の先導にて共同作業場・倉庫・醤油醸造所などを御巡覧になる。同組合の御視察後、三沢部落養魚池前において、村長より鮎の養魚状態についての説明を聴取され、給餌の様子等を御覧になる。それより農繁期共同炊事場に立ち寄られ、勤勞奉仕女子団員の作業を御覧になる。その後、御徒歩にて周囲の田畑における牛耕、田植え、麦刈り、桑条剥皮、螟虫駆除等の実況を御覧になる。途中特に奉拝の高齡者・戦死者遺族に御会釈になり、同部落落入口付近において自動車に召され、東京府拓務訓練所に到着される。便殿において所長阿部勇五郎に謁を賜い、開所以来の沿革、訓練方針等につき言上を聴取される。ついで所長の先導にて日輪廠舎・鶏舎・兎舎等を御巡覧、高台より牛・馬・山羊等の放牧場、構内の作業場における同所員女子青年団の作業を御遠望になる。終わって同所を御発、日野駅より御乗車、原宿駅にて御降車、四時六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

二十二日 火曜日 午後、宮殿において、皇后宮女官長保科武子・皇后宮職御用掛高木多都雄・皇后宮女官小倉満子に謁を賜い、今般成子内親王移居予定の新御殿の下検分のため御差遣の結果につき、復命をお聞きになる。○女官日誌

二十三日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より「第八十二帝国議会について」と題する進講をお聴きになる。同人より、去る十五日の成立から十九日の閉院までの臨時議会の経過につきお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

午後、参内の雍仁親王妃勢津子と御対面になり、内旨を奉じ、決戦体勢下における神奈川県下十四日より
十六日まで

昭和十八年六月

への視察旅行につき復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、御下賜金関係書類、皇親録、宮内省省報

この日午前、成子内親王が呉竹寮を出発し、麴町区三番町の御仮寓所宮内省五号官舎、旧鮎川義介邸で将来内大臣官舎とする予定で購入に転居するに当たり、皇太后に御挨拶のため皇后宮職御用掛竹屋志計子を大宮御所に、また、天皇・皇后より

内親王に万那料等を御贈進のため皇后宮女官万里小路ソデを御仮寓所に、それぞれ差し遣わされる。

午後、皇太后御使の掌侍高松千歳子に謁を賜う。夜、天皇と共に、移転後の成子内親王の様子を側近奉仕者よりお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、呉竹寮日誌、照宮御婚儀録

二十四日 木曜日 午前、故成久王妃房子内親王参内につき、奥内謁見所において御対面になり、内旨を奉じての山形・秋田両県下の視察旅行十日より十一日までにつき復命をお受けになる。その後、守正王妃伊都子・李鍵公妃誠子参内につき御対面になり、同じく兵庫・鳥取両県下の視察旅行十三日より十九日までにつき復命をお受けになる。午後、恒憲王妃敏子参内につき御対面になり、同じく愛知県下の視察旅行十四日より十八日まで

帰京の復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、御下賜金関係書類、皇親録、宮内省省報

二十五日 金曜日 午前・午後にわたり、先般各地方へ御差遣の皇族妃より奉呈された言上書等を御覧になる。○女官日誌

皇太后のお誕生日につき、天皇及び貴子内親王と共に御昼餐の際、側近奉仕高等官一同その他より祝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に御文庫において、御仮寓所に転居後初参内の成子内親王、及び

厚子内親王と御対面になり、祝賀をお受けになる。ついで御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、吳竹寮日誌、内舎人日誌

二十六日 土曜日 午後、奥内謁見所において、内旨を奉じての決戦体勢下における北海道方面の視察旅行より帰京十四日出発、二十三日帰京した李王垠妃方子女王・李謁公妃贅珠と御対面になり、復命をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、御下賜金関係書類、皇親録、宮内省省報

二十八日 月曜日 午前、宮殿において、東京帝国大学教授板沢武雄より、支那支配民族・満洲支配民族についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

昨年九月四日敵潜水艦の襲撃により台湾基隆の沖合において出漁中の漁船に死者発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤金を台湾総督府に下賜される。○省中日誌、恩賜録

三十日 水曜日 午前、奥御進講所において、宮内省御用掛穂積重遠より「頼山陽と其母」と題する進講をお聴きになる。成子内親王・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子が陪聴する。進講はこの年四月出版の吉川綾子著『頼山陽の母』に基づいて行われる。この日をもって夏季休講となる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積家文書

午後、奥内謁見所において、今般内旨を奉じて決戦体勢下における奈良県下並びに大阪府下を視察二十日までのの故博義王妃朝子と御対面になり、復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、御下賜金

関係書類、皇親録、宮内省省報

昭和十八年七月

七月

一日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般戦地より凱旋の元第六艦隊司令長官海軍中将侯爵小松輝久に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、百武三郎日記
午後、三越日本橋本店に陳列の軍人遺家族・傷痍軍人による製作品をお買上げのため、皇后宮女官二名を差し遣わされる。○女官長日記

二日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、糸繰りの作業を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

三日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

四日 日曜日 御夕餐後、天皇と共に御文庫において、この日南京から軍務にて帰還の崇仁親王より献上の台湾産の葉巻・香水・煙草、及び南京産の腊葉・粘菌を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、進献録

五日 月曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において、昨日南京より軍務にて帰還の崇仁親王と御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六日 火曜日 午前、奥内謁見所において参内の故永久王妃祥子と御対面になり、今般内旨を奉じて決戦体勢下における埼玉県下六月三・七・八日の三日間及び群馬県下六月二十二日より三日間への視察旅行につき復命をお受けになる。

午後、同所において朝融王妃知子女王と御対面になり、同じく内旨を奉じて決戦体勢下における千葉県下六月十日より三日間・茨城県下六月十五日より三日間への視察旅行につき復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、省中日誌、御下賜金関係書類、皇親録、宮内省省報

七日 水曜日 午後、申ノ口にお出ましになり、去る一日三越日本橋本店にて開催の傷痍軍人展覧会においてお買上げの品を御覧になる。その後、松屋よりの献上品の陳列などを御覧になる。○女官長日記、女官日誌

八日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般中支那方面より凱旋の元第百十六師団長陸軍中将武内俊二郎に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

天皇と共に奥内謁見所において、この日内親王傅育掛を拝命の牧滋に謁を賜う。牧は皇后宮大夫口達をもつて呉竹寮の勤務を命じられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌、進退録

九日 金曜日 午後、故邦彦王妃倪子参内につき、御書齋において御対面になり、今般内旨を奉じて決戦体勢下における福岡・佐賀両県下への視察旅行^{六月二十二日よ}り七月三日までの復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、御下賜金関係書類、皇親録、宮内省省報

十日 土曜日 御不例につき、午後、御文庫に戻られ、御仮床に就かれる。以後、暫時の期間、御静養になる。○女官長日記、女官日誌

この日、臨時皇后宮職御用掛有泉善三を特に召され、紅葉山御養蚕所御用を拝命以来三十五年間勤続につき、万那料等を賜う。○女官長日記

十二日 月曜日 去る六月二十四日より七月二日まで内旨を奉じて決戦体勢下における鹿児島・宮崎両県下へ視察旅行をした復命のため、午前、故多嘉王妃静子が参内する。御不例につき御対面はなく、皇后宮女官長に復命を聴取させられる。後刻、御文庫において、皇后宮女官長より報告をお聞きに

昭和十八年八月

る。またこの日、視察と復命に対する慰勞の思召しをもって、全国各地へ御差遣の皇族妃・王公族妃十三方を午餐にお招きになる。御不例につきお出ましはなく、皇后宮大夫・皇后宮女官長に御相伴を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、御下賜金関係書類、皇親録、宮内省省報

二十日 火曜日 跡見玉枝に宮城御苑内の桜花を写生させられたため、金一封を下賜される。○贈賜録

二十六日 月曜日 去る十五日、来島海峡において関西汽船株式会社所有汽船浦戸丸の遭難により死者・行方不明者多数発生につき、この日、天皇・皇后より逡信大臣に御救恤として金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十八日 水曜日 夜、御文庫において沼津より交代帰京の皇后宮女官伊地知ミキに謁を賜い、同地滞在中の皇太子の様子をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

三十日 金曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇后宮女官東貞子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長

日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

三十一日 土曜日 午前、宮殿において、野口幽香より第六回進講をお聴きになる。成子内親王が陪聴する。同人は、登山の教訓等について言上する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、野口幽香関係文書

八月

二日 月曜日 午前、崇仁親王妃百合子参内につき、奥内謁見所において御対面になり、崇仁親王の陸軍少佐昇任、及び翌日より滞在のため伊香保御用邸を拝借につきお礼言上をお受けになる。なお、

崇仁親王は本日付をもって陸軍少佐に昇任につき、天皇・皇后よりお祝いとして三種交魚代料を御贈

進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

三日 火曜日 今般愛媛・広島・山口・岡山各県下において豪雨被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として愛媛県、広島県、山口県、岡山県に金一封をそれぞれ下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省

省報、官報

五日 木曜日 午前、奥内謁見所において、出産後初参内の恒徳王妃光子と御対面になり、去る六月二十一日の紀子女王命名当日に天皇・皇后よりお祝品を恒徳王に下賜されたことについてのお礼言上をお受けになる。なお退出に際し、さらに万那料等を同妃に御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、贈賜録、宮内省省報、官報

今般台湾総督府管下において暴風雨の被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を同総督府に下賜される。また、朝鮮総督府管下において豪雨被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を同総督府に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

九日 月曜日 翌十日日光へ成子内親王出發につき、御文庫ベランダにおいて天皇と共に御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

日本画家跡見玉枝死去につき、この日、思召しをもって菓子を下賜される。○女官長日記、贈賜録

十四日 土曜日 午前、恒徳王参内につき、奥内謁見所において御対面になり、翌々日満洲へ赴任の暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十六日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元第二艦隊司令長官海軍大將近藤信竹、元第二遣支艦隊司令長官海軍中將原清に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

昭和十八年八月

十九日 木曜日 昨十八日、高輪南町御用邸において孚彦王妃千賀子が第一王子出産につき、この日、天皇・皇后より鳩彦王、及び孚彦王・同妃にそれぞれ三種交魚を御贈進になる。誕生した王子は、七夜に当たる二十四日、誠彦と命名される。命名当日に、天皇・皇后より孚彦王に白羽二重・酒・鮮鯛代料を、誠彦王に産衣を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、重要雜録、宮内省省報、官報

二十六日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元第一遣支艦隊司令長官海軍中将遠藤喜一に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

去る二十一日、南西太平洋方面へ出征中の海軍大尉伯爵伏見博英^{博恭王第四王子}が、セレベス島南部上空において敵機と交戦の際に、搭乗機の自爆により他の搭乗者と共に死去し、この日、海軍省より伏見宮に、同人の戦傷死が通知される。同人死去につき、この日、天皇・皇后より盛菓子を、皇后より盛花を賜い、また、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官岡部長章を同人邸に差し遣わされる。九月二十五日には、皇后より櫛を賜い、また特に天皇・皇后・皇太后より金員を遺族に賜う。同二十七に行われる葬送には、皇后宮使として皇后宮事務官三井安弥を葬斎場に差し遣わされ、玉串をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、恩賜録、皇族身分録、皇親録、御下賜金関係書類、宮内省省報、官報、博恭王殿下を偲び奉りて

二十七日 金曜日 夕刻、天皇と共に御文庫において、日光よりこの日帰京の成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になり、日光滞在中の模様をお聞きになる。ついで天皇及び三内親王と共に、ペランダにおいて御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、

呉竹寮日誌

三十日 月曜日 午前、奥内謁見所において、中支那方面へ御差遣の侍従武官山県有光に謁を賜い、支那派遣軍総司令官への令旨を下される。山県は、九月一日出発し、三日支那派遣軍総司令部において令旨を伝達した後、支那派遣軍の状況を実視し、十月一日に帰京、八日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従武官日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府資料、畑俊六日誌

九月

一日 水曜日 この日、先般戦死の第十八師団参謀長陸軍少将横山明^{元侍従武官}に対し、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお後日、天皇・皇后より盛菓子を、皇后より盛花を下賜される。○省中日誌、恩賜録、贈賜録、侍従武官府資料、宮内省省報、官報

四日 土曜日 御文庫において土曜定例御相伴後、宣仁親王より献上のERI蚕の標本並びに繭が供覧される。以後、折に触れてERI蚕のお世話をされる。○女官日誌

五日 日曜日 午前、昨日沼津より帰京の皇太子、及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王が御文庫に参殿につき、天皇と共に御対面、御昼餐を御会食になり、御食後も御一緒に過ごされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、宮内省省報

七日 火曜日 午前、奥内謁見所において、参謀総長元帥陸軍大将杉山元に謁を賜う。参謀総長より、先般病気により退職交代凱旋した元第十四軍司令官陸軍中将田中静老の在任中のお礼並びに爾後の病状につき言上をお聞きになり、田中に対する労いのお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、尾形健一大佐日記、陣中日誌

昭和十八年九月

恒徳王妃光子に伴われて紀子女王初参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になる。この日、天皇・皇后より恒徳王妃・紀子女王にそれぞれお品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、宮内省省報、官報

十三日 月曜日 午前、奥内謁見所において今般帰還の元第三十八師団長陸軍中将佐野忠義に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

宮殿において、東京帝国大学教授板沢武雄より、明治第一期と第二期についての進講をお聴きになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十四日 火曜日 午後、御文庫において神樹蚕の孵化した幼虫のお世話をされる。夜、再び神樹蚕のお世話をされる。二十一日にもお世話をされる。○女官日誌

十五日 水曜日 午前、奥内謁見所において、朝融王妃知子女王と御対面になり、伯爵伏見博英^{知子女王の弟}戦傷死後の第一期喪明けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

宮内省御用掛穂積重遠より「イタリヤ史の回顧」と題する進講をお聴きになる。成子内親王が陪聴する。同人より、ポエニ戦役と現戦役につきお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

十六日 木曜日 午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓される。四時十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

去る九月十日の地震により鳥取県下において被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を同県に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十七日 金曜日 午前、御文庫において昨十六日那須より帰京の正仁親王と御対面になり、天皇と共に

に御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十八日 土曜日 午前、奥内謁見所において、先般北東方面艦隊及び大湊警備府へ御差遣の侍従武官城英一郎より復命をお受けになる。城は去る三日出發、青森県・北海道・千島列島に赴き、十五日帰京する。○女官長日記、女官日誌、侍従武官日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府資料、侍従武官城英一郎日記

二十日 月曜日 午前、奥内謁見所において、元第二南遣艦隊司令長官海軍中将岩村清一に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

東京帝国大学教授板沢武雄より、先週の続きとして明治第三期（明治二十七八年戦役）についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、御文庫に日光より帰京の貴子内親王参殿につき、天皇及び成子内親王と共に御対面になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十二日 水曜日 午前、成子内親王と共に奥御進講所において、宮内省御用掛穂積重遠より「加賀の千代女」と題する進講をお聴きになる。川島つゆ著『加賀の千代女』昭和十七年九月初版、この年七月三版発行に基づき、千

代女の生涯とその俳句についてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

二十四日 金曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、皇后宮女官東貞子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

二十五日 土曜日 財団法人結核予防会の事業御奨励のため、金一封を同会に下賜される。また、日本赤十字社病院御補助の思召しをもって、天皇・皇后より金一封を同社に下賜される。○省中日誌、恩賜録、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

昭和十八年九月

二十七日 月曜日 午後、天皇と共に豊明殿において、今般離任帰国のタイ国特命全權大使、デイレク・チャイヤナム並びに同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

この日、来る十月二日に盛厚王・成子内親王の納采の儀が行われることが治定される。夕刻、天皇及び成子内親王と共に牡丹ノ間・竹ノ間において、婚礼衣装・道具類を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、照宮御日誌、照宮御婚儀録、御覧モノ伺モノ控簿

二十八日 火曜日 午前、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。ついで成子内親王を交えて御昼餐を御会食になる。御食後、貴子内親王を交えて牡丹ノ間・竹ノ間において、成子内親王の婚礼道具類を御覧になる。引き続き天皇・皇太后及び両内親王と共に、奥内謁見所において紹刺しの屏風を、皇子御座所において婚礼衣装を、奥御進講所において手廻りの道具類を、申ノ口において西洋家具・箆笥・洋服等を御覧になる。その後和子内親王・厚子内親王参内につき、お揃いにて御対面になる。夕刻、皇太后御退出後、成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に再び婚礼の品々を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、照宮御日誌、吳竹寮日誌、省中日誌、幸啓録、重要雑録、照宮御婚儀録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二十九日 水曜日 午前、成子内親王参内につき、貴子内親王と共に御休所において、成子内親王の婚礼準備作業について側近者に御指図になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

東インドスマトラへ出征中の陸軍中尉邦寿王^{近衛歩兵第五聯隊付}病気につき、天皇・皇后・皇太后よりお尋ねとして菓子料を賜う。○皇親録

今般島根・鹿兒島・大分・宮崎・広島・愛媛・福岡・山口の各県下において暴風雨による被害発生につき、天皇・皇后より各県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

三十日 木曜日 午前、奥内謁見所において、雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王妃百合子、故邦彦王妃侘子、稔彦王妃聡子内親王、故成久王妃房子内親王と御対面になる。ついで牡丹ノ間・竹ノ間において成子内親王の婚礼道具類を、皇子御座所において婚礼衣装を、奥御進講所において手廻りの道具類を、申ノ口において洋服・西洋家具類を御披露になる。○女官長日記、女官日誌

和子内親王の誕生日につき、夕刻、天皇と共に同内親王と御対面になる。ついで天皇及び和子内親王と共に奥内謁見所において、宮内大臣始め側近総代、続いて元皇后宮女官津輕理喜子の拝賀をお受けになる。その後、天皇と共に、公務のため上京中の崇仁親王と御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。それより天皇及び和子内親王と共に、牡丹ノ間などに陳列された成子内親王の婚礼衣装・道具類を御覧になる。終わって、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に、お祝御膳の御夕餐をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、

吳竹寮日誌、皇族旅行録、照宮御婚儀録

今般敵襲により丹羽五郎所有の船鶴丸ほか二十三船において死者発生につき、この日、天皇・皇后より通信大臣に、御救恤として金一封を下賜される。また、昨年五月に長崎港外において東亜海運株式会社汽船長崎丸が触雷により沈没し多数の死者が発生したため、天皇・皇后より通信大臣に、御救恤として金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

昭和十八年十月

十月

一日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般第二高等学校長へ転出の前帝室林野局監理部長野口明^{元侍}、新任の式部官後藤鎰尾^{外事課長として、英語通訳に奉仕}、同じく新任の東久邇宮御用掛中山能正に謁を賜う。○女官長

日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、宮内省省報、官報

二日 土曜日 午前、成子内親王・盛厚王の納采の儀が行われる。儀終了後、皇太后御使として権典侍清水谷英子参内につき、天皇と共に奥内謁見所において謁を賜い、皇太后よりの御祝詞をお聞きになる。お礼のため天皇・皇后の御使として皇后宮女官長保科武子を大宮御所に差し遣わされ、また、皇后宮事務官岡部長章を多摩陵に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。ついで天皇と共に奥内謁見所において、雍仁親王妃勢津子始め皇族・王公族の拝賀を、続いて宮内大臣始め総代の拝賀をお受けになる。なお、東久邇宮より献上の幣贄は、天皇・皇后が御覧になった後、成子内親王の御仮寓所に移され、午後に天皇・皇后の御使として伺候の皇后宮女官長がこれを内親王に披露する。

午後、天皇と共に奥御座所において、成子内親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。ついで天皇と共に奥内謁見所において、稔彦王・同妃聡子内親王及び盛厚王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。なお、これに先立ち、天皇・皇后より侍従入江相政を東久邇宮邸に差し遣わされ、五種交魚代料を御贈進になる。

夕刻、天皇と共に奥御食堂において、成子内親王・和子内親王・厚子内親王とお祝御膳を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、呉竹寮日誌、照宮御婚儀録、盛厚

王殿下成子内親王殿下と御結婚の件、貞明皇后実録正本、官報

五日 火曜日 今般成子内親王帰嫁につき、正午、天皇及び御参内の皇太后、並びに成子内親王と共に豊明殿において、雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子始め在京の成年皇族・王公族と、祝賀及び送別の午餐を御会食になる。御食後、千種ノ間において御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、吳竹寮日誌、幸啓録、重要雜録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

六日 水曜日 午前、奥内謁見所において、伯爵東伏見邦英^{御弟}に謁を賜い、成子内親王帰嫁につき祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

今般成子内親王帰嫁につき、正午、天皇及び成子内親王と共に豊明殿において、内宴にお召しになった内大臣・宮内大臣始め宮内省各部長等との午餐御会食に臨まれる。終わって、成子内親王・貴子内親王と共に御休所^{御格子ノ間御入側}において奉祝の謡会に臨まれ、男子側近奉仕者による「高砂」・「鶴亀」、皇后女官長始め皇后宮女官等による「竹生島」をお聴きになる。その後、貴子内親王による「紅葉狩」、皇后のシテによる「羽衣」、皇后の御独吟による「玉ノ井」の小謡、その他の演目が披露される。なお、お相手の皇后宮事務官小倉庫次以下に菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

先般中華民国において敵襲により本邦人六十三名死去につき、この日、天皇・皇后より大東亜大臣に御救恤として金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録

七日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元第三南遣艦隊司令長官海軍中将太田泰治、元第一南遣艦隊司令長官海軍中将大川内伝七に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌
午前十一時十分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后御主催の成子内親王結婚祝賀の午餐に臨まれ、

昭和十八年十月

皇太后及び成子内親王、雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子・故邦彦王妃倪子・朝融王^{御兄}・稔彦王妃聡子内親王・故成久王妃房子内親王と御会食になる。雍仁親王妃以下の退出後、皇太后及び成子内親王と御歓談になり、また、参殿の九条幾子^{九条浄操院、皇太后の御生母}、大谷絰子^{大谷光明夫人、皇}

太后の^{御妹}に謁を賜う。午後四時十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

八日 金曜日 午前、盛厚王・成子内親王結婚式中告期の儀が行われる。午後、髪上げを終えて赤地服を着用の成子内親王と御対面になる。終わって、天皇・皇后より御使として皇后宮女官万里小路ソデを成子内親王の御仮寓所に差し遣わされ、内親王に婚期をお伝えになる。ついで内親王参内につき、天皇と共に御対面になり、お礼言上をお受けになる。夕刻、皇后お一方にて、五つ衣を着用の内親王と御対面になる。ついで天皇が和子内親王・厚子内親王と共に奥内謁見所において内親王と御対面になった後、皇后とお揃いにて御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、照宮御婚儀録、官報

午前、奥内謁見所において、新任のフィリピン国駐劄特命全權大使村田省蔵に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

九日 土曜日 午前、天皇と共に、来る十三日に帰嫁する成子内親王と御対面になり、この日より麴町区三番町の御仮寓所から宮城に移居し奥皇子御殿において起居するに当たり、挨拶をお受けになる。ついで奥内謁見所において、皇太后御使の掌侍高松千歳子に謁を賜い、この日の成子内親王移居の祝

詞、及び去る七日の行啓についての御挨拶をお受けになる。御使として皇后宮職御用掛竹屋志計子が大宮御所に差し遣わされ、御返礼になる。引き続き、祝詞言上のため参内の御学友・御同級生総代二名に謁を賜う。

午後、廊下において、元皇后宮女官の津軽理喜子・山岡淑子・川上民枝・青山元子・植村蒙子に謁を賜う。それより成子内親王・貴子内親王と共に呉竹寮にお出ましになり、和子内親王・厚子内親王と御団欒になる。ついで参寮の故邦彦王妃侃子・朝融王・同妃知子女王・邦昭王朝融王第一王子、御甥・正子女王朝融王王女・朝子女王同・通子女王同・伯爵東伏見邦英、三条西実謙三条西公正第一男子、御甥・同淑子・同味子・同洋子・同澄

子、侯爵久邇実栄久邇邦久嗣子、伯爵三条西実義嗣子公正第二男子、御甥・大谷美都子と御対面になり、記念撮影が行われる。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、照宮御婚儀録

十日 日曜日 今般成子内親王帰嫁につき、正午、天皇及び成子内親王、皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に御学問所において、内宴に召された側近奉仕の男女高等官一同に午餐の御陪食を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、宮内省省報

夕刻、成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に奥内謁見所において、小出喜久子皇后宮事務官小出英経夫人及び今般結婚の息女陽子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

四月以来久方ぶりに、天皇と共に御常御殿において御就寝になる。十四日夜より再び天皇と共に御文庫において起居される。○女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌

昭和十八年十月

十一日 月曜日 午前、孝元天皇二千年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。午後、天皇と共に御学問所において、九州帝国大学教授竹岡勝也より「肇国ノ理想ノ顕現ト孝元天皇ノ大御代」と題する講話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、進講録、宮内省省報

午後、奥内謁見所において恐悦のため参内の松平信子宮内大臣松平恒雄夫人・百武まち子・広幡文子皇后宣大夫広幡忠隆夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十二日 火曜日 午前、成子内親王の賢所皇霊殿神殿に謁するの儀、勲章親授の儀が行われる。終わって、天皇と共に奥内謁見所において勲一等宝冠章を佩用の成子内親王と御対面になり、叙勲のお礼言上をお受けになる。ついで、奥御対面所において天皇・皇后より内親王にお品及び万那目録を賜う。夕刻、皇太后より成子内親王に御贈進のお祝品を天皇・内親王と共に御覧になる。終わって、天皇及び内親王と共に奥御対面所において、お別れの盃を交わされる。その際、天皇・皇后よりそれぞれお品を御贈進になる。ついで皇后お一方にて出御口にお出ましになり、内親王傅育掛長藤井種太郎・内親王傅育掛塘ミツを召され、成子内親王への永年の奉仕につき御慰労のお言葉を賜い、また皇后宮事務官小出英経も召され、お言葉を賜う。三名にはそれぞれお品を賜う。その後、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御夕餐を御会食になり、成子内親王帰嫁前夜のお名残を惜しまれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、照宮御婚儀録、貞明皇后実録正本、官報、藤井種太郎日誌

十三日 水曜日 この日、成子内親王と盛厚王との結婚の儀が行われる。午前、天皇及び和子内親王・

厚子内親王・貴子内親王と共に奥内謁見所において、妃氏入第の儀を終えた成子内親王と御対面になり、挨拶をお受けになる。ついで天皇と共に皇太后宮御休所において、雍仁親王妃勢津子始め皇族・王公族の拝賀をお受けになる。また、天皇と共に御学問所において、内閣総理大臣東条英機始め宮中席次第一階第五以上の者、皇太子御使の石川岩吉^{東宮傳、育官}、正仁親王御使の桑折英三郎^{皇子傳、育官}、並びに侍従長百武三郎以下の側近高等官よりそれぞれ拝賀をお受けになる。

午後、皇后宮使として皇后宮職御用掛竹屋志計子を東久邇宮邸に差し遣わされ、盛厚王・同妃成子内親王にそれぞれお祝品を賜う。また、天皇と共に鳳凰ノ間において、盛厚王・同妃成子内親王の参内朝見の儀に臨まれる。ついで天皇と共に奥内謁見所において稔彦王・同妃聡子内親王と御対面になり、結婚諸儀式の無事終了につきお礼言上をお受けになる。さらに天皇及び成子内親王と共に、和子内親王・厚子内親王を交えてお祝御膳の御夕食をお召し上がりになる。御会食中、奉祝のラジオ放送をお聴きになる。なお成子内親王の婚儀終了につき、翌十四日、天皇・皇后の御代拝として皇后宮事務官小倉庫次を多摩陵へ差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、照宮御婚儀録、重要雑録、盛厚王殿下成子内親王殿下と御結婚の件、祭祀録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、高松宮日記、東久邇宮日記

十四日 木曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、盛厚王・同妃成子内親王と御対面になり、結婚のお礼言上をお受けになる。天皇・皇后より、結婚後初参内の盛厚王・成子内親王それぞれにお品を御贈進になる。盛厚王・同妃が仮寓する麻布区六本木の鳥居坂御殿に皇后宮女官長保科武子を差し遣わされ、五種交魚・菓子を御贈進になる。ついで皇后宮女官長を大宮御所に差し遣わされ、成子

昭和十八年十月

内親王結婚の儀終了につき御挨拶をされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、宮内省省報、官報

申ノ口にお出ましになり、今般成子内親王結婚の儀終了につき、皇后宮女官長保科武子始め皇后宮女官一同に記念品を賜う。○女官長日記、女官日誌

十五日 金曜日 午前、奥内謁見所において皇太后御使の典侍竹屋津根子に謁を賜い、成子内親王結婚の儀終了の祝詞言上、お祝品の御贈進をお受けになり、お礼を述べられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に奥内謁見所において内親王傳育掛長藤井種太郎に謁を賜い、和子内親王・厚子内親王の成績につき奏上をお受けになる。○吳竹寮日誌、藤井種太郎日誌

吳竹寮にお出ましになり、和子内親王・厚子内親王及び先着の貴子内親王と御対面になり、ついで結婚後初参寮の盛厚王・同妃成子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、吳竹寮日誌

十六日 土曜日 別格官幣社靖国神社において臨時大祭挙行につき、午前十時三十五分御出門、同社に行啓され、本殿において御拝礼になる。十一時五分還啓される。なお、臨時大祭挙行につき、天皇・皇后より同社に祭資を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、儀式祭典録、幸啓録、宮内省省報、官報、靖国神社社務日誌

この日、正二位柳原愛子死去につき、午前、奥内謁見所において、皇太后御使の掌侍高松千歳子に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。これに対し、皇后宮女官長保科武子を大宮御所に差し遣わされ、皇太后の御機嫌をお伺いになる。ついで故邦彦王妃倪子、故多嘉王妃静子と御対面になる。午後、故

成久王妃房子内親王、稔彦王妃聡子内親王・盛厚王妃成子内親王、雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王、守正王妃伊都子、和子内親王・厚子内親王と相次いで御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。

この日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮女官万里小路ソデを柳原邸に差し遣わされる。また、天皇・皇后より盛花・野菜を賜う。十九日には、弔問のため、皇后宮使として皇后宮女官万里小路ソデを柳原邸に差し遣わされ、花を賜い、焼香させられる。また、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。二十日に行われる葬送には、出棺に当たり、非公式に皇后宮女官長保科武子・皇后宮職御用掛竹屋志計子を柳原邸に差し遣わされ、拝礼させられる。また、皇后宮事務官小倉庫次を葬齋場青山齋場に差し遣わされ、焼香させられる。墓所は目黒区祐天寺に定められ、二十六日、天皇・皇后・皇太后より伯爵柳原義光に対し、永代供養料を下賜される。なお、これより先、柳原愛子の病気危篤に際して、天皇・皇后・皇太后より侍従岡部長章皇后宮事務官・侍医高橋信を同人邸に差し遣わされ、また、葡萄酒を下賜される。さらに、皇后より御使として、皇后宮女官長保科武子を差し遣わされる。

柳原愛子は、明治三年より宮中に奉仕し、明治天皇の後宮に入り、早蕨典侍と称する。大正天皇及び薫子内親王・敬仁親王を出産する。明治天皇崩御後、御内儀監督等を務め、大正四年致仕する。同八年正二位に叙される。享年八十五。死去に当たり、従一位に昇叙される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、

侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、位階録、恩賜録、重要雑録、御下賜金関係書類、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十七日 日曜日 午前、神嘗祭につき、宮殿西側御入側において神宮を御遙拝になる。ついで賢所に

昭和十八年十月

において、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

十九日 火曜日 夕刻、奥内謁見所において、崇仁親王妃百合子と御対面になり、柳原愛子死去につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十一日 木曜日 午前、奥内謁見所において故依仁親王妃周子と御対面になり、母岩倉久子死去後の第一期喪明けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、宮内省省報

午後、宮殿において皇太后御使の権典侍清水谷英子に謁を賜い、昨日故柳原愛子葬儀終了につき、御機嫌伺い並びに天皇・皇后へ御贈進の方那をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

夜、御文庫に崇仁親王参殿につき、天皇と共に映画支那より崇仁親王
持ち帰りのものを御覧になる。なお、崇仁親王はこの月二十六日、南京に帰任する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

二十三日 土曜日 昭和十七年九月二十二日に伺定された、新任・退官等の際に天皇・皇后への拝謁が許される宮内高等官の範囲が改定される。これにより、宮内職員優遇令による宮内奏任官に、拝謁資格が与えられる。○例規録

二十六日 火曜日 夜、天皇及び宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王妃百合子と共に御文庫において、「日本ニュース」第一七七号の「学徒出陣」去る二十一日の神宮外苑
における出陣学徒壮行会その他の映画を御覧になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、侍従武官城英一郎日記

二十八日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般南方へ御差遣の侍従武官尾形健一に謁を賜い、令旨を下される。尾形は、香港占領地総督部・第二十三軍・南方軍・第十四軍への御差遣を命じられ、十一月一日出発、南支方面・仏領インドシナ・タイ・ビルマ・マレー半島・東インド諸島・ボルネ

オ・フィリピン方面へ赴き、聖旨並びに令旨を伝達するとともに状況を実視し、十二月十五日帰京、二十七日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府資料、尾形健一
大佐日記

桐ノ間において、初代ビルマ国特命全権大使テー・モンに謁見を仰せ付けられる。ついで随員の大使館書記官ティン・モン、大使館商務官タン・モンに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において、宣仁親王妃喜久子と御対面になる。考案中の皇族妃礼服を着用した同妃より、服装問題についての言上をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

二十九日 金曜日 午前、奥内謁見所において、京都在住華族総代の子爵藤谷為隆に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

三十一日 日曜日 御文庫において天皇及び皇太子・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に、結婚後初参殿の成子内親王を交えて御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、宮内省省報

十一月

一日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般第二方面軍司令官として濠北方面へ出征の陸軍大将阿南惟幾に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、昭和十八年上奏関係書類綴

昭和十八年十一月

奥内謁見所において孚彦王妃千賀子と御対面になり、先般出産に際してのお仕向けにつきお礼言上をお受けになる。その際、白反物等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

夕刻、御文庫において、今般東久邇宮御用取扱事務を囑託されて転出の皇后宮女官小倉満子に謁を賜う。同人より、皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王から賜物を拝領したことにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、呉竹寮日誌、進退録

二日 火曜日 夜、御文庫に雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子参殿につき、天皇と共にニュース映画を御覧になる。ついで今般両妃により考案中の天平様式の皇族妃礼服につき、宣仁親王妃の着用した姿を天皇及び雍仁親王妃・宣仁親王と共に御覧になる。雍仁親王妃より説明を聴取されつつ、天皇を交えて御研究になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、秩父宮御日誌、

高松宮日記

鳩彦王妃允子内親王十年式年祭につき、天皇・皇后より霊殿に盛菓子を、墓所に榊を、皇后より写真に果物・切り花を供えられる。また、皇后宮職御用掛竹屋志計子を霊殿及び墓所に差し遣わされ、天皇・皇后の御代拝を仰せ付けられる。○侍従職日誌、贈賜録

この日、陸海軍病院入院中の傷病将兵並びに軍事保護院施設収容の傷痕軍人に対し、思召しをもって菊花^{切り}一千九百本を下賜される。陸軍省・海軍省の各医務局長、軍事保護院副総裁が参内し、皇后宮

大夫より目録を拝受する。○侍従武官日誌、恩賜録

三日 水曜日 午前、天皇と共に御座所御入側において、皇太子・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面になり、明治節の祝詞言上をお受けになる。また、同所において皇后宮女官一同より祝

詞言上をお受けになる。その後、天皇と共に御学問所において、雍仁親王妃勢津子始め皇族、李王垠・同妃方子女王始め王公族、続いて宮内大臣始め側近高等官よりそれぞれ拝賀をお受けになる。なお、奥御対面所前御入側において元皇后宮女官の津軽理喜子・川上民枝・植村蒙子の拝賀をお受けになる。正午前、天皇及び皇太子・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王とお揃いにて御文庫に移られ、御昼餐を御会食になる。午後、盛厚王妃成子内親王参殿につき、祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、儀式録、宮内省省報、官報

四日 木曜日 午前、奥内謁見所において今般凱旋帰還の元第一艦隊司令長官海軍中将清水光美・元海南警備府司令長官海軍中将小池四郎に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に奥内謁見所において、鳩彦王と御対面になり、去る二日同妃允子内親王十年式年祭への御使の御差遣及びお供えについてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

六日 土曜日 午前、奥内謁見所において、先般北支那方面軍へ御差遣の侍従武官清家武夫より復命をお聴きになる。清家は去る十月一日出発、三十日帰京する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、侍従武官府資料

七日 日曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において孚彦王・李鍋公と御対面になり、この日大勲位菊花大綬章を拝受のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録、官報

昭和十八年十一月

宣仁親王妃喜久子と御対面になり、今般決戦体勢下における地方民の活動状況御視察の内旨を奉じて香川・愛媛両県下の視察旅行^{十三日}へ出発につき挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

省中日誌、皇親録、御下賜金関係書類、宮内省省報

夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、稔彦王・同妃聡子内親王、盛厚王・同妃成子内親王と御対面になる。引き続き鳳凰ノ間次室に移られ、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王を交えて写真撮影に臨まれる。それより御学問所において御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舍人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、東久邇宮日誌

八日 月曜日 午前、奥内謁見所において、三井銀子^{男爵三井八郎右衛門高公夫人}に謁を賜い、午後にかけて奥内謁見

所御入側にて剪綵の稽古をされる。十二月二十四日にも同人をお召しになり、剪綵を御覧になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十日 水曜日 午前、奥御進講所において、宮内省御用掛穂積重遠より「ビルマ国の独立について」

と題する進講をお聴きになる。同人より、ビルマの地理、及びその建国からこの年八月一日の日緬同盟条約締結による独立と対米英蘭宣戦までの経緯をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積

家文書

去月二十六日、常磐線土浦駅において鉄道事故により多数の死傷者発生につき、天皇・皇后より運輸通信大臣に御救恤として金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十一日 木曜日 午前、奥内謁見所において、大日本婦人会総裁稔彦王妃聡子内親王、及び同伴の盛厚王妃成子内親王と御対面になる。聡子内親王より会務につき言上をお受けになり、大日本婦人会記

念日に際して賜うべきお言葉を下される。

大日本婦人会が結成以来帝国未曾有ノ難局ニ処シテ克ク銃後ノ備ニ万全ヲ期シ其ノ事績見ルヘキモノアルヲ聞クハ深く満足ニ思フ

今ヤ時局愈々重大ナルノ秋婦人ノ責務益々重キヲ加フ

総裁以下一同力ヲ戮セテ一意婦人報国ノ使命達成ニ邁進センコトヲ望ム

なお、かねて東京において開催予定であつた大日本婦人会第二回総会は、戦局の苛烈化に伴う戦力増強に国民の総力を集中すべき時であることに鑑み、政府の方針に基づき中止が決定される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録

十三日 土曜日 午前十時御出門、東宮仮御所に行啓される。赤坂離宮前の庭において下校した皇太子と御対面になる。ついで仮御所内において皇太子への御贈進品を御披露の後、御昼餐を御会食になる。午後、離宮前の芝生において皇太子が同級生とござすべり等にて遊ぶ様子を御覧になる。また、庭の紅葉を御覧になりつつ御散策になる。午後四時十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十五日 月曜日 午前、宮殿において、東京帝国大学教授板沢武雄より、満洲視察について進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、奥内謁見所において、今般退官の前掌典次長醍醐忠直、並びに新任の掌典次長飛鳥井雅信に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、進退録、宮内省省報、官報

御書齋において満鮮旅行より帰京の大谷智子と御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記

昭和十八年十一月

記、女官日誌、侍従職日誌

昨十四日、フランス国特命全権大使シャルル・アルセーヌ・アンリー死去につき、この日、弔問使として皇后宮職御用掛河合りよう子を同国大使館に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、宮内省省報、官報、読売報知

十六日 火曜日 午前、奥内謁見所において、守正王妃伊都子と御対面になり、決戦体勢下における地方民の活動状況御視察の内旨を奉じ、この月四日より六日まで滋賀県下を、七日より十日まで京都府下をそれぞれ旅行した結果につき復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、御下賜金関係書類、梨本伊都子日記

十七日 水曜日 午前、奥御進講所において、宮内省御用掛穂積重遠より「フィリッピン共和国の独立について」と題する進講をお聴きになる。同人より、フィリピンの地理と、この年十月十四日の日比同盟条約締結による独立までの歴史をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、今般成子内親王の婚儀終了につきお礼をお申し入れになる。四時十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十八日 木曜日 午前、天皇と共に千種ノ間において、今般宮内技師を拝命の八巻於菟三ほか宮内高等官に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、百武三郎関係資料

恒憲王妃敏子と御対面になり、決戦体勢下の地方民の活動状況御視察の内旨を奉じ、この月六日より八日まで岡山県下を、九日より十一日まで広島県下をそれぞれ旅行した結果につき復命をお受けにな

る。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、御下賜金関係書類

午後、宮殿において大聖寺門跡の石野慈栄に謁を賜い、大聖寺本堂改築落成入仏式終了と賜物のお札言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

麴町区永田町の旧華族女学校跡において華族女学校遺蹟碑落成除幕式挙行につき、この日、思召しをもつて金一封を社団法人常磐会に下賜される。○贈賜録

十九日 金曜日 故従一位柳原愛子の七七日忌法要執行につき、皇后宮使として皇后宮職御用掛竹屋志計子を墓所に差し遣わされ、焼香させられる。○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、重要雑録、宮内省省報、官報

二十四日 水曜日 この日、崇仁親王妃百合子内着帯につき、天皇・皇后よりお悦びとして崇仁親王に三種交魚代料を、同妃に三種交魚をそれぞれ御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

二十六日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元機甲軍司令官陸軍中将吉田恵、元第五軍司令官陸軍中将飯村穰、元第十四師団長陸軍中将野田謙吾、元第二十五師団長陸軍中将赤柴八重蔵に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁参拝録、宮内省省報

桐ノ間において、今般着任のタイ国特命全権大使ウィチット・ウィチットワータカーン及び同夫人、随員の大使館付陸軍武官兼空軍武官陸軍少将ダムリ・ソラキット・ピサンアマタヤクンほか八名並びに以上の者の夫人に謁見を仰せ付けられる。引き続き、今般着京の中華民國特命全権大使蔡培の夫人大使同伴にて参内に謁見を仰せ付けられ、挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において朝融王妃知子女王と御対面になり、伯爵伏見博英戦傷死後の第二期喪明け

昭和十八年十一月

のお礼、成子内親王結婚の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、省中日誌

二十七日 土曜日 午前、奥御進講所に元皇后宮大夫河井弥八貴族院議員を召され、かねて食糧増産に尽力

につき菓子等を賜う。○女官長日記、女官日誌

今般日本郵船株式会社船近江丸及び東亜海運株式会社船福建丸において敵襲により多数の死者発生につき、天皇・皇后より運輸通信大臣に御救恤として金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十八日 日曜日 正仁親王の誕生日につき、午前、天皇と共に奥御座所において同親王と御対面になる。ついでお揃いにて奥内謁見所において、宮内大臣・内大臣・侍従長始め総代、皇后宮女官長始め側近奉仕者の拝賀をお受けになる。その後、天皇及び正仁親王・貴子内親王と共に御文庫にお戻りになり、皇太子・和子内親王・厚子内親王も交え、お祝御膳をお召し上がりになる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌、宮内省省報

二十九日 月曜日 午前、東京帝国大学教授板沢武雄より、日露戦争についての進講をお聴きになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午前十一時二十分御出門、青山御殿に行啓される。御車寄にお出迎えの正仁親王の案内にて二階にお出ましになり、種々御覧になる。御一緒に御食堂において御昼餐をお召し上がりになった後、庭において開催の正仁親王御誕辰奉祝運動会を御覧になる。午後四時十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十二月

一日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より、「学徒出陣についての感想」と題する進講をお聴きになる。同人より、学徒出陣と日露戦役勃発の回顧や、自身作詞の一高寮歌「都の空」等についてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

盛厚王参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になり、本日付にて陸軍少佐に進級のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、皇族身分録、贈賜録、官報

午後、奥内謁見所において、この日支那方面艦隊司令長官を拝命の海軍大將近藤信竹に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二日 木曜日 午前、奥御進講所において、野口幽香より第七回進講をお聴きになる。同人は、学徒出征を実例に日本国の青年層が如何に立派であるかを申し上げ、時局に関して自分達の考えがなお自己本意であることを反省し、苦勞を恵まれた試練と思ひ人格の昂揚に励むことが重要である旨を言上する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、野口幽香関係文書

今般樺太庁管下の元泊郡知取町において国民学校の出火のため多数の死傷者発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を同庁に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

三日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般戦地より帰還の元第二軍司令官陸軍中将七田一郎、元第三十六師団長陸軍中将岡本保之に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

誌、拝謁参拝録

五日 日曜日 午前、天皇と共に千種ノ間及び豊明殿において、来る八日より東京都美術館において

開催される第二回大東亜戦争美術展覧会に、主催の朝日新聞社より出陳予定の藤田嗣治作「天皇陛下伊勢の神宮に御親拝」、宮本三郎作「大本営御親臨の大元帥陛下」、小磯良平作「皇后陛下陸軍病院行啓」、及び海軍省より出陳予定の小早川篤四郎作「印度洋作戦」、藤田嗣治作「安田部隊の最期」、橋本関雪作「十二月八日の黄浦江上」など海軍作戦記録画二十点を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、重要雑録、進献録、昭和期美術展覧会出品目録戦前篇

この日、二葉会においてバザー開催につき、思召しをもって金一封を下賜される。○贈賜録

六日 月曜日 貴子内親王の着袴の儀が行われる。午前、参内の稔彦王妃聡子内親王・盛厚王妃成子内親王と御対面になり、成子内親王より結婚後初誕辰の挨拶、及び貴子内親王着袴の祝詞言上をお受けになる。ついで天皇と共に奥御座所において、童形服にて賢所・皇靈殿・神殿の拝礼を終えた貴子内親王と御対面になる。それより天皇・内親王と共に奥内謁見所において、宮内大臣・内大臣始め総代、皇后宮女官長始め皇后宮女官一同の拝賀をお受けになる。ついで宣仁親王始め皇族・王公族の拝賀をお受けになる。午後、お一方にて奥内謁見所において、雍仁親王妃勢津子と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。夕刻、奥内謁見所において盛厚王と御対面になる。また、和子内親王・厚子内親王より祝詞言上をお受けになる。終わって、天皇及び両内親王と共に奥御食堂において、お祝御膳をお召し上がりになる。両内親王退出後、天皇と共に御文庫にお戻りになる。

この日、天皇・皇后より御使として皇后宮事務官小出英経を多摩陵に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、皇子保育録

七日 火曜日 午前九時十分御出門、天皇と共に多摩陵に行啓される。天皇の御参拝後、陵前に進ま

れ、御参拝になる。午後零時四十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、祭祀録、宮内省省報、官報

十日 金曜日 午後、皇子御座所において、貴子内親王着袴のお祝いとして謡の会をお催しになる。

貴子内親王と共に、皇后宮事務官小倉庫次、皇后宮女官長保科武子始め側近奉仕者をお相手に「三井寺」を謡われ、貴子内親王は「紅葉狩」を謡う。○女官長日記、女官日誌

十三日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元支那方面艦隊司令長官海軍大将吉田善吾、元第五十五師団長陸軍中將古閑健に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十四日 火曜日 歳末に際し、東京都下において官公私施療団体が協力して困窮病者の無料診療を実施するほか、この年は特に一般都民の健康増進・戦力増強に資するため事業を整備拡充強化するに当たって、思召しをもって金一封を東京都に下賜される。なお、例年下賜の生活困窮者救済の資はお取りやめとなり、事業の整備拡充強化のため、診療の資は増額下賜となる。○省中日誌、恩賜録

十五日 水曜日 夕刻、賢所御神楽につき、皇后宮女官万里小路ソデに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

先般樺太庁管下の恵須取郡塔路町所在の白鳥沢炭鉱においてガス爆発のため多数の死傷者発生につき、この日、天皇・皇后より同庁に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十六日 木曜日 夕刻、御文庫において、翌十七日神宮及び山陵参拝へ出発の盛厚王・同妃成子内親王と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官

昭和十八年十二月

日誌、重要雑録、宮内省省報

二十日 月曜日 夕刻、天皇と共に御文庫において、盛厚王・同妃成子内親王と御対面になり、神宮及び山陵参拝より帰京の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、宮内省省報

二十二日 水曜日 思召しをもって、日本赤十字社本社中央病院の患者施療費御補助金を下賜される。なお、向寒に際し、日本赤十字社病院・恩賜財団済生会病院・東京慈恵会医院の各救助収容患者、及び財団法人福田会育児院の収容者に、思召しをもって、お品物代として金一封ずつを下賜される。○贈賜録、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

二十三日 木曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に皇太子と御対面になる。ついで天皇及び皇太子と共に奥内謁見所において、宣仁親王・博恭王始め皇族・王公族、宮内大臣・内大臣・侍従長始め側近奉仕者総代、皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀を順次お受けになり、元皇后宮女官に謁を賜う。その後、天皇及び皇太子と共に御文庫において、お祝御膳をお召し上がりになる。なお、誕生日のお祝いとして、皇后より皇太子にお品を賜う。夕刻、天皇と共に御文庫において、和子内親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌、省中日誌、贈賜録、宮内省省報

二十四日 金曜日 午前、天皇と共に内庭にお出ましになり、昨二十三日の皇太子の誕生日に際し陸軍大臣東条英機より皇太子の乗馬用として献上の静春号^{アングロアラブ種、三歳、北海道産}・^{ポニー種、七歳、}亜洲号^{フライビン産}を、車馬監城戸俊三の説明にて御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従武官日誌、進献録、入江相政日記

二十七日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰ノ間において、来る二十九日從七位徳大寺齊定公爵徳大寺実厚の第二男子に

帰嫁する美智子女王恒憲王第一王女の参内朝見の儀に臨まれる。式中、御前に参進の女王より謝恩の言上

をお受けになり、天皇の勅語に続き、懿旨を賜う。午後、天皇と共に奥内謁見所において、勲二等宝冠章を佩用の女王と御対面になり、叙勲のお礼言上をお受けになる。なお、去る二十三日の納采の儀に際して、天皇・皇后より賀陽宮に万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

侍従武官日誌、省中日誌、皇族叙勲録、皇族身分録、贈賜録、宮内省省報、官報

二十八日 火曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、恒憲王・同妃敏子、及び翌二十九日帰嫁する美智子女王と御対面になり、暇乞いをお受けになる。翌二十九日、お祝いとして天皇・皇后・皇太后より女王に紅白羽二重を、恒憲王に酒・鮮鯛代料を、また、天皇・皇后より女王に末広代料・紅白羽二重を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇族叙勲録、皇親録、贈賜録、皇太后御参内につき、天皇と共に御対面になる。ついで、天皇・皇太后と共に御昼餐を御会食になる。

御食後、和子内親王・厚子内親王を交えて御団欒になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌、省中日誌、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二十九日 水曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、載仁親王始め皇族・王公族より歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、儀式録

午前十一時三十分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になり、御昼餐を御会食になる。ついで、参殿の崇仁親王妃百合子を交えて御歓談になる。午後三時十四分還啓される。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

昭和十八年十二月

天皇と共に奥内謁見所において、宮内大臣・内大臣始め側近奉仕者総代等より歳末の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、儀式録

夕刻、天皇と共に奥御進講所において、侍従武官尾形健一が御差遣先の南方より持ち帰った献上品その他を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従武官日誌、尾形健一大佐日記

三十一日 金曜日 午前、天皇及び和子内親王・厚子内親王と共に奥御対面所又は奥内謁見所において、宣仁親王、故成久王妃房子内親王、稔彦王妃聡子内親王、朝融王・同妃知子女王と御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌、高松宮日記

歳末につき、天皇・皇后の御使として皇后宮職御用掛竹屋志計子を大宮御所に差し遣わされる。その後、お一方にて奥内謁見所において、皇太后御使として参内の権典侍清水谷英子に謁を賜い、歳末の御機嫌伺いをお受けになり、お礼のお言葉を述べられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

昭和十九年（西曆一九四四年） 四十一歳

一月

一日 土曜日 新年に当たり、午前、天皇と共に奥御食堂において、海軍並びに陸軍の野戦兵食料理をお召し上がりになり、戦線を偲ばれる。その後、天皇と共に御学問所において、皇太子御使・正仁親王御使^{皇太子・正仁親王は沼津滞在中}のほか、宮内大臣始め側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。ついで十時、拝賀の儀に臨まれる。天皇と共に鳳凰ノ間において、宣仁親王始め皇族・王公族の拝賀をお受けになる。以下、新年式に従い、正殿及び西溜ノ間において恒例のとおり拝賀をお受けになる。拝賀の儀の間に、奥宮殿において和子内親王・厚子内親王と御対面になり、祝賀をお受けになる。また、拝賀の儀の後、お一方にて桐ノ間において、御裳捧持者に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、儀式録、宮内省省報

二日 日曜日 天皇と共に御文庫において、和子内親王・厚子内親王と御昼餐を御会食になる。以後、この年は、皇太子始め皇子女が疎開する七月まで、日曜日の定例参内を始めとして、随時、天皇と共に御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

三日 月曜日 新年につき、午前、天皇と共に奥内謁見所において、俊彦王<sup>稔彦王弟
四王子</sup>始め未成年の皇族・王族の拝賀をお受けになる。午後、天皇と共に奥御対面所において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。ついで同所において宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、親王

の誕生日のお祝いについてのお礼言上をお受けになる。その後、天皇と共に奥内謁見所において故邦彦王妃侘子御母・故永久王妃祥子・故博義王妃朝子と御対面になり、祝詞の言上をお受けになる。なお、この日、旧女官の正親町鍾子・生源寺伊佐雄、元皇后宮女官の津軽理喜子・山岡淑子・青山元子・川上民枝・植村蒙子、御同級生二名に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

四日 火曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において、新年につき参内の元東宮職出仕坂野鈴、及び小山登美・上山千代に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

五日 水曜日 午前、この年初めて皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、新年の祝詞を交わされる。ついでお祝御膳を御会食になる。御食後、和子内親王・厚子内親王参内につき、夕刻までお揃いにて御団欒になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

六日 木曜日 この日、今次の戦争の陸軍関係傷痍者に緋帯一万二千本を下賜される。○侍従職日誌

七日 金曜日 午前、御文庫において昨六日沼津より還啓の皇太子と御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、宮内省省報

八日 土曜日 午後、奥内謁見所において、御機嫌伺いのため参内の木戸ツル内大臣木戸幸一夫人に謁を賜う。○

女官長日記、女官日誌

十日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元第三航空軍司令官陸軍中将小畑英良、元第二師団長陸軍中将丸山政男、元第六十八師団長陸軍中将中山惇に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌

十一時三十分天皇と共に御出門、この年初めて大宮御所に行啓される。皇太后と御対面後、お祝御膳を御会食になる。午後三時十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武

官日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十一日 火曜日 午前、奥内謁見所において、侯爵鍋島直映守正王妃伊都子の兄死去後の喪明けにつき参内の李王

垠妃方子女王・李鍵公妃誠子と御対面になり、喪中お尋ねのお札並びに新年の祝詞の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、宮内省省報

十二日 水曜日 午前、天皇と共に奥御対面所において盛厚王妃成子内親王と御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになる。お揃いにて御文庫において、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

十四日 金曜日 午前、奥内謁見所において、孚彦王妃千賀子と御対面になり、伯爵藤堂高紹孚彦王妃の父死

去後の喪明けにつき、お札並びに新年祝詞の言上をお受けになる。ついで、朝融王御兄と御対面になる。

以後、この年も、皇族・王公族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、百武三郎日記

十五日 土曜日 午前、天皇と共に奥御対面所において、昨十四日支那より凱旋の崇仁親王と御対面になり、新年の祝詞、及びこの月十日付で支那派遣軍参謀より大本営陸軍参謀に転補につきお札言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、皇族身分録、陣中日誌

昭和十九年一月

午後、天皇と共に奥御対面所において、雍仁親王妃勢津子と御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

呉竹寮にお出ましになり、和子内親王・厚子内親王のピアノの練習を御覧になる。その後、御一緒にお過ごしになる。以後、この年は、概ね土曜日に呉竹寮にお出ましになり、内親王方のピアノの練習を御覧になり、御一緒にお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌

十七日 月曜日 満洲国及び中華民国において敵襲により本邦人中に死者発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤金を大東亜大臣に下賜される。○省中日誌、恩賜録

十八日 火曜日 台湾総督府管下において敵襲により死者発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤金を同総督府に下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十日 木曜日 午前、奥内謁見所において、この日侍従武官を拝命の海軍中佐今井秋次郎、及び転出の前侍従武官海軍大佐城英一郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、進退録、侍従武官府資料

二十一日 金曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、講書始の儀に臨まれる。国書は京都帝国大学教授高田保馬より「日本に於ける人口問題」、漢書は帝国学士院会員池内宏より「元史日本伝の一節、至元十八年の征東の役に関する世祖の勅諭」、洋書は気象技監藤原咲平より「戦争と気象」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、宮内省省報、官報

二十二日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般チリ国より帰国の特命全権公使山形清に謁を賜

う。ついで別当^{山階}工藤壮平より、藤原行成の書についての進講をお聴きになり、また色紙の書き方の批評をお聴きになる。以後、この年も、同人より書道についての進講を二十七回にわたってお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

天皇及び和子内親王と共に竹ノ間において、昨年十二月結婚の盛厚王・同妃成子内親王及び今般支那より凱旋の崇仁親王を主賓とする御晩餐に臨まれる。宣仁親王・故邦彦王妃倪子・朝融王・同妃知子女王・鳩彦王^{御父邦彦}・稔彦王^同・同妃聡子内親王・故成久王妃房子内親王・俊彦王・侯爵粟田彰常^{稔彦王第三子}が出席し、支那料理を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、

高松宮日記、東久邇宮日誌

昨年中華民国において敵襲により本邦人中に死者発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤金を大東亜大臣に下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十三日 日曜日 午前、奥内謁見所において、故邦彦王妃倪子と御対面になり、この日熱海へ転地につき、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌

故従一位柳原愛子法事^{百箇}につき、皇后宮使として皇后宮職御用掛竹屋志計子を墓所^{祐天寺}に差し遣わされ、焼香させられる。天皇・皇后より墓所に盛菓子をお供えになり、皇后より色花を賜い、また柳原邸の写真に切り花をお供えになる。○女官長日記、侍従職日誌、省中日誌、貞明皇后実録正本、恩賜録、重要雑録、宮内省省報、官報

二十四日 月曜日 午前、奥内謁見所において、東京帝国大学教授板沢武雄より「大東亜の自覚と先

昭和十九年二月

覚者」と題する進講をお聴きになる。以後、この年は、二十一回にわたり同人より進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

故成久王妃房子内親王並びに故永久王妃祥子参内につき、奥内謁見所において御対面になる。房子内親王よりは寒中御機嫌伺い、並びに一昨日御招待のお礼言上をお受けになる。故永久王妃よりも寒中御機嫌伺いをお受けになる。午後、御文庫に稔彦王妃聡子内親王参殿につき、御対面になり、一昨日御招待のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十八日 金曜日 天皇の御不例のため、歌会始の儀はお取りやめとなる。なお、御製・皇后宮御歌以下はこの日の新聞各紙夕刊に掲載される。この年のお題は「海上日出」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

朝ことにあらたまりゆくこゝちしてうなはらのほる日をあふくかな

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、御歌録、儀式録、あけぼの集、宮内省省報、官報、読売報知

この月 今次の戦争関係の傷痍者二名に義肢を下賜される。なお、傷痍者に対するこの年の義眼・義肢の下賜は二十回に及ぶ。○恩賜録

二月

一日 火曜日 午後、朝融王妃知子女王及び今般海軍兵学校へ入学の邦昭王^{御兄朝融王第一王子}参内につき、奥内謁見所において御対面になり、挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より「世界戦局の展望」と題する進講をお聴きになる。内容は、昭和十七年六月のミッドウェー海戦以降より昭和十八年のテヘラン会談までの世界戦局と今後の展望に及ぶ。以後、この年は、同人より二十五回にわたって進講をお聴きになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

三日 木曜日 午前、宮殿において、御歌所寄人鳥野幸次より和歌の進講をお聴きになる。以後、この年は、同人より十二回にわたって和歌の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

四日 金曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛加藤虎之亮より『中庸』についての進講をお聴きになる。以後、この年は、同人より二十三回にわたって進講をお聴きになり、『中庸』について学ばれる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、加藤虎之亮関係資料

五日 土曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、孚彦王妃千賀子に伴われて初参内の誠彦王と御対面になる。初参内の王に対し、天皇・皇后より鮮鯛料等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、官報

七日 月曜日 午前、宮殿において、東京帝国大学教授板沢武雄より「皇国史進展ノ原理」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

八日 火曜日 午前、桐ノ間において、今般帰国のブルガリア国特命全権公使ヤンコ・ペエフに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

御夕餐後、天皇及び崇仁親王と共に御文庫において、「日本ニュース」、文化映画「野戦航空基地の設定」を御覧になる。以後、この年は、火曜日又は水曜日の御夕餐後を定例として、直宮及び各妃と「日

本ニュース」など時局関係の映画等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌
九日 水曜日 午前、奥御進講所において、宮内省御用掛穂積重遠より「昭和十九年度の予算について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

奥内謁見所において、今般退任の前侍従職御用掛柴伝吉、ついでこの日新任の侍従職御用掛川越憲雄に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、宮内省省報

十一日 金曜日 紀元節祭につき、午前、賢所・皇靈殿・神殿において、御拝礼になる。宮殿に還御後、天皇と共に和子内親王・厚子内親王と御対面になり、祝詞の言上をお受けになる。その後、天皇と共に御学問所において、崇仁親王始め皇族・王公族、ついで宮内大臣始め側近奉仕高等官よりそれぞれ拝賀をお受けになる。また、皇太子参内につき、天皇と共に御対面になり、祝詞の言上をお受けになる。正午過ぎ、天皇及び皇太子・和子内親王・厚子内親王と共に祝御膳をお召し上がりになる。

これより先、皇后宮女官長始め皇后宮女官等より祝詞の言上をお受けになる。夕刻、皇靈殿御神楽の儀につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、典式録、宮内省省報、官報

十二日 土曜日 去る一月二十六日御結婚二十周年につき、この日、天皇と共に御文庫において、当時の側近奉仕者にして現職の侍従次長甘露寺受長・侍従牧野貞亮・侍医頭八田善之進・侍医松永琢磨・皇后宮職御用掛高木多都雄、及び侍従長百武三郎・皇后宮大夫広幡忠隆・皇后宮女官長保科武子と御夕餐を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

十四日 月曜日 午前、宮殿において、東京帝国大学教授板沢武雄より東京帝国大学の沿革について

の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓される。四時十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、

宮内省省報、官報

十五日 火曜日 夜、天皇と共に御文庫において、雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・崇仁親王と映画を

御覧になる。これに先立ち、雍仁親王妃より子爵松平保男雍仁親王妃の叔父死去後の忌明けにつき、お礼言上を

お受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、恩賜録、皇親録、皇

族身分録、宮内省省報、官報

十六日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より「孝道と法律」と題する進講をお

聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

十七日 木曜日 午前、御文庫において盛厚王妃成子内親王と御対面になり、御製及び御歌の拝領に

つきお礼言上をお受けになる。去る十三日、成子内親王の結婚と同じ日昨年十月十三日に当たるため、天皇・

皇后は皇后宮女官東貞子を東久邇宮邸に差し遣わされ、御製・御歌を同内親王に贈られる。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十一日 月曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇后宮女官内山はるに御代拝を仰せ付けられる。○

女官長日記、女官日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に奥御対面所において、翌日より南方各地フィリピン・ボルネオ・マレー・スマトラ・ジャワを視察のため出張の崇仁

親王と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武

昭和十九年二月

官日誌、陣中日誌

二十二日 火曜日 午前、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。ついで、奥御食堂において御昼餐を御会食になる。御食後、参内の和子内親王・厚子内親王も加わり、夕刻まで御一緒に過ぐされる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、貞明皇后実録

正本、宮内省省報、官報

二十三日 水曜日 午前、奥御進講所において、宮内省御用掛穂積重遠より「吏道と板倉父子」と題する進講をお聴きになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十四日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元第五艦隊司令長官海軍中将河瀬四郎、ハンガリー国より帰国の特命全権公使大久保利隆に謁を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

二十五日 金曜日 午前、奥内謁見所において、先般聯合艦隊及び南東方面艦隊への御差遣から帰京の侍従武官佐藤治三郎より復命を聴取される。同人は去る三日出発、内南洋の状況を実視し、十四日帰京する。○女官長日誌、女官日誌、進退録、侍従武官府資料

二十六日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般第三十一軍司令官として出征の陸軍中将小畑英良に謁を賜う。その際、次のお言葉を賜う。

此度ハ重任ヲ帯ビテ出征スル趣洵ニ御苦勞ニ思フ

一層身体ヲ大切ニシテ御奉公ヲスルヤウニ

○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官府資料

昨夕海軍省より、去る六日のクエゼリン島^{マーシャ}における海軍大尉侯爵音羽正彦^{鳩彦王第二王子}の戦死並びに海

軍少佐進級の旨を公表につき、この日午前、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官岡部長章を同人邸に差し遣わされる。また、盛花を賜う。同じく午前、天皇と共に御学問所において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、音羽侯爵の戦死につき御機嫌伺いをお受けになる。その後、お一方にて朝融王妃知子女王と御対面になる。午後、奥内謁見所において、皇太后御使の権典侍清水谷英子に謁を賜い、天皇・皇后の御機嫌伺いをお受けになる。さらに天皇と共に稔彦王妃聡子内親王・盛厚王妃成子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、恩

賜録、皇親録、皇族身分録、宮内省省報、官報、陣中日誌、読売報知

昨年十月五日沖ノ島付近において敵潜水艦の襲撃により関釜連絡船崑崙丸が沈没、多数の死者が発生したことに對し、この日天皇・皇后より御救恤金を運輸通信大臣に下賜される。また、去る六日鹿児島県肝属郡垂水港において汽船第六垂水丸の転覆事故により死者並びに行方不明者発生につき、天皇・皇后より御救恤金を運輸通信大臣に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十七日 日曜日 この日、皇后宮女官長保科武子を御使として大宮御所に差し遣わされ、侯爵音羽正彦戦死につき、昨二十六日御使を通じて御機嫌伺いを受けたことにつきお礼をお申し入れになる。

○女官長日記、女官日誌

昨二十六日二・二六事件忌日につき、この日、故斎藤実夫人・故高橋是清夫人にそれぞれ菓子をお賜う。

○女官長日記

二十八日 月曜日 午前、宮殿において、東京帝国大学教授板沢武雄より、世界大戦と日本について

昭和十九年三月

の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

天皇と共に奥内謁見所において、鳩彦王・孚彦王鳩彦王第一王子と御対面になり、侯爵音羽正彦戦死に伴う勅

使・皇后宮使の御差遣等に対するお礼言上をお受けになる。午後、お一方にて奥内謁見所において、

参内の故永久王妃祥子と御対面になり、音羽侯爵戦死につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

二十九日 火曜日 午前、桐ノ間において、今般着任の初代フィリピン国特命全権大使ホルヘ・B・

ヴァルガス、及び随伴の大使館参事官フランシスコ・ラウイデス、大使館二等書記官フォステイノ・

シ・チャンコ、同レオン・マリア・ゲレロに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

三月

一日 水曜日 午前、奥御進講所において、宮内省御用掛穂積重遠より「軍事援護学会の研究問題について」と題する進講をお聴きになる。内容は、賜金扶助料等受給者問題を始め十三項目にわたる軍人及び遺家族に関する研究問題に及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

天皇と共に奥内謁見所において、第一軍参謀に転補の李鋤公と御対面になり、出征につきお礼言上と暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

二日 木曜日 貴子内親王の誕生日につき、午前、天皇と共に御文庫において、宮内大臣始め側近奉仕者総代の拝賀を、ついで皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に、

和子内親王・厚子内親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。その後、お祝御膳を御会食になる。なお、貴子内親王は、沼津滞在中につき不参となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

三日 金曜日 昨二日より御不例のため、午前、御文庫において暫時御仮床に就かれる。定例進講、及び今般帰還の元第十二軍司令官陸軍中将喜多誠一ほか五名の賜謁はお取りやめになる。喜多に対しては、侍従長が所労の皇后宮大夫に代わって皇后のお言葉を伝達する。これに対し、喜多より侍従長に、御沙汰及び賜物についてのお礼の申し入れがある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、百武三郎日記

四日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元第一艦隊司令長官海軍中将南雲忠一、元第四艦隊司令長官海軍中将小林仁に謁を賜う。その際、慰労のお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、第四艦隊司令長官小林仁奏上書

五日 日曜日 午後、天皇及び厚子内親王と共に、豊明殿並びに千種ノ間において、陸軍美術協会所属の画家により制作された大東亜戦争陸軍記録絵画三十二点のうち、藤田嗣治作「血戦ガダルカナル」を始めとする油彩画二十六点、日本画三点を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、侍従武官府資料、読売報知、戦争と美術

六日 月曜日 満四十一歳のお誕生日を迎えられる。

午前、奥内謁見所において、宣仁親王始め皇族・王公族の拝賀を、続いて宮内大臣始め側近奉仕者の拝賀をお受けになる。その後、稔彦王と御対面になり、祝詞の言上をお受けになる。ついで、再び奥内謁見所において、元奉仕者及び御学友に謁を賜い、祝詞の言上をお受けになる。正午前、和子内親

昭和十九年三月

王・厚子内親王と御対面になり、祝詞の言上をお受けになった後、奥御食堂において、天皇も御臨席になり、お祝御膳を御会食になる。

午後、天皇と共に奥内謁見所において、盛厚王と御対面になり、祝詞の言上をお受けになる。続いて、和子内親王・厚子内親王と共に奥内謁見所において、元女子学習院教授及び花御殿奉仕の講師に三回に分けて謁を賜う。夕刻、天皇及び和子内親王・厚子内親王と共に申ノ口にお出ましになり、側近奉仕高等官と茶菓を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、儀式録

多年にわたり結核予防事業に尽瘁した清心療養園長岩佐倫ほか功労者五名に対し、この日、特別の思召しをもって白羽二重及び金一封ずつを下賜される。○省中日誌、恩賜録

七日 火曜日 厚子内親王の誕生日につき、午後、天皇及び同内親王と共に奥内謁見所において、宮内大臣・内大臣始め側近奉仕高等官総代の拝賀を、続いて皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。夜、天皇及び和子内親王・厚子内親王と共に、御文庫においてお祝御膳を御会食になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

八日 水曜日 午前、奥御進講所において、宮内省御用掛穂積重遠より「孝明天皇復古攘夷の軫念について」と題する進講をお聴きになる。内容は、弘化三年二月の践祚以来の御製・宣命等に見える孝明天皇の思召しに及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

十日 金曜日 中華民国国民政府主席汪精衛の病氣お尋ねのため、天皇・皇后より侍従小倉庫次を事務官の資格をもって極秘非公式に名古屋帝国大学医学部附属病院に差し遣わされる。小倉は即日出発、同病院に赴き、行政院秘書長周隆庠を通じて病氣平癒を祈念する旨の天皇の御沙汰及び皇后の令旨を

伝達する。また小倉は周を通じて、天皇・皇后より汪に御贈進のラン・野菜・鶏卵いずれも新を、皇后より汪夫人陳璧君に御贈進のお手許品入り小管を伝達する。小倉は主治医より汪の病状を、また南京より随行の国民政府最高軍事顧問柴山兼四郎より一般状況の説明を聴取する。○侍従日誌、侍従武官日誌、外交慶弔録、小倉庫次侍従日記

十五日 水曜日 午前、盛厚王妃成子内親王と共に奥御進講所において、宮内省御用掛穂積重遠より「福島県下の節婦孝女について」と題する進講をお聴きになる。内容は、緑綬褒章又は知事表彰を拝受の節婦・孝女四名の生涯に及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

十六日 木曜日 午後、天皇と共に御文庫において、この日皇后宮女官を退官の万里小路ソデに謁を賜う。その際、お言葉を賜い、お手許品を下賜される。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、進退録

十七日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般第五方面軍司令官として出征の陸軍中将樋口季一郎を召され、お言葉を賜う。

此度ハ重大ナル任務ヲ帯ビタル趣洵ニ御苦勞ニ思フ

一層身体ヲ大切ニシテ御奉公ヲスルヤウニ

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官府資料

午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓される。四時十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十八日 土曜日 午後、天皇と共に御文庫において内親王傳育掛長藤井種太郎に謁を賜い、和子内親王・厚子内親王の成績につき奏上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、藤井種太郎日誌

昭和十九年三月

二十一日 火曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、皇后宮女官内山はるに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報、官報

二十二日 水曜日 午前九時十五分御出門、女子学習院に行啓される。御着後、皇族を始め来賓・諸員の奉迎のうちに便殿に入られ、皇族方と御対面になる。宮内大臣松平恒雄・院長芝田徹心等に謁を賜い、院長の先導にて卒業式の式場に臨御される。終了後、便殿において皇族方の成績品を御覧になる。御昼餐後、西体操場にお出ましになり、生徒の体操を御覧になる。ついで、再び講堂における初等科・中等科・高等科の音楽会に出御される。終わって、一同の奉送のうちに女子学習院を御出発、午後三時七分還啓される。その後、呉竹寮より参内の和子内親王・厚子内親王と御対面になり、和子内親王より中等科三年に進級につき、厚子内親王より同科二年に進級につき、それぞれお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

二十三日 木曜日 午前、奥内謁見所において、御機嫌伺いのため参内の京都在住華族総代の子爵小倉義季に謁を賜う。引き続き今般出征の台湾軍司令官陸軍大将安藤利吉、第三十二軍司令官陸軍中将渡辺正夫に謁を賜う。その際、次のお言葉を賜う。

此度ハ重任ヲ帯ヒタル趣洵ニ御苦勞ニ思フ一層身体ヲ大切ニシテ御奉公ヲスルヤウニ

また、今般帰還の元第五十八師団長陸軍中将下野一霍、元第三十五師団長陸軍中将坂西一良、元第十六師団長陸軍中将大場四平に謁を賜う。その際、次のお言葉を賜う。

出征以來克ク任務ヲ全ウシテ皇軍ノ武威ヲ発揚シタコトハ洵ニ御苦勞デアリマシタ

此度ハ凱旋デ御目出度ウ今後モ自愛シテ御奉公ヲスルヤウニ

○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、侍從武官府資料

午後、御書齋において、大谷智子^{御妹}及びその息女美都子、三条西淑子^{御妹信子の第一女子}と御対面になる。大谷智子・美都子より京都へ帰省の暇乞いを、三条西淑子より女子学習院卒業のお礼言上をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌

二十四日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般昭南へ出征の第七方面軍司令官陸軍大将土肥原賢二に謁を賜う。その際、次のお言葉を賜う。

此度ハ重大ナル任務ヲ帯ビタル趣洵ニ御苦勞ニ思フ

一層身体ヲ大切ニシテ御奉公ヲスルヤウニ

○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、侍從武官府資料

この日、沼津より帰京の貴子内親王が直ちに呉竹寮に移居するため、皇后宮女官内山はるを東京駅に差し遣わされ、呉竹寮まで供奉させられる。午後、貴子内親王に御贈進品を御披露のため、御使として皇后宮女官長保科武子を呉竹寮に差し遣わされる。その後、御文庫に和子内親王・厚子内親王・貴子内親王参殿につき、天皇と共に御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍從日誌、侍從職日誌、内舍人日誌、侍從武官日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、藤井種太郎日誌

今般岩手県下において降雪被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を同県に下賜される。

○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十五日 土曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、載仁親王と御対面になり、御機嫌伺い及び今般宮中杖の使用を差し許されたことについてのお礼言上をお受けになる。なお、この年八十歳^{数え年}

昭和十九年三月

になった載仁親王に対し、去る一月十五日、天皇・皇后より万那代料等を御贈進になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報、百武三郎日記

二十七日 月曜日 午前、宮殿において、東京帝国大学教授板沢武雄より、世界大戦の終局についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に奥御対面所において、元皇后宮女官万里小路ソデに謁を賜い、在職中のお礼言上をお受けになる。ついで南方各地フィリピン・ホルネオ・マレー・スマトラ・ジャワへの出張より帰還の崇仁親王参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

二十八日 火曜日 この日崇仁親王妃百合子着帯の儀執行につき、午前、天皇と共に奥御対面所において、稔彦王妃聡子内親王・盛厚王妃成子内親王と御対面になり、祝詞の言上をお受けになる。この日、天皇・皇后より三笠宮に三種交魚代料を御贈進になる。また、御使として皇后宮女官長保科武子を大宮御所に差し遣わされ、祝賀をお申し入れになる。午後、奥内謁見所において、皇太后御使の権典侍清水谷英子に謁を賜い、祝詞の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

三十日 木曜日 夕刻、天皇及び和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と共に申ノ口にお出ましになり、貴子内親王の呉竹寮移居、及び翌月の女子学習院幼稚園入園の祝賀のため、側近奉仕高等官等にお茶を賜い、余興を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

敵襲により丸山林松所有船日捷丸ほか十隻において死者発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤金を運輸通信大臣に下賜される。○省中日誌、恩賜録

四月

一日 土曜日 この日、御文庫において、今般貴子内親王の呉竹寮移居に伴い退職する皇后宮職御用掛東郷典子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、進退録

四日 火曜日 午前、天皇と共に宮殿において、この日女子学習院幼稚園に入園の貴子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

五日 水曜日 午前、奥御進講所において、宮内省御用掛穂積重遠より「二本松の少年隊」と題する進講をお聴きになる。戊辰戦争で戦死した二本松藩の少年隊について学ばれる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

七日 金曜日 午前、宮殿において今般支那方面艦隊へ御差遣の海軍中佐今井秋次郎に謁を賜い、同艦隊司令長官への令旨を下される。今井は九日出発、中華民国・香港へ赴き、五月九日に帰還、十二

日復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、進退録、侍従武官府資料、侍従武官今井秋次郎中佐行事覚

八日 土曜日 午前、故成久王妃房子内親王参内につき、奥内謁見所において御対面になり、去る一日の成久王命日のお尋ねに対するお礼言上をお受けになる。退出の際、学習院初等科入学の道久王に對するお祝品を房子内親王に託される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十日 月曜日 午前、宮殿において、東京帝国大学教授板沢武雄より「歐洲大戦後の世界動向」と題する進講をお聴きになる。正午、奥内謁見所において、退職のお礼言上のため参内の元皇后宮職御用掛東郷典子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十一日 火曜日 午前、昭憲皇太后三十年式年祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。また陵所に

において祭典が行われ、宮内省京都地方事務所長折田有彦に御代拝を仰せ付けられる。午後、天皇と共に御学問所において、文学博士福井久蔵より、昭憲皇太后の御歌についての講話をお聴きになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報、官報

十二日 水曜日 午前、宮内省御用掛穂積重遠より「国民勤労訓練所について」と題する進講をお聴きになる。内容は、昭和十六年以来全国五箇所に設置又は設置予定の国民勤労訓練所の綱領や入所者数等に及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

十七日 月曜日 午前十一時御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、御昼餐を御会食になる。午後、内庭にお出ましになり、皇太后と共にツクシ・ワラビなどをお摘みになる。三時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十八日 火曜日 午後、朝融王妃知子女王・正子女王^{御兄朝融王の第一王女}と御対面になり、正子女王女子学習院卒業につき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十九日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より「都市疎開について」と題する進講をお聴きになる。内容は、疎開問題の経過、都市防空計画、都市疎開の促進、都市疎開の困難と意義等に及ぶ。その後、奥内謁見所において、先般来帰京滞在中の春仁王妃直子と御対面になり、今般満洲へお成りにつき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十一日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般満洲より帰還の元第一師団長陸軍中将中沢三夫に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十三日 日曜日 午後、天皇と共に御文庫において、広島・静岡両県への出張よりこの日帰京の崇

仁親王と御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

先般侯爵音羽正彦戦死につき、この日、霊前に櫛を賜う。翌二十四日の葬送には、皇后宮使として皇后宮事務官徳川義寛を葬斎場に差し遣わされ、玉串をお供えになる。○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報、徳川義寛終戦日記

二十四日 月曜日 午前、奥御進講所において、東京帝国大学教授板沢武雄より、ドイツとイタリアの民族主義についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十五日 火曜日 午後、奥内謁見所において、京都への旅行より帰京の稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十六日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より「琴女おぼえ書」について」と題する進講をお聴きになる。内容は、『文芸春秋』昭和十九年四月号に掲載の山本周五郎作「琴女おぼえ書」に関するものとなる。○女官長日記、女官日誌、穂積家文書

この日、崇仁親王妃百合子が沼津御用邸東附属邸において内親王を出産する。天皇・皇后それぞれより崇仁親王・同妃に、三種交魚代料・菓子をお贈進になる。午後、天皇・皇后の御使として皇后宮職御用掛竹屋志計子が大宮御所に差し遣わされ、皇太后にお悦びを伝えられ、五種交魚代料をお贈進になる。これに対し、皇太后御使の権典侍清水谷英子参内につき、奥内謁見所において謁を賜い、御使御差遣についてのお礼言上をお受けになる。また、奥内謁見所において、稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、祝詞の言上をお受けになる。さらに、天皇と共に奥内謁見所において、盛厚王・同妃成子

昭和十九年四月

内親王と御対面になり、祝詞の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

侍従武官日誌、省中日誌、皇族身分録、崇仁親王妃百合子殿下御分媛の件、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に奥内謁見所において、鳩彦王と御対面になり、故侯爵音羽正彦の葬儀に際してのお仕向けにつき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十七日 木曜日 午前、宮殿において、野口幽香元女子学
習院教授より御修養の話をお聴きになる。午後、皇

子御座所入側に川合玉堂を召され、この日より日本画の稽古を始められる。以後、この年は、四回にわたって同人より日本画の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、野口幽香日記、野口幽香関

係文書

二十八日 金曜日 午前十時御出門、別格官幣社靖国神社に行啓され、御参拝になる。同三十四分還

啓される。御参拝に際し、幣帛料・神饌料をお供えになる。また靖国神社臨時大祭挙行につき、天皇・

皇后より同社に祭資を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓

録、宮内省省報、官報

故依仁親王妃周子参内につき、奥内謁見所において御対面になり、崇仁親王妃出産の祝詞言上をお受けになる。ついで崇仁親王参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、同妃出産に際してのお仕向けにつきお礼言上をお受けになる。その後、御昼餐を御会食になる。午後、故邦彦王妃俣子参内につき、奥内謁見所において御対面になり、祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

二十九日 土曜日 天長節につき、午前、皇太后宮御休所において、宮内大臣始め側近奉仕者一同、

及び皇后宮女官長始め皇后宮女官等より祝詞の言上をお受けになる。引き続き雍仁親王妃勢津子始め皇族・王公族の拝賀をお受けになる。ついで天皇と共に奥御座所入側において、皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面になり、祝詞の言上をお受けになる。その後、天皇と共に奥御対面所において、旧女官正親町鍾子以下に謁を賜う。終わって天皇及び皇子女と共に奥御座所前広芝にお出ましになり、写真撮影に臨まれる。その後、奥御食堂において、お祝御膳を御会食になる。午後、お一方にて奥内謁見所において、侯爵栗田彰常に謁を賜う。夕刻、天皇と共に奥御対面所において、元奉仕者又は元出仕に謁を賜う。続いて申ノ口にお出ましになり、和子内親王・厚子内親王も交えて側近奉仕高等官に茶菓を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、侍従武官日記、省中日誌、宮内省省報

五月

一日 月曜日 午前、奥御進講所において、東京帝国大学教授板沢武雄より「印度の独立運動について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日記、侍従職日記

二日 火曜日 去る二十六日誕生した内親王は、七夜に当たるとこの日、甯子やすこと命名される。この日、天皇・皇后の御使として皇后宮女官長保科武子を大宮御所に差し遣わされ、皇太后に祝詞を述べられ、五種交魚代料を御贈進になる。また、天皇・皇后より崇仁親王に白羽二重・酒・鮮鯛を、甯子内親王に鮮鯛代料・産衣を賜う。午後、皇太后御使として掌侍高松千歳子参内につき、奥内謁見所において謁を賜い、お祝いとお礼言上、及び五種交魚代料の御贈進をお受けになる。さらに、李鍵公・同妃誠

昭和十九年五月

子と御対面になり、祝詞の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、崇仁親王妃百合子殿下御分婉の件、宮内省省報、官報

三日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より「軍人援護婦人相談員について」と題する進講をお聴きになる。同人より、祖国の安寧、子孫の育成、軍需の充実が積極的軍事援護である旨をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

奥内謁見所において、今般聯合艦隊司令長官として出征の海軍大将豊田副武に謁を賜う。その際、次のお言葉を賜う。

此度ハ重任ヲ帯ヒテ出征スル趣洵ニ御苦勞ニ思フ

一層身体ヲ大切ニシテ御奉公ヲスルヤウニ

終わって、侍従武官中村俊久を介して豊田にお手製の真綿頭巾（鉄兜下に着用）を下賜される。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、侍従武官府資料

午後、宮殿において、御機嫌伺いのため上京参内の神宮大宮司子爵高倉篤磨に謁を賜う。引き続き今般疎開の元学習院女学部教授木内成、元女子学習院教授萩森タツノを特に召され、謁を賜い、思召しの品を下賜される。○女官長日記、女官日誌

今般、中華民国河北省井陘小寨村付近において敵襲により本邦人中に死者発生につき、天皇・皇后より御救恤金を大東亜大臣に下賜される。また今般、台湾台南州新営街において敵襲により死者発生につき、天皇・皇后より御救恤金を台湾総督府に下賜される。○省中日誌、恩賜録

四日 木曜日 午前、天皇と共に奥御対面所において、崇仁親王と御対面になり、去る二日の甯子内

親王の命名式終了、及び誕生のお祝品拝領についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇親録

午前十時御出門、青山御殿に行啓される。御着後、正仁親王と御対面になり、親王の所持品を御覧になる。その後、御一緒に親王の動静に関する映画を御覧になる。御昼餐を御会食の後、お庭を御散策になる。午後三時四十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

五日 金曜日 思召しをもって財団法人福田会に金一封を下賜される。福田会は、旧名を福田会育児院と称し、明治十二年、無告の孤子又は疾病罹災等による貧困者の子女の收容救育を目的として創設される。同二十四年、皇后^{昭憲皇太后}の特別の思召しをもって毎年金三百円下賜の御沙汰が下され、さらに同三十二年、金七百元増額下賜の恩命があり、この年まで金一千円が継続下賜されてきたが、毎年の紀元節に際しても金五百円が下賜されているため、この年度よりこれを合併し、金千五百円が継続下賜されることとなる。○恩賜録

六日 土曜日 元帥海軍大将古賀峯一死去につき、この日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官小倉庫次を同人邸に差し遣わされる。翌七日には、天皇・皇后より盛菓子、皇后より盛花を下賜される。昨五日午後三時、大本営より、古賀は聯合艦隊司令長官として去る三月に前線において飛行機に搭乗、全般作戦指導中殉職した旨が発表される。○女官長日記、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

今般タイ国バンコク市において敵襲により本邦人中に死者発生につき、天皇・皇后より御救恤金を大

昭和十九年五月

東亜大臣に下賜される。同じく中華民国安徽省蕪湖において敵襲により本邦人中に死者発生につき、天皇・皇后より御救恤金を大東亜大臣に下賜される。○省中日誌、恩賜録

八日 月曜日 午前、奥御進講所において、東京帝国大学教授板沢武雄より「濠洲の白濠主義について」と題する進講をお聴きになる。その後、奥内謁見所において、先般帰還の元第十三軍司令官陸軍中将下村定に謁を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官府資料

午後、天皇と共に奥御進講所において、帝国学士院会員佐佐木信綱より献上の宸翰等六点を御覧になる。この日御覧になった献上品は、「後深草天皇宸翰御消息」一幅、『天聰集』後奈良天皇皇宸記 一冊、『後水尾法

皇八十御賀の記』靈元天皇皇宸翰 一冊、「明治輝光」明治天皇御生誕の際の文書並びに勤皇の歌人 佐久良東雄が献上した懐紙を編輯したもの 一軸、「中山大典侍消息」一軸、

『畊雲千首』四冊から成る。○侍従日誌、侍従武官日誌、省中日誌、恩賜録、御物関係録、進献録、図書録

去る昭和十七年十一月、上海の沖合において東亜海運株式会社船神戸丸遭難により多数の死者発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤金を運輸通信大臣に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官

報

十日 水曜日 午前、奥内謁見所において、日本赤十字社総裁載仁親王と御対面になり、この日同社博物館講堂において開催の第五十二回通常総会に際して賜う次の令旨を下される。

日本赤十字社第五十二回総会に際し各員に告く

本社か総裁以下一同不断の努力に依り事業の充実発展を図り殊に大東亜戦争勃発以来戦時救護に克く其機能を發揮しつゝあるは深く満足する所なり

今や時局愈々重大なるの秋本社員一同協力一致益々事業の進展に努め以て奉公の誠を致さむこと

を望む

午後、総裁より奉答文が奉呈される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

午前十時御出門、東宮仮御所に行啓される。皇太子と御対面になり、ついで節句の人形を御覧になる。皇太子と共に庭園を暫時御散策の後、御昼餐を御会食になる。午後、皇太子の遊ぶ様子を御覧になり、三時四十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十一日 木曜日 午後、御文庫において、貴子内親王入園祝いの謡の会を催される。皇后宮事務官をお相手に「熊野」を謡われ、ついで貴子内親王一方による「鶴亀」、皇后宮女官による「羽衣」をお聴きになる。内親王退出後、皇后宮事務官の「弱法師」をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

元帥海軍大将古賀峯一死去につき、皇后宮使として皇后宮事務官徳川義寛を同人邸に差し遣わされ、花を賜い、焼香させられる。翌十二日に本願寺築地別院において行われる海軍葬には、皇后宮使として皇后宮事務官入江相政を差し遣わされ、焼香させられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十四日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、学習院初等科学生沼津へ疎開のため、翌十五日より同地に赴く皇太子と御対面になり、暇乞いをお受けになる。また、天皇及び皇太子と共に、盛厚王・同妃成子内親王と御対面になる。その後、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王を交えて御昼餐を御会食になる。午後、写真撮影等にてお過ごしになる。なお、皇太子に万那代料・菓子・苺等を御

昭和十九年五月

贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、宮内省省報

十五日 月曜日 午前、奥御進講所において、東京帝国大学教授板沢武雄より、大東亜戦争の起因となる英米両国の国民性についての進講をお聴きになる。その後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、天蚕を御覧になり、桑の木の虫を除かれ、お手ずからお世話とされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十七日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より「勤労青少年の動向について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

十八日 木曜日 侯爵音羽正彦の戦死を機として、同じく戦死の永久王昭和十五年九月四日張家口において戦死・伯爵伏見博英

昭和十八年八月二十一日セレベス島南部上空において戦死を偲ばれるため、この日、天皇と共に御学問所において、博恭王・鳩彦王・故成

久王妃房子内親王を招いての御夕餐を催され、三方をお慰めになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、百武三郎日記、小倉庫次侍従日記

紅葉山御養蚕所よりこの日お手許に届けられた蚕に桑をお与えになる。以後、折に触れて蚕のお世話をされる。○女官日誌

十九日 金曜日 午前十時より宮内省・近衛師団・警視庁による昭和十九年度第一回禁闕防衛連合演習実施につき、進講終了後、直ちに御文庫にお戻りになる。翌日午前七時三十分、演習は終了する。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、近衛歩兵第一聯隊歴史

二十日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般日本赤十字社篤志看護婦人会会長に就任の斎藤春子故子齋藤実夫人に謁を賜い、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

敵機動部隊による南鳥島空襲に伴い、御文庫において土曜定例御相伴の最中であつた午後六時二十五分に警戒警報が発令し、侍従武官今井秋次郎より情報が言上され、各所の幕が下ろされる。二十二日午後に警戒警報が解除されるまで、御文庫においてお過ごしになる。二十二日に予定されていた皇太后の御参内等はお取りやめとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、侍従武官府資料、宮内省省報、官報、機密戦争日誌

二十二日 月曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十四日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より「エール国中立問題」と題する進講をお聴きになる。内容は、アイルランド自由国に代わつて一九三七年成立のエール共和国による中立政策と英国との対立に及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

奥内謁見所において、音羽益子故侯爵音羽正彦夫人に謁を賜い、音羽侯爵の戦死に伴うお仕向けにつきお礼言上をお受けになり、霊前へのお供え用として野菜を下賜される。○女官長日記、女官日誌

去る十六日北海道空知郡美唄町三菱炭坑においてガス爆発のため多数の死傷者並びに行方不明者発生につき、この日、天皇・皇后より北海道庁に、御救恤として金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十六日 金曜日 午前十一時三十分天皇と共に御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と午餐を御会食になる。御食後、お揃いにて御散策になり、赤坂離宮の御文庫を御覧になる。午後三時四十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、

昭和十九年六月

宮内省省報、官報

二十九日 月曜日 午前、奥内謁見所において、学習院教授吉田早苗ほか新任の宮内高等官二十名に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内省省報

奥御進講所において、東京帝国大学教授板沢武雄より、米国の憲法・議会についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

三十日 火曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、邦寿王^{恒憲王第一王子}と御対面になり、病氣療養中

のお見舞いについてのお礼言上をお受けになる。王は南方戦線に出征中に罹患し、去る一月二十五日付にて陸軍歩兵学校教導聯隊付に転補され、熱海において病氣療養中であつたが、昨二十九日帰京した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、陸軍異動通報、百武三郎日記、読売報知

三十一日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より「奥村五百子伝」についての進講をお聴きになる。この日は、この年四月発行の神崎清著『奥村五百子』に基づき、愛国婦人会の創立者奥村五百子の生涯について学ばれる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

六月

一日 木曜日 夕刻、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御巡覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

五日 月曜日 午前、奥御進講所において、東京帝国大学教授板沢武雄より、南北戦争並びに米国の政策についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

七日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より「皇軍慰問について」と題する進講をお聴きになる。内容は、この年三月発行の渋沢秀雄著『皇軍慰問』に基づき、前年三月から五月に実施の東宝舞踊隊の中支皇軍慰問に及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

十一日 日曜日 夕刻、天皇と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌

十二日 月曜日 午前九時二十分御出門、女子学習院に行啓される。まず院長芝田徹心始め教授三名に謁を賜う。それより院長の先導にて、朝礼を始め各授業を御巡覧になる。また、保健体操並びに給食状況を御覧になる。その後、幼稚園にお立ち寄りになり、貴子内親王始め園児一同の保育状況を御覧になる。御昼餐後、引き続き各授業を御覧になる。その後、常磐会にお立ち寄りになり、常磐会勤労報国隊長の賜謁の後、報国隊の各種作業を御巡覧になり、会員の一人である盛厚王妃成子内親王の作業状況も御覧になる。また、御同級生一同にも謁を賜う。午後四時三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、幸啓録、省中日誌、宮内省省報、官報

先般敵襲により巴組汽船株式会社船玉山丸昭和十七年十二月及び同社船天穂丸昭和十八年四月において死者発生につき、天皇・皇后より御救恤金を運輸通信大臣に下賜される。○省中日誌、恩賜録

十三日 火曜日 午前、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。ついで、奥御食堂において御昼餐を御会食になる。御食後、お揃いにて吹上御苑を御散策になり、観瀑亭において厚子内親王・貴子内親王を交えて茶菓を共にされる。花蔭亭において天皇及び両内親王とお別れになり、お二方にて奥御対面所においてお話しになる。夕刻、皇太后は退出される。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

昭和十九年六月

十四日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より「失明軍人の和歌」と題する進講

をお聴きになる。昭和十八年十一月発行の佐佐木信綱・伊藤嘉夫共編『戦盲』失明傷痍軍人の作歌二
千二百二十三首を収録に所載の

和歌についてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

十五日 木曜日 夕刻、天皇と共に御文庫にお出ましになる。折柄、小笠原諸島の父島・硫黄島への敵機来襲に伴い、警戒警報が発令される。警戒警報発令につき、皇太后より御機嫌伺いの電話があり、皇后よりも電話を通じて御機嫌を伺われ、お礼を述べられる。以後、警戒警報発令に際しては、皇太后との間に電話又は御使を通じて御機嫌伺いが交わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

十六日 金曜日 午前、天皇と共に御文庫において、崇仁親王妃百合子と御対面になり、昨十五日沼津よりの帰京と出産後初参内につき御機嫌伺いをお受けになる。また、三種交魚の献上をお受けになる。その後、天皇及び崇仁親王妃と共に、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面になる。崇仁親王妃退出の際、万那料等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

今次の戦争における海軍関係の傷痍者に対し、繙帯千八百本を下賜される。○侍従職日誌

十七日 土曜日 今後なお一層苛烈な局面に対処するため、決戦下における全国婦人の総動員や、食糧の増産確保を始めとする一般生産・戦力増進、戦時下における乳幼児の保護育成に寄与してきた季節保育所・戦時常設保育所の普及及び充実を御奨励になる思召しをもって、この日、厚生大臣に金一封を下賜される。○恩賜録

十八日 日曜日 三条西味子御妹信子の第二女子と子爵木下利福の婚約につき、味子にお祝品を賜う。○女官長日記

十九日 月曜日 昨夜より警戒警報発令中につき、月曜日の定例進講はお取りやめとなる。午後四時、警戒警報は解除される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、野口幽香日記

二十日 火曜日 午前、宮殿において繭搔きをされる。以後、折に触れて繭搔きをされる。○女官長日記、女官日誌

二十一日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より「支那婦人の覚醒について」と題する進講をお聴きになる。この年四月発行の東京女子高等師範学校桜蔭会編纂『女性と歴史教育』に基づき、清朝末期から民国初期までの支那の女性の歴史について学ばれる。続いて、野口幽香より、「神見る」ということ、また「滅私」「陰徳を積む」ということなど、山室軍平・吉田清太郎の伝記を引用しての講話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書、野口幽香日記、野口幽香関係文書

二十二日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のブルガリア国特命全権公使ストヤン・ペトロフ・チョマコフに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

二十三日 金曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、崇仁親王妃百合子及び初参内の甯子内親王と御対面になり、崇仁親王妃より内親王の賢所初参拝についてのお礼言上をお受けになる。天皇・皇后より内親王に御所人形・万那料等を御贈進になる。午後、宮殿において皇太后御使の掌侍高松千歳子に謁を賜い、甯子内親王の賢所初参拝及び初参内についての祝詞言上をお受けになる。翌二十四

昭和十九年六月

日、皇后宮女官東貞子を御使として大宮御所に差し遣わされ、お礼として万那料を御贈進になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、宮内省省報、官報

二十四日 土曜日 夕刻、沼津への御使より昨二十三日帰京の皇后宮女官伊地知ミキ参内につき、皇

太子の様子をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

去る三月十四日、中華民国江蘇省江都県において敵襲により本邦人中に死者発生につき、この日、天皇・皇后より大東亜大臣に御救恤金を下賜される。また、過般台湾総督府管下において防空に従事中敵襲により死傷した者に対し、この日、天皇・皇后より祭糝料・菓子料を下賜される。○省中日誌、恩賜

録

二十五日 日曜日 皇太后のお誕生日につき、午前、天皇と共に御文庫において、皇后宮女官等の祝

賀をお受けになる。その後、天皇と共に、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面になり、祝

詞の言上をお受けになる。ついで御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十六日 月曜日 午前、宮殿において、東京帝国大学教授板沢武雄より「米国の東亜進出について」

と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、呉竹寮にお出ましになり、先着の盛厚王妃成子内親王と御対面の後、昨夜より静養中の貴子内親王をお見舞いになる。ついで成子内親王と共に、近日男爵四条隆貞と結婚の三条西淑子、及び子爵木下利福と結婚の三条西味子に謁を賜い、暇乞いをお受けになる。夕刻、女子学習院より帰寮の和子内親王・厚子内親王と御対面になり、お揃いにてお過ごしになる。三条西淑子・同味子退出の際、お祝品を下賜される。○女官長日記、女官日誌

二十八日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より『名将言行録』についての進講をお聴きになる。内容は、岡谷繁実著・菊池寛評注『名将言行録』昭和十八年・同十九年発行に基づき、戦国大名の言行に及ぶ。七月七日、第二回の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

三十日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、柞蚕を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

七月

二日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、崇仁親王妃百合子と御対面になり、翌三日より神奈川県箱根へ転地につき、挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍

従武官日誌、宮内省省報

三日 月曜日 午前、奥御進講所において、東京帝国大学教授板沢武雄より、最近の大東亜戦争に關しての米国の歴史についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、この日東宮傳育官を拝命の海軍主計大尉西郷從達に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、宮内省省報

昨年七月十一日、朝鮮咸鏡北道富寧郡沖合に出漁中の漁船において敵襲により死者発生につき、天皇・皇后より朝鮮総督府に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録

五日 水曜日 昨日午前九時より警戒警報発令中につき、宮内省御用掛穂積重遠の定例進講をお取りやめになる。午後五時三十分、警戒警報は解除される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午前、奥内謁見所において、戦地より帰還の元南西方面艦隊司令長官海軍大将高須四郎に謁を賜う。

昭和十九年七月

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

六日 木曜日 去る六月十六日敵の空襲により北九州地方において死者発生につき、この日、天皇・皇后より内務大臣に、御救恤として金一封を下賜される。また、同日防空に従事中に敵の空襲により死傷した者に対し、天皇・皇后より祭葬料又は菓子料を下賜される。○省中日誌、恩賜録、例規録、宮内省省報、官報

九日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、皇太子及び和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御昼餐を御会食になる。昨八日沼津より還啓の皇太子は、再び疎開のため、翌十日東宮仮御所より日光田母沢御用邸に行啓し、滞留する。その後、翌年七月二十一日、皇太子は同御用邸を發し、さらに疎開のため、学習院学生の夏季錬成に参加の名目にて日光湯元に行啓し、同年十一月七日の帰京に至るまで南間ホテルに滞留する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、吳竹寮日誌、幸啓録、東宮録、宮内省省報

十一日 火曜日 午前、天皇と共に御文庫において、正仁親王・貴子内親王と御昼餐を御会食になる。翌十二日、正仁親王は青山御殿より塩原御用邸に疎開する。ついで八月二十六日、親王は塩原御用邸を發し、日光田母沢御用邸附属邸に滞留する。さらに十一月一日、親王は日光御用邸に移居する。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌、幸啓録

十二日 水曜日 午前、宮殿において、野口幽香より、二葉保育園創立の主旨及びその後四十五年間の艱難辛苦を乗り越えた貧民救済事業の経過についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、野口幽香日記、野口幽香関係文書

夕刻、天皇と共に表御進講室において、海軍司政長官山崎巖南西方面海軍
民政府總監より献上のボルネオ・セレベス

産の資源標本を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従武官日誌

今般紅葉山御養蚕所の御用を終えて帰省する臨時皇后宮職御用掛有泉善三に、金一封を下賜される。

○女官長日記

十四日 金曜日 午前、奥御進講所において、今般八王子方面へ疎開につき挨拶のため参内の皇后宮職嘱託松井定克に謁を賜い、病氣お尋ねについてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

女官候所において、皇子御用掛原田リツに謁を賜い、去る十二日塩原御用邸に到着後の正仁親王の様子をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

十五日 土曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、恒憲王妃敏子に伴われて初参内の健憲王と御対面になる。王に対し、万那料等を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、

省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報、官報

十七日 月曜日 午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。四時十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十八日 火曜日 午前、奥内謁見所において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、病氣療養中のお見舞いについてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十日 木曜日 午前、奥内謁見所において、前任の関東軍総司令官陸軍大将梅津美治郎に謁を賜う。その際、次のお言葉を賜う。

満洲デハ永々御苦労デアリマシタ此度ハ無事帰還デ御目出度ウ今後一層自愛シテ御奉公ヲスルヤ

昭和十九年七月

ウニ

ついで新任の関東軍総司令官陸軍大将山田乙三に謁を賜う。その際、次のお言葉を賜う。

此度ハ関東軍総司令官トシテ満洲へ出発スル趣洵ニ御苦勞ニ思フ

一層身体ヲ大切ニシテ御奉公ヲスルヤウニ

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、侍従武官府資料

桐ノ間において、今般着任の仏国特命全權大使アンリ・コスム及び同夫人、随伴の大使館参事官男爵ロベール・ド・ボアセゾン以下の館員一同及びその夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

二十三日 日曜日 天皇と共に御文庫において、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御昼餐を御会食になる。午後、貴子内親王と共に、プールにおいて天皇及び和子内親王・厚子内親王が御一緒に水泳をされる様子を御覧になる。なお、翌二十四日より日光田母沢御用邸附属邸に疎開滞留する三内親王に、天皇・皇后より菓子を賜う。三内親王は、八月二十六日に塩原御用邸に移り、翌年十一月十九日に帰京するまで滞留する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌、皇后宮職御成随行日誌、幸啓録

二十七日 木曜日 去る二十日新潟県下において豪雨被害発生につき、天皇・皇后より同県に、御救恤として金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

三十日 日曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報、官報

三十一日 月曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、稔彦王妃聡子内親王・盛厚王と御対面になり、王の陸軍大学校卒業についてのお礼言上をお受けになる。天皇・皇后より稔彦王・同妃に三種交魚代料を、盛厚王に三種交魚代料及びお品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、皇族身分録

八月

二日 水曜日 去る七月中旬・下旬朝鮮総督府管下において豪雨被害発生につき、天皇・皇后より同総督府に、御救恤として金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録

四日 金曜日 昭和十七年一月以降、大東亜戦争の空襲により死傷した防空従事者に、天皇・皇后より祭料又は菓子料を下賜されることとされていたが、この月一日以後の事故より、菓子料の下賜が廃止される。また、不慮の災厄による陸海軍将校以下の負傷者に対する菓子料の下賜も、同様に廃止される。○侍従日誌、省中日誌、上奏モノ控簿、例規録

五日 土曜日 昨四日より警戒警報発令中につき、午前、御文庫においてお過ごしになり、エリ蚕を御整理になる。午後零時三十分警戒警報が解除される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、侍従武

官日誌

七日 月曜日 皇后宮職御用掛高木多都雄を鳥居坂御殿に差し遣わされ、盛厚王妃成子内親王の様子をお尋ねになる。○女官長日記、女官日誌

八日 火曜日 枢密院議長原嘉道昨七日死去につき、この日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事

務官三井安弥を同人邸に差し遣わされる。十日には、皇后宮使として皇后宮事務官徳川義寛を同邸に差し遣わされ、花を賜い、焼香させられる。十一日に行われる葬送には、皇后宮使として皇后宮事務官小倉庫次を葬斎場に差し遣わされ、焼香させられる。なお、昨七日、同人の危篤に際して、天皇・皇后よりお尋ねとして侍従小出英経・侍医稲田淳を同人邸に差し遣わされる。また、葡萄酒を下賜される。○侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、官報

九日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般イタリア国より帰国の特命全權大使堀切善兵衛に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

去る三日、恒徳王妃光子が満洲国新京特別市の恒徳王御仮寓所において第二王子を出産する。誕生した王子は、七夜に当たるこの日、恒治つねはると命名される。命名当日に際し、天皇・皇后より恒徳王に白羽二重・酒・鮮鯛代料を賜う。○女官長日記、省中日誌、皇親録、皇族身分録、恒徳王妃光子殿下御分娩の件、官報

中華民国国民政府主席汪精衛の病氣お見舞いのため、天皇・皇后より侍従小倉庫次を名古屋帝国大学医学部附属病院に極秘に差し遣わされ、汪夫人陳璧君に対し、天皇・皇后の御沙汰並びにお見舞品を御伝達になる。小倉は十日帰京、天皇・皇后に復命する。○侍従日誌、百武三郎日記、徳川義寛終戦日記

十一日 金曜日 午前、奥内謁見所において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、同妃持参の改良服を御覧になり、種々言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、高松宮日記

十七日 木曜日 豊島岡墓地において輝仁親王明治天皇第五皇子五十年式年祭挙行につき、皇后宮職御用掛竹屋志計子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録

十八日 金曜日 今般中華民国及びビルマ国において敵襲により本邦人中に死者発生につき、天皇・

皇后より大東亜大臣に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録

十九日 土曜日 去る六月十六日、北九州において防空従事中に敵の空襲により死傷した者に対し、

この日、天皇・皇后より祭装料又は菓子料を下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十二日 火曜日 夜、御文庫に雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子参殿につき、御対面になる。

御殿場より上京の雍仁親王妃より雍仁親王の様子をお聞きになる。ついで、女子の服装問題につき両親王妃持参・着用の改良服及びその写真を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌、侍従武官日誌

二十三日 水曜日 この日、箱根に滞在中の甯子内親王箸初につき、天皇・皇后より崇仁親王・同妃百合子に五種交魚代料を、甯子内親王に鮮鯛料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌

二十四日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元第三南遣艦隊司令長官海軍中将岡新に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十九日 火曜日 午前、奥内謁見所において、この日侍従長を拜命の海軍大将藤田尚徳に謁を賜う。

引き続き、今般侍従長を退官の百武三郎に謁を賜う。両名にそれぞれお言葉を賜う。なお、百武に対しては、天皇・皇后・皇太后より御紋付文台硯箱を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、官報、百武三郎日記

三十日 水曜日 御夕食後、天皇及び崇仁親王・宣仁親王妃喜久子と共に御文庫において、映画を御覧になった後、宣仁親王妃考案・着用の女子改良服を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌、侍従武官日誌

昭和十九年九月

今般朝鮮総督府管下の黄海道・平安南道において豪雨被害発生につき、天皇・皇后より同総督府に、御救恤として金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録

九月

一日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般タイ国へ赴任の特命全權大使山本熊一、ついで緬甸方面軍司令官として出征の陸軍中将木村兵太郎に謁を賜う。木村に対し、次のお言葉を賜う。

此度ハ重任ヲ帯ヒテ出征スル趣洵ニ御苦勞ニ思フ

一層身体ヲ大切ニシテ御奉公ヲスルヤウニ

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、侍従武官府資料、官報

今般台湾総督府管下において暴風雨被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を同総督府に下賜される。○省中日誌、恩賜録

二日 土曜日 正午過ぎ、天皇と共に御文庫において、今般侍医を退官の高橋信に謁を賜う。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌

四日 月曜日 午前、奥内謁見所において、百武まぢ子前侍従長百武三郎夫人に謁を賜い、お礼言上と暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、百武三郎日記

去る八月十一日、北九州地方において敵の空襲により死者発生につき、天皇・皇后より御救恤金を内務大臣に下賜される。ついでこの月十三日にも、追加の御救恤金を下賜される。また、去る八月十一日防空従事中に敵の空襲により死亡した者に対し、この日、天皇・皇后より祭葬料を下賜される。○

省中日誌、恩賜録

六日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元第二十六師団長陸軍中将佐伯文郎以下の元師団長五名に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、奥内謁見所において、この日帝室博物館総長を退官の渡部信、大膳頭を拝命の本多猶一郎始め新旧宮内省部局長九名、並びに侍医寮御用掛横手英一に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、官報

七日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般北部軍へ御差遣の侍従武官尾形健一に謁を賜い、令旨を下される。尾形は九月九日出発、北海道及び千島に赴き、同二十九日帰還、十月七日復命する。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録、侍従武官日誌、侍従武官府資料、尾形健一大佐日記

十二日 火曜日 午前、奥内謁見所において、この日皇后宮職御用掛を拝命の学習院教授野村行一、皇后宮事務官を拝命の栄木忠常に謁を賜う。なおこの日、宮内大臣口達により、野村は東宮御学問所開設準備主任を、栄木は東宮御学問所開設準備に関する事務への従事を命じられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、官報

十三日 水曜日 午前、御文庫において、女子改良服についての御沙汰を皇后宮女官等に下される。

○女官日誌

去る六月十五日及び七月四日防空に従事中敵の空襲により死傷した者に対し、この日、天皇・皇后より祭糝料又は菓子料を下賜される。○省中日誌、恩賜録

十五日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般満洲より帰還の元第五軍司令官陸軍中将上村利道、

昭和十九年九月

元第二航空軍司令官陸軍中将河辺虎四郎、元第四飛行師団長陸軍中将阪口芳太郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十八日 月曜日 午前、宮殿において、東京帝国大学教授板沢武雄より、太平洋の歴史についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より「第八十五帝国議会について」と題する進講をお聴きになる。内容は、去る六日の召集から十二日の閉院式までの帝国議会の議事に及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

先般敵襲により西大洋漁業統制会社船第七十八新生丸四月二十二日小笠原父島沖において遭難・第二日東丸八月十一日占守島幌筵島において遭難

十一南光丸四月四日東経百三十度五分・北緯二度五十分において遭難に死者発生につき、天皇・皇后より御救恤金を運輸通信大臣に下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十一日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元北東方面艦隊司令官海軍中将戸塚道太郎、ビルマ国へ赴任の特命全権大使石射猪太郎に謁を賜う。その際、兩名にお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、官報

午後、女子改良服を御覧になる。○女官日誌

二十三日 土曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録

二十五日 月曜日 午前、宮殿において、東京帝国大学教授板沢武雄より、太平洋の地理についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

今般南方方面へ御差遣の侍従武官坪島文雄・同清家武夫に謁を賜い、令旨を下される。坪島は十月二日出発、フィリピン・台湾・南西諸島の状況を実視し、十九日帰還、二十五日復命する。また、清家は十月二十日出発、十一月十七日帰京、十二月十四日復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、進退録、尾形健一大佐日記、侍従武官今井秋次郎中佐行事覚

二十六日 火曜日 午前、奥御進講所において、内親王傳育掛長藤井種太郎に謁を賜い、塩原滞在中の和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の状況につき言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、藤井種太郎日誌

財団法人結核予防会に対し、この日、事業御奨励の思召しをもって金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十七日 水曜日 午前、奥御進講所において、宮内省御用掛穂積重遠より「ノモンハン戦の実戦記」と題する進講をお聴きになる。この年七月発行の須見新一郎著『実戦寸描』に基づき、昭和十四年夏のノモンハン戦闘における須見聯隊の奮戦についてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

奥内謁見所において、伯爵大谷光暢御妹智子の夫君、及び今般海軍予備学生として入隊のため土浦に赴く同子息光紹と御対面になる。○女官長日記、女官日誌

先般敵襲により樺太六月十一日並びに北九州地方八月二十日において死者発生につき、この日、天皇・皇后より内務大臣に御救恤金を下賜される。また、六月十五日・七月四日・八月二十日小笠原諸島母島及び北九州地方において防空に従事中敵襲により死傷した者に対し、天皇・皇后より祭葬料又は菓子料を下賜

昭和十九年十月

される。○省中日誌、恩賜録

二十八日 木曜日 午後一時十五分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になる。ついで内庭を御散策になり、また皇太后御考案による女子改良服を御覧になる。四時十七分還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、官報

二十九日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般戦地より帰還の元緬甸方面軍司令官陸軍中将河辺正三、元第四航空軍司令官陸軍中将寺本熊市、元第六十五師団長陸軍中将太田米雄に謁を賜う。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、拝謁参拝録

三十日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般第十四方面軍司令官として出征の陸軍大将山下奉文に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

和子内親王の誕生日につき、天皇と共に奥内謁見所において、和子内親王御使として参内の内親王傳育掛長藤井種太郎に謁を賜い、同内親王の誕生日についてのお礼言上をお受けになる。また、側近奉仕高等官総代の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、藤井種太郎日誌

この月中旬福岡県大牟田市の三川炭坑において坑内事故により多数の死者発生につき、この日、天皇・皇后より同県に御救恤として金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録

十月

二日 月曜日 午前、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。ついで御昼餐を御会食になり、夕刻まで御一緒に過ごされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

侍従武官日誌、省中日誌、貞明皇后実録正本、官報

時勢の推移と衣料資源需給の現況に鑑み、皇室令をもって、宮中における女子の通常服に関する件が公布・施行される。これにより、従来使用してきた袴袴通常服及びローブモントの代替として、古来の服飾の伝統を参酌した簡素な新通常服が制定され、宮中内又は宮中関係の行事に際しての着用が認められる。新通常服は装衣・上衣・下衣・帯・履から成る。また、この通常服から装衣を除いた服装が女子の平常服とされ、宮中内又は宮中関係の行事に際し、儀礼にわたらない場合にこれを着用し得ることが定められる。○省中日誌、皇室令録、官報

四日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般第五十一教育飛行師団参謀に転補の孚彦王赴任に伴する同妃千賀子と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

宮内省御用掛穂積重遠より、「米英の宣伝と実情」と題する進講をお聴きになる。内容は、この年一月・二月における米英の政治的攻勢、米英の謀略宣伝の狙いとその実情などに及ぶ。○女官長日記、女官

日誌、侍従職日誌、穂積家文書

去る九月三日高野山電気鉄道紀伊細川駅付近において列車事故が発生し、今般遭難者の慰霊法要執行につき、天皇・皇后より香華料として金一封を運輸通信大臣に下賜される。○省中日誌、恩賜録、官報

五日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のトルコ国特命全権大使アーリー・ムザフェール・グーケル及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。ついで随伴の大使館一等書記官ハイダル・ギョルクほか一名に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、官報
午後、奥内謁見所において、李鍵公妃誠子と御対面になり、伯爵松平頼寿李鍵公妃の伯父の死去後の忌明けにつ

昭和十九年十月

きお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、官報

九日 月曜日 午前、宮殿において、東京帝国大学教授板沢武雄より「人種と民族の一般論」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十一日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般戦地より帰還の元第十五軍司令官陸軍中将牟田口廉也、元第三十二軍司令官陸軍中将渡辺正夫に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十三日 金曜日 盛厚王妃成子内親王結婚一周年及び内着帯につき、午前、側近奉仕者より祝詞の言上をお受けになる。天皇・皇后より御使として皇后宮女官長保科武子を鳥居坂御殿に差し遣わされ、祝詞を伝えられ、お祝品を御贈進になる。午後、東久邇宮御使として参内の東久邇宮御用取扱小倉満子に謁を賜う。続いて、天皇と共に奥内謁見所において、稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、成子内親王内着帯執行についてのお礼言上をお受けになる。その後、お一方にて皇太后御使の権掌侍大原慶子に謁を賜う。これより先、御使として皇后宮職御用掛竹屋志計子が大宮御所に差し遣わされ、祝詞を述べられ、五種交魚代料・苔桃を御贈進になる。皇太后よりも万那料の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌

去る七日、朝融王妃知子女王が神奈川県藤沢市鵠沼の御仮寓所において第三王子を出産する。誕生した王子は、七夜に当たるこの日、朝宏あさひろと命名される。命名当日に際し、天皇・皇后より朝融王に白羽二重・酒・鮮鯛代料を賜う。○女官長日記、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、朝融王妃知子女王殿下御分娩の件、官報

十四日 土曜日 午前、奥内謁見所において、故邦彦王妃倪子と御対面になり、昨日盛厚王妃成子内

親王内着帯終了につき祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十五日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、盛厚王・同妃成子内親王と御対面になり、去る十三日の結婚一周年並びに内着帯に際してのお祝品の下賜につき、お礼言上をお受けになる。その後、お揃いにて写真撮影に臨まれ、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

十六日 月曜日 午前、奥内謁見所において、朝融王と御対面になり、第三王子朝宏王誕生についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

故従一位柳原愛子一周忌につき、皇后宮使として皇后宮女官東貞子を墓所に差し遣わされ、焼香させられる。○省中日誌、恩賜録、官報

十七日 火曜日 午前、神嘗祭につき、皇后宮御座所西入側において、神宮を御遙拝になる。ついで賢所において、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録

十八日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より「戦ふ西陣（京都府の企業整備）」と題する進講をお聴きになる。内容は、京都西陣を実例に企業整備の観点から見た繊維工業の軍需産業への転換の状況に及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

十九日 木曜日 午前十一時御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、御昼餐を御会食になる。午後、以前お召しの礼服を取り寄せられ、皇太后に披露され、女子改良服について御相談になる。四時十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、官報

二十日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元第十四方面軍司令官陸軍中将黒田重徳に

昭和十九年十月

謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇と共に奥御進講所において、内親王傳育掛長藤井種太郎より、和子内親王・厚子内親王の春学期の成績及び近況についての言上をお受けになる。続いて、御一緒に奥内謁見所において、この日皇后宮女官を退官の宇野千代に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、進退

録、藤井種太郎日誌

午後、宮殿において皇太后御使として参内の典侍竹屋津根子に謁を賜い、台湾沖の大戦果につき祝詞の言上と御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌

敵襲により大阪商船株式会社船高千穂丸ほか一隻において死者発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を運輸通信大臣に下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十一日 土曜日 翌二十二日より別格官幣社靖国神社において臨時大祭挙行につき、天皇・皇后より祭資を下賜される。○幸啓録

二十四日 火曜日 この日、女子改良服について打ち合わせるため、皇后宮職御用掛高木多都雄・同河合りょう子を大宮御所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌

二十五日 水曜日 午前、宮殿において、宮内省御用掛穂積重遠より「公家の住居に就て・武家の住居に就て」と題する進講をお聴きになる。この年六月発行の今和次郎著『暮らしと住居』により、公家と武家の住居について、歴史と特徴等を学ばれる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十六日 木曜日 午前、宮殿において、野口幽香より「信頼の鷹揚に就て」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、野口幽香日記、野口幽香関係文書

午後二時三十五分御出門、別格官幣社靖国神社に行啓され、御拝礼になる。三時五分還啓される。従来は同社臨時大祭期間中に行啓されていたが、現下の戦局に伴う防空上の見地より、大祭終了後のこの日に実施される。なお御参拝に際し、天皇・皇后より幣帛料・神饌料をお供えになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、官報

昨二十五日掃立てのERI蚕のお世話を、この日よりお始めになる。○女官長日記

二十七日 金曜日 午前、奥内謁見所において、京都在任華族総代の子爵外山英資に謁を賜う。○女官

長日記、女官日誌、侍従職日誌

夜、御文庫において、去る二十日よりのフィリピン沖海戦、レイテ湾内総合戦果並びに成都夜襲の模様などのラジオ放送を聴取される。○女官日誌

三十日 月曜日 午前、宮殿において、東京帝国大学教授板沢武雄より、南方民族についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、今般満洲より帰国の恒徳王妃光子と御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。

また、去る五月天皇より勲一等瑞宝章拝受につき、お礼言上をお受けになる。同妃は同勲。章を佩用。なお、同妃に万

那料等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十一月

一日 水曜日 午前、宮殿において、今般帰還の元第一航空艦隊司令長官海軍中将寺岡謹平に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、大東亜戦争随筆

午後一時二十五分空襲警報発令につき、天皇と共に御文庫地下室に御動座になる。去る昭和十七年十一月二十二日以来の御動座となり、この日は空襲警報解除の二時五十五分まで同所においてお過ごしになる。以後、空襲警報発令の際には、御文庫地下室に御動座になることとされる。また、空襲警報発令により、賢所・皇霊殿・神殿が賢所仮殿西北地下の斎庫昭和十七年六月二十日竣工に奉遷される。なお、賢所・皇

霊殿・神殿は、翌年八月三十日に本殿へ再び奉遷される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、祭祀録、重要雑録

この日の空襲につき、皇太后、盛厚王妃成子内親王、故邦彦王妃倪子よりそれぞれ電話にて御機嫌伺いをお受けになる。皇后も電話にてそれぞれ御機嫌をお伺いになる。以後、空襲の際には、電話又は御使を通じて御機嫌伺いが交わされる。○女官長日記、女官日誌

三日 金曜日 午前、天皇と共に奥御対面所において、盛厚王妃成子内親王と御対面になり、明治節の祝詞の言上をお受けになる。ついで皇后宮女官長始め皇后宮女官等より祝詞の言上をお受けになる。その後、天皇と共に御学問所において、皇族・公族の拝賀を、また、皇太子御使の東宮傳育官石川岩吉、正仁親王御使の皇子傳育官桑折英三郎より祝詞言上をお受けになる。ついで、宮内大臣・内大臣始め側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。さらに奥御対面所において、旧女官の正親町鍾子・園祥子・生源寺伊佐雄、元皇后宮女官猪野毛ソデ旧姓万里小路に謁を賜い、祝詞の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

六日 月曜日 この日、侍従会議の決定により、天皇・皇后は爾後当分の間、やむを得ない行事への出御を除き概ね宮殿に還御されず、御文庫においてお過ごしになることとされる。宮殿における定例

進講は、当分お取りやめとなる。○侍従日誌、侍従職日誌

七日 火曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、邦寿王と御対面になり、豊橋第一陸軍予備士官学校歩兵生徒隊付に転補の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

侍従武官日誌、皇親録、皇族身分録

九日 木曜日 去る六月十五日及び七月四日、小笠原諸島において敵襲により死者発生につき、この日、御救恤として天皇・皇后より金一封を内務大臣に下賜される。また、去る八月二十日防空に従事中敵の空襲により死亡した者に対し、この日天皇・皇后より祭葬料を下賜される。○恩賜録

十一日 土曜日 午前、宮殿において、今般帰還の元南西方面艦隊司令長官兼第十三航空艦隊司令長官第三南遣艦隊司令長官海軍中将三川軍一に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌

十三日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般仏領インドシナへ出発の特命全権大使松本俊一に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、官報

夕刻、御文庫において皇后宮女官長保科武子より、御差遣先の川崎の芝浦電気工場におけるグリッド電波探知機の真空管の部品である格子状の電極製作等の見学状況をお聴きになる。なお去る十日には、かねてよりの報国の思召しに

基づき、電波探知機の真空管の一部製造作業に関する講習会が開かれ、軍より派遣の指導者が参内の上、皇后宮女官等に対して講演を行う。○女官長日記、女官日誌

十四日 火曜日 夜、御文庫においてグリッド製作の御練習等にて過ごされる。以後、折に触れてグリッドの製作にて過ごされる。○女官長日記、女官日誌

昭和十九年十一月

中華民國国民政府主席汪精衛去る十日死去につき、この日、汪夫人陳璧君に弔意を伝達される。これに対し、二十五日、汪夫人より外務大臣重光葵を通じて謝意が寄せられる。○女官長日記、女官日誌、外交慶弔録

十五日 水曜日 午前、奥内謁見所において、宮内技師手塚悦郎ほか新任の宮内高等官二十一名に秋期定例の謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十六日 木曜日 午前、寒香亭において、野口幽香より「勝利の生活」と題する進講をお聴きになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、野口幽香日記、野口幽香関係文書

十七日 金曜日 翌十八日、築地本願寺において、大東亜戦争勃発以来敵国及び断交国に抑留中死去した同胞を慰霊するため、敵国在留同胞対策委員会が遺族を集めて法要を行うに当たり、この日、天皇・皇后より同会に香華料を下賜される。○省中日誌、恩賜録

十九日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、崇仁親王・同妃百合子、及び初参殿の甯子内親王と御対面になる。内親王にお品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

午後、御文庫において繙帯巻きをされる。二十日・二十二日にも、繙帯巻きをされる。○女官長日記、女官日誌

二十日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元第二十七師団長陸軍中将竹下義晴、元第五師団長陸軍中将山本務、元第二十二師団長・元北支那方面軍参謀長陸軍中将大城戸三治に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十八日 火曜日 正仁親王の誕生日につき、午前、奥内謁見所において、宮内大臣始め各総代、続いて皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。御夕餐後、日光に滞在中の正仁親王について、この日の動静をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三十日 木曜日 昨夜午後十一時四十五分空襲警報発令につき、同五十分、天皇と共に御文庫地下室に御動座になり、この日の朝までお過ごしになる。帝都に対する最初の夜間空襲となる。東久邇宮鳥居坂御殿近火につき、お見舞いの御使として皇后宮女官長保科武子を差し遣わされる。午後、故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王が御機嫌伺いのため参殿し、雍仁親王・同妃勢津子からも御機嫌伺いの申し入れがある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌

十二月

五日 火曜日 午前、花蔭亭にお出ましになり、三条西信子^{御妹}及び息女の四条淑子と御対面になる。今般淑子結婚につき、お礼言上をお受けになり、お祝品を賜う。○女官長日記、女官日誌

従二位永井柳太郎死去につき、午前、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官小倉庫次を同人邸に差し遣わされる。午後、皇后宮事務官三井安弥を同人邸に差し遣わされ、花を賜い、焼香させられる。翌六日に行われる葬送には、皇后宮使として小倉事務官を葬斎場に差し遣わされ、焼香させられる。なお、昨日、同人の病気に際して、天皇・皇后よりお尋ねとして侍医を差し遣わされる。また、葡萄酒を下賜される。○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、官報

六日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元支那派遣軍総司令官元帥陸軍大将畑俊六に

昭和十九年十二月

謁を賜い、言上をお受けになる。畑に対し、次のお言葉を賜う。

出征以来終始克ク重大ナ任務ヲ全ウシテ大イニ皇威ヲ發揚シタコトハ洵ニ御苦勞デアリマシタ

本日ハ目出度ク凱旋デ喜バシク思ヒマス戦局重大ノ際一層自愛シテ御奉公ヲスルヤウニ

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官府資料、畑俊六日誌

七日 木曜日 今般タイ国・ビルマ国・中華民国において敵襲により本邦人中に死者発生につき、天皇・皇后より御救恤金を大東亜大臣に下賜される。○省中日誌、恩賜録

八日 金曜日 天皇・皇后より日本赤十字社に対し、同社病院の御補助として金一封を下賜される。

○恩賜録、事業年報（日本赤十字社）

十三日 水曜日 戦時下において、人的資源の涵養に資し国力の根源を培養するため、従来の東京都

下官公私連合の歳末診療事業が官公私連合歳末厚生事業と改められ、この年度より専ら乳幼児及び妊婦の健康増進に努め、母子保健の向上、健康児の出生、並びに乳幼児の養護に当たることとされる。

本事業御奨励の思召しをもって、この日、特に金一封を東京都に下賜される。○恩賜録

十四日 木曜日 午前二時五十分警戒警報発令につき、同五十五分、天皇と共に御文庫地下室に御動座になり、朝までお過ごしになる。去る十二日に、天皇・皇后共に今後は御文庫地下室において御就

寝になることが定められたが、地下室内の気温が華氏七十度^{摂氏二十一度}前後に上るため改善策が講じられ

ることとなり、昨十三日より暫時の間、地上において御就寝になり、警報の発令があれば御文庫地下室へ御動座になることに変更される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省

中日誌、小倉庫次侍従日記

十五日 金曜日 去る十一月二十四日・二十七日・三十日関東地方において敵襲により死者発生につき、天皇・皇后より御救恤金を内務大臣に下賜される。なお、今般防空に従事中敵の空襲により死亡した者に対し、この日、天皇・皇后より祭葬料を下賜される。○省中日誌、恩賜録

十八日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元第一機動艦隊司令長官海軍中将小沢治三郎、元海南警備府司令長官海軍中将松木益吉に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

男爵一木喜徳郎昨十七日死去につき、この日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官三井安弥を同人邸に差し遣わされる。二十日には、天皇・皇后より祭資を下賜される。また、皇后宮使として三井事務官を差し遣わされ、榊を賜い、玉串をお供えになる。二十一日に行われる葬送には、皇后宮使として皇后宮事務官小倉庫次を葬斎場に差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、昨十七日、同人の危篤に際して、天皇・皇后・皇太后より侍従小倉庫次^{皇后宮事務官}に差し遣わされる。また、お尋ねとして葡萄酒を下賜される。○侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、上奏モノ控簿、恩賜録、貞明皇后

実録正本、官報

二十一日 木曜日 午前、天皇と共に御文庫において、今般新任の侍従武官吉橋戒三^{陸軍中佐}、及びこの日転補の前侍従武官山県有光に謁を賜う。続いて、新任の侍医小島憲に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、進退録、侍従武官府資料、吉橋戒三日誌

二十二日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元第一軍司令官陸軍中将吉本貞一・元第六十六師団長陸軍中将北川一夫に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。引き続き同所において、朝融王

昭和十九年十二月

妃知子女王と御対面になり、出産後初参内の挨拶、及び正子女王と伯爵龍田徳彦の納采の儀終了についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拜録

二十三日 土曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に御学問所において、崇仁親王始め皇族の祝賀をお受けになる。その後、皇太子御使として参内の東宮傳育官石川岩吉に謁を賜い、続いて、宮内大臣始め側近奉仕者総代の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

先般国民学校の学童疎開が実施されるに当たり、揺籃の地と父母の膝下より離れ、他郷において新年を迎える疎開学童の心情を思し召され、皇太子の誕生日に合わせて、集団学童疎開者及び教職員等のため、ビスケット四十一万四千二百五十八袋を文部大臣に下賜される。また、次の御歌を下賜される。

疎開児童のうへを思ひて

つきの世をせおふへき身そたくましくたゝしくのひよさとにうつりて

○恩賜録、重要雑録、吉橋戒三日誌、読売報知

この日、思召しをもって、日本赤十字社本社中央病院の患者治療費御補助金を下賜される。なお向寒に際し、本部及び地方部の各病院その他の救助入院患者二百十一名に対し、お品物代として金一封を下賜される。○官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

二十四日 日曜日 午後、御文庫において、日光への御使より帰京の皇后宮女官伊地知ミキに謁を賜い、復命をお聞きになる。同時に帰京の皇子御用掛道木菊重に謁を賜い、皇太子の近状を詳細にお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

二十五日 月曜日 午前、大正天皇祭皇靈殿の儀につき、皇后宮事務官小倉庫次に御代拝を仰せ付けられる。夕刻、同御神楽の儀につき、同事務官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録

二十六日 火曜日 午後、花蔭亭にお出ましになり、この日誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になり、鮮鯛代料拝受のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十七日 水曜日 午前、奥宮殿において、今般帰還の元第十一軍司令官陸軍中将横山勇・元印度支那駐屯軍司令官陸軍中将町尻量基に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、御文庫に内掌典を召され、大東亜戦争の戦勝御祈願、並びに翌二十八日より三日間の御鈴を上げられることにつき、御沙汰を下される。○女官長日記、女官日誌

今般敵襲により関東地方において死者発生につき、この日、天皇・皇后より内務大臣に御救恤金を下賜される。同じく敵襲により中華民国山西省において本邦人の死者発生につき、天皇・皇后より大東亜大臣に御救恤金を下賜される。なお、去る三日防空に従事中敵の空襲により死亡した者に対し、この日、天皇・皇后より祭葬料を下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十八日 木曜日 午前、天皇と共に御文庫において、盛厚王妃成子内親王と御対面になり、歳末につき祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

二十九日 金曜日 午前、天皇と共に御文庫において、宮内大臣始め側近奉仕者各総代より歳末の祝詞言上をお受けになる。続いて、去る二十日皇子傳育官を拝命の松村康平に謁を賜う。皇后宮女官等より歳末の祝詞言上をお受けになった後、天皇と共に、皇族総代の稔彦王・同妃聡子内親王、恒憲王・

昭和十九年十二月

同妃敏子より歳末の祝詞言上をお受けになる。さらに、故邦彦王妃倪子と御対面になる。正午、元皇后宮女官宇野千代に謁を賜い、歳末の祝詞言上をお受けになる。午後、花蔭亭において、朝融王・同妃知子女王と御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。夕刻、東宮傳育官石川岩吉に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

三十日 土曜日 午前、天皇と共に御文庫において、この日侍従を退官の子爵牧野貞亮に謁を賜う。

その後、お一方にて同人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、進退録

今般敵襲により沖繩・九州及び関東地方において死者発生につき、天皇・皇后より内務大臣に御救恤金を下賜される。また、敵襲により漁船第五庄生丸において死者発生につき、天皇・皇后より朝鮮総督府に御救恤金を下賜される。なお、今般防空に従事中敵の空襲により死亡した者に対し、この日、天皇・皇后より祭葬料を下賜される。○省中日誌、恩賜録

三十一日 日曜日 歳末につき、午後、御使として皇后宮職御用掛竹屋志計子を大宮御所に差し遣わされる。これに対し、皇太后御使として典侍竹屋津根子参内につき、夕刻、花蔭亭において謁を賜い、お礼を述べられる。○女官長日記、女官日誌

一月

一日 月曜日 御文庫において新年を迎えられる。午前零時五分空襲警報発令につき、同十分より同三十分までの間、天皇と共に御文庫地下室に御動座になる。四時五十分警戒警報発令につき、再び天皇と共に御文庫地下室に御動座になる。五時二十五分警戒警報解除につき、地上にお戻りになる。以後、警戒警報又は空襲警報発令の際には、御文庫地下室に御動座になることを常とされる。

御朝餐は、天皇と共に、陸軍の兵食野戦必勝料理、及び海軍の野戦兵食をお召し上がりになる。その後、天皇と共に、皇太子御使、正仁親王御使、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王御使の拝賀を、続いて宮内大臣始め側近奉仕高等官総代、皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。ついで、守正王御父邦彦
王の弟・同妃伊都子始め皇族・王公族の代表より拝賀をお受けになる。さらに元侍従牧

野貞亮に謁を賜い、新年の祝詞言上をお受けになる。午後、天皇と共に御文庫において、朝融王御兄・同妃知子女王と御対面になる。その後、グリッド電波探知機の真空管の部品である格子状の電極の製作等をしてお過ごしになる。以後、この年は、六月十一日まで頻繁にグリッドの製作をされる。御夕餐は、天皇と共にお祝御膳をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、供御日録、儀式録、典式録、東

京大空襲・戦災誌

二日 火曜日 新年につき、午前、天皇と共に御文庫において、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、儀式録、高松宮日記

三日 水曜日 新年につき、午前、御文庫において、故依仁親王妃周子・故邦彦王妃侘子御母と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。午後、天皇と共に、故成久王妃房子内親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。また、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、高松宮日記

四日 木曜日 新年につき、御昼餐前、天皇と共に御文庫において元皇后宮女官宇野千代に謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

五日 金曜日 午後、天皇と共に御文庫において、稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、盛厚王妃成子内親王の着帯についてのお礼言上をお受けになる。これより先、天皇・皇后より御使として皇后宮女官長保科武子を鳥居坂御殿に差し遣わされ、盛厚王妃に紅白生絹帯・万那料を、天皇・皇后それぞれより盛厚王・同妃に鮮鯛代料を御贈進になる。また、着帯につき入り用の品を御贈進になる。さらに、天皇・皇后より稔彦王御父邦彦王の弟・同妃聡子内親王に三種交魚代料を御贈進になる。なお、稔彦王・

同妃、及び盛厚王・同妃より、それぞれ天皇・皇后にお祝品が献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

六日 土曜日 午前、御使始につき、皇后宮女官伊地知ミキを大宮御所に差し遣わされる。午後、皇太后御使の典侍竹屋津根子参内につき、花蔭亭において謁を賜う。以後、この年も随時、参内した皇

太后御使に謁を賜い、また、天皇・皇后あるいは皇后から大宮御所に御使を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

七日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、雍仁親王妃勢津子と御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになる。途中、盛厚王・同妃成子内親王参殿につき、天皇と共に御対面になり、新年初参殿の同妃より祝詞言上を、また王・同妃より去る五日の着帯終了についてのお札言上をお受けになる。雍仁親王妃の退出後、天皇及び王・同妃と共に、御昼餐を御会食になる。以後、この年も、皇族・王公族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、秩父宮御日誌

八日 月曜日 午前から午後にかけて、御文庫においてエリ蚕のお世話をされる。以後、二月十九日まで頻繁にエリ蚕のお世話をされる。○女官長日記、女官日誌

九日 火曜日 夜、天皇と共に映画「日本ニュース」を御覧になる。以後、折に触れて、時局関係の映画等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

十日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般仏領インドシナへの出張より帰国の特命全権大使芳沢謙吉に謁を賜う。続いて、今般帰還の元第二艦隊司令長官海軍中将栗田健男に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拜録

十二日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般戦地より帰還の元第二方面軍司令官陸軍大将阿南惟幾・元香港占領地総督陸軍中将磯谷廉介・元第五飛行師団長陸軍中将田副登に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、花蔭亭において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、宣仁親王の誕生日の賜物についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

十五日 月曜日 昨十四日豊受大神宮の斎館・神楽殿等に空襲被害発生につき、この日午後、皇太后御使として皇太后宮大夫大谷正男が参内する。天皇・皇后より御使として侍従長藤田尚徳を大宮御所に差し遣わされ、皇太后の御機嫌をお伺いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、貞明皇后実録
正本

今般関東及び九州地方において、また、関東及び中部地方において敵襲により死者発生につき、この日、天皇・皇后より内務大臣にそれぞれ御救恤金を下賜される。また、今般防空に従事中敵の空襲により死亡した者に対して、天皇・皇后より祭料を下賜される。○省中日誌、恩賜録

十六日 火曜日 この日、盛厚王妃成子内親王の結婚記念として丸型火鉢十箇を御贈進になる。この丸型火鉢は、内親王誕生時に側近奉仕者より献上されたキリの苗木が成長したため、採木の上、製作された。○女官長日記、女官日誌

十七日 水曜日 天皇と共に御文庫において、今般凱旋の元帥陸軍大将畑俊六^{元侍従}等と御夕餐を共に

される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

十八日 木曜日 午前十時、天皇と共に宮内省第二期庁舎拝謁ノ間において、講書始の儀に臨まれる。国書は東京帝国大学名誉教授滝精一より「僧空海の書論と芸術」、漢書は京都帝国大学名誉教授矢野仁一より「礼を尊重する支那の文化の特色に就て」、洋書は技術院総裁八木秀次より「電波兵器ノ発達」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、

省中日誌、儀式録、儀式祭典録、官報

二十二日 月曜日 午前十時、天皇と共に表拝謁ノ間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「社頭寒梅」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

御民らのこゝろさなから神垣のさむさにかちて梅もさくらむ

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、儀式録、典式録、あけぼの集、官報

二十三日 火曜日 夕刻、御文庫において、先般聯合艦隊及び海上護衛部隊の一部に差し遣わされた侍従武官中村俊久より復命を聴取される。中村は去る六日令旨を拝受し、八日出発、神奈川・千葉・茨城・広島・鹿児島各県下に赴き、二十日に帰京する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録、入江相政

日記、吉橋戒三日誌、侍従武官今井秋次郎中佐行事覚、豊田副武海軍大将日誌摘録

二十四日 水曜日 東京急行電鉄株式会社湘南線鶴見市場駅において、昨年十二月二十六日発生の列車事故による遭難者慰霊法要を執行につき、天皇・皇后より運輸通信大臣に香華料を下賜される。○

省中日誌、恩賜録、官報、読売報知

二十五日 木曜日 夜、御文庫において、昨年十二月二十三日に疎開学童に下賜された御歌に旋律を付した譜東京音楽学校作曲を、ピアノにて演奏される。○女官日誌、読売報知

二十六日 金曜日 午前、奥内謁見所において、昨二十五日女子学習院長を拝命の下村寿一、及び前任の芝田徹心に謁を賜う。続いて崇仁親王妃百合子と御対面になり、御機嫌伺い、及び近日箱根にお成りにつき暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、官報

昭和二十年二月

午後、御文庫において繙帯巻きをされる。以後、二月十九日まで、折に触れて繙帯巻きをされる。○

女官長日記、女官日誌

三十一日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元第一南遣艦隊司令長官兼第十三航空艦

隊司令長官海軍中将田結穰に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

御文庫において、日光より帰京の皇子御用掛外山豊子・同道木菊重に相次いで謁を賜い、疎開中の皇太子・正仁親王の近況をお聞きになる。以後、折に触れて、疎開中の皇太子・正仁親王の動静をお聞きになる。午後、繭のお手入れ等をされる。○女官長日記、女官日誌

去る二十五日第四男子^暢を出産した大谷智子^御に、七夜に当たるとこの日、白羽二重・三種交魚代料を下

賜される。○贈賜録

二月

一日 木曜日 午前、奥内謁見所において、この日転出の前侍従武官佐藤治三郎、及び新任の侍従武

官野田六郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官府資料

午後、御文庫において、今般手入れ終了の盛厚王妃成子内親王の短刀を御覧になり、鳥居坂御殿へ届けるよう指示される。その後、塩原より交代にて帰京の内親王傳育掛大迫セイに謁を賜い、同地に疎開中の和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の動静をお聞きになる。以後、折に触れて、三内親王の動静をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

三日 土曜日 比島東方海面に軍艦千代田艦長として出征中の元侍従武官城英一郎去る昭和十九年十

月二十五日戦死につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。○恩賜録、上奏モノ控簿、詔
売報知

五日 月曜日 午後、天皇と共に御文庫において、去る一月二十八日に誕生日を迎えた故成久王妃房
子内親王と御対面になり、お祝品拝領のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職
日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、贈賜録

この日、大聖寺・宝鏡寺・曇華院・林丘寺・靈鑑寺・光照院・三時知恩寺・円照寺・水薬師寺・長福
寺・中宮寺・法華寺・善光寺に乾海苔を賜う。○贈賜録

八日 木曜日 夜、御文庫において、塩原より帰京の皇后宮女官雪井よし子に謁を賜い、同地滞在中
の和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の様子をお聞きになる。○女官長日記、女官日記

九日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元第六十八師団長陸軍中将佐久間為人に謁を
賜う。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、内舍人日誌

十日 土曜日 戦時下における宮内職員の労苦に対し、家族慰藉の思召しをもってビスケット一袋ず
つを賜う。○恩賜録

十一日 日曜日 紀元節祭につき、午前、賢所仮殿木階下にお出ましになり、初めて洋服にて御拝礼
になる。その後警戒警報発令につき、拝賀の場所を御学問所より御文庫に変更され、警報解除後、天
皇と共に同所において、皇族総代の崇仁親王・同妃百合子・稔彦王妃聡子内親王・盛厚王と御対面
になり、拝賀をお受けになる。皇太子御使、正仁親王御使より拝賀をお受けになった後、側近奉仕者総
代その他より拝賀をお受けになる。午後、宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、拝賀をお受けにな

昭和二十年二月

る。夕刻、皇靈殿御神楽の儀につき、賢所仮殿木階下において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、重要雑録、典式録

十二日 月曜日 午前、御文庫において、今般台湾へ御差遣の侍従武官今井秋次郎に令旨を下される。

今井は十四日出発、台湾において第一航空艦隊・海上護衛総司令部部隊及び高雄警備府の状況を実視し、三月九日帰京、十四日復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録、侍従武官今井秋次郎中佐行事覚

十三日 火曜日 午前、後朱雀天皇九百年式年祭につき、賢所仮殿木階下において、洋服にて御拝礼

になる。その後、天皇と共に表拝謁ノ間において、東京産業大学教授川上多助より後朱雀天皇の御事蹟についての講話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、

進講録

十四日 水曜日 国内において油類欠乏につき、午前、御文庫において、吹上御苑産の椿油を皇后宮

女官長始め皇后宮女官一同にお手ずから下賜される。○女官長日記、女官日誌

十七日 土曜日 午後、天皇と共に御文庫において、皇后宮大夫広幡忠隆より、皇太后御使として皇

太后宮大夫大谷正男が参内し、昨日来の空襲についての御機嫌伺い、及び大宮御所の御文庫地下道完成についてのお礼を言上した旨をお聞きになる。これに対し、皇后宮大夫を御使として大宮御所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従武官日誌

二十日 火曜日 午前、花蔭亭において、御歌所寄人鳥野幸次より、「余寒月」と題する御歌の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に御文庫前庭にお出ましになり、昨十九日撃墜された米軍爆撃機B 29の破片等を、侍

従武官坪島文雄の説明にて御覧になる。翌日午後、天皇と共に賢所通用門前にお出ましになり、侍従武官清家武夫の説明により、同機の破片及び搭乗員の携帯品等を御覧になる。○女官長日記、女官日記、侍

従日記、侍従職日記、内舎人日記、侍従武官日記

元侍従武官長陸軍大将男爵内山小二郎去る十四日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。なお、同人の病気に際して、天皇・皇后・皇太后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。○省中日誌、恩賜録、贈賜録

二十一日 水曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇后宮事務官三井安弥に御代拝を仰せ付けられる。

○女官長日記、女官日記、侍従職日記、省中日誌、儀式録、重要雑録

二十二日 木曜日 午前、宮殿において、今般帰還の元第二南遣艦隊司令長官海軍中将河瀬四郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従職日記、内舎人日記、拝謁参拝録

天皇と共に御文庫において御夕餐の際、塩原より帰京した内親王傳育掛大迫セイに謁を賜い、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の動静をお聞きになり、三内親王製作の成績品を御覧になる。○女官長

日記、女官日記

二十三日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元第三十七軍司令官陸軍大将山脇正隆、

元第二十七軍司令官陸軍中将寺倉正三に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従職日記、内舎人日記

今般敵襲により日本郵船株式会社船山城丸ほか十一隻において死者発生につき、この日、天皇・皇后より運輸通信大臣に御救恤金を下賜される。敵襲により関東・中部・近畿・九州各地方において死者

発生につき、天皇・皇后より内務大臣に御救恤金を下賜される。また、防空に従事中敵の空襲により死亡した者に対し、天皇・皇后より祭葬料を下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十五日 日曜日 この日午後、空襲による大宮御所守衛隊司令部本館等への爆弾落下のため陸軍少尉古賀辰巳ほか四名戦死につき、天皇・皇后・皇太后より、戦死者遺族に弔慰料を、戦傷を受けた陸軍大尉相川磯次郎ほか四名に療治料を下賜される。さらに、宮城内において警視庁消防士補松原増一死亡につき、天皇・皇后より遺族に弔慰料を下賜される。空襲被害のお見舞いのため、各皇族又は御使が御文庫に参殿する。夕刻、天皇・皇后より御使として皇后宮大夫広幡忠隆を大宮御所に差し遣わされる。これに対し、皇太后御使の皇太后宮大夫大谷正男が参殿し、侍従長を通じて御機嫌を奉伺する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、恩賜録、重要雑録、贈賜録、例規

録、貞明皇后実録正本

二十七日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般フィンランド国より帰国の特命全権公使昌谷忠及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録、祭祀録、官報

奥内謁見所において、今般支那派遣軍へ御差遣の侍従武官尾形健一に謁を賜い、令旨を下される。尾形は、翌二十八日出発、中支那・南支那において現地部隊を視察し、三月二十九日帰京、四月二十日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、進退録、尾形健一大佐日記

午後、御文庫において皇后宮職御用掛高木多都雄に謁を賜い、去る二十五日の空襲により女官官舎において罹災した皇后宮女官に、御使用の衣服等を下賜される。○女官長日記、女官日誌

今般敵襲により中華民國・フィリピン国において本邦人の死者発生につき、この日、天皇・皇后より

御救恤金を大東亜大臣に下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十八日 水曜日 午前、御文庫において、今般罹災した女孀・出仕に賜う衣服を御選定になる。○

女官長日記、女官日誌

三月

一日 木曜日 午前、御文庫において、今般罹災した女孀等に賜う品を御覧になる。午後、皇后宮女官長保科武子を御使として鳥居坂御殿に差し遣わされ、盛厚王妃成子内親王の様子をお尋ねになる。

○女官長日記、女官日誌

二日 金曜日 貴子内親王の誕生日につき、午前、天皇と共に奥内謁見所において、宮内大臣始め側近奉仕者総代、皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇子保育録

三日 土曜日 午後、御文庫において、塩原より帰京の皇后宮女官雪井よし子に謁を賜い、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の動静をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

甯子内親王初節句につき、天皇・皇后より内親王に御台人形、三笠宮に三種交魚代料をそれぞれ御贈進になる。三笠宮より五種交魚が、内親王より三種交魚が献上される。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

四日 日曜日 御夕餐後、天皇と共に御文庫において、塩原に疎開中の和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の動静に関する映画を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

侯爵久邇邦久^御兄十年式年祭につき、皇后宮事務官徳川義寛を久邇侯爵邸並びに墓所^{護国寺}に差し遣わされ

昭和二十年三月

る。また、靈前に盛菓子・果物・切り花を、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

徳川義寛終戦日記

五日 月曜日 午後、御文庫において、東宮傳育官石川岩吉に謁を賜い、日光滞在中の皇太子の近況をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

六日 火曜日 満四十二歳のお誕生日を迎えられる。

午前、奥内謁見所において、宮内大臣始め側近高等官総代の拝賀をお受けになり、続いて皇族代表の守正王・同妃伊都子、稔彦王・同妃聡子内親王、及び雍仁親王妃勢津子、宣仁親王妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、故成久王妃房子内親王と御対面になる。その後、側近奉仕高等官の一部、並びに元皇后宮女官の猪野毛ソデ・川上民枝・宇野千代及び元皇后宮職御用掛東郷典子の拝賀を、続いて元皇后宮大夫河井弥八等の元側近奉仕者の拝賀をお受けになる。御文庫において御昼餐の際、皇后宮女官長始め側近奉仕高等官一同より祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、秩父宮御日誌、典式録

七日 水曜日 厚子内親王の誕生日につき、午前、天皇と共に奥内謁見所において、皇后宮事務官入江相政呉竹寮付よりお礼言上をお受けになり、ついで宮内大臣始め側近奉仕者総代、及び皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀を順次お受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇子保育録、典式録

八日 木曜日 午後、天皇と共に御文庫ベランダにおいて、前庭に陳列された、宮城及び大宮御所に落下した焼夷弾の弾片を御覧になる。○侍従日誌、侍従武官日誌

恒久王妃昌子内親王五年式年祭につき、天皇・皇后より皇后宮事務官を靈殿祭及び墓所祭に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。天皇・皇后より靈前に盛菓子をも、墓所に榊をお供えになる。○女官長

日記、典式録

朝鮮京城において李王職長官男爵李恒九死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、同人の危篤に際して、天皇・皇后より葡萄酒を下賜される。○恩賜録

九日 金曜日 午後、花蔭亭において、別当^{山階}工藤壮平より、墨についての進講をお聴きになる。御

懐紙のことにつきお尋ねになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十日 土曜日 この日未明の米軍爆撃機B 29による空襲のため、宮城内の各地に火災が発生する。また賀陽宮邸が全焼し、恒憲王・同妃敏子及び王子四方が宮城に避難し、十二日まで表拝謁ノ間に仮宿する。皇后宮職御用掛高木多都雄等に命じて洋服等を恒憲王一家にお贈りになり、後日、天皇・皇后より賀陽宮に罹災のお見舞金を御贈進になる。なお、宮内大臣松平恒雄・内大臣木戸幸一・侍従長藤田尚徳・内匠頭岡本愛祐・侍従入江相政等は、官邸・官舎又は自邸が全焼、あるいは近火の被害を受けたため、天皇・皇后より握り飯を下賜される。また、侍医塚原伊勢松は私邸を焼失し、夫人及び子女三名が死去したため、特に思召しをもって、天皇・皇后より金一封及び菓子・缶詰、皇后より盛花を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、秩父宮御日誌、皇親録、重要雑録、贈賜録、貞明皇后実録正本

午後、盛厚王妃成子内親王が鳥居坂御殿において第一王子を出産する。直ちに天皇・皇后より御使として皇后宮女官長保科武子を同御殿に差し遣わされ、お祝いとして、稔彦王・同妃聡子内親王にそれ

昭和二十年三月

ぞれ三種交魚代料を、盛厚王・同妃にそれぞれ三種交魚代料・菓子をお贈進になる。後刻、皇后宮女官長より復命を、侍医塚原伊勢松より祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、盛厚王妃成子内親王殿下御分婉の件、贈賜録、貞明皇后実録正本、官報

十一日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、稔彦王妃聡子内親王・盛厚王と御対面になり、昨日の成子内親王の出産についてのお礼言上をお受けになる。その間に朝融王参殿につき、お揃いにて御対面になり、お祝いの言上をお受けになる。午後、天皇と共に御文庫において、宮城に避難中の恒憲王・同妃敏子より祝詞言上をお受けになり、また、恒憲王より、陸軍大学校長への転補^{翌十二日甲府へ赴任}及び宮邸焼失に対するお見舞いについてのお礼言上をお受けになる。ついで、恒憲王妃と共に花蔭亭にお出ましになり、王子三方を交えて茶菓をお召し上がりになる。その後、参亭した恒憲王より、お礼言上及び任地へ出発するに当たつての暇乞いをお受けになる。翌十二日、甲府へ出発する恒憲王妃に和服を、王子に衣服等を御贈進になる。

なお昨日夕刻よりこの日までの間、祝詞言上のため、宣仁親王妃喜久子、崇仁親王妃百合子、鳩彦王、李王垠・同妃方子女王、李鍵公、秩父宮御使が参殿する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、皇族身分録

夕刻、御文庫前庭の芝生の焼け跡を御覧になる。○女官日誌
運輸通信大臣前田米蔵・司法大臣松阪広政に対し、この日、天皇・皇后より火災お尋ねとして缶詰一箱ずつを下賜される。○恩賜録

十二日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元第五艦隊司令長官海軍中将志摩清英、元

関東防衛軍司令官陸軍中将吉田惠その他に相次いで謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拜謁参拜録

天皇と共に御文庫において、満洲より帰還の春仁王と御対面になる。○侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

侍従武官日誌、皇親録、皇族身分録、私の自叙伝、閑院純仁手記

午後、今般空襲により罹災の宮内大臣松平恒雄・同夫人に賜う品を御覧になる。翌十三日夜にも、松平宮内大臣夫妻に賜う品を御覧になる。○女官日誌

十四日 水曜日 正午過ぎ、御文庫において、皇子御用掛外山豊子より日光滞在中の正仁親王の様子をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

今般、財団法人日本映画社製作の月刊『映画月報』及び時事映画「日本ニュース」において学童疎開に関する特集を組むに当たり、映画の冒頭に皇后の御歌^{昭和十九年十二月二十三日下賜}を掲載して思召しを疎開児童及び

一般学徒に伝達したいとのことから、同社社長より文部省国民教育局長に対し、御歌の謹写及び掲載についての許可の願い出があり、この日、宮内省総務局長より文部省国民教育局長に、願い出につき支障はない旨の回答を通知する。○恩賜録

十五日 木曜日 午前、花蔭亭に御歌所寄人鳥野幸次を召され、御歌の研究会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

この日、塩原より電話により、貴子内親王が保育満了式に出席し、証書を授与された旨が報告される。

○女官長日記、女官日誌

十六日 金曜日 午前、天皇と共に御文庫において、塩原より帰京の内親王傅育掛長藤井種太郎に謁

昭和二十年三月

を賜い、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の成績及び近況につき言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、藤井種太郎日誌

去る十日誕生した盛厚王第一王子は、七夜に当たるこの日、信彦のぶひこと命名される。命名当日のこの日、天皇・皇后より御使として皇后宮職御用掛竹屋志計子を鳥居坂御殿に差し遣わされ、盛厚王に白羽二重・酒・鮮鯛代料を、盛厚王・同妃成子内親王に御重の内料・菓子理を、信彦王に鮮鯛代料・産衣を、稔彦王・同妃聡子内親王に三種交魚代料を御贈進になる。午後、花蔭亭にお出ましになり、皇太后御使の権典侍清水谷英子に謁を賜い、皇太后より天皇・皇后へのお祝品の御贈進をお受けになる。ついで天皇と共に御文庫において、稔彦王妃聡子内親王・盛厚王と御対面になり、命名式に際しての御使御差遣及びお祝品御贈進についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、皇親録、贈賜録、盛厚王妃成子内親王殿下御分娩の件、貞明皇后実録正本

皇后宮職囑託松井定克昨十五日死去につき、この日、菓子・金員を下賜される。松井は、昭和五年十二月皇后宮職囑託となり、以来在職約十四年にわたり謡曲のお相手として皇后に奉仕した。○進退録、贈賜録

十七日 土曜日 土曜定例御相伴の後、御文庫において、罹災者に賜うためお取寄せの品等を御覧になる。○女官日誌

海軍大将遠藤喜一第九艦隊司令官、元侍従武官昨年五月三日戦死につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。また、これより先、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。○省中日誌、恩賜録、贈賜録

この日、皇室令をもって、女子学習院に研究科を置くの件が公布され、この年四月一日より施行され

る。本件は、学徒勤労作業強化を目的として、新たに女子学習院に修業年限一年の研究科を設けて高等科卒業生を進入させ、高等科在学中に勤労作業のため不足した履修教科の充足及び研修をさせるとともに、修練として勤労作業を課し、生産増強に当たらせるために制定された。○省中日誌、皇室令録、官報

二十一日 水曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、皇后宮事務官小倉庫次に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録

天皇と共に御文庫において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、盛厚王妃成子内親王に王子誕生につき、祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

二十二日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元大湊警備府司令長官兼第十二航空艦隊司令長官海軍中将後藤英次に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録

午後、天皇と共に御文庫において、昨二十一日九州地方への出張より帰京の崇仁親王と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇族旅行録

二十六日 月曜日 女子学習院卒業式挙行につき、皇后宮事務官入江相政を差し遣わされ、各科卒業生等に恩賜品を賜う。なお、初等科卒業式は、去る十五日、疎開先の塩原において行われる。○行啓録、贈賜録、入江相政日記、学習院女子中・高等科一〇〇年史

二十七日 火曜日 午前、桐ノ間において、今般離任帰国のスウェーデン国特命全権公使ヴィダール・バッグに謁見を仰せ付けられ、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、

官報

二十八日 水曜日 敵襲のため台湾総督府・沖縄県両管下に死者発生の際に賜う祭葬料及び御救恤金として、この日、天皇・皇后より台湾総督・沖縄県知事に金一封をそれぞれ下賜される。○恩賜録

二十九日 木曜日 午前、天皇と共に御文庫において、今般満洲より帰京の春仁王妃直子と御対面なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

三十日 金曜日 今般敵襲により日本郵船株式会社船富士丸が一隻において死者発生につき、この日、天皇・皇后より運輸通信大臣に御救恤金を下賜される。また、敵襲により中華民国及びマニラ沖において本邦人中に死者発生につき、天皇・皇后より大東亜大臣に御救恤金を下賜される。さらに、敵襲により関東・近畿・中部地方において死者発生につき、天皇・皇后より内務大臣に御救恤金を下賜される。なお、今般防空に従事中敵の空襲により死亡した者に対して、天皇・皇后より祭葬料を下賜される。○恩賜録

この月 今次の戦争関係の傷痍者二百八十三名に義眼を下賜される。なお、傷痍者に対するこの年の義眼・義肢の下賜は九回に及ぶ。○恩賜録

四月

一日 日曜日 午前、奥内謁見所において、この日第百四十六師団長に転出の前侍従武官陸軍中将坪島文雄、及び後任の侍従武官を拝命の陸軍少将小池竜二に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官府資料、陸軍少将小池龍二回想録

二日 月曜日 御昼餐の際、皇后宮女官長始め皇后宮女官等より、貴子内親王の女子学習院初等科入

学についての祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。ついで皇太后と共に地下の新道を御覧になる。この日、洋菓子^{皇太后より先般御贈進の菓にて御製作}を皇太后にお贈りになる。四時十分還啓される。○女官

長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行啓録、幸啓録、官報

六日 金曜日 午前、奥宮殿において今般帰還の元第五十三師団長陸軍中将武田馨、元第十五師団長陸軍中将柴田卯一に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録

八日 日曜日 午前、天皇と共に豊明殿及び千種ノ間において、侍従徳川義寛の説明にて、陸軍省より献納された川端龍子作の日本画「洛陽攻略」、宮本三郎作の油彩画「万朵隊比島沖に奮戦す」、藤田嗣治作の油彩画「サイパン島同胞臣節を全うす」等の大東亜戦争記録絵画全二十三点を御覧になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、徳川義寛終戦日記、読売報知

九日 月曜日 午後、奥内謁見所において、今般出征の第一総軍司令官元帥陸軍大将杉山元、第二総軍司令官元帥陸軍大将畑俊六、航空総軍司令官陸軍大将河辺正三に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録

十日 火曜日 午前、天皇と共に御文庫において、出産後初参殿の盛厚王妃成子内親王、及び初参殿の信彦王と御対面になる。内親王より御機嫌伺い、及び出産に際してお仕向けについてお礼言上をお受けになる。ついで御昼餐を御会食になる。天皇・皇后より成子内親王にお品及び万那料を、信彦王に御所人形及び万那料等を下賜される。また、皇后より成子内親王に洋服地等を賜う。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、贈賜録

十二日 木曜日 天皇と共に御文庫において、宣仁親王の神宮参拝を御慰労のため御夕食を催され、親王・同妃喜久子と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

十四日 土曜日 昨夜よりこの日未明にかけての帝都各地への空襲により、宮城内の各所、大宮御所の御座所等に被害が発生する。また、青山御殿の寒香亭、山階宮邸のほか、明治神宮の本殿・拝殿が全焼する。皇太后のお見舞いのため、天皇・皇后より御使として皇后宮大夫広幡忠隆を大宮御所に差し遣わされる。山階宮邸が罹災した武彦王には、お見舞いのため、天皇・皇后より侍従小倉庫次を避難先の侯爵山階芳麿邸に差し遣わされる。後日、天皇・皇后より山階宮にお見舞金を御贈進になる。さらに、宮城及び大宮御所守衛隊として服務中に戦傷した者に対し、天皇・皇后、又は天皇・皇后・皇太后より、療治料を下賜される。このほか、天皇・皇后より火災お尋ねとして、私邸焼失の従二位岡田啓介・農商大臣石黒篤・軍令部総長及川古志郎に果物缶詰を、また、自邸全焼の内大臣木戸幸一に握り飯百人前を、内蔵頭岩波武信・皇后宮女官長保科武子・侍従小出英経に握り飯五十人前を下賜される。なお、この日の空襲につき、天皇・皇后の御機嫌伺いのため、皇太后御使の皇太后宮大夫大谷正男、鳩彦王が参内する。また、皇族・王族より、御使又は電話により天皇・皇后の御機嫌伺いがある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、恩賜録、皇親録、贈賜録、貞明皇后実録正本、吉橋戒三日誌、明治神宮五十年誌、山階宮三代

午前、天皇と共に御文庫を御発、御徒歩にて内庭の焼夷彈落下現場、及び御常御殿・皇子御殿・御静養室・北御倉等の被害箇所を御覧になる。続いて、大道通り消防詰所・衛兵所裏等の被弾箇所を、内匠頭兼宮内省警衛局長岡本愛祐の説明により御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従

十五日 日曜日 午後、花蔭亭において、朝融王妃知子女王、及び今般伯爵龍田徳彦^{多嘉王第三王子}に降嫁する

正子女王^{朝融王第一王女}と御対面になり、お礼言上をお受けになる。正子女王にお祝品を御贈進になる。○女官

長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十六日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般出征の第七方面軍司令官陸軍大将板垣征四郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録

昨夜よりこの日未明の空襲により東久邇宮邸全焼につき、この日、お見舞いのため、天皇・皇后の御使として侍従小倉庫次を同宮邸^{焼け跡}に差し遣わされる。なお、天皇・皇后より、罹災した東久邇宮にお

見舞金・果物缶詰を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、皇親録、贈賜録、東久邇宮日誌

十七日 火曜日 午後、御文庫において、去る十四日の空襲により罹災の皇后宮女官長保科武子にモンペ用切地等を下賜される。また、当直の皇后宮女官より、同日の空襲により侍医村山浩一が罹災したことを聴取される。○女官長日記、女官日誌

今般近畿・関東両地方において敵襲により死者発生につき、天皇・皇后より内務大臣に御救恤金を下賜される。○恩賜録

去る三月十日の空襲により多大な戦禍を受けた東京都下における罹災乳幼児のため、特別の思召しをもって菓子一万六千袋を東京都長官に下賜される。○恩賜録

十八日 水曜日 夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、去る三月三十一日付にて内親王傳育掛を拝命の山川正子に謁を賜う。山川は呉竹寮勤務を命じられる。なお同日、内親王傳育掛大迫セイは皇后宮職御用掛を仰せ付けられる。○侍従日誌、侍従武官日誌、皇子保育録、進退録

この日、侍医村山浩一に謁を賜い、去る十四日の空襲による罹災に際しての御沙汰に対するお礼言上をお受けになる。同人に対し、お手許の食器を下賜される。また後日、天皇・皇后より金員を下賜される。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

十九日 木曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、今般伯爵龍田徳彦へ帰嫁する正子女王と御対面になり、勲二等宝冠章授与についてのお礼言上をお受けになる。天皇の入御後、朝融王妃知子女王・正子女王と茶菓を共にされる。正子女王退出の際、お祝品を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇親録、皇族身分録、皇族叙勲録

二十日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰ノ間において、正子女王の参内朝見の儀に臨まれる。午後、お一方にて奥内謁見所において、朝融王・同妃知子女王・正子女王と御対面になり、朝融王・同妃より参内朝見の儀終了についてのお礼言上をお受けになる。二十二日には、正子女王と伯爵龍田徳彦の結婚につき、天皇・皇后・皇太后より正子女王・朝融王にお祝品を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、皇親録、官報

去る十六日払暁の空襲によりグリッド作業工場が焼失したため、この日より当分の間、グリッドの製作を休業する旨を仰せ出される。○女官長日記、女官日誌

二十一日 土曜日 午前、御文庫において、罹災者への賜品をお調べになる。○女官長日記、女官日誌

今般日本郵船株式会社船賀茂丸において敵襲により死者発生につき、天皇・皇后より運輸通信大臣に御救恤金を下賜される。○恩賜録

二十二日 日曜日 午後、天皇と共に紅葉山新道をお通りになり、紅葉山下にお出ましになる。お出迎えの内匠頭兼宮内省警衛局長岡本愛祐の説明にて防空壕三箇所を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

二十三日 月曜日 午前、奥内謁見所において、朝融王・同妃知子女王と御対面になり、正子女王降嫁に際してのお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。また、久邇宮に白羽二重等を御贈進になる。

午後、花蔭亭において、故邦彦王妃侃子と御対面になり、正子女王降嫁に際してのお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。続いて参亭の伯爵龍田徳彦・同夫人正子から、結婚が滞りなく終了したことについてお礼言上をお受けになる。龍田伯爵に白羽二重を、また伯爵・同夫人へそれぞれお品を、兩人へ万那料を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

翌二十四日より二十五日まで別格官幣社靖国神社において臨時大祭挙行につき、この日、天皇・皇后より同社に祭資を下賜される。○恩賜録、幸啓録

二十四日 火曜日 午後、奥内謁見所において、今般結婚の伯爵宇治家彦多嘉王第二王子・同夫人量子鷹司信輔の第三女子に

謁を賜い、お礼言上をお受けになり、同夫妻に万那料、兩人それぞれにお祝品を下賜される。また、京都在住の故多嘉王妃静子への御贈進品を託される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

夕刻、天皇と共に御文庫において、侍従武官尾形健一の説明により、去る十三日の帝都空襲の際、鹵獲された米軍爆撃機B 29搭載の不時着救助用無線機・地図・夜間標示板・航空被服・レーダー写真等

昭和二十年四月

を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従武官日誌、尾形健一大佐日記

二十六日 木曜日 夕刻、御文庫において塩原より帰京の内親王傳育掛塘ミツに謁を賜い、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の様子につき言上をお受けになり、三内親王採取によるヤマツツジ・サクラ等の切り花と根付き植物五種を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

今般満洲国皇帝溥儀の第一回御訪日十周年に際し、同国特派大使として来日した国務総理大臣張景恵を通じて、この日、同国皇帝から天皇・皇后・皇太后にそれぞれ御贈進の品があり、皇后には紅彫漆盒が贈られる。○女官長日記、外賓参内録、外交贈答録、官報

二十七日 金曜日 午前、奥内謁見所において、侍従武官野田六郎に謁を賜い、今般佐世保鎮守府・第五航空艦隊・第十航空艦隊・第七艦隊・第一護衛艦隊へ御差遣につき令旨を下される。野田は即日出発、九州方面及び霞ヶ浦に赴き、五月九日帰京、同月十八日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、進退録、野田六郎日記

この日、学習院教授野村行一が宮中顧問官に任じられ、皇后宮職御用掛を仰せ付けられ、宮内大臣口達をもって東宮御学問所開設準備主任を命じられる。また、東京文理科大学教授諸橋轍次・同杉村欣次郎、東北帝国大学教授武内義雄、東京帝国大学教授久松潜一・同小谷正雄、学習院教授児玉幸多・同猿木恭経・同菊池浩、東京帝国大学助教授山本達郎が皇后宮職御用掛を仰せ付けられる。○省中日誌、

進退録、官報

今般敵襲により関東・中国地方において死者発生につき、天皇・皇后より内務大臣に御救恤金を下賜される。○恩賜録

二十八日 土曜日 今般防空に従事中敵の空襲により死亡した者に対して、天皇・皇后より祭葬料を下賜される。○恩賜録

二十九日 日曜日 天長節のところ、午前二回にわたり警戒警報が発令されたため、宮殿における皇族・宮内親任官以下の拝賀はお取りやめとなる。正午前、御文庫において、皇太后御使として参殿の皇太后宮大夫大谷正男に謁を賜う。続いて、皇太子御使・正仁親王御使より祝詞言上をお受けになる。ついで、宮内大臣始め側近奉仕者総代、皇后宮女官長始め皇后宮女官・皇后宮職御用掛一同より祝詞言上をお受けになる。午後、天皇と共に御文庫において、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、故成久王妃房子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録

五月

一日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰還の元第十九軍司令官陸軍中将北野憲造、元第三師団長陸軍中将山本三男、元第二師団長陸軍中将岡崎清三郎に謁を賜う。ついで、新任の別当^{高松}石田馨に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拜録、官報

グリッド工場類焼の由をお聞きになり、状況を御下問になる。調査の結果、ガスの供給と電力不足による暫時休業から復旧した後に、グリッドの御製作を再開されることとなる。○女官長日記、女官日誌

二日 水曜日 午後、天皇と共に御文庫において、静岡県御殿場より上京中の雍仁親王妃勢津子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、秩父宮御日誌

四日 金曜日 午後、天皇と共に御文庫において、朝融王と御対面になり、今般海軍中将に進級のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇族身分録、贈賜録、

官報

信彦王初節句につき、天皇・皇后より盛厚王・同妃成子内親王に三種交魚代料を、信彦王に御台人形代料・鯉料・粽を御贈進になる。また、朝宏王^{朝融王第三王子}初節句につき、皇后より粽・柏餅を御贈進になる。○女官長日記、贈賜録

五日 土曜日 午前九時三十分御出門、別格官幣社靖国神社に行啓され、御拝礼になる。十時還啓される。御参拝に際し、幣帛料・神饌料をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、行啓録、幸啓録、官報

十日 木曜日 午前、宮殿において、今般帰還の元第二遣支艦隊司令長官海軍中将副島大助・元第六艦隊司令長官海軍中将三輪茂義に謁を賜う。ついで奥内謁見所において式部官兼主猟官正親町公秀以下の十六名に、また新任の別当^{秩父}住山徳太郎及び前任の今村信次郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌、省中日誌、拜謁参拝録、進退録、贈賜録、典式録、官報

天皇と共に奥内謁見所において故永久王妃祥子と御対面になり、勲一等宝冠章拝受のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録、皇族叙勲録、官報

夕刻、塩原より帰京の内親王傅育掛山川正子より、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の日常の様子をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

この日、紅葉山御養蚕所において、掃立ての儀が行われる。皇后のお出ましはなく、臨時皇后宮職御

用掛有泉善三が奉仕する。○女官長日記、女官日誌

十一日 金曜日 午前、桐ノ間において、今般離任帰国の中華民国特命全權大使蔡培に謁見を仰せ付けられる。ついで天皇と共に奥内謁見所において、去る四月十六日付にて退官の元皇后宮女官内山はるに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、外交贈答録、進退録、官報夜、罹災者に賜う陶磁器等を御覧になる。○女官日誌

十二日 土曜日 午後一時十五分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后の御機嫌をお伺いになる。ついで崇仁親王妃百合子・甯子内親王参殿につき、御対面になる。四時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、行啓録、幸啓録

十六日 水曜日 午後、皇子傳育官桑折英三郎より、日光滞在中の正仁親王の動静をお聞きになる。

その後、日光より交代帰京の皇子御用掛原田リツに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

十七日 木曜日 午後、奥内謁見所において、今般帰還の元第一航空艦隊司令長官海軍中将大西瀧治郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

御文庫において、塩原より帰京の内親王傳育掛塘ミツに謁を賜い、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の動静をお聞きになる。この日、三内親王製作の洋服・よだれ掛け・細工物などを信彦王に御贈進になる。○女官長日記、女官日誌

今般関東・中部・近畿・九州の各地方において敵襲により死者発生につき、天皇・皇后より内務大臣に、日魯漁業会社船第二仲吉丸において敵襲により死者発生につき、天皇・皇后より運輸通信大臣に、それぞれ御救恤金を下賜される。また、中華民国において敵襲により本邦人中に死者発生につき、天

昭和二十年五月

皇・皇后より大東亜大臣に御救恤金を下賜される。なお、今般防空に従事中敵の空襲により死亡した者に対して、天皇・皇后より祭料を下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十日 日曜日 今般御文庫と御文庫附属室との間の連絡用地下隧道完成につき、この日午前、天皇と共に同隧道を御覧になり、内匠頭岡本愛祐より説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、侍従武官日誌、近衛歩兵第一聯隊歴史

元帥陸軍大将大勲位功一級載仁親王この日早朝薨去につき、午後、宮内省より、親王の薨去、及びこの日より二十四日まで五日の宮中喪が発表される。弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官入江相政を閑院宮本邸に差し遣わされる。またこの日、情報局から、天皇より特に国葬を賜う旨が発表される。なお、昨十九日夜より重体となった同親王に、この日未明、お尋ねとして皇后より皇后宮大夫広幡忠隆を、天皇・皇后・皇太后より侍医稲田淳を、同親王の病氣療養先である神奈川県小田原市の閑院宮別邸に差し遣わされ、また、天皇・皇后・皇太后より葡萄酒を下賜される。

載仁親王は、慶応元年九月二十二日に邦家親王第十六王子として誕生、易宮と称する。三歳で孝明天皇の養子となり、八歳で閑院宮を継承、明治十一年親王宣下を蒙る。陸軍に籍を置き、累進して大正元年陸軍大将となり、同八年元帥府に列せられる。その間、聯隊長・旅団長・師団長・軍事参議官等を歴任し、昭和六年より約九年間にわたり参謀総長の職に当たる。また、明治二十七八年戦役に従軍、明治三十七八年戦役に出征、大正十年皇太子の欧州各国御巡遊に随伴する。親王は、皇后の御出産に際してしばしば帯親となり、日本赤十字社、恩賜財団済生会、財団法人大日本蚕糸会等の総裁を務めた。妃智恵子公爵三条実美の息女との間に二男五女を儲ける。享年八十一。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、閑院宮載仁親王殿下薨去の件、皇親録、皇族身分録、故元帥陸軍大将載仁親王殿下国葬録、重要雜録、墓誌銘録、贈賜録、閑院宮実録、官報

二十一日 月曜日 午前、奥宮殿において、今般帰還の元第七方面軍司令官陸軍大将土肥原賢二・元第九師団長陸軍中将原守に謁を賜う。続いて、同じく帰還の元支那方面艦隊司令長官海軍大将近藤信竹に謁を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁参拝録、陸軍上聞書控簿

天皇・皇后より載仁親王の靈前に野菜新宿御苑産を、皇后より切り花をお供えになる。以後、棹物・盛菓子をお供えになる。○皇親録、重要雜録

二十三日 水曜日 今般関東・近畿地方において敵襲により死者発生につき、天皇・皇后より御救恤金を内務大臣に下賜される。また、今般防空に従事中敵の空襲により死亡した者に対して、天皇・皇后より祭糒料を下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十四日 木曜日 この日未明より払晝にかけての空襲により吹上御苑内の駐春閣が焼失し、午前、天皇と共に同所の焼け跡を始め、御苑内の焼夷彈落下箇所等を御覧になる。東久邇宮鳥居坂御殿、北白川宮邸洋館、伏見宮邸の一部も焼失につき、罹災した伏見宮・東久邇宮・北白川宮をお見舞いのため、皇后宮事務官小倉庫次を差し遣わされる。後日、天皇・皇后より各宮にお見舞金を贈賜される。

○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、皇親録

午後、天皇と共に御文庫において、盛厚王と御対面になり、宮中喪につき御機嫌伺いをお受けになる。

○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

二十六日 土曜日 昨夜よりこの日未明にかけての空襲により、帝都に甚大な被害が生じ、宮殿も御

静養室を残して焼失する。また、大宮御所・東宮仮御所・青山御殿・霞関離宮が全焼し、秩父宮・三笠宮・閑院宮・東伏見宮・梨本宮・李鍵公の各邸も罹災する。天皇・皇后より、お見舞いのため、侍従長藤田尚徳・皇后宮大夫広幡忠隆を大宮御所に、皇后宮事務官小倉庫次を罹災した各宮邸に差し遣わされる。夕刻、皇后宮職御用掛竹屋志計子を御使として再び大宮御所に差し遣わされ、その後の皇太后の御機嫌をお伺いになり、今後のことについて思召しをお伝えになる。

後日、天皇・皇后より、罹災した各宮にお見舞金が贈賜される。なお、天皇・皇后・皇太后より、防空活動従事中に殉職した皇宮警視鈴木五郎に祭資を、皇宮警部田中延義・同大藪寛に祭糝料を下賜される。また、天皇・皇后より、宮城・大宮御所等にて防護活動従事中に殉職した警視庁消防士池谷市平の遺族ほか十六名、及び守衛隊として服務中に戦死した陸軍少尉加藤澄夫の遺族ほか十八名に、弔慰料を下賜される。さらに、天皇・皇后・皇太后より警視庁消防士福山章の遺族に、弔慰料を下賜される。この度の空襲による宮城及び大宮御所の被害について、この日、満洲国皇帝溥儀より天皇・皇后・皇太后にお見舞電報が寄せられる。これに対し翌二十七日、天皇より答電をお送りになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、秩父宮御日誌、恩賜録、皇親録、例規録、贈賜録、外交慶弔録、貞明皇后実録正本、官報

二十七日 日曜日 午前、天皇と共に自動車にて内苑門内にお出ましになり、内匠頭兼宮内省警衛局長岡本愛祐の案内により、御徒歩にて表宮殿及び御常御殿の焼け跡を御覧になる。途中、警戒警報発令につき、自動車にて御文庫に還御される。午後、天皇と共に再び宮殿の焼け跡にお出ましになり、午前に見残された箇所、及び焼け残りの御静養室を御覧になる。その後、御徒歩にて御文庫に還御さ

れる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌

午後、天皇と共に御文庫において、雍仁親王妃勢津子と御対面になり、宮殿焼失につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、秩父宮御日誌、雍仁親王妃実紀

二十八日 月曜日 午前及び夕刻の二回、覆馬場にお出ましになり、空襲により焼き出された品々を整理される。以後九月十一日まで、覆馬場において、焼き出されたお手許の品の整理を頻繁に行われる。○女官長日記、女官日誌

元帥陸軍大将載仁親王去る二十日薨去につき、この日、皇后宮使として皇后宮事務官小倉庫次を神奈川県小田原市の閑院宮別邸に差し遣わされ、幣帛・櫛を賜い、玉串をお供えになる。ついで、霊代安置の儀が行われ、皇后宮使の同事務官を通じて玉串をお供えになる。当初、正寝移柩の儀・賜誄の儀・霊代安置の儀は親王の霊柩が帰京する昨二十七日に執行予定であったが、去る二十五日夜から二十六日未明にかけて空襲により閑院宮邸が罹災したため、霊柩の帰京は取りやめとなり、この日、別邸において正寝移柩の儀を省略し、賜誄の儀・霊代安置の儀のみを執行した後、直ちに遺骸を豊島岡墓地に移して埋納することとなる。戦時下につき空襲等を考慮して、当初の案では柩前祭の儀を省略する予定であったが、遺骸の埋納前に祭儀がないことは不可とされ、この日午前、非公式に霊柩発引当日柩前祭の儀が執行される。霊柩は、午後閑院宮別邸を発引し、夕刻に豊島岡墓地に到着、非公式に埋納の儀が執り行われる。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、幸啓録、進退録、故元帥陸軍大将載仁親王殿下国葬録、閑院宮実録、官報

二十九日 火曜日 午前、宮内省第二期庁舎表拝謁ノ間において、宮中顧問官に定例の謁を賜う。午

昭和二十年六月

後、再び表拝謁ノ間において、今般海軍總司令長官兼聯合艦隊司令長官海上護衛司令長官として出征の海軍中将小沢治三郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、内舍人日誌、侍從武官日誌、拝謁參拜録

三十日 水曜日 午前、表拝謁ノ間において、今般帰還の元海軍總司令長官兼聯合艦隊司令長官海上護衛司令長官海軍大将豊田副武に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、拝謁參拜録、豊田副武海軍大将日誌

三十一日 木曜日 午後、皇后宮女官長保科武子を御使として大宮御所に差し遣わされ、罹災後の皇太后の御機嫌をお伺いになる。続いて、皇后宮女官長を御使として三笠宮邸に差し遣わされ、罹災後の崇仁親王・同妃百合子をお見舞いになる。夜、皇后宮女官長より復命をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

六月

一日 金曜日 午前、天皇と共に宮殿の焼け跡を御覧になる。途中、警戒警報発令につき、御徒歩にて御文庫に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍從日誌、内舍人日誌

今般関東・中部・中国地方において敵襲により死者発生につき、天皇・皇后より内務大臣に御救恤金を下賜される。また、今般防空に従事中敵の空襲により死亡した者に対して、天皇・皇后より祭葬料を下賜される。○恩賜録

二日 土曜日 夕刻、花蔭亭において、皇太后御使の典侍竹屋津根子に謁を賜い、空襲後の御機嫌伺いと御贈進をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

三日 日曜日 午後、花蔭亭において朝融王・同妃知子女王と御対面になり、今般宮殿炎上について御機嫌伺いをお受けになる。引き続き恒憲王妃敏子と御対面になり、同じく宮殿炎上について御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

四日 月曜日 午後、表拝謁ノ間において、この日新任の宮内大臣石渡莊太郎、及び前任の宮内大臣松平恒雄に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、官報

五日 火曜日 皇后宮女官長保科武子を御使として守正王・同妃伊都子の許に差し遣わされ、過日の戦災をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、梨本伊都子日記

六日 水曜日 午後、花蔭亭にお出ましになり、小田原より上京の故依仁親王妃周子と御対面になり、宮殿等の炎上についての御機嫌伺いをお受けになる。ついで、天皇と共に御文庫ベランダにおいて、近日中に名古屋へ出発する元皇后宮女官内山はるに謁を賜い、暇乞いをお受けになり、お言葉を賜う。その後、天皇と共に表拝謁ノ間において、この日宮内次官を拝命の大金益次郎、及び前任の白根松介、並びに宮内省総務局長を拝命の加藤進に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、進退録、贈賜録、官報

八日 金曜日 午前、宮殿御座所焼失の跡にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌

天皇と共に御文庫において、前宮内大臣松平恒雄・宮内大臣石渡莊太郎等と御夕餐を共にされる。松平にお品を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、恩賜録、贈賜録

九日 土曜日 午前、花蔭亭において、守正王・同妃伊都子と御対面になり、載仁親王薨去による守正王の忌明けにつき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、梨本伊都子日記

昭和二十年六月

十一日 月曜日 午後、天皇と共に、崇仁親王と御対面になり、昨十日付をもつて航空総軍参謀に転補につきお札言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇族身分録、入江相政日記

十四日 木曜日 午後一時三十分天皇と共に御出門、赤坂離宮東門より御苑内に入られる。僊錦閣付近において皇太后のお出迎えをお受けになり、皇太后の御案内により大宮御所の焼け跡を御覧になる。その後、御苑内の御文庫において御談話になる。ついで同所において、崇仁親王妃百合子・甯子内親王と御対面になる。三時四十三分還啓される。なお、行啓に際し、お手製の菓子等を皇太后に御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、行啓録、幸啓録、貞明皇后実録正本、官報

十八日 月曜日 この日、故元帥陸軍大将載仁親王の斂葬の儀が国葬として行われる。午前、豊島岡墓地において葬場の儀執行につき、皇后宮使として皇后宮事務官小倉庫次を差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より柶を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、重要雑録、皇親録、皇族身分録、故元帥陸軍大将載仁親王殿下国葬録、閑院宮載仁親王殿下薨去の件、墓誌銘録、貞明皇后実録正本、閑院宮実録、官報

十九日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、臨時皇后宮職御用掛有泉善三より説明をお聞きになり、御巡覧になる。その後、宮殿の焼け跡にお出ましになり、焼けた金庫を御覧になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、宮内省第二期庁舎表拝謁ノ間において、この日宮内省警衛局長を拝命の角倉志朗、及び宗秩寮

宗親課長に転出の元侍従兼皇后宮事務官小倉庫次に謁を賜う。その後、再び宮殿の焼け跡にお出ましになり、焼け跡より記念品を掘り出される。御夕餐後、天皇と共に御散策の際、御文庫前広芝において再び小倉に謁を賜い、在任中のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、官報

二十日 水曜日 午前、御文庫において、侍従長藤田尚徳・侍従武官長蓮沼蕃に謁を賜い、宮殿炎上の際の労苦を思し召され、焼け残りの物品を下賜される。以後も、焼け残りの物品を側近奉仕者に下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従武官日誌

今般関東・四国・九州地方において敵襲により死者発生につき、この日、天皇・皇后より内務大臣に御救恤金を下賜される。また、関東・近畿地方において敵襲により死者発生につき、天皇・皇后より内務大臣に御救恤金を下賜される。○恩賜録

二十一日 木曜日 午前、天皇と共に御文庫において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、宮城・大宮御所等炎上後の御機嫌伺いをお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

二十五日 月曜日 皇太后のお誕生日につき、午前、御文庫において、皇后宮女官等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十八日 木曜日 午前、この年初めて皇太后御参内につき、御文庫において御対面になる。ついで、天皇・皇太后と午餐を御会食になる。御食後、お揃いにて宮殿方面の焼け跡を御覧になる。続いて、内廷庁舎にお立ち寄りになり、表拝謁ノ間を御覧になる。ついで北御車寄跡より新道口を御覧になった後、御文庫に還御される。皇太后は、夕刻、御退出になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

昭和二十年七月

内舎人日誌、侍従武官日誌、行啓録、貞明皇后実録正本

二十九日 金曜日 午前、天皇と共に御文庫において、邦寿王と御対面になり、今般東京陸軍幼年学校生徒徒監を拝命の挨拶をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、皇族身分録夕刻、御文庫に内親王傳育掛長藤井種太郎をお召しになり、塩原滞在中の和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の近状をお聞きになる。続いて、塩原より帰京の内親王傳育掛塘ミツに謁を賜い、同じく三内親王の様子をお聞きになる。○女官長日誌、女官日誌、藤井種太郎日誌

三十日 土曜日 午前、表拝謁ノ間において、今般李王職長官を拝命の張間憲植に謁を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

七月

二日 月曜日 午前、表拝謁ノ間において、今般戦地より帰還の元第二方面軍司令官陸軍中将飯村穰に謁を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

四日 水曜日 午前、花蔭亭にお出ましになり、宮城炎上につき御機嫌伺いのため参内の李鍵公妃誠子と御対面になる。公妃退出の際、李鍵公邸罹災につき、思召しをもって李鍵公に背広地を、公妃に麻地紋織等を御贈進になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌

六日 金曜日 午後、表拝謁ノ間において、今般仏領インドシナより帰国の元特命全権大使松本俊一に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、祭祀

録、典式録、官報

七日 土曜日 信彦王箸初につき、天皇・皇后より王に鯉科・御台人形代料を、稔彦王・同妃聡子内親王に三種交魚代料を、盛厚王・同妃成子内親王に三種交魚代料を御贈進になる。○贈賜録

八日 日曜日 故載仁親王五十日祭につき、皇后宮使として、皇后宮事務官戸田康英を墓所豊島岡に、

皇后宮事務官徳川義寛を権舎閑院宮小田原別邸内に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より靈

前に盛菓子を、墓所に榊をそれぞれお供えになる。○侍従職日誌、省中日誌、皇親録、故元帥陸軍大将載仁親王殿下

国葬録、重要雑録、進退録、官報

九日 月曜日 午前、天皇と共に御文庫において、春仁王・同妃直子と御対面になり、故載仁親王の国葬終了及び春仁王の陸軍少将進級についてのお礼、並びに宮殿炎上に対するお見舞いの言上をお受けになる。また、併せて王より、去る七日未明の空襲により、滞在中の千葉市の御仮寓所が罹災したことをお聞きになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇族身分録、徳川義寛

終戦日記、私の自叙伝

十一日 水曜日 午前、表拝謁ノ間において、今般宗秩寮総裁を拝命の子爵松平慶民、及び前任の子爵武者小路公共に謁を賜う。ついで式部長官を拝命の男爵武井守成、及び式部次長を拝命の伯爵坊城俊良に謁を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十三日 金曜日 東京帝国大学名誉教授山崎覚次郎死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。○省中日誌、恩賜録

十四日 土曜日 午前、表拝謁ノ間において、今般航空総軍へ御差遣の侍従武官尾形健一に謁を賜い、令旨を下される。尾形は、来る十六日に出発、東京・茨城・愛知・大阪・兵庫・山口・福岡及び熊本

昭和二十年七月

の各都府県下の航空関係部隊等に赴き、二十六日に帰京、八月八日に復命する。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌、侍従武官日誌、進退録、尾形健一大佐日記

午後、覆馬場において書籍を御選別の際、東宮傅育官石川岩吉に謁を賜い、皇太子の近状をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

十六日 月曜日 午前、天皇と共に御文庫において、今般帰還の元第一軍参謀李錫公^{第二総}と御対面に

なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

今般大阪商船株式会社船嘉義丸ほか四隻において敵襲により死者発生につき、この日、天皇・皇后より運輸大臣に御救恤金を下賜される。○恩賜録

十九日 木曜日 午後一時十五分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。四時十三分

還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、行啓録、幸啓録、官報

二十日 金曜日 午前、天皇と共に御文庫において、京城方面への旅行より帰京した崇仁親王と御対面になり、御機嫌伺い、及び戦災のお見舞いについてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

二十四日 火曜日 敵襲により第二国島丸ほか一隻において死者発生につき、この日、天皇・皇后より朝鮮総督府に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録

二十五日 水曜日 今般中部・中国・四国・九州の各地方において敵襲により死者発生につき、この日、天皇・皇后より内務大臣に御救恤金を下賜される。また関東・近畿・中部・東北・九州の各地方において敵襲により死者発生につき、天皇・皇后より内務大臣に御救恤金を下賜される。○恩賜録

二十八日 土曜日 御文庫において土曜定例御相伴の後、天皇と共に、特攻隊を主題とした菊池寛原作の映画「最後の帰郷」等を御覧になる。「最後の帰郷」を御覧になる際に、侍従小出英経より説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

二十九日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、今般第一総軍参謀に転補のため満洲国より帰還の恒徳王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇族旅行録

天皇と共に御文庫において、この日勤務地の埼玉県浦和市より上京した盛厚王^{第三十六、軍参謀}及び疎開先の群馬県伊香保町より上京した稔彦王妃聡子内親王・盛厚王妃成子内親王と御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。ついで御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、東久邇宮日誌

三十日 月曜日 午前、明治天皇例祭につき、御文庫において皇后宮女官一同より御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌

今次戦争の海軍関係傷痍者に対し、この日、繙帯千八百本^{三十箱}を下賜される。○侍従職日誌

三十一日 火曜日 朝、御文庫において、日本赤十字社救護事業の幫助を御奨励のため、皇太后よりお回しのヨードチンキを包装される。午後、皇后宮女官一同に作業を御教授になる。以後、本作業は終戦後も継続され、平時災害救護準備品として三千九百七十箇を同社にお下げ渡しになる。○女官長日記、女官日誌、事業年報（日本赤十字社）

昭和二十年八月

天皇と共に、この日修祓の儀竣工式終了の御文庫附属室にお出ましになり、完成後の状況を御覧になる。御文庫附属室は、去る二十九日に強化工事が完成し、昨三十日に陸軍省から宮内省に引き渡された。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、近衛歩兵第一聯隊歴史、戦史叢書

八月

一日 水曜日 午前及び午後、御文庫において、一般市民に賜う栄養ビタミン食を選別される。○女官

長日記、女官日誌

三日 金曜日 昨二日未明の八王子・浅川方面への空襲により、約千発の焼夷弾が多摩陵大正天皇陵の域内に

落下したため、この日、侍従兼皇后宮事務官入江相政を同陵に差し遣わされ、被害状況の視察及び天皇・皇后の御代拝を仰せ付けられる。なお、多摩陵においては、墳塋下段石及び周囲溝の石、石階段、石柵、小土堤土留が破損し、樹葉芝草の若干が焼失した。○侍従日誌、侍従職日誌、重要雑録、工事録、進退録、

入江相政日記

この日、皇室令をもって、昭和十九年皇室令第八号宮中に於ける女子の通常服に関する件中改正の件が公布・施行される。これにより、昨年十月二日制定の装衣・上衣・下衣・帯・履から成る宮中の女子の通常服から、装衣に関する項が削除される。またこの日、宮内省告示をもって、皇室喪服規程が改正され、昨年十月二日制定の新通常服の上衣・下衣を黒色としたものが宮中における女子の喪服とされる。○省中日誌、皇室令録、告示録、重要雑録、官報

五日 日曜日 夜、御文庫において、海軍防空食を御下賜用に選別される。○女官長日記、女官日誌

六日 月曜日 午後一時十五分御出門、大宮御所に行啓される。御文庫付近にて、皇太后のお出迎えをお受けになる。庭園において茶菓を共にされた後、皇太后と共に三笠宮邸にお出ましになり、新造の防空壕を御覧になり、崇仁親王・同妃百合子・甯子内親王と御対面になる。四時四十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行啓録、幸啓録、貞明皇后実録正本、官報

八日 水曜日 午後三時五十五分空襲警報発令につき、防護服をお召しになり、天皇と共に初めて御文庫附属室に御動座になる。空襲警報解除後、五時二十三分天皇と共に御文庫に還御される。以後、空襲警報発令の際には、御文庫地下室又は附属室に御動座になることとされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

李鍋公昨七日広島において薨去につき、この日正午、宮内省より公の戦死が発表される。午後、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官徳川義寛を東京の李鍋公邸に差し遣わされる。公の遺骸はこの日広島を出発、空路にて朝鮮京城府の本邸に帰着する。十五日に京城運動場において行われる葬送には、皇后宮使として朝鮮総督府学務局長武永憲樹を差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后・皇太后より祭資を、皇后より櫛を賜う。遺骸は、朝鮮京畿道楊州郡和道面倉峴里の故李熹公墓所域内に葬られる。

李鍋公は、去る六日、第二総軍参謀として広島において作戦任務遂行中、空爆^{新型}により負傷し、翌七日に、搬送先の陸軍似島檢疫所において薨去した。享年三十四。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、王公族録、皇親録、典式録、官報

十日 金曜日 午前、御文庫において、この日新任の東宮大夫兼東宮侍従長穂積重遠・東宮侍従角倉

昭和二十年八月

志朗兼東宮傳育官
東宮事務官・東宮事務官 柴木忠常兼東宮侍從
東宮傳育官に謁を賜う。この日、皇室令をもって、東宮職官制が公布・

施行され、穂積・角倉・栄木のほか、東宮侍從 山田康彦兼東宮
傳育官・同 東園基文兼東宮
傳育官・同 村井長正兼東宮
傳育官・同

西郷從達兼東宮傳育官
東宮事務官、並びに東宮職御用掛として東京文理科大学教授 諸橋轡次・同 杉村欣次郎等が任命

される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、皇室令録、進退録、告示録、官報、穂積重

遠東宮奉仕日録

十二日 日曜日 午前零時十二分、空襲警報発令と共に、新型爆弾搭載の米軍爆撃機 B 29 侵入の情報

接到につき、直ちに天皇と共に御文庫附属室に御動座になる。同三十分、空襲警報解除につき、御文

庫に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

十四日 火曜日 昨十三日より御用御多端の天皇をお気遣いになり、内廷庁舎と御文庫との度重なる

御往返に際し、お見送り又はお出迎えになる。夜、翌十五日に御参内予定の皇太后へ御贈進になる菓

子をお作りになり、最初に作られた物を天皇にお贈りになる。○女官長日記、女官日誌

昨年来御希望の鹿島神宮・香取神宮御参拝を、防空状況に鑑みて断念され、この日、皇后宮事務官徳

川義寛を両神宮に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。また、両神宮に幣帛料・神饌料をお供え

になる。○女官長日記、女官日誌、進退録、典式録

今般敵襲により各地方において死者発生につき、天皇・皇后より御救恤金を内務大臣に下賜される。

○恩賜録

十五日 水曜日 午前十一時五十五分、御文庫においてラジオのスイッチをおつけになり、正午より、

大東亜戦争終結の詔書渙発の玉音放送を終了まで静かにお聴きになる。皇后宮女官長始め皇后宮女官等が陪聴する。その後、内廷庁舎より還御された天皇をお出迎えになり、御機嫌をお伺いになる。御昼餐前、天皇と共に、皇后宮女官長始め皇后宮女官等より御機嫌伺いをお受けになる。御夕餐の際、内閣総理大臣鈴木貫太郎によるラジオ放送をお聴きになる。この日、皇太后御使として皇太后宮大夫大谷正男が参内し、終戦の詔書渙発についての御機嫌伺い、及び皇太后の御参内お取りやめを申し入れたため、皇后宮大夫広幡忠隆を御使として大宮御所に差し遣わされ、皇太后の御機嫌をお伺いになり、御使御差遣のお礼をお申し入れになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、行啓録、貞明皇后実録正本

この日早朝官邸において自刃した陸軍大臣阿南惟幾陸軍大将、元侍従武官に、天皇・皇后・皇太后より祭資を、天皇・

皇后より盛菓子を下賜される。○恩賜録、贈賜録、貞明皇后実録正本

十六日 木曜日 午後、御文庫において、元東宮傳育官石川岩吉に謁を賜い、退官及び東宮職御用掛拝命のお礼言上をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、官報

今般中華民国及び満洲国において敵襲により本邦人中に死者発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤金を大東亜大臣に下賜される。○恩賜録

十七日 金曜日 午前、天皇と共に御文庫において、御参殿の皇太后と御対面になり、来る二十日より軽井沢へ行啓につき、暇乞いをお受けになる。ついで御昼餐を御会食になる。御食後、お揃いにて稔彦王と御対面になり、王より首相拝命のお礼言上をお受けになる。王の退出後、天皇と共に御文庫附属室に皇太后を御案内になり、お庭を経由されて御文庫に還御される。皇太后は、夕刻、御文庫を御退出になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、行啓録、貞明皇后実

昭和二十年八月

録正本、官報、東久邇宮日誌

二十日 月曜日 午前、天皇と共に御文庫において、伊香保より上京の稔彦王妃聡子内親王・盛厚王妃成子内親王と御対面になり、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

午後、軽井沢へ行啓される皇太后をお見送りのため、皇后宮事務官入江相政を大宮御所に差し遣わされる。その際、昨十九日御製作の洋菓子をお贈進になる。○女官長日記、女官日誌、行啓録、贈賜録、貞明皇后実録正本

二十一日 火曜日 崇仁親王妃百合子内着帯につき、この日、天皇・皇后より三笠宮に万那料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

二十五日 土曜日 先般敵襲により各地方において死者発生につき、この日、天皇・皇后より内務大臣に御救恤金を下賜される。○恩賜録

二十六日 日曜日 午前、御文庫において、昨二十五日に上京した恒徳王妃光子今般滿洲より帰国し軽井沢に仮寓と御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十七日 月曜日 故載仁親王百日祭につき、皇后宮使として皇后宮事務官戸田康英を豊島岡墓地に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より靈前に盛菓子を、墓所に榊をお供えになる。○侍従職日誌、皇親録、故元帥陸軍大将載仁親王殿下国葬録、重要雑録、官報

二十九日 水曜日 先般敵襲により近畿・中国・北陸の各地方において死者発生につき、この日、天皇・皇后より内務大臣に御救恤金を下賜される。○恩賜録

三十日 木曜日 昨年十一月一日より賢所仮殿西北地下の齋庫に御動座中の賢所・皇靈殿・神殿について、この日、各本殿に奉遷の儀が行われる。午前、齋庫の儀につき、天皇と共に三殿発御の時刻に合わせて御文庫前庭にお出ましになり、齋庫を御遙拝になる。午後、本殿の儀につき、賢所・皇靈殿・神殿にお出ましになり、それぞれ御拝礼になる。夕刻、御神楽の儀につき、皇后宮事務官入江相政に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、典式録、官報

三十一日 金曜日 午前、内廷庁舎において、木戸ツル内大臣木戸幸一夫人に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

九月

二日 日曜日 午後、御文庫において、ラジオにより降伏文書調印式に関する大本営発表をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

三日 月曜日 午前、戦争終熄につき賢所皇靈殿神殿に親告の儀が行われ、三殿において、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、典式録、官報

五日 水曜日 午後、表拝謁ノ間において、この日内蔵頭を拝命の塚越虎男、及び退官の前内蔵頭岩波武信に謁を賜う。続いて、今般別当賀陽官付を拝命の陸軍中将原常成、及び式部官を拝命の萩原徹外務大臣官房儀典課長に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、進退録、官報

八日 土曜日 午後、御文庫において、昨七日軽井沢へ御差遣の皇后宮大夫広幡忠隆に謁を賜い、復

命をお受けになる。同人は、天皇・皇后の御使として軽井沢に御滞在中の皇太后の御機嫌を奉伺し、

この日帰京する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、行啓録、進退録、贈賜録

塩原より帰京の内親王傳育掛塘ミツに謁を賜い、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の近況をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

十日 月曜日 午後、表拝謁ノ間において、この日禁衛府長官を拝命の陸軍中將後藤光蔵に謁を賜う。

続いて、宮内省会議室において、この日皇宮警察部長を拝命の岡松進次郎兼宮内書記官如故 始め禁衛府高等官百

四十五名に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進退録、官報

元侍従公爵山県有道去る八日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。○省中日誌、上奏モノ控簿、恩賜録、贈賜録

十三日 木曜日 元帥陸軍大将杉山元自決昨日死去につき、この日、弔問のため、天皇・皇后・皇太后より侍従永積寅彦を同人邸に差し遣わされる。翌十四日に行われる葬送には、花を下賜される。

○侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、恩賜録、重要雑録

十四日 金曜日 午前、花蔭亭にお出ましになり、朝融王妃知子女王・邦昭王朝融王の王子と御対面になる。

去る十一日、朝融王参内の際、王・同妃及び邦昭王への御贈進品を拝領したことについて、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、終戦後久方ぶりの懇親の意味にて、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、朝融王・同妃知子女王、盛厚王、恒徳王、春仁王・同妃直子と茶菓を共にさ

れる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、典式録

十五日 土曜日 夕刻、天皇と共に御文庫において、雍仁親王・同妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子と御対面になる。病氣快方の雍仁親王は、連合軍の御殿場進駐に伴って一時帰京し、この日、昭和十五年七月二十九日以来約五年二箇月ぶりの参内となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、秩父宮御日誌、贈賜録、雍仁親王実紀

前官礼遇正三位小泉親彦元厚生大臣去る十三日死去自決につき、この日、弔問のため、天皇・皇后・皇太后よ

り侍従小出英経を同人邸に差し遣わされる。翌十六日に行われる葬送には、花を下賜される。○侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、官報

十七日 月曜日 午前、表拝謁ノ間において、帝室林野局長官岡本愛祐・内匠頭鈴木一・前帝室林野局長官三浦篤・禁衛府次長菊池盛登・別当梨本宮付中島虎吉・前别当久邇宮付宇川済に謁を賜う。続いて、宮内

省会議室において、禁衛府の新任高等官三十一名に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、進退録、官報

午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、雍仁親王妃勢津子、故博義王妃朝子、邦寿王、守正王・同妃伊都子、鳩彦王、孚彦王、稔彦王、故成久王妃房子内親王、李王垠・同妃方子女王に茶菓を賜う。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、秩父宮御日誌、典式録

十九日 水曜日 午後、御文庫において、日光より帰京の皇子御用掛原田リツに謁を賜い、同地滞在中の正仁親王より献上の極小鉢物等を御覧になり、親王の様子をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

二十日 木曜日 先般敵襲により日本各地に多数の死者発生につき、この日、天皇・皇后より内務大

昭和二十年十月

臣に御救恤金を下賜される。○恩賜録

二十三日 日曜日 夜、天皇と共に御文庫において、広島の原子爆弾被害を伝える「日本ニュース」を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、野田六郎日記

震災記念堂において戦災殉難者の慰霊法要施行につき、この日、天皇・皇后より東京都及び恩賜財団戦災援護会に生花を下賜される。○恩賜録

二十六日 水曜日 午後、花蔭亭において、去る二十一日新潟県赤倉より帰京した故邦彦王妃侘子と御対面になり、戦災を免れたお品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

三十日 日曜日 和子内親王の誕生日につき、午前、天皇と共に御文庫において、在京の呉竹寮勤務の高等官等より拝賀をお受けになる。ついで天皇と共に表拝謁ノ間において、宮内大臣始め側近高等官総代等の拝賀をお受けになる。続いて、翌十月一日雍仁親王と共に御殿場へ赴く同親王妃勢津子と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御日誌

十月

二日 火曜日 午前、表拝謁ノ間において、今般欧州諸国への出張より帰国の特命全権公使松島鹿夫に謁を賜う。続いて、今般宮内省京都地方事務所長を拝命の飛鳥井雅信、退官の前主馬頭中村四郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進退録、典式録、拝謁参拝録

今般暴风雨により広島・山口・愛媛・鹿児島各県において被害発生につき、御救恤として天皇・皇后より広島県・山口県・愛媛県・鹿児島県にそれぞれ金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録

三日 水曜日 この日、進駐軍慰安バザーへの第一回御提供品をお下げ渡しになる。○女官長日記、女官日誌

六日 土曜日 午後、皇后宮女官長保科武子より修養経験談をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

八日 月曜日 午前、去る六日の皇后宮女官長保科武子の修養経験談についての御筆記を清書され、

皇后宮女官長始め皇后宮女官と修養について種々お話し合いになる。○女官長日記、女官日誌

午後、天皇と共に御文庫において、恒憲王・同妃敏子・治憲王と御対面になる。恒憲王より千葉県へ

の移居につき挨拶を、治憲王より海軍兵学校卒業につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

九日 火曜日 天皇と共に御文庫において、昨日日軽井沢より帰京の崇仁親王と御対面になり、御昼

餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇親録

午後、内廷庁舎皇族休所において、皇族講話会に臨まれる。全国農業会会長石黒忠篤元農林大臣より「農村

事情に就て」と題し、現下の食糧問題についての講演をお聴きになる。宣仁親王・同妃喜久子、崇仁

親王、恒憲王・同妃敏子、朝融王、盛厚王、故成久王妃房子内親王、恒徳王・同妃光子、春仁王が陪

聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、菊栄親睦会録

十三日 土曜日 円照寺において文智女王後水尾天皇皇女二百五十年御忌法要執行につき、同寺に御供養料・

盛菓子を下賜される。○贈賜録

十五日 月曜日 夜、翌十六日に日光へ赴く皇后宮女官伊地知ミキに謁を賜い、同人を通じて疎開中

の正仁親王にお手製の菓子を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌

十七日 水曜日 午前、御文庫において、大東亜戦争終結の詔書を折帖にされる。○女官日誌

十八日 木曜日 午後、生物学御研究所脇の畑にお出ましになり、芋掘りをされる。○女官長日記、女官

日誌

十九日 金曜日 午前、花蔭亭にお出ましになり、皇族懇話会に出席のため御殿場より上京中の雍仁親王妃勢津子と御対面になり、御機嫌伺いと先般雍仁親王上京中についてのお礼言上をお受けになる。

その後、改良服についてお話しになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

東京都下における戦災者救療の思召しをもって、金一封を東京都に下賜される。また、都下における戦災者医療救護の思召しをもって、宮内省において組織の巡回診療班四箇班を来る二十六日より十一月九日まで派遣される。○省中日誌、恩賜録、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

二十日 土曜日 午前及び午後、御文庫において、大東亜戦争終結の詔書を浄書される。二十五日も浄書される。○女官長日記、女官日誌

二十三日 火曜日 午後、表拝謁ノ間において、この日皇后宮大夫兼侍従次長を拝命の木下道雄、退官の前皇后宮大夫兼侍従次長広幡忠隆に謁を賜う。また、この日帝室会計審査局長官を拝命の本多猶一郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、恩賜録、進退録、贈賜録、側近日誌

二十五日 木曜日 午後、天皇と共に御文庫において、内親王傅育掛長藤井種太郎に謁を賜い、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の成績と近況をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、藤井種太郎日誌

二十六日 金曜日 午後、皇族講話会に臨まれ、文部大臣前田多門より「今後の教育方針」と題する講話をお聴きになる。終了後、参列の皇族・王族と暫時御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

この日、皇后宮女官長保科武子を常磐会に差し遣わされ、今後の御参考のため、幹事会議の様子を視察させられる。○女官長日記、女官日誌

二十八日 日曜日 この日、塩原滞在中の和子内親王・厚子内親王・貴子内親王に、お手製の菓子を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌

二十九日 月曜日 午前、内廷庁舎において、日本赤十字社総裁宣仁親王と御対面になり、この日日本赤十字社博物館において第五十三回通常総会開催に当たり、次の令旨を賜う。

日本赤十字社第五十三回総会に当り各員に告ぐ

本社か総裁以下一同の努力に依り社運今日の隆昌を致し又戦時機能の發揮を見るべきものありしは頗る多とする所なり

今や時局の大転換に際し本社は須らく新時代に適應する態勢を整へ社員一同宜しく協力一致益々事業の進展に努め社会福祉の増進と世界平和の確立とに寄与貢獻せむことを望む

後刻、宣仁親王より総会についての復命及び令旨に対する奉答をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、官報、側近日誌、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

表拝謁ノ間において、去る九月二十九日退官の元宮内省京都地方事務所長折田有彦に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録、官報

十一月

一日 木曜日 午後、内廷庁舎において、今般大膳頭に転出の前侍従永積寅彦に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進退録、贈賜録、永積寅彦日記

三日 土曜日 明治節につき、午前、天皇と共に表拝謁ノ間において、宣仁親王・同妃喜久子以下の皇族・王族、皇太子御使・正仁親王御使、宮内大臣以下の側近奉仕高等官よりそれぞれ拝賀をお受けになる。また、御文庫において皇后宮女官長始め皇后宮女官等より拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、典式録

四日 日曜日 午後及び御夕餐後、御文庫において大東亜戦争終結の詔書を謄写される。○女官日誌

五日 月曜日 午後、表拝謁ノ間において、崇仁親王妃百合子と御対面になり、軽井沢より帰京につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

先般敵襲により各地方において死者発生につき、天皇・皇后より内務大臣に御救恤金を下賜される。

○恩賜録

六日 火曜日 夕刻、表拝謁ノ間に宮内大臣官房主管加藤進を召され、今般思召しにより実施の巡回診療班についての説明を聴取される。終わって宮内省庁舎講堂において関係の医師等約五百名に、会議室において同じく約百四十名に謁を賜う。このうち結核予防会医師、日本医療団本部医師、済生会女医、慈恵会医師、日本赤十字社看護婦長布袋田ハルを表拝謁ノ間に召され、皇后宮大夫・侍医頭・皇后宮女官長と共に茶菓を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、日本赤十字社史稿

七日 水曜日 この日午後、皇太子及び正仁親王が疎開先の日光より赤坂離宮に帰着する。その後、

御文庫に皇太子御使の東宮大夫穂積重遠、正仁親王御使の皇子傅育官桑折英三郎参殿につき、謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになり、東宮大夫より皇太子の車中の様子を、皇子傅育官より正仁親王の様子をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録

夕刻、宮内省庁舎の講堂及び会議室において、昨日に引き続き東京都民生局長重田忠保・同民生課長山下豊男以下の恩賜診療関係者六百四十一名に謁を賜う。ついで表拝謁ノ間において、代表者の松本一勇日本赤十字社医員ほか四名に茶菓を賜い、御下問になり、奉答をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、日本赤十字社史稿

八日 木曜日 午前、天皇と共に御文庫において、皇太子・正仁親王と昨年七月以来約一年四箇月ぶりに御対面になり、御昼餐を御会食になる。御食後、皇太子・正仁親王と共に内庭の焼け跡を経て宮内省庁舎に赴かれ、皇后宮大夫兼侍従次長木下道雄の説明にて、講堂・東宮侍従室・宮内大臣室・宮内次官室、及び内廷庁舎の侍医寮、屋上の元監視台跡等を御覧になる。ついで、内廷庁舎に出御中の天皇と落ち合われ、御一緒に御文庫に還御される。その後、御夕餐を御会食になり、御団欒になる。

なお、皇太子・正仁親王は、この月十一日まで宮城内に滞在する。また、昨七日以降当分の間、赤坂離宮が東宮御在所と定められる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、幸啓録、例規録、官報、側近日誌

午前、皇后宮女官長保科武子より、三条西信子三条西公正夫人、御妹死去につき言上をお受けになる。皇后は九十日服喪され、皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王、及び盛厚王妃成子内親王は三十日服喪する。ついで侍従長・皇后宮大夫・侍従武官長より、また皇后宮女官長始め皇后宮女官等よ

り御機嫌伺いをお受けになる。なお、皇太子・正仁親王との御対面が約一年四箇月ぶりであることから、天皇の思召しにより、吹上御苑内に滞在中は、御文庫内に限り皇后及び皇太子・正仁親王は喪服・喪章を着用しないこととされる。

三条西信子死去につき、非公式にて皇后宮事務官入江相政を、また思召しをもって皇后宮女官長を、久邇侯爵邸に差し遣わされる。天皇・皇后より盛菓子を、皇后より盛花・菓子・果物・羽二重を下賜される。十日には、天皇・皇后・皇太后より祭糝料を下賜される。十一日には、弔問のため、皇后宮職御用掛竹屋志計子を差し遣わされる。十二日に行われる葬送には、非公式にて皇后宮事務官入江相政を差し遣わされ、花を下賜される。

三条西信子は、明治三十七年三月三十日、邦彦王・同妃倪子の第二王女として誕生、大正十三年十二月九日伯爵三条西実義の嗣子公正に降嫁し、二男^{実謙・実栄}・四女^{淑子・味子・澄子}を儲けた。生前、大日本連合婦人会理事長、同会長、国民精神総動員中央連盟評議員、大日本婦人会理事長を務めた。享年四十二。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、恩賜録、賜与録、典式録、官報

九日 金曜日 午後、皇太子・正仁親王と共に御文庫において、大東亜戦争終結の詔書をお読みになる。○女官日誌

十日 土曜日 午後、御文庫前庭において、皇太后御使の権典侍清水水谷英子に謁を賜い、三条西信子死去につき御機嫌伺いをお受けになる。また、皇后より皇后宮大夫木下道雄を、軽井沢に行啓中の皇太后の許に差し遣わされる。同人は、翌十一日帰京する。○女官長日記、女官日誌、行啓録、進退録

十一日 日曜日 午前、天皇及び皇太子・正仁親王と共に御文庫において、稔彦王妃聡子内親王・盛

厚王妃成子内親王・信彦王と御対面になり、御昼餐を御会食になる。信彦王を除く午後、三日間の宮城滞在を

終えた皇太子・正仁親王が、赤坂離宮に帰還する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

侍従武官日誌、穂積重遠東宮奉仕日録

十四日 水曜日 この日、去る十日に死去した故掌典長兼御歌所長公爵三条公輝の葬送につき、天皇・

皇后・皇太后より祭糝料を下賜される。なお、同人の病気に際して、天皇・皇后・皇太后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。○侍従職日誌、省中日誌、皇親録、恩賜録、進退録、貞明皇后実録正本、官報

先般敵襲により日魯漁業株式会社船第十一柏丸ほか一隻において死者発生につき、この日、天皇・皇后より運輸大臣に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録

十九日 月曜日 午後、内廷庁舎において、財団法人神奈川県乳児保護協会代表者黒川フジに謁を賜い、同事業の長年の経過状態等についての言上をお聞きになり、お茶を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌

夕刻、天皇と共に御文庫において、この日塩原御用邸より帰京した和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と、昨年七月二十三日以来約一年四箇月ぶりに御対面になり、挨拶をお受けになる。ついで御夕食を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、孝宮御日誌、順宮御日誌、清宮御日誌、幸啓録

二十日 火曜日 別格官幣社靖国神社において臨時大招魂祭挙行につき、この日、天皇・皇后より同社に祭資を下賜される。○幸啓録

二十一日 水曜日 午前、天皇と共に御文庫において、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王、及び盛厚王妃成子内親王・信彦王と御対面になり、御昼餐を御会食になる。午後、お一方にて、故邦彦王

妃侘子と御対面になる。暫時の後、三内親王も同席する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

枢密顧問官男爵本庄繁元侍従
武官長昨二十日死去自決につき、この日、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。○贈

賜録、読売報知

二十四日 土曜日 昨二十三日より御風気のため、終日、御文庫において御静養になる。○女官長日記、

女官日誌

皇室令をもって、宮内省官制中改正の件・内大臣府官制廃止の件等が公布され、即日施行される。これにより、内大臣府、並びに皇后宮職・侍医寮・大膳寮が廃止され、その所掌事項が侍従職に継承される。これに伴い、皇后宮職女官官制が侍従職女官官制に改められる。この日、皇后宮職御用掛の竹屋志計子・高木多都雄・大迫セイ・河合りょう子が宮内省御用掛となる。○侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、

皇室令録、省達録、進退録、贈賜録、官報

二十五日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、皇太子及び和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面になる。御一緒に大東亜戦争終結の詔書を朗読され、御昼餐を御会食になる。以後、日曜日を定例として、皇子女と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

侍従武官日誌、孝宮御日誌、順宮御日誌、清宮御日誌、東宮録

二十八日 水曜日 正仁親王の誕生日につき、午前、天皇と共に御文庫において同親王と御対面になり、お祝御膳の御昼餐を御会食になる。三条西信子死去に伴う御服喪のため、皇后・正仁親王への表向きの拝賀はなく、午後、天皇及び正仁親王と共に、総代の侍従長・侍従武官長・侍従次長、並びに侍従職女官等より祝詞言上をお受けになる。親王の退出後、天皇と共に、和子内親王・厚子内親王・

貴子内親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

二十九日 木曜日 午前、表拝謁ノ間において、京都在住華族総代の子爵清岡長言に謁を賜う。また、掌典長恒憲王以下の新任又は転免の宮内官十四名、及び今般別当閑院を拜命の谷口利三郎にそれぞれ謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進退録、贈賜録、官報

三十日 金曜日 午前、表拝謁ノ間において、新任の式部官正親町公秀・宮内大臣秘書官鹿喰清一始め宮内高等官五十五名に秋季定例の謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録
御風気のため、この日より再開予定の宮内省御用掛加藤虎之亮による漢文の進講昨年十月二十七日以来御休課中をお取りやめになる。○女官日誌、加藤虎之亮関係資料

去る二十四日、孚彦王妃千賀子が岐阜県武儀郡美濃町の朝香宮御仮寓所において第二王女を出産する。誕生した王女は、七夜に当たるこの日、美乃子みのこと命名される。命名当日に際し、天皇・皇后より御使を同所に差し遣わされ、朝香宮に三種交魚代料を賜う。また十二月二十日に、天皇・皇后より孚彦王に白羽二重・酒・鮮鯛代料を賜う。○侍従職日誌、省中日誌、贈賜録、皇親録、皇族身分録、官報

十二月

一日 土曜日 午前、表拝謁ノ間において、今般侍従武官府廃止に伴って廃職の元侍従武官長蓮沼蕃及び元侍従武官中村俊久・小池竜二・清家武夫・野田六郎・尾形健一・吉橋戒三・今井秋次郎に謁を賜い、暇乞いをお受けになる。それぞれに対し、天皇・皇后より賜品・賜金がある。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、恩賜録、進退録、贈賜録、官報、吉橋戒三日誌、野田六郎関係資料

三日 月曜日 午前、内廷庁舎において、東京帝国大学教授板沢武雄より、終戦後の第一回進講として敗戦デンマークの復興についてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

表拝謁ノ間において、故博義王妃朝子・春仁王妃直子と御対面になり、母の一条悦子故公爵一条実輝夫人死去後の

忌明けにつき、挨拶をお受けになる。その後、戦災・宮殿炎上後の御機嫌伺いのため上京した曇華院門跡の飛鳥井慈孝、大聖寺門跡の花山院慈薫に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

五日 水曜日 午前、内廷庁舎において、東宮大夫穂積重遠より「皇太子殿下の御教育について」と題する進講をお聴きになる。内容は、皇太子の八月十五日における感銘、身分に関する自覚、日光における生活、御学問所の構想、帝王学と人間学、十数年後の大成を期待し奉ることなどに及ぶ。○女官

長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

この日、去る八月二十日以来軽井沢に御滞在中の皇太后御帰京につき、御使として侍従入江相政を大宮御所に差し遣わされる。これに対し、皇太后御使として御文庫に参殿の皇太后宮大夫大谷正男に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、行啓録、贈賜録、貞明皇后実録正本

七日 金曜日 午前、御文庫に皇太后御参殿につき、天皇と共に御対面、御昼餐を御会食になる。御食後、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王を交えて過ごされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職

日誌、内舎人日誌、省中日誌、行啓録、贈賜録、貞明皇后実録正本、官報

八日 土曜日 午前、天皇の思召しにより宮殿焼け跡にお出ましになり、みくに奉仕団六十三名宮城県栗原郡

下の五町・二十二箇村からの上京者、及び記録係として参加の文芸評論家木村毅から成る

お言葉を賜う。団員一同より紅白餅・鶏卵が献上される。正午過ぎ、御文庫に還御される。以後、翌年一月十三日の神奈川県大和町大丸組勤労奉仕団を始め全国からの勤労奉仕があり、皇后は、天皇と御一緒又はお一方にて、折に触れて作業を御覧になり、御会釈を賜う。皇后による勤労奉仕団への御会釈は、昭和六十年九月十二日まで続けられる。この間、皇后は、昭和二十年代に三千八百三十余、三十年代に四千七百六十余、四十年代に四千五百余、五十年代に三千九百四十余、六十年代に百二十余の奉仕団体に御会釈を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、御会釈録、皇居勤労奉仕関係綴、濟寧

十日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁ノ間において、盛厚王・同妃成子内親王及び初参内の信彦王と御対面になる。天皇・皇后より信彦王に鮮鯛代料・御所人形を、盛厚王・同妃にそれぞれ五種交魚代料を御贈進になる。午後、御文庫において、稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、信彦王の初参内についてのお礼言上をお受けになる。天皇・皇后より稔彦王・同妃にお祝いとして五種交魚代料を御贈進になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、祭祀録、贈賜録、官報

天皇と共に御文庫において、今般退官の元内大臣木戸幸一・元侍医頭八田善之進・元侍従次長甘露寺受長・元侍従武官長蓮沼蕃・元侍医松永琢磨をお召しになり、侍従職女官長保科武子を交えて御晩餐を共にされる。御食後、お手製のドーナツを賜う。また、天皇・皇后より木戸以下の退官者にお手許品を記念として賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恩賜録、贈賜録、典式録

十一日 火曜日 午前、内廷庁舎において、今般帰国した元フランス語・音楽講師の本野清子子爵本野盛一夫人、男

昭和二十年十二月

爵伊東義
五郎息女

に謁を賜う。同人は、皇后の学習院女学部御在学中及び久邇宮御学問所時代に、フランス語と音楽を指導した。○女官長日記、女官日誌

午後、皇族懇談会に御臨席になり、時事通信社編集局外信部長入江啓四郎より「最近の中国事情」についてお聴きになる。崇仁親王、春仁王・同妃直子、朝融王、恒徳王が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、菊栄親睦会録

天皇と共に表拝謁ノ間において、今般戦争犯罪容疑者として拘置所へ入所予定の守正王と御対面になる。その際、毛布・氈を御贈進になる。翌十二日、王は巢鴨拘置所に出頭する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、終戦事務連絡書類、終戦連絡事務雜件、梨本伊都子日記

十二日 水曜日 午前、御進講室において、東宮大夫穂積重遠より「孟子と福沢諭吉の帝王論」と題

する進講をお聴きになる。『孟子』及び福沢諭吉著『帝室論』明治十五年
五月発行を題材として、「帝室の尊厳と其

神聖とを濫用すべからず」「帝室は万機に当らずして万機を統べ給ふ」ことなどについて学ばれる。

終了後、御文庫において、代用食の御昼餐をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

十三日 木曜日 午前、去る十一日よりお仕立ての羽織下百枚完成につき、侍従職にお下げ渡しになり、復員者に下賜される。○女官長日記、女官日誌

午後一時十五分天皇と共に御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。四時十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、官報

十四日 金曜日 午前、御進講室において、宮内省御用掛加藤虎之亮より漢文の進講をお聴きになり、

『中庸』について学ばれる。二十一日に第二回進講をお聴きになる。また、東京帝国大学教授板沢武雄より進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、加藤虎之亮関係資料

午後、内廷庁舎において、皇族懇談会に御臨席になる。陸軍中将小松光彦在独国大使館付武官より「戦争末期に於ける独国情勢」「米國より見たる國際情勢」原子爆弾問題を繞くる米英ノ關係、米國々防強化政策を、陸軍中将清水盛明在伊国大使館付武官より「戦争

末期に於ける伊国情勢」「米國国内情勢」真珠湾事件に關する論争をお聴きになる。宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親

王、朝融王、恒徳王、春仁王、盛厚王・同妃成子内親王、故依仁親王妃周子、李王垠が陪聴する。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、菊栄親睦会録

十五日 土曜日 花蔭亭において、南方よりの復員者へ賜うお仕立て物を終日御製作になる。以後、

二十二日まで折に触れて賜物をお仕立てになる。○女官長日記、女官日誌

十七日 月曜日 沼津御用邸西附属邸へ皇太后行啓につき、御使として侍従徳川義寛を大宮御所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、行啓録、貞明皇后実録正本

十八日 火曜日 午前、御進講室において、朝融王・同妃知子女王と御対面になり、野菜拝領についてのお礼言上等をお受けになる。引き続き、皇子傳育官桑折英三郎より、正仁親王の成績についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

午後、天皇と共に表拝謁ノ間において、去る十一日朝鮮から帰京の元京城日報社長横溝光暉より、朝鮮の終戦後の実情について、「最近ノ朝鮮事情」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王・同妃喜久子始め皇族・王族十四方が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、菊栄親睦会録、進

昭和二十年十二月

講録、高松宮日記

夕刻、御進講室において、皇太后御使として参内の権典侍清水谷英子に謁を賜う。昨十七日皇太后の沼津行啓に際して天皇・皇后よりそれぞれ御使を差し遣わされたことにつき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十九日 水曜日 午前、表拝謁ノ間において、今般伏見宮付並びに久邇宮付の別当を拝命の中村俊久、及び三笠宮付の別当を退官の厚東篤太郎、侍従職主膳監野村利吉、侍従職主厨長秋山徳藏に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進退録、贈賜録、官報

内廷庁舎において、東宮大夫穂積重遠より、「議會に於ける幣原総理大臣の演説」と題する進講をお聴きになる。去る十一月二十八日の第八十九回帝國議會の貴衆兩院における、幣原首相の施政方針演説の概要についてお聴きになる。その後、天皇と共に東宮大夫兼東宮侍従長としての穂積に謁を賜い、皇太子の学業について奏上をお受けになり、成績表を御覧になる。また同人より、側近一同が皇太子に注意した事項等について詳細な言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、穂積重遠東宮奉仕日録、穂積家文書

二十日 木曜日 午後、御文庫において、南方より引揚帰還の児童等に賜うちやんちゃんこに綿入れをされる。○女官長日記、女官日誌

公爵近衛文麿去る十六日死去^{自決}につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭糝料・神を賜う。○省中日誌、恩賜録、官報

二十一日 金曜日 午前、内廷庁舎において、宮内省御用掛加藤虎之亮より漢文の進講をお聴きにな

り、『中庸』について学ばれる。また、東京帝国大学教授板沢武雄より進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、加藤虎之亮関係資料

二十二日 土曜日 土曜定例御相伴の後、天皇と共に御文庫において、東京帝国大学教授板沢武雄より神道に関する進講をお聴きになる。この日の進講は座談会形式で行われ、いわゆる神道指令を主題として板沢の意見を御聴取の後、侍従長・侍従次長・侍従職女官長始め総勢十二名の陪聴者一同と御懇談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、新編宮中見聞録

クリスマスに先立ち、連合国最高司令官ダグラス・マッカーサー夫人に大和錦箱蒔絵難道具入りを、子息に漆器

菓子器和菓子入り・春駒乗人形を御贈与になる。○贈賜録、側近日誌、吉田茂Ⅱマッカーサー往復書簡集

二十三日 日曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に御文庫において、皇太子と御対面になった後、元侍医頭八田善之進より祝詞言上をお受けになる。ついで、天皇及び皇太子と共に表拝謁ノ間において、宣仁親王始め皇族・王族の拝賀を、続いて宮内大臣始め側近奉仕者総代等の拝賀をお受けになる。その後、お揃いにて御文庫に還御され、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王より祝詞言上をお受けになる。御団欒の際に、サンニュースフォトス社の写真師山端祥玉による写真撮影に応じられる。正午過ぎ、侍従職女官等より祝詞言上をお受けになった後、天皇及び皇太子・三内親王とお祝御膳を御会食になる。御食後、南方よりの帰還者に対する賜品お仕立ての場面を撮影させられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、孝宮御日誌、順宮御日誌、清宮御日誌、東宮録

二十四日 月曜日 歳末に際して、東京都下の社会事業団体が協力し、困窮者救済のため目下開設中の恩賜診療事業に併行して歳末恩賜診療を実施するに当たり、東京都に金一封を下賜される。また、

昭和二十年十二月

天皇・皇后より日本赤十字社に、病院維持費として金一封を下賜される。さらに、皇后より日本赤十字社本社中央病院救助患者施療費として御補助金を下賜される。なお、向寒に際して、日本赤十字社病院・済生会病院・東京慈恵会医院の各救助収容患者及び財団法人福田会育児院の収容者に対し、思召しをもって反物料を下賜される。○恩賜録、贈賜録、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史稿

二十七日 木曜日 正午前、天皇と共に内廷庁舎において、昨二十六日結婚の侯爵栗田彰常<sup>稔彦王第
三王子</sup>・同

夫人典子<sup>子爵稲葉
順通の孫</sup>に謁を賜う。天皇・皇后より彰常に五種交魚代料・お品を、同夫人にお品を下賜され、

また、稔彦王・同妃聡子内親王に五種交魚代料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、華族諸願録、贈賜録

二十八日 金曜日 午前、内廷庁舎において、多年社会事業に従事の聖心愛子会会長聖園テレジアの

代理人加藤ユステイチア、あそか病院主事田中もとに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、側近日誌

午後、呉竹寮にお出ましになる。和子内親王・厚子内親王・貴子内親王のお出迎えをお受けになり、

この日お召しにより参寮の三条西洋子<sup>御妹信子
の息女</sup>・同澄子<sup>洋子
の妹</sup>と御対面になり、御一緒にお過ごしになる。

○女官長日記、女官日誌

二十九日 土曜日 歳末につき、午前、天皇と共に表拝謁ノ間において、宣仁親王・同妃喜久子始め

皇族・王族より、ついで宮内大臣始め側近奉仕高等官総代より祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、官報

天皇と共に御文庫において、皇太子及び正仁親王<sup>翌三十日より葉山御
用邸附属邸にお成り</sup>・和子内親王・厚子内親王・貴子内親

王、盛厚王・同妃成子内親王・信彦王と御対面になり、お揃いにて御文庫及びお庭にお出ましになり、写真師山端祥玉による写真撮影に臨まれる。ついで御昼餐を御会食になる。なお、この日撮影された写真は、去る二十三日に撮影された写真と共に、『ライフ』誌一九四六年二月四日号に掲載される。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、孝宮御日誌、順宮御日誌、清宮御日誌、幸啓録、LIFE

三十一日 月曜日 歳末につき、午前、天皇と共に御文庫において、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。午後、御進講室において、皇太后御使の権典侍清水谷英子に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。これに対し、御使として、侍従入江相政を皇太后御滞在中の沼津に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行啓録、進退録